

文学部 人間関係学科 (2015年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	1
		1年			
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
		1年			
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	3
		1年			
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	4
		1年			
	生活世界の哲学 PHR110F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	5
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	6
		1年			
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	7
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	8
		1年			
	可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	9
		2年			
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	10	
	2年				
言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	11	
	2年				
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	12	
	2年				
共同体と身体 PHR210F 閉講	1学期	2	2		
	2年				
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	13	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 日高 京子 他	1学期	2	2	14
		2年			
	情報社会を読む INF200F 浅羽 修丈	1学期	2	2	15
		2年			
	地域資源管理論 ENV200F 廣川 祐司	2学期	2	2	16
		2年			
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	教養演習AI (防衛セミナー) GES201F 休講	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習AI (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	17
		2年			
	教養演習AI GES201F 小林 道彦	1学期	2	2	18
		2年			
	教養演習AI GES201F 稲月 正	1学期	2	2	19
		2年			
	教養演習AI GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	20
		2年			
	教養演習AII (文化論セミナー) GES202F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	21
		2年			
教養演習AII (防衛セミナー) GES202F 休講	集中	2	2		
	2年				
教養演習AII GES202F 小林 道彦	2学期	2	2	22	
	2年				
教養演習AII GES202F 稲月 正	2学期	2	2	23	
	2年				
教養演習AII GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	24	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ(防衛セミナー) GES301F 休講	1学期	3	2	25
	3年				
	教養演習BⅠ GES301F 石川 敬之	1学期	3	2	26
	3年				
	教養演習BⅡ(防衛セミナー) GES302F 休講	集中	3	2	27
	3年				
	教養演習BⅡ GES302F 石川 敬之	2学期	3	2	28
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	27
	1年				
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	28
	1年				
	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	29
	1年				
	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	30
	1年				
	くらしと化学 CHM001F 閉講	1学期	1	2	31
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	32
	1年				
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	33
1年					
環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	34	
1年					
未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	35	
1年					
私たちと宗教 PHR006F 閉講	2学期	1	2	36	
1年					
思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	37	
1年					

文学部 人間関係学科 (2015年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	文化と表象 MCC001F 閉講	1学期	1	2	34
		1年			
	言語とコミュニケーション LIN001F 閉講	2学期	1	2	34
		1年			
	芸術と人間 PHR001F 真武 真喜子	2学期	1	2	34
		1年			
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	34
		1年			
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	35
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	36
		1年			
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	37
		1年			
	政治のなかの文化 ANT001F 閉講	2学期	1	2	38
		1年			
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	38
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	39
		1年			
障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	40	
	1年				
共生の作法 LAW001F 閉講	1学期	1	2	41	
	1年				
法律の読み方 LAW002F 中村 英樹 他	2学期	1	2	41	
	1年				
社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2	42	
	1年				
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	42	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2015年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	企業と社会 BUS001F 山下 剛	2学期	1	2	43
		1年			
	現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	44
		1年			
	地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	45
		1年 (2015年度以降入学生)			
	現代の国際情勢 IRL003F 大平 剛 他	1学期	1	2	46
		1年			
	開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	47
		1年			
	テロリズム論 PLS001F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	48
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
国際社会と日本 IRL004F 阿部 容子 他	2学期	1	2	49	
	1年				
韓国の社会と文化 ARE010F 金 貞愛	2学期	1	2	50	
	1年				
エスニシティと多文化社会 IRL001F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2		
	1年				

文学部 人間関係学科 (2015年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	51
		1年			
	戦後の日本経済 ECN002F 土井 徹平	2学期	1	2	51
		1年			
	ものと人間の歴史 HIS003F 閉講	1学期	1	2	51
		1年			
人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	51	
	1年				
ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 未定		2学期	1	2	52
		1年			
■教職関連科目	日本史 HIS110F 古賀 康士	2学期	1	2	53
		1年			
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	54
		1年			
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	55
		1年			
	人文地理学 GEO110F 外柙保 大介	2学期	1	2	56
		1年			
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	57
		1年			
	地誌学 GEO112F 外柙保 大介	1学期	1	2	58
		1年			
	日本国憲法 LAW120F 中村 英樹	2学期	1	2	59
		1年			
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	60
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 休講	2学期	1	2	60
	1年				
フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎		1学期	1	2	61
		1年			

文学部 人間関係学科 (2015年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・ヘルスI		1学期	1	2	62
	HSS001F	高西 敏正	1年			
	フィジカル・ヘルスI		1学期	1	2	63
	HSS001F	徳永 政夫	1年			
	フィジカル・ヘルスI		2学期	1	2	64
	HSS001F	高西 敏正	1年			
	フィジカル・ヘルスI		2学期	1	2	65
	HSS001F	柴原 健太郎	1年			
	フィジカル・ヘルスII		2学期	1	2	
	HSS002F	閉講	1年			
	自己管理論		1学期	1	2	66
	HSS003F	日高 京子 他	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)		1学期	1	1	67
	HSS081F	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)		1学期	1	1	
	HSS081F	休講	1年			
	フィジカル・エクササイズI (外種目)		1学期	1	1	68
	HSS081F	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール)		1学期	1	1	
	HSS081F	休講	1年			
フィジカル・エクササイズI (バドミントン)		1学期	1	1	69	
HSS081F	梨羽 茂	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン)		1学期	1	1	70	
HSS081F	山本 浩二	1年				
フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)		1学期	1	1	71	
HSS081F	下釜 純子	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)		2学期	1	1	72	
HSS082F	梨羽 茂	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)		2学期	1	1	73	
HSS082F	黒田 次郎	1年				

文学部 人間関係学科 (2015年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	74
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボー HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	75
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	76
	1年				
フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) HSS082F 松田 晃二郎	2学期	1	1	77	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	78	
	1年				
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	79
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	80
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	81
		1年			
	コミュニケーション実践 CAR111F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	82
		2年			
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	83
	2年				
地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	2	2	84	
	2年				
サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	85	
	1年				
サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	86	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2015年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロジェクト演習I CAR280F 閉講	1学期	2	2	
		2年			
	プロジェクト演習II CAR281F 閉講	2学期	2	2	
		2年			
	プロジェクト演習III CAR380F 閉講	1学期	3	2	
		3年			
	プロジェクト演習IV CAR381F 閉講	2学期	3	2	
		3年			
■教養特講	教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) SPL001F 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介	2学期	1	2	87
		1年			
	教養特講II (現代社会とエシカル消費) SPL002F 大平 剛	1学期	1	2	88
		1年			
	教養特講III SPL003F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	教養特講IV SPL004F 休講	2学期	1	2	
		1年			
■情報教育科目	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	
		2年			
	情報メディア演習 INF330F 浅羽 修丈	2学期	3	2	89
		3年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (比人 1-F) ENG101F 相原 信彦	1学期	1	1	90
		比人 1 - F			
	英語I (比人 1-G) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	91
		比人 1 - G			
	英語II (比人 1-F) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	92
		比人 1 - F			
	英語II (比人 1-G) ENG111F 村田 希巳子	2学期	1	1	93
		比人 1 - G			
	英語III (比人 1-F) ENG102F ダニー・ミン	1学期	1	1	94
		比人 1 - F			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III (比人 1-G) ENG102F ジェイムス・ヒックス	1学期	1	1	95
		比人 1 - G			
	英語IV (比人 1-F) ENG112F マイケル・バーグ	2学期	1	1	96
		比人 1 - F			
	英語IV (比人 1-G) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	97
		比人 1 - G			
	英語V (比人 2-C) ENG201F 下條 かおり	1学期	2	1	98
		比人 2 - C			
	英語V (比人 2-D) ENG201F 安丸 雅子	1学期	2	1	99
		比人 2 - D			
	英語VI (比人 2-C) ENG211F 安丸 雅子	2学期	2	1	100
		比人 2 - C			
	英語VI (比人 2-D) ENG211F 木梨 安子	2学期	2	1	101
		比人 2 - D			
	英語VII (比人 2-C) ENG202F デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	102
		比人 2 - C			
	英語VII (比人 2-D) ENG202F マーニー・セイディ	1学期	2	1	103
		比人 2 - D			
	英語VIII (比人 2-C) ENG212F 大塚 由美子	2学期	2	1	104
		比人 2 - C			
英語VIII (比人 2-D) ENG212F 安丸 雅子	2学期	2	1	105	
	比人 2 - D				
英語IX (英中国済営比人律政 3年) ENG301F 休講	1学期	3	1	106	
	英中国済営比人律政 3年				
英語X (英中国済営比人律政 3年) ENG311F 杉山 智子	2学期	3	1	107	
	英中国済営比人律政 3年				
英語XI (英中国済営比人律政 3年) ENG302F 休講	1学期	3	1	107	
	英中国済営比人律政 3年				
英語XII (英中国済営比人律政 3年) ENG312F ダニー・ミン	2学期	3	1	107	
	英中国済営比人律政 3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語I CHN101F 有働 彰子	1学期	1	1	108
		済営人律政群 1年			
	中国語II CHN111F 有働 彰子	2学期	1	1	109
		済営人律政群 1年			
	中国語III CHN102F ホウ ラメイ (彭腊梅)	1学期	1	1	110
		済営人律政群 1年			
	中国語IV CHN112F ホウ ラメイ (彭腊梅)	2学期	1	1	111
		済営人律政群 1年			
	中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	112
		英済営人律政群 2年			
	中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	113
		英済営人律政群 2年			
	中国語VII CHN202F 王 晨	1学期	2	1	114
		英済営人律政群 2年			
	中国語VIII CHN212F 王 晨	2学期	2	1	115
		英済営人律政群 2年			
	上級中国語I CHN301F 唐 雋	1学期	3	1	116
		英国済営比人 3年			
	上級中国語II CHN311F 唐 雋	2学期	3	1	117
		英国済営比人 3年			
上級中国語III CHN302F 王 晨	1学期	3	1	118	
	英国済営比人 3年				
上級中国語IV CHN312F 王 晨	2学期	3	1	119	
	英国済営比人 3年				
朝鮮語I (1 - d) KRN101F 金 光子	1学期	1	1	120	
	英中比人 1年				
朝鮮語II (1 - d) KRN111F 金 光子	2学期	1	1	121	
	英中比人 1年				
朝鮮語III (1 - d) KRN102F 金 光子	1学期	1	1	122	
	英中比人 1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語Ⅳ (1 - d) KRN112F 金 光子	2学期	1	1	123
		英中比人 1年			
	朝鮮語Ⅴ KRN201F 安 滯珠	1学期	2	1	124
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅵ KRN211F 安 滯珠	2学期	2	1	125
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅶ KRN202F 安 滯珠	1学期	2	1	126
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅷ KRN212F 安 滯珠	2学期	2	1	127
		済営比人律政群 2年			
	上級朝鮮語Ⅰ KRN301F 安 滯珠	1学期	3	1	128
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語Ⅱ KRN311F 安 滯珠	2学期	3	1	129
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語Ⅲ KRN302F 金 貞愛	1学期	3	1	130
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語Ⅳ KRN312F 金 貞愛	2学期	3	1	131
		英中国済営比人 3年			
	ロシア語Ⅰ RUS101F 芳之内 雄二	1学期	1	1	132
		英中国済営比人律政 1年			
ロシア語Ⅱ RUS111F 芳之内 雄二	2学期	1	1	133	
	英中国済営比人律政 1年				
ロシア語Ⅲ RUS102F ナタリア・シエストコーワ	1学期	1	1	134	
	英中国済営比人律政 1年				
ロシア語Ⅳ RUS112F ナタリア・シエストコーワ	2学期	1	1	135	
	英中国済営比人律政 1年				
ロシア語Ⅴ RUS201F 芳之内 雄二	1学期	2	1	136	
	英中国済営比人律政 2年				
ロシア語Ⅵ RUS211F 芳之内 雄二	2学期	2	1	137	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語VII RUS202F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	138
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	139
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語I GRM101F 古賀 正之	1学期	1	1	140
		済営人律政 1年			
	ドイツ語II GRM111F 古賀 正之	2学期	1	1	141
		済営人律政 1年			
	ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	142
		済営人律政 1年			
	ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	143
		済営人律政 1年			
	ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	144
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	145
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	146
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	147
		英中国済営比人律政 2年			
フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	148	
	済営人律政 1年				
フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	149	
	済営人律政 1年				
フランス語III FRN102F 中川 裕二	1学期	1	1	150	
	済営人律政 1年				
フランス語IV FRN112F 中川 裕二	2学期	1	1	151	
	済営人律政 1年				
フランス語V FRN201F 坂田 由紀	1学期	2	1	152	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語VI FRN211F 坂田 由紀	2学期	2	1	153
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VII FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	154
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VIII FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	155
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語I SPN101F 富田 広樹	1学期	1	1	156
		中国済営比人律政1年			
	スペイン語II SPN111F 富田 広樹	2学期	1	1	157
		中国済営比人律政1年			
	スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	158
		中国済営人律政1年			
スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	159	
	中国済営人律政1年				
スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	160	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	161	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	162	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	163	
	英中国済営比人律政2年				
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	164
		留学生1年			
	日本語II JSL102F 金 元正	1学期	1	1	165
		留学生1年			
日本語III JSL103F 小林 浩明	1学期	1	1	166	
	留学生1年				
日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	167	
	留学生1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	168
	留学生 1年				
	日本語VI JSL113F 金 元正	2学期	1	1	169
	留学生 1年				
	日本語VII JSL104F 則松 智子	1学期	2	1	170
	留学生 2年				
	日本語VIII JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	171
	留学生 2年				
	日本事情 (人文) A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	172
	留学生 1年				
	日本事情 (人文) B JPS102F 則松 智子	2学期	1	2	173
	留学生 1年				
	日本事情 (社会) A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	174
	留学生 1年				
日本事情 (社会) B JPS104F 小林 浩明	2学期	1	2	175	
留学生 1年					
■専門教育科目 ■選択科目	認知心理学 PSY242M 松本 亜紀	2学期	2	2	176
	2年				
	社会心理学 PSY210M 田島 司	2学期	2	2	177
	2年				
	対人心理学 PSY211M 田島 司	1学期	2	2	178
	2年				
	臨床心理学 PSY230M 田中 信利	1学期	2	2	179
	2年				
	カウンセリング論 PSY232M 田中 信利	2学期	2	2	180
	2年				
コミュニケーション論 PSY212M 休講	2学期	2	2		
2年					
学習心理学 PSY221M 大塚 一徳	2学期	2	2	181	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	182
	PSY220M 山下 智也	2年			
	発達心理学	1学期	2	2	183
	PSY222M 税田 慶昭	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	PSY223M 休講	2年			
	心理療法論	2学期	2	2	184
	PSY231M 中島 俊介	2年			
	心理統計	集中	2	2	185
	PSY240M 山本 健太郎	2年			
	老年心理学	2学期	2	2	186
	PSY213M 石塚 優	2年			
	生理心理学	1学期	2	2	187
	PSY241M 麦島 剛	2年			
	社会意識論	2学期	2	2	188
	SOC210M 入江 恵子	2年			
	社会意識論 (英語)	2学期	2	2	189
	SOC210M 濱野 健	2年			
	文化社会学	1学期	2	2	190
	SOC211M 阪井 俊文	2年			
文化社会学 (英語)	1学期	2	2	191	
SOC211M 濱野 健	2年				
家族社会学	2学期	2	2	192	
SOC215M 濱野 健	2年				
理論社会学	集中	2	2		
SOC212M 休講	2年				
教育社会学	1学期	2	2	193	
EDU225M 恒吉 紀寿	2年				
情報社会論	1学期	2	2	194	
SOC213M 濱野 健	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	消費社会論 SOC214M 濱野 健	2学期	2	2	195
		2年			
	観光社会学 SOC216M 閉講	集中	2	2	
		2年			
	フィールドワーク論 ANT212M 大津留 香織	1学期	2	2	196
		2年			
	環境社会学 ENV250M 岩松 文代	2学期	2	2	197
		2年			
	人間環境地理学 ENV240M 野井 英明	2学期	2	2	198
		2年			
	生態人類学 ANT210M 竹川 大介	1学期	2	2	199
		2年			
	人間性の進化 ANT211M 大津留 香織	2学期	2	2	200
		2年			
	比較表象文化 MCC210M 真鍋 昌賢	1学期	2	2	201
		2年			
	日本の大衆文化 JPS212M 真鍋 昌賢	2学期	2	2	202
		2年			
	人体の構造と機能及び疾病 SOW231M 休講	1学期	2	2	
		2年			
社会調査の基礎 SOW290M 阪井 俊文	1学期	2	2	203	
	2年				
相談援助の基盤と専門職 1 SOW260M 休講	1学期	1	2		
	1年				
相談援助の基盤と専門職 2 SOW261M 休講	1学期	1	2		
	1年				
相談援助の理論と方法 1 SOW262M 休講	1学期	2	2		
	2年				
相談援助の理論と方法 2 SOW263M 休講	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	相談援助の理論と方法 3 SOW264M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域福祉の理論と方法 1 SOW210M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域福祉の理論と方法 2 SOW211M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	福祉行財政と福祉計画 SOW242M 難波 利光	1学期	3	2	204
		3年			
	福祉サービスの組織と経営 SOW251M 中園 紀明	2学期	3	2	205
		3年			
	社会保障 SOW240M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M 小賀 久	1学期	2	2	206
		2年			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 SOW223M 休講	2学期	2	2	
		2年			
低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M 休講	2学期	2	2		
	2年				
保健医療サービス SOW230M 休講	2学期	2	2		
	2年				
権利擁護と成年後見制度 SOW250M 小賀 久	1学期	3	2	207	
	3年				
相談援助演習 1 SOW265M 休講	2学期	2	2		
	2年				
相談援助演習 2 SOW266M 小賀 久	1学期	3	2	208	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	相談援助演習 3 SOW360M 小賀 久	1学期	3	2	209
		3年			
	相談援助演習 4 SOW361M 河嶋 静代	2学期	3	2	210
		3年			
	相談援助演習 5 SOW460M 河嶋 静代	1学期	4	2	211
		4年			
	相談援助実習指導 1 SOW380M 小賀 久	1学期 (ペア)	3	2	212
		3年			
	相談援助実習指導 2 SOW381M 河嶋 静代	2学期	3	1	213
		3年			
	相談援助実習 SOW382M 小賀 久	集中	3	6	214
		3年			
	心理学研究法 PSY243M 松本 亜紀	1学期	3	2	215
		3年			
	心理学実験実習II PSY281M 田中 信利 他	1学期 (ペア)	3	2	216
		3年			
	環境経済学 ECN340M 牛房 義明	2学期	3	2	217
		3年			
	教育制度論 EDU227M 休講	1学期	3	2	
		3年			
教育課程論 EDU360M 見玉 弥生	2学期	3	2	218	
	3年				
教育原理 EDU110M 見玉 弥生	1学期	1	2	219	
	1年				
教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	220	
	1年				
生涯学習学 EDU220M 休講	1学期	2	2		
	2年				
主体形成論 EDU221M 恒吉 紀寿	2学期	2	2	221	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	教育相談 EDU264M 山下 智也	1学期	2	2	222
	2年				
	生徒・進路指導論 EDU261M 休講	2学期	2	2	
	2年				
	次世代育成論 EDU226M 山下 智也	1学期	2	2	223
	2年				
	社会教育計画論 EDU222M 太田 華奈	2学期	2	2	224
	2年				
	生涯学習編成論 EDU223M 長尾 秀吉	1学期	2	2	225
	2年				
	現代社会と社会教育 EDU224M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	教育工学 EDU265M 休講	2学期	2	2	
	2年				
	道徳教育指導論 EDU262M 船原 将太	2学期	2	2	226
	2年				
	教育方法学 EDU260M 休講	2学期	2	2	
	2年				
	人権教育論 EDU228M 河嶋 静代	1学期	2	2	227
2年					
特別活動論 EDU263M 休講	2学期	2	2		
2年					
倫理学 PHR210M 清水 満	2学期	2	2	228	
2年					
博物館概論 MUS200M 門田 彩	1学期	2	2	229	
2年					
コミュニティスポーツ論 HSS220M 山本 浩二	1学期	2	2		
2年					
スポーツ産業論 HSS222M 休講	集中	2	2		
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	健康科学 HSS230M 高西 敏正	2学期	2	2	230
	2年				
	スポーツ心理学 HSS221M 柴原 健太郎	1学期	2	2	231
	2年				
	身体適応論 HSS231M 高西 敏正	1学期	2	2	232
	2年				
	身体スポーツ論 HSS210M 柴原 健太郎	2学期	2	2	233
	2年				
	トレーニング論 HSS223M 梨羽 茂	1学期	2	2	234
	2年				
■演習・卒論科目	演習 A - 1 SEM311M 松本 亜紀	1学期	3	2	235
	3年				
	演習 A - 1 SEM311M 田島 司	1学期	3	2	236
	3年				
	演習 A - 1 SEM311M 田中 信利	1学期	3	2	237
	3年				
	演習 A - 1 SEM311M 濱野 健	1学期	3	2	238
	3年				
	演習 A - 1 SEM311M 竹川 大介	1学期	3	2	239
	3年				
	演習 A - 1 SEM311M 入江 恵子	1学期	3	2	240
	3年				
	演習 A - 1 SEM311M 小賀 久	1学期	3	2	241
	3年				
演習 A - 1 SEM311M 山下 智也	1学期	3	2	242	
3年					
演習 A - 1 SEM311M 楠 凡之	1学期	3	2	243	
3年					
演習 A - 1 SEM311M 恒吉 紀寿	1学期	3	2	244	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 1	1学期	3	2	245
	SEM311M 見玉 弥生	3年			
	演習 A - 1	1学期	3	2	246
	SEM311M 柴原 健太郎	3年			
	演習 A - 1	1学期	3	2	247
	SEM311M 高西 敏正	3年			
	演習 A - 1	1学期	3	2	248
	SEM311M 岩松 文代	3年			
	演習 A - 1	1学期	3	2	249
	SEM311M 税田 慶昭	3年			
	演習 A - 2	2学期	3	2	250
	SEM312M 松本 亜紀	3年			
	演習 A - 2	2学期	3	2	251
	SEM312M 田島 司	3年			
	演習 A - 2	2学期	3	2	252
	SEM312M 田中 信利	3年			
	演習 A - 2	2学期	3	2	253
	SEM312M 濱野 健	3年			
	演習 A - 2	2学期	3	2	254
	SEM312M 竹川 大介	3年			
演習 A - 2	2学期	3	2	255	
SEM312M 入江 恵子	3年				
演習 A - 2	2学期	3	2	256	
SEM312M 小賀 久	3年				
演習 A - 2	2学期	3	2	257	
SEM312M 山下 智也	3年				
演習 A - 2	2学期	3	2	258	
SEM312M 楠 凡之	3年				
演習 A - 2	2学期	3	2	259	
SEM312M 恒吉 紀寿	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 2 SEM312M 見玉 弥生	2学期	3	2	260
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 柴原 健太郎	2学期	3	2	261
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 高西 敏正	2学期	3	2	262
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 岩松 文代	2学期	3	2	263
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 税田 慶昭	2学期	3	2	264
		3年			
	演習 B - 1 SEM313M 松本 亜紀	1学期	4	2	265
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 田島 司	1学期	4	2	266
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 田中 信利	1学期	4	2	267
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 野井 英明	1学期	4	2	268
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 濱野 健	1学期	4	2	269
		4年			
演習 B - 1 SEM313M 竹川 大介	1学期	4	2	270	
	4年				
演習 B - 1 SEM313M 小賀 久	1学期	4	2	271	
	4年				
演習 B - 1 SEM313M 山下 智也	1学期	4	2	272	
	4年				
演習 B - 1 SEM313M 楠 凡之	1学期	4	2	273	
	4年				
演習 B - 1 SEM313M 恒吉 紀寿	1学期	4	2	274	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 B - 1 SEM313M 見玉 弥生	1学期	4	2	275
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 柴原 健太郎	1学期	4	2	276
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 高西 敏正	1学期	4	2	277
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 岩松 文代	1学期	4	2	278
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 税田 慶昭	1学期	4	2	279
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 松本 亜紀	2学期	4	2	280
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 田島 司	2学期	4	2	281
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 田中 信利	2学期	4	2	282
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 野井 英明	2学期	4	2	283
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 濱野 健	2学期	4	2	284
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 竹川 大介	2学期	4	2	285	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 小賀 久	2学期	4	2	286	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 山下 智也	2学期	4	2	287	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 楠 凡之	2学期	4	2	288	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 恒吉 紀寿	2学期	4	2	289	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B-2 SEM314M 見玉 弥生	2学期	4	2	290
		4年			
	演習B-2 SEM314M 柴原 健太郎	2学期	4	2	291
		4年			
	演習B-2 SEM314M 高西 敏正	2学期	4	2	292
		4年			
	演習B-2 SEM314M 岩松 文代	2学期	4	2	293
		4年			
	演習B-2 SEM314M 税田 慶昭	2学期	4	2	294
		4年			
■基礎演習科目	人間関係学基礎演習I SEM111M 見玉 弥生 他	1学期	1	2	295
		1年			
	人間関係学基礎演習II SEM112M 田中 信利 他	2学期(ペア)	1	2	296
		1年			
■概論科目	心理学概論 PSY100M 田中 信利 他	2学期	1	2	297
		1年			
	基礎心理学 PSY101M 税田 慶昭 他	1学期	1	2	298
		1年			
	社会学概論 SOC100M 濱野 健 他	1学期	1	2	299
		1年			
	現代社会と福祉1 SOW100M 休講	1学期	1	2	
		1年			
	現代社会と福祉2 SOW101M 小賀 久	2学期	1	2	300
		1年			
人間環境概論 ENV100M 野井 英明 他	1学期	1	2	301	
	1年				
人類学概論 ANT100M 竹川 大介	2学期	1	2	302	
	1年				
教育学概論 EDU100M 恒吉 紀寿 他	1学期	1	2	303	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2015年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■概論科目	生涯スポーツ学概論 HSS100M 高西 敏正 他	2学期	1	2	304	
		1年				
■実験実習科目	心理学実験実習I PSY280M 税田 慶昭 他	2学期(ペア)	2	2	305	
		2年				
	社会調査実習(フィールドワーク) ANT280M 竹川 大介 他	1学期(ペア)	2	2	306	
		2年				
	社会調査実習(サーベイ) SOC280M 濱野 健 他	2学期(ペア)	2	2	307	
		2年				
	人間環境実験・実習 ENV280M 野井 英明 他	1学期(ペア)	2	2	308	
		2年				
	生涯教育・生涯スポーツ実習 EDU280M 高西 敏正 他	1学期(ペア)	2	2	309	
		2年				
	■自由科目	国際関係の理論 IRL200M 阿部 容子	1学期	2	2	310
			2年			
国際関係の争点 IRL101M 大平 剛		2学期	1	2	311	
		1年				
経済地理学I ECN242M 柳井 雅人		1学期	2	2	312	
		2年				
経済地理学II ECN243M 柳井 雅人		2学期	2	2	313	
		2年				
日本の歴史と社会 HIS210M 八百 啓介		1学期	2	2	314	
		2年				
博物館経営論 MUS210M 永尾 正剛		2学期	2	2	315	
		2年				
博物館資料論 MUS211M 門田 彩	2学期	2	2	316		
	2年					
博物館資料保存論 MUS214M 佐藤 浩司	2学期	2	2	317		
	2年					
博物館展示論 MUS213M 門田 彩	2学期	2	2	318		
	2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■自由科目	博物館教育論 MUS215M 岩本 史緒	1学期	2	2	319
		2年			
	博物館情報・メディア論 MUS212M 那須 孝幸	1学期	2	2	320
		2年			
	博物館実習I MUS280M 門田 彩 他	2学期(ヘア)	3	2	321
		3年			
	博物館実習II MUS380M 門田 彩 他	1学期(ヘア)	4	1	322
		4年			
	法学総論 LAW100M 林田 幸広	1学期	1	2	323
		1年			
	国際法I LAW250M 二宮 正人	1学期	2	2	324
		2年			
	国際法II LAW251M 二宮 正人	2学期	2	2	325
		2年			
政治学 PLS100M 上條 諒貴	1学期	1	2	326	
	1年				
■教職に関する科目 ■必修科目	社会科教育法A EDU240C 下地 貴樹	1学期	3	2	327
		3年			
	社会科教育法B EDU241C 吉村 義則	2学期	3	2	328
		3年			
	社会科教育法C EDU242C 休講	1学期	3	2	
		3年			
	社会科教育法D EDU243C 休講	2学期	3	2	
		3年			
	公民科教育法A EDU244C 休講	1学期	3	2	
		3年			
公民科教育法B EDU245C 休講	2学期	3	2		
	3年				
教育実習1 EDU380C 休講	2学期	3	2		
	3年				

文学部 人間関係学科 (2015年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 2	1学期	4	2	
	EDU480C	休講			
	4年				
	教育実習 3	1学期	4	2	
	EDU481C	休講			
	4年				
教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2		
EDU490C	休講				
4年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	1学期	1	2	329
		1年			
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	330
		1年			
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	331
		1年			
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	332
		1年			
	生活世界の哲学 PHR110F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	333
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	334
		1年			
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	335	
	1年				
環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	336	
	1年				
可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	337	
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 休講	2学期	2	2		
	2年				
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	338	
	2年				
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	339	
	2年				
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	340
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	341
		1年			
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	342
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	人権論 SOC004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	障がい学 SOW001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	343
		1年			
企業と社会 BUS001F 休講	2学期	1	2		
	1年				
現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代の国際情勢 IRL003F 休講	1学期	1	2		
	1年				
開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2		
	1年				
グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	344	
	1年				

文学部 人間関係学科 (2015年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	345
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	345
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	345
		1年			
	歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	345
		1年			
	そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	345
		1年			
	人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	345
		1年			
ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 未定	2学期	1	2	346	
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	347
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 寺田 千栄子	2学期	1	2	348
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 山本 浩二	1学期	1	2	349
		1年			
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 閉講	2学期	1	2	349
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 閉講	1学期	1	1	349	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 山本 浩二	2学期	1	1	350	
	1年				
■情報教育科目	データ処理 INF101F 中尾 泰士	1学期	1	2	351
		1年			
	情報表現 INF230F 閉講	1学期	2	2	351
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	対人心理学 PSY211M 田島 司	1学期	2	2	352
		2年			
	臨床心理学 PSY230M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	コミュニケーション論 PSY212M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	教育心理学 PSY220M 山下 智也	2学期	2	2	353
		2年			
	発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期	2	2	354
		2年			
	障害児の心理と指導 PSY223M 税田 慶昭	2学期	2	2	355
		2年			
	教育社会学 EDU225M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	356
		2年			
	人体の構造と機能及び疾病 SOW231M 島 京子	1学期	2	2	357
		2年			
	相談援助の基盤と専門職 1 SOW260M 坂本 毅啓	1学期	1	2	358
		1年			
	相談援助の基盤と専門職 2 SOW261M 坂本 毅啓	1学期	1	2	359
		1年			
相談援助の理論と方法 1 SOW262M 高崎 陽子	2学期	2	2	360	
	2年				
相談援助の理論と方法 2 SOW263M 工藤 歩	2学期	2	2	361	
	2年				
相談援助の理論と方法 3 SOW264M 藤田 博久	1学期	2	2	362	
	2年				
地域福祉の理論と方法 1 SOW210M 閉講	1学期	2	2		
	2年				
地域福祉の理論と方法 2 SOW211M 岡本 政孝	1学期	2	2	363	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目	福祉行財政と福祉計画 SOW242M 難波 利光	1学期	3	2	364
		3年			
	福祉サービスの組織と経営 SOW251M 中園 紀明	2学期	3	2	365
		3年			
	社会保障 SOW240M 安川 渉寛	1学期	2	2	366
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M 石塚 優	1学期	2	2	367
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M 石塚 優	2学期	2	2	368
		2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M 高崎 陽子	1学期	2	2	369
		2年			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 SOW223M 寺田 千栄子	2学期	2	2	370
		2年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M 柴田 滋	2学期	2	2	371
		2年			
	保健医療サービス SOW230M 石塚 優	2学期	2	2	372
		2年			
	環境経済学 ECN340M 休講	2学期	3	2	
	3年				
教育制度論 EDU227M 見玉 弥生	1学期	3	2	373	
	3年				
教育課程論 EDU360M 見玉 弥生	2学期	3	2	374	
	3年				
教育原理 EDU110M 見玉 弥生	1学期	1	2	375	
	1年				
教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	376	
	1年				
生涯学習学 EDU220M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	377	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目	教育相談	1学期	2	2	378
	EDU264M 山下 智也	2年			
	生徒・進路指導論	2学期	2	2	379
	EDU261M 楠 凡之	2年			
	教育工学	2学期	2	2	
	EDU265M 休講	2年			
	道徳教育指導論	2学期	2	2	380
	EDU262M 船原 将太	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	381
	EDU260M 下地 貴樹	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	
	EDU228M 休講	2年			
	特別活動論	2学期	2	2	382
	EDU263M 楠 凡之	2年			
	コミュニテイスポーツ論	1学期	2	2	383
	HSS220M 山本 浩二	2年			
スポーツ産業論	2学期	2	2	384	
HSS222M 内田 満	2年				
健康科学	2学期	2	2	385	
HSS230M 高西 敏正	2年				
身体適応論	2学期	2	2		
HSS231M 休講	2年				
身体スポーツ論	2学期	2	2	386	
HSS210M 柴原 健太郎	2年				
トレーニング論	2学期	2	2		
HSS223M 休講	2年				
■概論科目	心理学概論	2学期	1	2	
	PSY100M 休講	1年			
	現代社会と福祉 1	1学期	1	2	387
	SOW100M 深谷 裕	1年			

文学部 人間関係学科 (2015年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門教育科目 ■概論科目	現代社会と福祉 2 SOW101M 河嶋 静代	2学期	1	2	388	
		1年				
■自由科目	経済地理学I ECN242M 休講	1学期	2	2		
		2年				
	経済地理学II ECN243M 休講	2学期	2	2		
		2年				
	法学総論 LAW100M 小野 憲昭	1学期	1	2	389	
		1年				
	国際法I LAW250M 休講		2	2		
		2年				
	国際法II LAW251M 休講		2	2		
		2年				
	■教職に関する科目 ■必修科目	社会科教育法 A EDU240C 休講	1学期	3	2	
			3年			
社会科教育法 B EDU241C 休講		2学期	3	2		
		3年				
社会科教育法 C EDU242C 休講		1学期	3	2		
		3年				
社会科教育法 D EDU243C 休講		2学期	3	2		
		3年				
公民科教育法 A EDU244C 下地 貴樹		1学期	3	2	390	
		3年				
公民科教育法 B EDU245C 吉村 義則		2学期	3	2	391	
		3年				
教育実習 1 EDU380C 児玉 弥生 他	2学期	3	2	392		
	3年					
教育実習 2 EDU480C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	393		
	4年					
教育実習 3 EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	394		
	4年					

文学部 人間関係学科 (2015年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教職実践演習(中・高)	2学期	4	2	395
	EDU490C 楠 凡之 他	4年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、2020年、税別1,300円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

歴史と政治【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。ノートをしっかりとって下さい。最新の研究成果を用いて講義を進めます。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題の不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時に努力すればすぐ入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

日本の防衛【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面 (エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障)
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面 (国防、日米同盟、国際貢献)
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて世界 (地球) 特講 (テロリズム論) を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- ・ 生命と環境に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、表現できる。
- ・ 身近な課題に関して積極的に調べ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（課題提出を含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。

事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分)。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナシップ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑩山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

環境問題概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 到達目標 /Class クラス 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【ホロコースト】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所を目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。
ノートはしっかりとって下さい。

履修上の注意 /Remarks

可能性としての歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を買う必要はありません。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 中間テストの解説

第15回 癒しの多様性

※出張や学生大会などで休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールは初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ Moodleで適宜課題を課します。締め切りまでに提出してください。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト(またはレポート)の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題における不正、授業態度が目には余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			言語と認知
			LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。
まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)

- 第1回 序・講義の進め方・担当者紹介(漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか(言語習得)(漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか(言語脳内処理・失文法)(漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程(税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション(税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援(税田)
- 第7回 ヒューマンエラー(松田)
- 第8回 アフォーダンスとシグニファイアー(松田)
- 第9回 脳と心のなりたち(脳のはたらきを支配する遺伝子)(日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか(言語と遺伝子)(日高)
- 第11回 モノの見方と言語表現(認知意味論)(木山)
- 第12回 比喩は文学表現か(メタファー)(木山)
- 第13回 文は語彙の足し算か(構文文法論)(木山)
- 第14回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第15回 まとめ:担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員の課題を提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論
		SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命科学と社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命科学と社会
			BI0200F

授業の概要 /Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学は我々の生活をこれまでにどのように変えてきたか、これからどのように変えるのだろうか。そこで本講義では、(1)生命科学の基礎や考え方について学ぶとともに、(2)DNAや遺伝子を調べることで何がわかり、どのように役に立つのか、(3)食や健康を考える上で我々が知っておくべきことは何か、(4)遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのかなど、人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 生命科学の基礎 (1) 遺伝子の概念 【DNA二重らせん】
- 3回 生命科学の基礎 (2) 生命活動の実行役 【タンパク質】
- 4回 生命科学の基礎 (3) ゲノム 【ヒトゲノム計画】
- 5回 DNAでわかること (1) 遺伝と疾患 【メンデル遺伝】
- 6回 DNAでわかること (2) 個性と体質 【遺伝子検査】
- 7回 DNAでわかること (3) DNA鑑定 【多型】
- 8回 安心・安全とは (1) 食品と医薬品 【健康食品】
- 9回 安心・安全とは (2) 遺伝子組換え作物 【カルタヘナ法】
- 10回 安心・安全とは (3) 人体と放射線 【確率の影響】 【がん】
- 11回 生命の倫理 (1) 生命と遺伝子操作1 【再生医療】 【iPS細胞】
- 12回 生命の倫理 (2) 生命と遺伝子操作2 【ゲノム編集】
- 13回 生命の倫理 (3) 生命科学と家族 【遺伝的つながり】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

* タイトルとスケジュールは変更になることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加 (毎回の課題提出を含む) 100%

生命科学と社会 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) により提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。

キーワード /Keywords

情報社会を読む【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会を読む
			INF200F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解することを目指す。

- 情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
- 最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
- 未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
- 未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 身の回りにあるICTと情報社会 【ガイダンス】 【ICT活用サービスの光と影】
- 2回 位置情報を利用したサービス 【ジオメディア】 【GPS】
- 3回 グループワーク1：位置情報を利用した未来のサービスを読む
- 4回 コンピュータは持ち歩くから着る時代へ 【ウェアラブルコンピュータ】
- 5回 近未来の入力装置 【モーション操作】
- 6回 グループワーク2：ウェアラブルコンピュータ・モーション操作を利用した未来のサービスを読む
- 7回 画像認識の仕組み 【画像処理】 【ドット】 【解像度】
- 8回 顔画像認識の応用と危険性 【マーケティング】 【個人情報】
- 9回 画像認識技術はどこまで人間に近づけるか 【形状認識】 【機械学習】
- 10回 グループワーク3：画像認識を利用した未来のサービスを読む
- 11回 IoT【センサー】 【クラウドコンピューティング】
- 12回 グループワーク4：IoTを利用した未来のサービスを読む
- 13回 自律型ロボットと人工知能【AI】 【ディープラーニング】 【技術的特異点】
- 14回 人工知能が人間社会に及ぼす影響【雇用問題】 【法整備】
- 15回 グループワーク5：人工知能の発展とこれから求められる能力

情報社会を読む【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する個人課題・・・ 60%、授業中に実施するグループワーク課題・・・ 30%、レポート・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、普段の生活において、どのようなICT活用サービスがあれば生活が豊かになるかを常に思考しておくこと。そうすることで、授業中に提示する課題に取り組みやすくなる。

事後学習として、授業中に説明した内容に関する未来のICTサービスを提案する課題を提示することがある。積極的に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループディスカッションを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイデアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。

キーワード /Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

地域資源管理論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		地域資源管理論	
		ENV200F	

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。

本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の3点である。

①漁業権（漁業法）・草地環境（入会権）の維持に向けた住民主体の地域資源管理手法について。

※SDGs（持続可能な開発目標）で言うと、「SDGs 14.海の豊かさを守ろう」、「SDGs 15.陸の豊かさを守ろう」、「SDGs 8.働きがいも経済成長も」に関係します。

②地域資源を有効に活用する手法 - フットパス事業に見る住民主体の地域資源管理 -

※SDGs（持続可能な開発目標）で言うと、「SDGs 3.すべての人に健康と福祉を」、「SDGs 17.パートナーシップで目標を達成しよう」に関係します。

③まちづくり会社（TMO）の役割と権利の集約 - 滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業と問題提起としての国立マンション訴訟について -

※SDGs（持続可能な開発目標）で言うと、「SDGs 11.住み続けられるまちづくりを」、「SDGs 12.（まちを）つくる責任つかう責任」に関係します。

上記の事例を、いくつかの紛争事例・裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。

法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○鈴木龍也, 富野暉一郎編著 (2006) 『コモンズ論再考』晃洋書房

角谷 嘉則著 (2009) 『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』創成社

神谷由紀子編著 (2014) 『フットパスによるまちづくり - 地域の小径を楽しみながら歩く - 』水曜社

地域資源管理論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 地域資源の考え方
- 第3回 行き過ぎた市場主義経済の弊害
- 第4回 生業とは何か？
- 第5回 適応した共助の仕組み
- 第6回 静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み① - 日本の伝統的な茅資源の利用方法について-
- 第7回 静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み② - 株式会社制度を利用した現代的な地域資源の共同管理システム-
- 第8回 地域資源の過少利用問題を越えて
- 第9回 地域資源を活用したまちづくりの実践 - フットパスとは何か？ -
- 第10回 外部講師の講演 「フットパスはどうやって創るのか？」
- 第11回 フットパスのまとめ
- 第12回 地域資源としての都市環境 - 景観問題の観点から -
- 第13回 都市の特徴と管理組織
- 第14回 総括と復習
- 第15回 おわりに

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に複数回実施する小レポートの出来：20%
最終試験：80% (持ち込み不可)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業の成績評価方法は、期末に実施する試験のウエイトがかなり高い。
また、持ち込み不可のために、授業中担当教員の発言などをメモを取り、事後学習として深く復習する作業が必要となる。また、授業中に使用するスライド資料は学習支援フォルダに掲載しているため、それを活用して事前学習も必要となる。そうしなければ、流れについてこれず、授業を理解できない可能性が高い。深い理解を得なければ、単位修得ができないと推察されるため、授業時間以外で学習することのできる人の履修を求む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話(判例)や法律の話に言及する機会が多々ある。
平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

キーワード /Keywords

SDGs(持続可能な開発目標)で言うと、「SDGs14.海の豊かさを守ろう」、「SDGs15.陸の豊かさを守ろう」、「SDGs8.働きがいも経済成長も」、「SDGs3.すべての人に健康と福祉を」、「SDGs17.パートナーシップで目標を達成しよう」、「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」、「SDGs12.(まちを)つくる責任つかう責任」に関連する授業内容となります。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症（障害）を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症（障害）とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史的変遷【歴史的変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本（1）障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本（2）構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本（3）コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本（4）行動問題への対応【行動問題、氷山モデル】
- 第12回：支援の基本（5）自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本（6）余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加（貢献）度30%。
課題への対応70%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることながらインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制における軍部とはいかなる存在だったのか？なぜ、昭和になると軍部は台頭したのか？日本近代史最大の問題点についてみんなで議論していきましょう。

「演習」方式の授業なので、文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実際に学んでいきます。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助にしたいと思います。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。受講者数にもよりますが、毎回2名程度の受講生に報告してもらいます。15回の演習で、一冊完読をめざします。

教科書 /Textbooks

小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、税別1300円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読（明治期を中心に読んでいきます）。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%報告・レジュメの内容...50%
無断欠席やレジュメの未提出は1回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、テキストの該当ページを全員読んでおくこと。担当者はレジュメを作成すること。
「演習」終了後は議論の内容を念頭に置きながら、再度テキストを読むこと。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最新の研究成果を用いてみなさんと楽しく議論できればと思います。

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

この演習では、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。具体的には、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

教養演習 AI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「テーマ」について考える
 - 第3回 「問い」を立てる
 - 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
 - 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
 - 第6回 情報を集める2 - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
 - 第7回 論文検討会1
 - 第8回 文献レビュー（テキスト批評）1
 - 第9回 文献レビュー（テキスト批評）2
 - 第10回 文献レビュー（テキスト批評）3
 - 第11回 文献レビュー（テキスト批評）4
 - 第12回 文献レビュー（テキスト批評）5
 - 第13回 文献レビュー（テキスト批評）6
 - 第14回 文献レビュー（テキスト批評）7
 - 第15回 まとめ
- なお、順番・内容は変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論等を記したレジюмеを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回
オリエンテーション

第 2 回～第 1 4 回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第 1 5 回
振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (1 0 0 %)

教養演習 AI 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加するには、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II (文化論セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 2学期 /Class Format 演習 / クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

文化と社会について学びながらレポートの書き方を向上させる：
本演習では、世界の文化と社会に関する文献を入り口として、そこから各自の関心に応じて「自分でテーマを設定し、学びを深め、レポートを書く」ということを目指します。コミュニケーション能力のうち、建設的に議論する能力と、自分の主張を説得的に文章で表現する能力を伸ばします。今学期は、「あたりまえを疑う」ことをテーマに最近の文化研究の成果に関して知識を深めつつ、勉強の仕方も学ぶことを目指します。

教科書 /Textbooks

松村圭一郎ほか編 2019 『文化人類学の思考法』世界思想社 (1800円+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐渡島紗織2015『レポート・論文をよくする「書き直し」ガイド』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学における本の読みかた・探しかた
- 第2回 議論のしかた
- 第3回 論点の広げ方
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論④
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業における取りこみ50%
ただし、報告者の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します

教養演習 AII (文化論セミナー) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成、レポートの執筆にはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修を希望する学生は第1回から出席してください。受講者数調整がなければ修正申告終了までは履修登録できますが、欠席分の授業内容を自習する努力が必要となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当者の講義(「異文化理解の基礎」「現代社会の文化」)や「アカデミック・スキルズ2」を履修したことがあると、理解が深まります。
- ・ 文献のタイトルには「文化人類学」とありますが、思考を柔軟にしながら世界について考えたい学生は、学部を問わず歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、文化人類学

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制における軍部とはいかなる存在だったのか？なぜ、昭和になると軍部は台頭したのか？日本近代史最大の問題点についてみんなで議論していきましょう。
「演習」方式の授業なので、文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実際に学んでいきます。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたいと思います。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合は本の内容の要約です。受講者数にもよりますが、毎回2名程度の受講生に報告してもらいます。15回の演習で一冊完読をめざします。

教科書 /Textbooks

小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、税別1300円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2 - 14回 『近代日本の軍部 1868 - 1945』の輪読（昭和史を中心に読んでいきます）。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%、報告とレジюмеの内容...50%
無断欠席やレジюмеの未提出は1回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、テキストの該当ページを全員読んでおくこと。担当者はレジюмеを作成すること。
「演習」終了後は議論の内容を念頭に置きながら、再度テキストを再読すること。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者が11名以上の場合には受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学教員生活最後の「演習」です。最新の研究成果を用いてみなさんと楽しく議論できればと思います。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この演習では、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法・調査によって論文（レポート）を書くことをめざす。具体的には、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「テーマ」について考える
 - 第3～4回 「問い」を立てる
 - 第5～6回 情報を集める1
 - 第7～10回 文献レビュー
 - 第11回～14回 質的調査の方法
 - 第15回 まとめ
- なお、順番・内容は変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%
(総合的に判断する。)

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回
オリエンテーション

第 2 回～第 1 4 回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第 1 5 回
振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (1 0 0 %)

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習BⅡ【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENW002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま（文化）」と「からだ（自然）」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」 「自然学の提唱」 今西錦司
- 「自然学の未来」 黒田未寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- | | | |
|-------------------------|-----|-----|
| 講義で紹介するさまざまな活動に参加する | ・・・ | 15% |
| 講義で紹介するさまざまな本を読み考える | ・・・ | 15% |
| 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く | ・・・ | 20% |
- (岩松)
- | | |
|-------------|----------|
| 小レポート...25% | 試験...25% |
|-------------|----------|

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらそう)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけではなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			自然史へのいざない	BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- ・ 自然史・歴史のテーマに関連して基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

自然史へのいざない【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。()内は担当者。【 】はキーワード

1回 ガイダンス(日高・柳川)

博物館1日目

- 2回 北九州市周辺の地質と化石の多様性について(太田)【化石】【ジオパーク】
- 3回 生命の起源を探る(柳川)【極限環境】【微生物】
- 4回 館内見学(1回目)
- 5回 多様性生物学と進化(蓑島)【進化】【生物多様性】
- 6回 海産無脊椎動物の行動生態学(竹下)【無脊椎動物】

博物館2日目

- 7回 植物を鍵とした生物間相互作用(真鍋)【共生】【食物連鎖】
- 8回 博物館を楽しむ:いのちのたびで知る脊椎動物進化(大橋)【恐竜】【脊椎動物】
- 9回 館内見学(2回目)
- 10回 鳥類の生態と進化(中原)【適応放散】【進化的軍拡競走】
- 11回 人新世におけるヒトと植物の関係(河野)【人新世】【科学史】

博物館3日目

- 12回 フィールドの地学と歴史を楽しむ(野井)【地学と歴史のかかわり】
- 13回 歴史に関するトピック①
- 14回 歴史に関するトピック②
- 15回 まとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 積極的な授業への参加(授業ごとのMoodle課題提出) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。

事後学習: 授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回目(ガイダンス)に欠席した場合は受講を認めない。ひびきのキャンパスでは10月2日に予定しているので掲示物に注意すること。
- ・ 第2回～第15回の授業は10月17日(土)、10月31日(土)、11月14日(土)の3回に分けて博物館で行う予定(いずれも終日)。
- ・ 博物館までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連:

- 13. 気候変動に具体的な対策を
- 14. 海の豊かさを守ろう
- 15. 陸の豊かさを守ろう

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 松田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田中 信利 / 人間関係学科
松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第12回 脳とこころ2【心身の発達と脳】
- 第13回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第14回 脳とこころ4【睡眠の影響】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

現代人のこころ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

人間と生命【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- ・ 生命科学に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連テーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子発現	【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【胚】
8回	細胞の社会(1)細胞の増殖	【細胞周期】【細胞死】
9回	細胞の社会(2)シグナル伝達	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【染色体】【テロメア】
12回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
13回	体を守るしくみ(3)私たちと細菌	【細菌】【腸内細菌】
14回	関連ビデオ鑑賞	
15回	質疑応答・まとめ	

人間と生命【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（毎回のMoodle課題提出を含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle（e-learningシステム）で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		
		環境都市としての北九州	
		ENW001F	

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

授業のねらいは以下のとおり。

- ・ 環境問題全体を把握するための最低限の知識を身につけている
- ・ 北九州市の環境問題に対するこれまでの取り組みを理解している。
- ・ 持続可能な社会に向けての考え方を理解し、自分自身の行動につなげることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円(税込み)
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然と環境(村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 12回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 13回 環境問題と学生の取り組み(未定)
- 14回 特別講演(未定)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績(40%)、小テストおよび授業中の課題(60%)

環境都市としての北九州【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアム）は原則として必須とする。スケジュールは変更となる場合があるので、第1回ガイダンスに必ず出席すること。

- ・ 環境ミュージアム見学は11月23日（月）午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。
- ・ 環境首都検定は12月6日（日）の予定。

*授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
*環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19 ~) , 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyozo KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。	
	コミュニケーション力			
			未来を創る環境技術	ENV003F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。
具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、北九州市のエネルギー政策
- 第2回：再生可能エネルギーに関する世界の潮流
- 第3回：世界における風力発電
- 第4回：日本における風力発電（その1）
- 第5回：日本における風力発電（その2）
- 第6回：日本における風力発電（その3）
- 第7回：再生可能エネルギーの産業（風力発電）
- 第8回：再生可能エネルギーの産業（エネルギーマネジメント）
- 第9回：都市の環境とエネルギー（経済学からのアプローチ）
- 第10回：都市の環境とエネルギー（機械工学からのアプローチ）
- 第11回：都市の環境とエネルギー（情報学からのアプローチ）
- 第12回：都市の環境とエネルギー（建築学からのアプローチ）
- 第13回：都市の環境とエネルギー（環境工学からのアプローチ）
- 第14回：都市の環境とエネルギー（化学・生物工学からのアプローチ）
- 第15回：まとめ

「日本における風力発電」では、外部講師による集中講義や北九州市の風力発電施設の見学を予定しています。

未来を創る環境技術 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって拡がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」
美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒテキ アートダイバー 2014
- 「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ポルトンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つける
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 2回 50%
レポート(学期末) 40%
日常の取組(出欠など) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したが、また、展開させたいか、を問うものである。

近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、プロジェクト

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる；ことが求められる

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J. (大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカー-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(civil司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護するシュンペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての直接民主主義論や人民民主主義論・ポピュリズム(と後者がはらむ危険性)について知る。民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。V-dem指標を知り、たとえば民主主義の場から女性を排除してきたスイスは民主主義国だろうかといった問題を検討する。
4. 民主主義という意思決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうることを把握し、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想であることをその内容を含めて理解する。ただしCJTに対しては批判も存在し、オルタナティブとして結果の不確実性に伴う「支配の最小化」こそが重要だとする議論を紹介する。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにかんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。また、現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. ここまでの授業の整理として第1-7回の授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。
9. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても事例を含めて理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として第9 - 13回の授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。
さらに、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が変わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません(それがない人を想定して授業を行います)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

SDG 5. ジェンダー平等 SDGs 16. 平和と公正

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。そのために、以下の2点について講義する。
 (1) 社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。
 (2) 現代の社会問題を社会的に考えていく。とりあげる問題としては「大衆社会とファシズム」「社会的排除と貧困」などを予定している。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な要因による説明とは
- 第4回 個人と社会をつなぐ1 - デュルケム1【自殺論 - 集合意識と行為】
- 第5回 個人と社会をつなぐ2 - デュルケム2【自己本位的自殺】
- 第6回 個人と社会をつなぐ3 - デュルケム3【アノミー的自殺】
- 第7回 個人と社会をつなぐ4 - ウェーバー1【理解社会学】
- 第8回 個人と社会をつなぐ5 - ウェーバー2【プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神】
- 第9回 機能主義とシンボリック相互作用論
- 第10回 現代の社会的解読1 - ファシズム1【社会的性格とファシズム】
- 第11回 現代の社会的解読2 - ファシズム2【デモクラシーと大衆社会】
- 第12回 現代の社会的解読3 - 社会的排除と貧困1【社会的排除と生活困窮の現状】
- 第13回 現代の社会的解読4 - 社会的排除と貧困2【生活困窮化のメカニズム】
- 第14回 現代の社会的解読5 - 社会的排除と貧困3【社会的な支援のあり方】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

社会学的思考 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、フ
アシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1 貧困をなくそう、SDG s 3 健康と福祉を

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なもの」というイメージを抱くかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念、現存する人権課題やその社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権課題とは何かについて共に考えていきたい。

目標

1. 人権とは何かについての基本的な概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深める。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|--|
| 1 「自分にとっての人権課題」 | オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。 |
| 2 「人権とは何か」 | 人権とは何かについて解説する。 |
| 3 「人権獲得の歴史」 | 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。 |
| 4 「世界人権宣言と人権条約」 | 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。 |
| 5 「平和と人権」 | 戦争・平和についての解説。 |
| 6 「ハンセン病について」 | ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。 |
| 7 「教育と人権～識字問題」 | 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。 |
| 8 「教育と人権～夜間中学」 | 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。 |
| 9 「部落問題について」 | 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。 |
| 10 「部落問題について」 | 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。 |
| 11 「在日外国人と人権課題」 | 在日外国人の現状と人権課題を解説する。 |
| 12 「在日コリアンについて」 | 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。 |
| 13 「障害者と人権」 | 障害者の立場からみる人権課題を知る。 |
| 14 「アジアの人権状況」 | アジアの人権問題を事例を交えて解説する。 |
| 15 「まとめ」 | 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。 |

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権課題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。
- ・教科書及び配布資料は熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率7割を満した学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『改訂版 ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2017）2,640円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンを愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ、ディスカッションも含む【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。	
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			法律の読み方	LAW002F

授業の概要 /Course Description

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自律的行動力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
 各回、必要な資料があれば配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 なぜ憲法を改正できないのか？ - 憲法改正の位相
- 第3回 民泊は違法？ - 法律と条例の関係
- 第4回 肉1ポンドを担保にしてお金を借りることは許されるか？ - ヴェニスの証人に見る同意
- 第5回 少年犯罪は増えている？ - 少年犯罪と近年の動向
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか？ - AIと法
- 第7回 電気は「物」か？ - 物に関する法
- 第8回 女性にだけ再婚禁止期間が原則100日も設けられているのはなぜか？ - 民法における再婚禁止期間と嫡出推定の関係
- 第9回 タヌキはゴルフ場開発を止められるか - 令和ぼんぼこ狸合戦 - 当事者能力
- 第10回 会社の経営について決定権を持つのは誰か？
- 第11回 年金って私たちはもらえないんでしょ？ - 公的年金の役割
- 第12回 受信料は払わなければいけない？ - 放送と法
- 第13回 自分の臓器を売る自由？ - 自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家 - ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

法律の読み方 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)
三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

企業と社会【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、レポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域 RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて講義する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの視点から分析する枠組みや手法を紹介する。「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個人々での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域 1 : 地域概念: 『地域』とは何か?
- 3回 地域 2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域 3 : 地域開発とは
- 5回 地域 4 : 地域間という視点
- 6回 地域 5 : 地域を分析する
- 7回 地域 6 : 地域事例 (L Q による分析)
- 8回 地域 7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市 1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市 2 : 都市の理論
- 11回 都市 3 : 都市の構造
- 12回 都市 4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市 5 : 都市を分析する
- 14回 都市 6 : 都市事例
- 15回 都市 7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

クイズ (合計) ... 30% 授業内貢献... 20% 最終クイズ (2回合計) ... 50%

都市と地域【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨んで下さい。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を考えて下さい。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、不定期・複数の(Moodleによる)クイズへの回答、および2回の最終クイズへの回答が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を評価します。発言の無いもしくは回答のない学生は授業貢献の点数が芳しくなくなるので、活発に発言をしてください。

また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数(授業貢献を含む)が0点になります。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年 (2015年度 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class 以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		
			地域防災への招待
			SSS001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。講義の中で避難所運営などのワークショップを行い、手を動かし、北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店
京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：南・加藤）
- 2 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 3 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7-8 避難所運営訓練HUG（北九州市危機管理室）
- 9 防災が地域を変える、社会を変える（外部講師、北九大：村江）
- 10 地域協働によるまちづくり（外部講師）
- 11 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 12 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 13 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 14 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 15 学生にもできる防災：災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）

なお、7-10回は、合同スクーリングとして5/16(土)に西小倉周辺の会場で実施予定。市役所による防災公開講座と合同実施。

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加 30%
レポートおよび小テスト 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業終了時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
通常の授業は、北方 - ひびきの間での遠隔講義となるため、受講人数制限あり。
合同スクーリングの交通費・昼食代は、受講者の負担となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

- - - - -

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業
SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科, 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
久木 尚志 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大平 変容するアジア情勢(1) 中国とインドの台頭
- 第3回 大平 変容するアジア情勢(2) 日本の防衛力強化
- 第4回 大平 変容するアジア情勢(3) 開発協力における熾烈な争い
- 第5回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第6回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第7回 下野 台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
- 第8回 松田 日本総合商社と海外インフラプロジェクト組成【総合商社】【世銀保証】【IFC-Bローン】【プロジェクトファイナンス】
- 第9回 松田 日本企業の特質と異文化マネジメント【ホフステッド】【複数の資本主義】
- 第10回 久木 2010年代後半のイギリス【国民投票】【総選挙】
- 第11回 篠崎 東南アジアを知ろう【地理】【宗教】【自律史観】
- 第12回 白石 中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
- 第13回 柳 朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
- 第14回 柳 北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
- 第15回 まとめ

※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少8回、最大14回)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。
	コミュニケーション力		
			グローバル化する経済
			ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション – グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【人口減少社会】【インバウンド】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【外部効果】【公共ガバナンス】
- 10回 地域政策と国際化(1)【交流人口】【インバウンド振興】
- 11回 地域政策と国際化(2)【越境する地域問題】【政策手法の変化】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
911の特異性
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。(1) 戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。(2) アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書 /Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口悠紀雄著『戦後日本経済史』(新潮社、2008年)
- 橋本寿朗 編『現代日本経済 第3版』(有斐閣アルマ、2011年)
- 三和 良一 編『近現代日本経済史要覧』(東京大学出版会、2010年)
- 五百旗頭真 編『戦後日本外交史 第3版補訂版』(有斐閣アルマ、2014)
- その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3. 占領下日本の「外交」【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4. サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立【講和条約】【戦後秩序】
5. 日本の戦後処理(賠償)【賠償】【請求権】【経済協力】
6. 日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7. 日韓国交への道程 / 日中国交への道程【脱植民地化】【テタント】【台湾問題】
8. 冷戦後の日本外交【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9. 世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバルイゼーション】【数字で見る日本経済】
10. 戦後復興と冷戦構造【封じ込め戦略】【ブレトン・ウッズ体制】【日本の経済復興】【ドッジ・ライン】
11. 日本型雇用慣行の形成と高度経済成長のメカニズム【日本型経営】【高度経済成長】【資本の自由化】
12. 戦後秩序の変容と石油危機【ニクソン・ショック】【経済の政治化】【石油危機】
13. 日本企業の多国籍化の変遷と特徴【海外直接投資】【日米経済摩擦】【生産ネットワーク】
14. グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
15. 地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% (担当者ごと、計2回) テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書をもとに、事前学習として予習をすること。
事後学習として、復習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

東アジア 安全保障政策 冷戦 戦後復興 グローバリゼーション

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化
			ARE010F

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象に向き合うための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、Moodleを利用した日韓の歴史についても学習を深める。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 日韓若者のお互いに対する意識
- 3 韓国のいろは①【韓国ってどんな国？】
- 4 韓国のいろは②【ハングルの仕組みなど】
- 5 グローバル化するK-POP
- 6 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 7 韓国(人)にとって日本(人)とは？
- 8 日本(人)にとって韓国(人)とは？
- 9 韓国における日本大衆文化の受け入れ
- 10 日本における「韓流」史
- 11 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 12 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 13 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 14 日韓の食文化について考える
- 15 まとめ

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (出席レポートや討論への参加) 40%

小レポート20%

期末レポート40%

韓国の社会と文化【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、予め毎回のテーマについて調べ、授業終了後には内容を整理し、各自の「考え」をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ Moodleを利用した小レポート(5回ほど)を必ず提出すること
- ・ 授業開始のチャイムが鳴るまでに着席していること。
- ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
- ・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
- ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは0点とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 異文化理解

戦後の日本経済【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		
			戦後の日本経済
			ECN002 F

授業の概要 /Course Description

私たちの思考や行動は、私達が暮らす社会のあり方によって規定されています。そして社会のあり方は、時代とともにこれまで大きく変化してきました。

特に社会のあり方に大きな影響を与えてきたのが「経済」です。

「経済」とは、私達が生きていくために何か価値あるものを作り、それを他者と交換することで生活の糧を得ることを意味します。つまり「経済」とは、働き収入を得て消費するという、日常の暮らしそのものを指しています。

こうした人々の暮らしが大きく変化する度、社会のあり方が変わり、その結果、人々の思考や行動も変化してきました。

この講義では、この事実を、実際の「経済」の歴史を通じて理解していただきます。

そのうえで、特にここでは、「現代人」の社会、暮らし、思考や行動のあり方に極めて大きな影響を及ぼした「高度経済成長期」(1950年代後半から1970年代前半)に注目します。

そしてここで、人々がどのような暮らしを手にし、いかなる思考や行動をするようになったのかを考えます。

また、「高度経済成長」以後の暮らしの変化にも着目することで、現代に生きる私たちが「当たり前」と思い抱いている価値観や行動様式が、いつどのような経緯で浸透していくこととなったのか、その歴史についても、「経済」を通して考えてみたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

戦後の日本経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「高度経済成長」とは何か
- 第5回 2. 文化的主体としての「団塊の世代」
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程
 - 1. 戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 IV. 戦後家族モデルの成立
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第10回 2. 「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
- 第11回 3. 日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」 -
- 第12回 V. 「ロストジェネレーション」
 - 1. 「幸せモデル」の確立
- 第13回 2. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第14回 3. 「失われた20年」と「ロストジェネレーション」
- 第15回 VI. 価値観・ライフスタイルの変化

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名
/Instructor

未定

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

近代では倫理は「倫理学」として独立した分野になっていますが、洋の東西を問わず、倫理・道徳は宗教（聖）、政治的共同体と密接な関係をもっています。また西欧においては、道徳的なものは美をもつとされ、「美しき魂」「美しき国家」の理想がとくにドイツ思想において重視されてきました。

この講義では、倫理・道徳と宗教（聖）、倫理・道徳と自然法、倫理・道徳と美（芸術作品）との分裂や融合のせめぎ合いの歴史を、近代の思想をたどることによって、明らかにします。そのことによって、現代において、法や社会を見る目が涵養され、自分がどのように行動し、判断すればよいかの「判断力」を養成する一助となることをめざします。

教科書 /Textbooks

各講義でレジメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 インTRODクシヨN：カール・シュミットと「中立性の時代」
- 第2講 第1部 聖と善の分離
(1) ルター：宗教の内面化
- 第3講 (2) ホッブズ：宗教と国家の分離、「暗黒の王国」と宗教的権威に変わる「主権」=「可死の神」
- 第4講 (3) スピノザ：民衆の道徳としての宗教、『神学・政治論』
- 第5講 (4) カント：理論を超え理性宗教、『理性の限界内における宗教』
- 第6講 (5) フィヒテ：理性宗教の確立「生きた道徳法則が宗教」
- 第7講 第2部 法と善と聖の分離とせめぎあい
(1) ルソー：自律道徳のための法としての『社会契約論』
- 第8講 (2) カント：自由と法、「理論と実践」
- 第9講 (3) フィヒテ：フランス革命の哲学と『自然法の基礎』
- 第10講 (4) カール・シュミット：主権の不可侵性、「政治神学」
- 第11講 第3部 美と人倫、「美しき共同体」を求めて
(1) カント：美と目的論、『判断力批判』
- 第12講 (2) シラー：美と人倫、『カリアス書簡』と『美的教育書簡』
- 第13講 (3) ヘルダーリン：精神の詩学、『ヒュペーリオン』と『エンペドクレス』
- 第14講 (4) マルクス：物象化とコミュニケーション主義としてのコミュニズム
- 第15講 (5) ウィリアム・モリス：美と工芸のコミュニズム

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート60パーセント。講義の中でのリフレクション・カード40パーセント。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、参考文献を挙げるので、取捨選択して読んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

交通機関の遅れなどやむをえない場合（要証明書）を除いて、30分を超えての遅刻入室は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい授業を心がけます。質問、議論を歓迎します。

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		日本史	HIS110F

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記するだけのことで、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。
この授業では、日本史に係る重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —過去・史料・歴史家—
- 第3回：ヒトはどこから来たのか？ —人類の拡散と日本列島—
- 第4回 狩猟採集経済と農耕経済 —気候変動と縄文・弥生人—
- 第5回：前方後円墳とヤマト王権 —初期国家の成立—
- 第6回：古代国家と天皇 —東アジアの律令国家—
- 第7回：日本の中世国家 —分権化する国家と社会—
- 第8回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第9回：世界史のなかの「近世」 —東アジアにおける伝統社会の形成—
- 第10回：歴史人口学の世界
- 第11回：結婚と離婚 —歴史のなかの男と女—
- 第12回：貨幣からみる近世社会
- 第13回：日本の「近代」
- 第14回：「日本人」と戦争
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（50%、小レポートなどを含む）、期末試験（50%）によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。
本講義では、西暦1～3世紀の中国、すなわち新・後漢時代から三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
 - 3回 秦漢史概説(1) -「皇帝」の誕生-
 - 4回 秦漢史概説(2) -前漢の盛衰-
 - 5回 新の王莽
 - 6回 後漢前期(1) -光武帝-
 - 7回 後漢前期(2) -明帝-
 - 8回 後漢前期(3) -章帝・和帝-
 - 9回 後漢後期(1) -安帝・順帝-
 - 10回 後漢後期(2) -桓帝・靈帝-
 - 11回 後漢分裂と「三世紀の危機」 -『三国志』の虚実-
 - 12回 魏の曹操
 - 13回 蜀の劉備と呉の孫権
 - 14回 三国鼎立と邪馬台国の外交
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・80% 日常の授業への取り組み・・・20%

*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。

東洋史 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)

予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、授業を集中して聞き、適宜ノートを取る。初回に講義のガイダンスを行うので、出席すること。定期試験の際にはノートや配付資料の持ち込みは認めないので、意欲のある学生の受講を期待する。

講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておく、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 轟谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の体系
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地理学の歴史、地域概念と重力モデル、環境決定論と環境可能論
- 第3回 人文地理学の基礎(3) 様々な距離、時間地理学、空間認識
- 第4回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第5回 社会・文化と地域(2) 町並み保存
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
- 第11回 都市構造と都市システム(4) 都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
- 第12回 産業立地と集積(1) チェーンストアの配送と立地
- 第13回 産業立地と集積(2) 産業集積、企業城下町
- 第14回 産業立地と集積(3) コンテンツ産業の集積
- 第15回 産業立地と集積(4) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(80%)、ミニレポート(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1(実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2(実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年 4,800円
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年 3048円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1) : ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2) : ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ベネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容 : 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容 : 山口県防府市、県庁所在地の変容 : 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容 : 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容 : 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容 : 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容 : 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本国憲法
			LAW120F

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 駒村圭吾編『プレステップ憲法 第2版』(弘文堂、2018年)
- 斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』(弘文堂、2018年)
- 芦部信喜『憲法 第7版』(岩波書店、2019年)
- 長谷部恭男『憲法 第7版』(新世社、2018年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①-平和主義と「正しい」戦争
- 第4回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第5回 表現の自由とその限界①-表現の自由の保障根拠
- 第6回 表現の自由とその限界②-規制の根拠と手段の妥当性
- 第7回 自己決定権とは何か①-憲法上の根拠と内容
- 第8回 自己決定権とは何か②-生命の自己決定?
- 第9回 自己決定権とは何か③-安楽死・尊厳死法制化の是非
- 第10回 議院内閣制①-国会と内閣の関係
- 第11回 議院内閣制②-国会の制度と運営
- 第12回 議院内閣制③-国会と選挙制度
- 第13回 憲法と死刑制度①-日本国憲法と死刑制度
- 第14回 憲法と死刑制度②-立法政策上の諸課題
- 第15回 全体まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)。

日本国憲法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記参考書をはじめ、授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 立憲主義 基本的人権 統治機構

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description
本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks
なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
必要に応じ紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
 - 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
 - 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類、よくある誤解】
 - 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
 - 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【大人】
 - 第6回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
 - 第7回 精神と行動の異変(2)【精神疾患】
 - 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
 - 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
 - 第10回 自己分析
 - 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
 - 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
 - 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
 - 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

メンタル・ヘルスI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業のリアクションを Moodle 上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)【主体性】
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)【体脂肪】
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことと考えます。

スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。また、特別講師としておがわ整骨院院長の小川博久先生からテーピングを中心に授業を行います。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 50%
レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後は文献等で再度復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体活動をととして理論と実践を学びます。
積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

健康・安全・衛生

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)【主体性】
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)【体脂肪】
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらう。それらの講義を聴講して、以下の3点の習得を目指す。

- ・生活に必要な考え方や自己管理に関する学びを具体的に表現することができる。
- ・今後の人生に必要な考え方を理解し、自分の言葉で表現することができる。
- ・授業に参加して感じた疑問点を表明することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会人のマナー
- 3回 選挙・まちづくり
- 4回 災害への備え
- 5回 犯罪防止
- 6回 自転車の交通安全
- 7回 消費者トラブル
- 8回 大学生とお金
- 9回 身体の健康
- 10回 心の健康
- 11回 ハラスメント防止
- 12回 消防と救急
- 13回 薬物乱用
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ほぼ毎回実施する課題レポート ... 70%
授業中に行う質疑応答 ... 10%
まとめレポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、提出用のレポートを準備しておくこと。業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、課題レポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の開始前と終了後に出席確認を行うので、ICカード学生証を毎回忘れずに持参し、指示に従って正しく読み取り操作を行うこと。また、入学式で配布される資料や北九州市立大学Webサイト上の「学生生活・就職」のページを参照すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。このため、以下の注意点に留意すること。

- ① 第1回目の授業に出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。
- ② 遅刻することなく、毎回授業に出席すること。授業計画や授業内容等は、外部講師の都合により、変更になる可能性がある。その場合は、その都度授業中に説明する。
- ③ 質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～13回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 14回 スキル獲得テスト②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 梨羽 茂
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ゲーム法の解説
- 9回～14回 ゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 下釜 純子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 体作り運動
- 3回 体幹トレーニング
- 4回 体のバランスを意識した運動 (ストレッチ・バランスボール)
- 5回 ヨガ
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 10回 バスケットボール (1) ドリブル、パス、シュートの基礎練習
- 11回 バスケットボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【トレーニング】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 晃二郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、ラケット種目の実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 テニスの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 サーブ・ボレー練習
- 4回 テニスゲーム①
- 5回 テニスゲーム②・スキル獲得テスト
- 6回 バドミントン基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー・ドロップ)
- 7回 バドミントンルール説明・ゲーム①
- 8回 バドミントンゲーム②
- 9回 バドミントンゲーム③
- 10回 スキル確認テスト
- 11回 卓球基本練習 (サーブ・ラリー継続)
- 12回 卓球ルール説明・ゲーム①
- 13回 卓球ゲーム②
- 14回 スキル獲得テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。
テニスは基本的グラウンドで実施します。雨の日は室内で実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。
また、フェアプレーも学びます。

教科書 /Textbooks

授業時間に必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

時速400キロ・フェアプレー

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生活をより実りあるものにするための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ① 様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ② 将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③ コミュニケーションをとることに慣れる
- ④ 社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤ 自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 全体ガイダンス 【講師紹介、全体計画、授業形式紹介等】
- ② キャリアデザインがなぜ必要なのか? 【トークセッション】
- ③ SDGs 【これからの社会のキーワードSDGsの本質】
- ④ わたしのキャリアI 【企業で働く】
- ⑤ わたしのキャリアII 【個人で働く】
- ⑥ わたしのキャリアIII 【自分で事業を興す】
- ⑦ これからの日本社会をとりまく環境 【このままだと日本はどうなる】
- ⑧ 自分の頭で考えよう 【言われたことをやるだけの時代ではない】
- ⑨ 見える資産・見えない資産 【自分ブランディング】
- ⑩ ビジネスについて知ろう 【ビジネスとは何か】
- ⑪ キャリアの転機とエンプロイアビリティ 【社会が求める人物とは】
- ⑫ リーダーシップの重要性 【全員がリーダーシップを発揮する】
- ⑬ 自分の価値観を知ろう 【自分の強み、弱みなど】
- ⑭ 将来のキャリアを考えよう 【自己分析と未来分析】
- ⑮ 全体まとめ、ふりかえり

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
授業内のレポート...20%
まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下を守ってください。

①遅刻厳禁②飲食禁止③作業時間は守る④授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑤グループワークでは積極的に発言する⑥周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑦分からないことは聞く⑧授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 充実した大学生活（新生活）のためのリスクマネジメント
- 3回 大学の「使い方」
- 4回 「理想」の大学生活・・・なんてあるの？
- 5回 ゲストスピーカーによるご講演（世界の果てで子どもを救う）
- 6回 大学での勉強、どうする？
- 7回 健康的な大学生活（セルフカウンセリングについて）
- 8回 自分の可能性を広げるために
- 9回 「自分」はだれか？
- 10回 かわいい子には「旅」をさせる・・・べき？
- 11回 ゲストスピーカーによるご講演（国際キャリアのつくりかた）
- 12回 変わりつつある世界の中でどう生きるか
- 13回 ゲストスピーカーによるご講演（他者のために生きる人生）
- 14回 ようこそ先輩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業内レポート50% 課題レポート50%

キャリア・デザイン 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後は、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

< 目的 >

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・。具体的には大学生の本分である学びの深掘、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・入職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

< 進め方 >

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

< 目標 >

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。そして、アイデンティティ（自分らしさの探求）やコミュニケーション能力、課題解決力などを身に付け、社会が必要とする創造力を発揮できる基礎を身につけること。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料をMoodleにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
 - 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
 - 大久保幸夫『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
 - 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
 - モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
 - エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
 - 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
 - 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
 - 香取一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
 - 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
 - J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
 - スブツニ子!『はみだすカ』宝島社
 - アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
 - リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
 - リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
 - 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
 - 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・社会で求められる力
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 幅広い視野・柔軟性を身につけるには(先輩登壇)
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 働くということ(社会人登壇)
- 8回 新しい仕事を創る(ジョブスタ)
- 9回 ケーススタディワーク(酒造メーカーの改革)
- 10回 自分らしい就職活動をするには(卒業生・内定者登壇)
- 11回 企業団体研究(面白い企業団体を知る)
- 12回 計画された偶発性(幸運は準備とチャンスの交差点)
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(予習・復習・メンバーからの相互評価)・・・78%
インタビューレポート・・・13%
最終レポート・・・9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> Moodleに予習・相互評価・復習を掲示しますので毎週締め切りまでに行ってください。
<インタビューレポート> 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティア活動などが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。よって、できるだけ早くそれらに挑戦してほしいのですが、そもそも「何がやりたいのか?」がわからなければ、探すことも選ぶこともできません。ゆえに、

キャリア・デザイン 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代に寝食を忘れて取り組むテーマを見出してもらう仕組みと、そのために必要な力が獲得できるように設計しました。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
			プロフェッショナルの仕事 I
			CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です（敬称略・順不同）。

<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドグヴ・ニーズ（T&G）、サニーサイドアップ、チームラボキッズ（teamLab）、労働基準監督官（厚生労働省）、カモ井加工紙（mt）、大創産業（ダイソー）、西日本旅客鉄道（JR西日本）、スノーピーク、全日本空輸（ANA）、本田技研工業（HONDA）、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

<2018年度> ファミリア、日本航空（JAL）、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構（JAXA）

<2017年度> サニーサイドアップ、ジンス（JINS）、JR九州エージェンシー、全日本空輸（ANA）、日本放送協会（NHK）、キャメル珈琲（カルディ・コーヒーファーム）、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス（モスバーガー）、日本たばこ産業（JT）、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、力の源ホールディングス（一風堂）、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造（獺祭）

<2015年度> ムーンスター、日本放送協会（NHK）、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、九州旅客鉄道（JR九州）、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空（JAL）、ニトリ、北九州市

<2014年度> ストライプインターナショナル（earth music & ecologyなど）、北九州市、ジンス（JINS）、東急ハンズ、ハウステンボス、朝日新聞社、日本アクセス、東京海上日動火災保険、JTB九州、アイ・ケイ・ケイ、伊藤忠エネクス、山口フィナンシャルグループ（山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行）、再春館製薬所、全日本空輸（ANA）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91%
最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。
やむを得ない事由で欠席する場合はメールで事前にお知らせください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話いただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。通常、そのような力は課外におけるインターンシップやプロジェクト活動などで身に付けますが、本授業はそれを明確に単位化したものです。なお、旧授業名は「プロフェッショナルの仕事2」。

<進め方> 以下の流れで企業団体（3団体）の課題に挑戦し、各チームで競います。課題解決のノウハウは、その他の回で講義します。

1. 企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
- 加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- 大嶋祥誉『マッキンゼー入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
- スブツニ子!『はみだすカ』宝島社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンスと課題解決のノウハウ(その1)
- 第02回 【団体A】課題の提示とチームビルディング
- 第03回 【団体B】課題の提示とチームビルディング
- 第04回 【団体C】課題の提示とチームビルディング
- 第05回 クリエイティブシンキングのノウハウ
- 第06回 相談日
- 第07回 【団体A】中間発表とフィードバック
- 第08回 【団体B】中間発表とフィードバック
- 第09回 【団体C】中間発表とフィードバック
- 第10回 課題解決のノウハウ(その2) ※各班の発表を題材に
- 第11回 プレゼンテーションのノウハウ
- 第12回 相談日
- 第13回 【団体A】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第14回 【団体B】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第15回 【団体C】最終発表と総合評価、フィードバック

※参考

<2019年度の企業団体と課題>

■TOTOインフォム株式会社

社員が安心して働ける職場を実現するには?

■アイ・ケイ・ケイ株式会社

今までにない感動を体感できるウェディングとは?

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

<2018年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

毎日見なくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには?

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

■株式会社スターフライヤー

新しい機内販売の提案

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(リフレクション)・・・56%

最終発表に対する評価(企業団体からの評価と相互評価)・・・30%

最終レポート・・・14%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後はMoodleで振り返りを行ってください。

履修上の注意 /Remarks

※第1回で履修人数を確認しますので、必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員(mitate@kitakyu-u.ac.jp)までメールで連絡をしてください。

※第2~4回までの各企業団体の課題を理解した上で、挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み(授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など)による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員(職員)からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

プロフェッショナルの仕事II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません(受け入れ企業団体が少ないため)。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

地域の達人【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。
	コミュニケーション力		
		地域の達人	CAR212F

授業の概要 /Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

- ・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 仕事以外で社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 雇われないで個人として仕事をしている方
- ・ 会社やお店を営んでいる方

このような社会人をお招きし、以下の点についてお話しさせていただきます。

- ①どんな活動をしているのか
- ②活動のねらい、社会的意義、成果
- ③活動するときに乗り越えた壁
- ④人、組織をどう動かすのか
- ⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
また、パラレルワークや副業など、様々な働き方が広がってきています。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

地域の達人【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～13回 地域の達人によるお話
第14回 達人を振り返る
第15回 まとめ

【これまでの登壇者】

海外ボランティアNPO法人代表、ソーシャル大学学長、公務員、ボーカリスト、障がい者自立団体代表、銀行員兼産学連携コーディネーター、照明デザイナー、物流・運送会社社長、総合交通産業社長、サラリーマン兼ギタリスト、IT企業起業家、不動産会社社長、まりづくりプロデューサー、教育NPO代表、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事かどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、今回も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に話者について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分のキャリアや将来展望にどのような影響があったのかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。
授業開始前までに予告された情報をもとに、登壇者について事前に調べておいてください。授業終了後にはお話をお聞きする中で生じた疑問について各自で調べ、疑問を解消するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

facebookに『地域の達人』ページを開設しています。予告とアーカイブを掲載していますので、確認しながら授業を受講してください。
人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、働く意味や意義について理解してもらうための授業を企画する。また、ゲスト講師が自らの地域でのキャリアについて語ることで、学生のキャリア意識を醸成する。

キーワード /Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主、実務経験のある教員による授業
★関連するSDGsゴール
「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「11. まちづくり」

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55点) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45点) = 合計100点評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」（1500字程度）を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。本講義は、こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めています。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。
			サービスラーニング入門II CAR180F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 計画発表会①
- 計画発表会②
- 実践報告①
- 実践報告②
- 実践報告③
- 実践報告④
- 受講生による振り返り
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55点) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください(自習時間の目安は60分程度)。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門II【昼】

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講 I
			SPL001 F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズに身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

この授業では、社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す(伝える)力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力も身につけられるようアシストします。様々な学部の学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

新聞を活用した演習やクイズを実施して、文章添削も行う予定です。

教科書 /Textbooks

教材として授業時に新聞を配布します(教材費は1,000円以内の予定)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞なども活用する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 新聞の基本的な読み方とまわしよみ新聞の作り方、グループ分け
- 第2回 新聞のちから①まわしよみ新聞を基にテーマを選択
- 第3回 新聞のちから②テーマと疑問点を詰める
- 第4回 新聞のちから③文章の書き方(基礎編)
- 第5回 新聞のちから④文章の書き方(応用編)
- 第6回 新聞のちから⑤模擬取材体験
- 第7回 新聞のちから⑥取材結果をまとめる
- 第8回 新聞のちから⑦発表と講評
- 第9回 社会人基礎力養成①深く考える力を高める新聞の読み方
- 第10回 社会人基礎力養成②課題解決へ思考を深める
- 第11回 社会人基礎力養成③課題解決へ思考を深める
- 第12回 社会人基礎力養成④課題解決へ思考を深める
- 第13回 社会人基礎力養成⑤就活突破と新聞活用術
- 第14回 まとめ①「わたしたちの新聞」作成
- 第15回 まとめ②「わたしたちの新聞」発表と講評

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に関する作業の取り組みの度合いで総合的に判断します(100%)。
詳しくは1回目の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を活用します。
就職活動に役立ちそうな簡単な演習などを課題として出題する予定です。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。
新聞報道の現場経験者が、その経験を活かしながら「読む力」「書く力」「話す力」「考える力」を向上させる授業を担当する。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力、実務経験のある教員による授業

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないが、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「使い捨てプラスチック」「100円ショップ」「フードロス」「アニマルウェルフェア」を具体的な事例として取り上げ、倫理的消費について受講生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、環境に負荷をかけない生活を考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。

アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。

末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か?
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 『Food Inc.』(DVD)前半の鑑賞
- 第7回 『Food Inc.』(DVD)後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第8回 【フードロス】『0円キッチン』(DVD)の観賞
- 第9回 【プラスチック】ペットボトル、マイクロプラスチック、論点整理、ディスカッション
- 第10回 【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第11回 【100円ショップ】『徹底解剖!100円ショップ』の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第12回 【フェアトレード】『もっと!フェアトレード』(DVD)の鑑賞
- 第13回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第14回 【動物の権利保護(アニマルウェルフェア)】
- 第15回 まとめ

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

7回のレポート(70%)、エッセイ(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、DVDを観賞した後は必ずレポート(A4一枚程度)を課しますので、振り返りをしてください。また、学んだことを実生活で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」

「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」

「SDGs 17. パートナーシップ」

情報メディア演習【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報メディア演習
			INF330F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間社会に与える影響について考える力を身に付けることである。特に、本授業ではソーシャルメディアに着目し、その成り立ちや技術、社会的な課題を学ぶことで、一人ひとりがメディアへの関わり方を考え、人や社会とのつながりを再設計することで、新たなメディア環境を生きていくための力（メディア・リテラシー）を身に付けることを目的としている。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- ソーシャルメディアの歴史
- ソーシャルメディアの現在
- ソーシャルメディアの未来
- メディア・リテラシー
- ソーシャルメディアに対する思考力

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

藤代裕之 編著：ソーシャルメディア論 改訂版 - つながり再設計する -、青弓社、2019年、1,800円（税抜）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

情報メディア演習【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：情報メディアとは何か【ガイダンス】【情報メディア】
- 2回目：ソーシャルメディアの登場による影響と問題点【SNS】【マスメディア】【メディア・リテラシー】
- 3回目：思考力向上のためのスキル1【批判的な読み方】
- 4回目：ソーシャルメディアの歴史を知る1【歴史】
- 5回目：ソーシャルメディアの歴史を知る2【技術】
- 6回目：ソーシャルメディアの歴史を知る3【法】
- 7回目：ソーシャルメディアの現在を知る1【ニュース】
- 8回目：ソーシャルメディアの現在を知る2【広告】
- 9回目：思考力向上のためのスキル2【視座図と視点図】
- 10回目：ソーシャルメディアの現在を知る3【政治】【キャンペーン】
- 11回目：ソーシャルメディアの現在を知る4【都市】【コンテンツ】
- 12回目：ソーシャルメディアの現在を知る5【モノ】
- 13回目：ソーシャルメディアの未来を考える1【地域】【共同規制】
- 14回目：ソーシャルメディアの未来を考える2【システム】
- 15回目：ソーシャルメディアの未来を考える3【教育】【人】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題・・・40%、レポート・・・30%、授業への参加態度・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに教科書を読んで、次の授業の内容を必ず理解しておくこと。また、チューター方式で授業を行うので、与えられたテーマについては授業時間外を含めて積極的に学習し、チューターとしての準備をしっかりと行うこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。また、チューターが終わったあとは、そこから学んだことをレポートとしてまとめること。

履修上の注意 /Remarks

「情報社会への招待」や「情報社会を読む」を受講して、情報社会に関連する知識や技術、情報社会の未来に関する内容をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、受講生の皆さんの意見や課題の結論等を発表、共有する場面が多くある。積極的に発言してもらいたい。

キーワード /Keywords

ソーシャルメディア、メディア・リテラシー、思考力、アクティブラーニング

英語I (比人 1-F) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&Rテストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

Across Cultures (SANSHUSHA)
(1,700円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 授業の進め方と成績評価について説明
- 第 2 回 Whose English?
- 第 3 回 "My mother Isn't Well, Sir."
- 第 4 回 Your Variety Is Better Than Mine.
- 第 5 回 Saying Hello
- 第 6 回 What is the Culture of English?
- 第 7 回 Where Should I Go to Learn English?
- 第 8 回 Writing Extremely Short Stories
- 第 9 回 Who Makes the Best English Teachers?
- 第 1 0 回 English Is an Asian Language!
- 第 1 1 回 What Is My First Language?
- 第 1 2 回 What Does It Mean to Be Bilingual?
- 第 1 3 回 When Should We Learn English?
- 第 1 4 回 "You Said So!" "No, We Didn't."
- 第 1 5 回 What Do People Talk About?

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70%

(注) 平常点は30%であるが、4回以上欠席した場合、定期試験の受験資格はありません。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

英語I (比人 1-F) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必須条件。予習していない場合は欠席と見なします。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (比人 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Chizuko Tsumatori 他著 「First Time Trainer for the TOEIC TEST, Revised Edition」 センゲージ 2200円
TEX 加藤 著 「TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ」朝日新聞出版 890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&基礎力確認テスト
- 第2回 Unit 1 / 文と文型 1
- 第3回 Unit 2 / 文と文型 2
- 第4回 Unit 3 / 文と文型 3
- 第5回 Unit 4 / 時制 1
- 第6回 Unit 5 / 時制 2
- 第7回 Unit 6 / 時制 3
- 第8回 中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
- 第9回 Unit 7 / 能動態と受動態
- 第10回 Unit 8 / 現在分詞と過去分詞
- 第11回 Unit 9 / 動名詞
- 第12回 Unit 10 / 不定詞
- 第13回 Unit 11 / 関係詞 1
- 第14回 Unit 12 / 関係詞 2
- 第15回 Unit 13 / 関係詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (比人 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

北尾泰幸 他著 「一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3」 朝日出版社 ￥1836

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&基礎力確認テスト
- 第2回 Unit 1 Eating Out / 文と文型 1
- 第3回 Unit 2 Travel / 文と文型 2
- 第4回 Unit 3 Amusement / 文と文型 3
- 第5回 Unit 4 Meetings / 時制 1
- 第6回 Unit 5 Personnel / 時制 2
- 第7回 Unit 6 Shopping / 時制 3
- 第8回 中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
- 第9回 Unit 7 Advertisement / 能動態と受動態
- 第10回 Unit 8 Daily Life / 現在分詞と過去分詞
- 第11回 Unit 9 Office Work / 動名詞
- 第12回 Unit 10 Business / 不定詞
- 第13回 Unit 11 Traffic / 関係詞 1
- 第14回 Unit 12 Finance and Banking / 関係詞 2
- 第15回 Unit 13 Media / 関係詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/ リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用テキスト及びプリントに記載されている英文は、くまなく速読で読めるように、またリスニングであれば、その英文を一度聞いて、正確に意味を把握し書き取れるようになることを学習の到達目標にしてください。それが次の学習ステップにつながってきます。

キーワード /Keywords

英語II (比人 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力、（リスニング力）の向上を目指します。また授業の一部にTOEIC(R) L&Rテストの演習などを取り込む場合があります。後半は物語を味わう。

教科書 /Textbooks

Step-up Skills for the ToEIC Listening and Reading test 2 Yasuyuki Kitao Asahi Press (1700円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listeningの問題の答え合わせ。
3. リーディングの訳を行う
4. 物語を読む

1回 オリエンテーション

2回 単語のテスト Unit 1 Part 1~7

3回 単語のテスト Unit 2 Part 1~7

4回 単語のテスト Unit 3 Part 1~7

5回 単語のテスト Unit 4 Part 1~7

6回 単語のテスト Unit 5 Part 1~7

7回 単語のテスト Unit 6 Part 1~7

8回 単語のテスト Unit 7 Part 1~7

9回 単語のテスト Unit 8 Part 1~7

10回 単語のテスト Unit 9 Part 1~7

11回 単語のテスト Wicked and Shuddering Tales Chapter 5

12回 Wicked and Shuddering Tales Chapter 8

13回 Wicked and Shuddering Tales Chapter 9

14回 Wicked and Shuddering Tales Chapter 復習

15回 Wicked and Shuddering Tales Chapter 5

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト 25% 宿題 14パーセント 試験 61%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にTOEICスコアが反映される。

反映方法は、オリエンテーションの時に文書を配布し説明する。

英語II (比人 1-G) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、丁寧に予習を行って、出席してください。リスニングは、必ずディクテーションを行い、読解は、訳ができるようになるまで、丁寧に単語を調べてくること。授業の最初に、前週の復習が出来ているのか、質問を行います。

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備。CDを聞いてDictationをし、必ず予習をしてくる。後半の物語は単語を調べておく。
基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC〈TOEFL〉を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オリエンテーションの時に指定席を決めます。必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語III (比人 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 1学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 比人 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

英語III (比人 1-F) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (比人 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムス・ヒックス

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a low-intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Pathways 1A: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56255-3

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 6回 Topic 2 – Expansion
- 7回 Topic 2 Presentation Preparation
- 8回 Topic 2 Presentation
- 9回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 10回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 11回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 12回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 13回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 14回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 15回 Topic 5 Presentation Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 20%, Homework 15%, Presentations 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV (比人 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語IV	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。
This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. Focus on conversation and writing.

教科書 /Textbooks

Title: Four Corners 2B (2nd Ed.)
Publisher: CUP
ISBN: 9781108627726
Price: 2200 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction/orientation
Week 2: Telling stories
Week 3: Giving and discussing tips
Week 4: Describing how food is prepared
Week 5: Discussing how to react in situations
Week 6: Comparing and contrasting cities
Week 7: Talking about character traits
Week 8: Presentation 1
Week 9: Describing inventions
Week 10: Describing past events
Week 11: Speculating about everyday situations
Week 12: Reporting what others say
Week 13: Talking about getting things done
Week 14: Discussing environmental trends
Week 15: Presentation 2 and exam outline.

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Complete the homework diligently and prepare for the presentations adequately.

英語IV (比人 1-F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語V (比人 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC（R）L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

教科書 /Textbooks

Educational Testing Service、公式TOEIC Listening & Reading 問題集 5、国際ビジネスコミュニケーション協会、3,300円、ISBN: 9784906033577

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急銀のフレーズ、朝日新聞出版、979円、ISBN: 9784023316843
TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急金のフレーズ、朝日新聞出版、979円、ISBN: 9784023315686

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction
Week 2: Part 1, Part 2 (1)
Week 3: Part 2 (2)
Week 4: Part 5 (1)
Week 5: Part 5 (2)
Week 6: Part 6
Week 7: Part 7 (1)
Week 8: Part 7 (2)
Week 9: Part 3 (1)
Week 10: Part 3 (2)
Week 11: Part 4 (1)
Week 12: Part 4 (2)
Week 13: Part 4 (3)
Week 14: Listening Section Review
Week 15: Reading Section Review

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (50%) 及び期末試験 (50%) に基づいて行う。最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、授業前に必ず解答し、学習してくる。この予習を行うことを前提として授業を進めることを了解した上で、授業に臨むこと。教科書の音声は無料でダウンロードすることができますので、必ず予習・復習に活用してください。語彙テストに際しては、計画的に学習すること。

英語V (比人 2 - C) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。

第1回の授業に必ず出席すること。

第1回の授業の前に必ず生協で教科書を購入すること。使用済みの教科書・教科書のコピーは容認されません。

必ず辞書を授業に持参すること。発音を確認するために電子辞書が望ましい。携帯電話を辞書として使用することはできません。

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書 (病院の領収書など) を見せてください。

遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。30分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。公共交通機関が遅れて遅刻した場合は、必ず遅延証明書を貰ってきて見せてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (比人 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

- ① SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE 「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：中級編」 番場直之 他著 金星堂 ¥2200(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purshasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

英語V (比人 2-D) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席すること。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (比人 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

- ①PERFECT PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—「TOEIC L&R TEST パーフェクト演習—改訂新版—」 石井隆之 他著 成美堂 ¥2420(税込)
- ②TOEIC L&R TEST出る単語急金のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Studying Abroad
- 3回 Unit 2 International Conference
- 4回 Unit 3 Holidays
- 5回 Unit 4 Leisure
- 6回 Unit 5 Restaurant
- 7回 Unit 6 Online Shopping
- 8回 Unit 7 Global Warming
- 9回 Unit 8 Web Sites
- 10回 Unit 9 Workplace
- 11回 Unit 10 Nursing Care
- 12回 Unit 11 Global Trading
- 13回 Unit 12 Eco-Friendly Economy
- 14回 Unit 13 Business Trips
- 15回 Unit 14 Hybrid Cars

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

英語VI (比人 2-C) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席すること。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (比人 2-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 比人 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R)L&R)の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。今学期のTOEICスコア目標は、550点以上です。

教科書 /Textbooks

石井隆之他著 Perfect Practice for the TOEIC L&R TEST 成美堂 2200円(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 part 1 & part 5
- 第3回 part 2 & part 6
- 第4回 part 3 & part 7
- 第5回 part 3 & part 7
- 第6回 part 4 & part 7
- 第7回 part 4 & part 7
- 第8回 中間テスト
- 第9回 part 1 & part 5
- 第10回 part 2 & part 6
- 第11回 part 3 & part 7
- 第12回 part 3 & part 7
- 第13回 part 4 & part 7
- 第14回 part 4 & part 7
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 30% + 期末テスト 40% + 日常の授業への取り組み 10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
中間テストはTOEIC問題を出します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (比人 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 比人 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
コミュニケーション力		●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Cambridge University Press)

「税込価格：2,420円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Education 1
- 第3回：Education 2
- 第4回：Personal Stories 1
- 第5回：Personal Stories 2
- 第6回：Presentation 1
- 第7回：Style and Fashion 1
- 第8回：Style and Fashion 2
- 第9回：Interesting Lives 1
- 第10回：Interesting Lives 2
- 第11回：Presentation 2
- 第12回：Our World 1
- 第13回：Our World 2
- 第14回：Organizing your time
- 第15回：Presentation 3

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

英語VII (比人 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 比人 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
	自己管理力			
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。		
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in one on one debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will allow them to express their opinions and influence others through logical, reasoned discussion.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this class. Curriculum is based on class handouts and student generated materials

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Critical Thinking Skills: Agreeing / Disagreeing / Giving Reasons
- 3回 Discussion skills: Starting a Discussion / Matching Ideas / Ending a Discussion
- 4回 Debate Level 1: Stating the Positives in a Pro vs. Pro Debate
- 5回 Debate 1 Presentation
- 6回 Spontaneous Debate Challenge
- 7回 Debate Level 2: Pro / Con Idea Matching & Persuading
- 8回 Structuring a Pro / Con Debate
- 9回 Debate Topic 2 Presentation
- 10回 Spontaneous Debate Challenge
- 11回 Debate Level 3: A Well Informed Debate / Fact vs. Opinion
- 12回 Structuring a Fact Based Debate: Information & Statistics
- 13回 Debate Topic 3 Presentation
- 14回 Final Test Review & Preparation
- 15回 Final Test Review & Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

英語VII (比人 2-D) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to have regular attendance and take part fully in class writing and speaking exercises. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be working closely with group members and will have to fulfill many tasks together. As student absence will affect pair and group success, all students are required to be present and active at all times.

キーワード /Keywords

英語VIII (比人 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

現代社会の様々なトピック、例えば、「自然と健康」、「観光公害」、「職場での男女平等」などについて書かれた英文を読みながら、英文法の基礎を復習し、本文の内容理解問題、文法練習問題、ダイアログなど豊富な練習問題に取り組みます。最後は自分で意見を述べられる力をつけていくことを目指します。

教科書 /Textbooks

"Changing Times, Changing Worlds"
Joan McConnell & Kiyoshi Yamauchi 著
成美堂 2020年 2,090円
ISBN: 9784791972074

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEIC®テスト新公式問題集』
その他、適宜、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
- 2回 Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message
- 3回 Chapter 2 Overtourism is a Problem!
- 4回 Chapter 3 Gender Equality in the Workplace
- 5回 Chapter 4 Changing Definitions of Beauty
- 6回 Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance
- 7回 Chapter 6 Nature and Health
- 8回 Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces
- 9回 Chapter 8 Trees: A Gift from Nature
- 10回 Chapter 10 Redefining Gender and Marriage
- 11回 Chapter 11 All the Lonely People
- 12回 Chapter 12 Think before You Talk, Text, or Tweet
- 13回 Chapter 13 Jeans Go Global!
- 14回 Chapter 14 Helping People with Disabilities
- 15回 Chapter 15 A Special Message まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と課題・小テスト・・・35% 期末試験・・・65%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳細については第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ① 指定された課題は必ず提出しましょう。
- ② 音声ファイルをダウンロードして活用しましょう。
- ③ 指定された範囲の予習をして授業に臨みましょう。
- ④ 授業の後は必ず復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられていますので、第1回の授業に必ず出席して説明を受けましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業以外にも英字新聞や英語ニュース等を通して英語にふれるようにしましょう。
予習・復習をしましょう

キーワード /Keywords

英語VIII (比人 2-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

- ① Insights 2020 「世界を読むメディア英語入門2020」 村尾純子 他著 金星堂 ￥2090(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤著 朝日新聞出版 ￥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Chapter1 Books! Bring a Bright Future to Children
- 3回 Chapter2 Brew Sake with Fresh Ideas!
- 4回 Chapter3 A Unique Tour Guide
- 5回 Chapter4 A Banana with an Edible Peel
- 6回 Chapter5 Too Crowded to Carry it on our Backs!
- 7回 Chapter6 Monitoring Kid's Phone Use
- 8回 Chapter7 Learn about your Pet Dog at the Museum
- 9回 Chapter8 Dream of Space Tourism Comes True
- 10回 Chapter9 Save the World from Garbage!
- 11回 Chapter10 Manga Featuring the Elderly
- 12回 Chapter11 Why Not Go to Kyoto?
- 13回 Chapter12 To Be More Eco-friendly
- 14回 Chapter13 A Pleasant Night's Sleep at a Capsule Hotel
- 15回 Chapter14 Healthy Lifestyles Discount Premium

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)で本単位の成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席すること。
- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を持参してください。
- ・ 事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (英中国済営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円

TOEIC 5分間ドリル リスニング3 (マクミラン・ランゲージハウス) ISBN978-4-7773-6258-5 1,000円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の力をつける①)	読解 (単語と文法の力をつける①)
3回	聴解 (単語と文法の力をつける②)	読解 (単語と文法の力をつける②)
4回	聴解 (単語と文法の力をつける③)	読解 (単語と文法の力をつける③)
5回	聴解 (単語と文法の力をつける④)	読解 (文脈を考える①)
6回	聴解 (英語の音に注目する①)	読解 (文脈を考える②)
7回	聴解 (英語の音に注目する②)	読解 (文脈を考える③)
8回	聴解 (英語の音に注目する③)	読解 (言語外の知識を利用する①)
9回	聴解 (英語の音に注目する④)	読解 (言語外の知識を利用する②)
10回	聴解 (多様なアクセントに注目する①)	読解 (言語外の知識を利用する③)
11回	聴解 (多様なアクセントに注目する②)	読解 (言外の意味を捉える①)
12回	聴解 (多様なアクセントに注目する③)	読解 (言外の意味を捉える②)
13回	聴解 (多様なアクセントに注目する④)	読解 (言外の意味を捉える③)
14回	聴解 (音の聞き取りから意味の理解へ)	読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%
課題 20%

英語X (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 3年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国济営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 X II	ENG312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school and university. We will cover a variety of topics while we improve your English ability. The course will be quite demanding as it will require a large amount of reading, writing, speaking, and listening. While it may be relatively demanding, another goal for the course is that it will be intellectually stimulating for students.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the class, getting acquainted
- 2回 Conversation strategies, note-taking
- 3回 Assignment 1
- 4回 Discussion 1
- 5回 Assignment 2
- 6回 Discussion 2
- 7回 Assignment 3
- 8回 Discussion 3
- 9回 Assignment 4
- 10回 Discussion 4
- 11回 Assignment 5
- 12回 Discussion 5
- 13回 Assignment 6
- 14回 Discussion 6
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

英語XII (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ホウ ラメイ (彭腊梅) / ラメイ ホウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・ 40% 暗誦・ 30% 日常の授業への取り組み・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor ホウ ラメイ (彭腊梅) / ラメイ ホウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|------|------|-----------------|
| 1 回 | 第九課 | 買い物をする・義烏と横店紹介 |
| 2 回 | 第九課 | 買い物、練習問題 |
| 3 回 | 第十課 | お金を両替・西安と洛陽紹介 |
| 4 回 | 第十課 | 銀行にて、練習問題 |
| 5 回 | 第十一課 | ホテルに泊まる・成都紹介 |
| 6 回 | 第十一課 | ホテルにて、練習問題 |
| 7 回 | 第十二課 | 電話を掛ける・昆明紹介 |
| 8 回 | 第十二課 | 電話、練習問題 |
| 9 回 | 第十三課 | 興味について語る・広州紹介 |
| 10 回 | 第十三課 | 興味、練習問題 |
| 11 回 | 第十四課 | 見方について語る・大連紹介 |
| 12 回 | 第十四課 | 語り合い、練習問題 |
| 13 回 | 第十五課 | 搭乗手続き・日本の紹介 |
| 14 回 | 第十五課 | 空港での搭乗手続き・免税店にて |
| 15 回 | | 総合練習 |

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40％ 暗誦・・・30％ 日常の授業への取り組み・・・30％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語Ⅷ	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語 I	CHN301 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひとつと終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期

- 第1回 授業説明、基礎復習
- 第2回 第1課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第3回 第1課② 会話、リスニング、作文練習
- 第4回 第2課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第5回 第2課② 会話、リスニング、作文練習
- 第6回 第3課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第7回 第3課② 会話、リスニング、作文練習
- 第8回 場面の体験1
- 第9回 第4課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第10回 第4課② 会話、リスニング、作文練習
- 第11回 第5課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第12回 第5課② 会話、リスニング、作文練習
- 第13回 第6課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第14回 第6課② 読む、会話、作文練習
- 第15回 場面の体験2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　翻訳力　作文力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語II	CHN311 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひとつと終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。
中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

教科書 /Textbooks

前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 第7課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第2回 第7課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第3回 第8課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第4回 第8課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第5回 場面の体験1
 - 第6回 第9課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第7回 第9課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第8回 第10課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第9回 第10課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第10回 場面の体験2
 - 第11回 第11課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第12回 第11課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第13回 第12課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第14回 第12課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第15回 場面の体験3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習する必要がある。
欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、考え力、ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語Ⅲ	CHN302 F

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。
グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著 北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『精彩漢語 遊走中国』(日本語版) 中国・高等教育出版社
『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社
『新コミュニケーション』中国語Level1、Level2都文堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 第1課 「认识一下」新出単語 本文会話1 2
- 2回目 第2課 「吃点儿什么」新出単語 本文会話1 2
- 3回目 第1課、第2課会話練習
- 4回目 第3課「在校园里」新出単語 注釈 本文会話1
- 5回目 第3課「在校园里」注釈 本文会話2
- 6回目 第4課「住的麻烦」新出単語 注釈 本文会話1
- 7回目 第4課「住的麻烦」注釈 本文会話2
- 8回目 中間復習
- 9回目 第5課「做客」新出単語 注釈 本文会話1
- 10回目 第5課「做客」注釈 本文会話2
- 11回目 第6課「旅行计划」新出単語 注釈 本文会話1
- 12回目 第6課「旅行计划」注釈 本文会話2
- 13回目 第7課「生活服务」新出単語 注釈 本文会話1
- 14回目 第7課「生活服务」注釈 本文会話2
- 15回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅳ	CHN312F

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。
グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『精彩漢語 遊走中国』(日本語版)中国・高等教育出版社
『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社
『新コミュニケーションタイプ』中国語Level1、Level2都文堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 一回目 第11課「购物」新出単語 注釈 本文会話1
- 二回目 第11課「购物」注釈 本文会話2
- 三回目 第12課「谈论朋友」新出単語 注釈 本文会話1
- 四回目 第12課「谈论朋友」注釈 本文会話2
- 五回目 第14課「体育健身」新出単語 注釈 本文会話1
- 六回目 第14課「体育健身」注釈 本文会話2
- 七回目 中間復習
- 八回目 第15課「各有所爱」新出単語 注釈 本文会話1
- 九回目 第15課「各有所爱」注釈 本文会話2
- 十回目 第16課「理想的职业」新出単語 注釈 本文会話1
- 十一回目 第16課「理想的职业」注釈 本文会話2
- 十二回目 第17課「业余爱好」新出単語 注釈 本文会話1
- 十三回目 第17課「业余爱好」注釈 本文会話2
- 十四回目 第18課「中国家庭」新出単語 注釈 本文会話1
- 十五回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

朝鮮語I (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまずきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』 巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【母音】【基本挨拶表現①】
- 3回 文字と発音【子音①】【基本表現②】
- 4回 文字と発音【子音②】【基本表現③】
- 5回 文字と発音【子音③】【合成母音①】【基本表現④】
- 6回 文字と発音【激音】【合成母音②】
- 7回 文字と発音【濃音】【合成母音③】
- 8回 発音の規則【終声・パッチム】
- 9回 発音の規則【連音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【濃音化】【流音化】【その他】
- 11回 文字と発音の復習【日本語のハングル表記】
- 12回 指定詞の丁寧形【～は～です】
- 13回 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 語彙と文型の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅰで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』 巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅰの復習
- 2回 動詞の丁寧形【ハムニダ体①】【～を】
- 3回 形容詞の丁寧形【ハムニダ体②】【数詞①】
- 4回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 5回 指定詞の丁寧形【ヘヨ体①】【～です】【～ではありません】
- 6回 数詞のまとめ【数詞②】【年齢】【日付】
- 7回 助詞のまとめ【作文練習】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形【ヘヨ体②】
- 9回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 10回 用言の尊敬形①【ハムニダ体】
- 11回 用言の尊敬形②【ヘヨ体】【特殊な尊敬語】
- 12回 尊敬形のまとめ【作文練習】
- 13回 用言の過去形①【ハムニダ体】
- 14回 用言の過去形②【ヘヨ体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語II (1 - d) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】【何日ですか？】【何曜日ですか？】
- 5回 助詞と疑問詞のまとめ【～から～まで】
- 6回 動詞と形容詞の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【いつ～しますか？】
- 7回 動詞と形容詞の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形③【一週間の予定】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 動詞と形容詞の否定形【～しません、～ありません】
- 11回 好みの表現【～が好きです】【変則活用①】
- 12回 目的表現【～に～しに行きます】【丁寧形の変則活用】
- 13回 動詞と形容詞の過去形①【～ました、でした】
- 14回 動詞と形容詞の過去形②【変則活用】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語Ⅳ (1 - d) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語Ⅰ・Ⅱ』の復習
- 2回 第1課 過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 第3課 尊敬形の해요体、丁寧な命令形表現
- 7回 第3課 ㄹ 변則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
- 8回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 9回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 10回 第4課 ㄹ 변則用言ドリル、用言 + 아서/어서、意志表現【-을래요/ㄹ래요】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 12回 第5課 意志・推測【을/ㄹ 거예요】、現在連体形
- 13回 第5課 未来意志・推測・婉曲【ㄹ 거예요】、~しに・~ために表現。【未来の計画発表】
- 14回 第5課 夏休みに何をしますつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営比人律政群 /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語V』の復習
- 2回 第6課 条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
- 3回 第6課 ㄹ変則ドリル、理由表現【用言+으니까/니까、指定詞・名詞+이니까/니까】
- 4回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 5回 第7課 名詞+하고/과/와, 可能・不可能表現
- 6回 第7課 過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言+을/르게요】
- 7回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】 【メール文を書く】
- 8回 第8課 未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
- 9回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 10回 第9課 ㄱ変則ドリル、義務【用言+아/어야 되다(하다)】
- 11回 第9課 未来形推測【用言+을/르 것 같다】、許可【用言+아/어도 되다】
- 12回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 13回 第10課 ㄷ変則ドリル、不可能【못~/~지 못하다】
- 14回 第10課 現在形推測【는 것 같다/은/ㄴ 것 같다/인 것 같다】、経験表現
- 15回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス /Class 2年 済営比人律政群

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回．第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回．第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回．第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回．第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回．第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아/어서】
- 10回．第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回．第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回．第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回．第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回．第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回．第6課 物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話しましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営比人律政群 /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VIII	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ！韓国語（改訂版）』白水社 2017年。2400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-를 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 がしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄴ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ/는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語 I	KRN301 F

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。専門的な用語と社会全般の説明が理解出来る多彩な文型と諺を無理なく駆使できるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．授業概要、オリエンテーション(韓国語で自己紹介を含む)
- 2回．読解【私の新年計画、韓国で人気のある職業】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-가/이 되다, -(으)려고, -는 동안(에)】
- 4回．作文発表【夢と将来の計画について】
- 5回．読解【韓国社会人の悩み、進路についての悩み】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-는 건 어때요?/-는 게 좋겠다/-때문에】
- 7回．作文発表【悩みについて】
- 8回．読解【大衆文化、韓国映画】
- 9回．韓国映画鑑賞
- 10回．聞き取り、会話・文型練習【-기 위해서/ -거나/-(으)면 좋겠다】
- 11回．作文発表【自分の願望のために現在やっていること】
- 12回．読解【韓国の住居環境、部屋探し】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-보다/-지요/-중에서】
- 14回．作文発表【自分が今住んでいる家と将来住みたい家】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

単元ごとにスキットの暗記と応用会話を演じ、同じテーマを持って自分の意見を発表出来るように、事前に予習をする必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語でコミュニケーションする楽しさを体験しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II	KRN311 F

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．読解【電子製品。機械、携帯電話】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-(으)ㄹ 줄 알다/모르다, -(이)나, -뿐이다.-뿐만 아니라】
- 4回．作文発表【自分が持っている電子製品を紹介】
- 5回．読解【宿泊先の予約】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-기 때문에, -(으)로, -밖에】
- 7回．作文発表【宿泊先に予約のメールを送る】
- 8回．韓国の観光事情について話し合う
- 9回．読解【インターネットバンキング、銀行事情】
- 10回．聞き取り、会話・文型練習【-고 나서, -(으)려면, -에다가】
- 11回．作文発表【銀行取引申請書を作成】
- 12回．読解【韓国の交通手段、道路標識】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-(으)로 해서, -(으)니까요?, -(으)ㄹ 것 같다】
- 14回．作文発表【韓国の道路標識紹介】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み発・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

課題提出の締め切りをしっかりと守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語のコミュニケーションを楽しみましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 (必携)
『朝鮮語辞典』 (小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』 (前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V/VI』の復習
- 第3回目 学校生活【スキットを読んでみよう】
- 第4回目 学校生活【文法、練習問題】
- 第5回目 アルバイト【スキットを読んでみよう】
- 第6回目 アルバイト【文法、練習問題】
- 第7回目 私の一日【スキットを読んでみよう】
- 第8回目 私の一日【文法、練習問題】
- 第9回目 プレゼント【スキットを読んでみよう】
- 第10回目 プレゼント【文法、練習問題】
- 第11回目 風邪【スキットを読んでみよう】
- 第12回目 風邪【文法、練習問題】
- 第13回目 休日【スキットを読んでみよう】
- 第14回目 休日約束【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 前期の復習
- 第3回目 夏休み【スキットを読んでみよう】
- 第4回目 夏休み【文法、練習問題】
- 第5回目 趣味【スキットを読んでみよう】
- 第6回目 趣味【文法、練習問題】
- 第7回目 大学祭【スキットを読んでみよう】
- 第8回目 大学祭【文法、練習問題】
- 第9回目 仕事【スキットを読んでみよう】
- 第10回目 仕事【文法、練習問題】
- 第11回目 日記【スキットを読んでみよう】
- 第12回目 日記【文法、練習問題】
- 第13回目 外国語の勉強【スキットを読んでみよう】
- 第14回目 外国語の勉強【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況...20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意 /Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、スタート時期に欠席するのは好ましくない。

ロシア語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

ロシア語II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英中国済営比人律
/Class 政1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしてしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

ロシア語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、書き言葉に特徴的な複文（関係代名詞、関係副詞、分詞構文）の「文法・語法」学習、動詞の体の用法・派生、運動の動詞など、より複雑な文法の学習を行う。到達目標は、文章語の読解力を養うこと。

教科書 /Textbooks

学習用プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○ブリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 定動詞・不定動詞(1)、完了体・不完了体
- 2回 関係代名詞(1)、形容詞・副詞の比較級と最上級
- 3回 個数詞と名詞句の結合、年齢表現、値段表現
- 4回 時間表現、不定使用法、不規則変化動詞
- 5回 不定人称文、仮定法(1)、複文(1)
- 6回 移動動詞の派生、曜日表現
- 7回 関係副詞、関係代名詞(2)、勧誘法表現、年月日表現
- 8回 相互代名詞、述語生格、仮定法(2)、普遍人称文
- 9回 無人称動詞、定動詞・不定動詞(2)、再帰所有代名詞、「春の祝日について」
- 10回 副動詞、形動詞現在
- 11回 完了動詞・不完了動詞の派生、祝辞表現
- 12回 時刻表現、概数、姓の格変化
- 13回 複文(2)、存在状態を表す動詞と動作動詞(「横たわっている」と「横になる・横たわせる」)
- 14回 形動詞過去、間接命令法
- 15回 定代名詞、特殊変化動詞、「呼格について」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・課題・学習状況 ... 40%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には、テキストの読み、練習問題の課題を課すので準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語V【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数（数十冊以上）あるので利用してください。

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211F

授業の概要 /Course Description

外国人用のロシア語テキストの読解、および会話テキストの聞き取り読解・訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。到達目標は、書き言葉の文章読解力を向上させること、およびノーマルなスピードのやさしい会話ができるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安藤厚ほか編「ロシア語ミニ辞典」白水社、1997年
中村建之介著「自習ロシア語問題集」白水社、2014年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題	Скоро первое сентября
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題	Мама и футбол
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題	Мать
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題	Салют
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題	Гипноз
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題	Важный разговор
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題	Трудный экзамен
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題	Дом отдыха
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題	Бабушка и Вовка
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題	Вторая молодость
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題	О чём думает марабу?
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題	Как я встречал новый год
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題	Любимый праздник
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題	Это случилось в воздухе
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題	Мои друзья

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅶ	RUS202 F

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5課の復習
- 2回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 3回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 4回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 5回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 6回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 7回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 8回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 9回 ビデオ学習② 会話練習
- 10回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 11回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 12回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 13回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 14回 ビデオ学習④ 会話練習、作文【Я И СПОРТ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 平常の学習状況(小テスト含む)...10% 宿題...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101 F

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。
学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻 / あいさつ(2) / 時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う / アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物 / メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie / 命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語 / 建物など 文法：名詞の性 / 定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持つてる? 持つてない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物 / 値段 文法：名詞と冠詞の3格 / 複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

ドイツ語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。
ただし、毎時間必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。
授業の中でもドイツ語圏の社会や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語II	GRM111F

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識およびコミュニケーション力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提にして行われます。受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。

ドイツ語II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。ドイツ語IIの時間でも、必要に応じてドイツ語圏の生活や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語III 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 2 場面学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかですか？【お店】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫言いで話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『バリーポルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第7課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音と綴り字
- 2回 自己紹介をする
- 3回 主語人称代名詞と動詞 être の活用
- 4回 物を指し示す
- 5回 名詞と不定冠詞、形容詞の性・数的一致と位置
- 6回 尋ねる
- 7回 第一群規則動詞、定冠詞
- 8回 買い物をする
- 9回 動詞avoirの活用、否定文
- 10回 物や人について尋ねる
- 11回 動詞allerと近接未来、疑問代名詞
- 12回 場所を尋ねる
- 13回 所有形容詞、疑問形容詞
- 14回 ~したいと言う
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『パリールポルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って2学期は第8課から第14課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 興味を述べる
- 2回 定冠詞の縮約、補語人称代名詞
- 3回 誘う
- 4回 代名動詞、中性代名詞 y
- 5回 天候と時刻を言う
- 6回 非人称構文、命令形
- 7回 数量を表す
- 8回 部分冠詞、中性代名詞 en
- 9回 比較する
- 10回 比較級、単純未来
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去、半過去
- 13回 仮定する
- 14回 条件法現在
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のCDをつけて聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、フランス文化に触れつつ、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

新装 カフェ・フランセ ニコラ・ガイヤール他著、朝日出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語Ⅲ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本のアニメをフランス語で見る (1)
〈文法〉フランス語の子音と母音
- 2回 日本のアニメをフランス語で見る (2)
〈文法〉フランス語の読み方
- 3回 自己紹介とあいさつ、フランスという国 (1)
〈文法〉名詞の性と数
- 4回 職業について語る、フランスという国 (2)
〈文法〉主語人称代名詞、動詞 être、否定形
- 5回 住んでいるところについて語る、世界の中のフランス語 (1)
〈文法〉-er 動詞、不定冠詞と定冠詞
- 6回 カフェで注文してみる、世界の中のフランス語 (2)
〈文法〉形容詞 (1)
- 7回 様々な言語について、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語 (1)
〈文法〉動詞 avoir、疑問文
- 8回 持ち物について語る、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語 (2)
〈文法〉人称代名詞の強勢形、疑問形容詞、数字 11~20
- 9回 家族について語る、ジャパ・エキスポ (1)
〈文法〉所有形容詞
- 10回 人物を描写してみる、ジャパ・エキスポ (2)
〈文法〉不規則動詞 aller, venir, vouloir、国名につく前置詞
- 11回 インタビュー、フランスの地方の魅力 (1)
〈文法〉部分冠詞、指示形容詞
- 12回 さまざまな質問、フランスの地方の魅力 (2)
〈文法〉疑問代名詞
- 13回 好きな食べ物について語る、フランスの朝ごはん (1)
〈文法〉疑問副詞、前置詞と定冠詞の縮約
- 14回 服装について語る、フランスの朝ごはん (2)
〈文法〉命令形、-ir 動詞
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題 (50%)、学期末試験の結果 (50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験 5 級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価 C を保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同じくフランス文化に触れつつ、基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

新装 カフェ・フランセ ニコラ・ガイヤール 他著、朝日出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語Ⅳ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツについて語る、フランスのヴァカンス(1)
〈文法〉形容詞(2)
- 2回 朝食について語る、フランスのヴァカンス(2)
〈文法〉数量表現、不規則動詞 savoir, voir, mettre
- 3回 人を誘ってみる、フランスの世界遺産(1)
〈文法〉目的補語人称代名詞
- 4回 行き先を聞く、フランスの世界遺産(2)
〈文法〉非人称構文、数字 21~69
- 5回 日常生活について(1)、フランスのホームパーティー(1)
〈文法〉代名動詞(1)
- 6回 日常生活について(2)、フランスのホームパーティー(2)
〈文法〉代名動詞(2)
- 7回 有名人について語る、フランスのスポーツ(1)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(1)
- 8回 アルバイトについて語る、フランスのスポーツ(2)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(2)
- 9回 レストランで(1)、フランス人の余暇(映画・音楽)(1)
〈文法〉複合過去(1)
- 10回 レストランで(2)、フランス人の余暇(映画・音楽)(2)
〈文法〉複合過去(2)、中性代名詞 en
- 11回 過去について語る(1)、フランスの美術館(1)
〈文法〉半過去(1)
- 12回 過去について語る(2)、フランスの美術館(2)
〈文法〉半過去(2)、中性代名詞 y と le
- 13回 メールを書く、フランスの教育制度
〈文法〉命令形
- 14回 近い未来の計画について話す、フランスの大学生生活
〈文法〉近接未来
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)と学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証しません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

初級で学んだ文法で特にむつかしかった時制や代名詞などの事項を会話文、アクティビティ、練習問題を通して復習し、知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

『クワワッサン2 もっと知りたいフランス語』松村博史 著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『フラ語入門 わかりやすいにもホドがある』清岡智比古著 白水社
『ケータイ万能 フランス語文法』久松健一著 駿河台出版社
『中級をめざす人のフランス語文法』杉山利恵子著 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 アルファベ 数字 綴り字と発音のルールの復習
- 2回目 動詞の現在形と複合過去の復習
- 3回目 dialogueの練習と頻度に関する表現 (1課終了)
- 4回目 直接・間接目的語と強勢形の代名詞の復習
- 5回目 dialogueの練習と人称代名詞の位置について(2課終了)
- 6回目 代名動詞と過去分詞の性数一致について
- 7回目 代名動詞の複合過去形 (3課終了)
- 8回目 dialogueの練習と中性代名詞
- 9回目 指示代名詞について (4課終了)
- 10回目 単純未来と近接未来
- 11回目 dialogue の練習 (5課終了)
- 12回目 現在分詞
- 13回目 現在分詞とジェロンディフ
- 14回目 lecture (6課終了)
- 15回目 受動態と所有代名詞 (補足)

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト：40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてはテキストに目を通してあらかじめ学ぶ文法項目を確認しておくこと。また会話文の発音練習をしておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語帳と日本語・フランス語による例文リストを作成し、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き既習の文法を復習しながら、複文を構成する叙法等を学んで、表現力のレベルアップを目標とします。

教科書 /Textbooks

『クロワッサン2 もっと知りたいフランス語』 松村博史著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中級フランス語 叙法の謎を解く』 渡邊淳也著 2018年 白水社
『中級をめざす人のフランス語文法』 杉山利恵子著 2012年 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1学期の復習
- 2回目 半過去
- 3回目 大過去
- 4回目 代過去のおさらいと時・理由・条件を表す接続詞 (7課終了)
- 5回目 dialogueの練習と接続詞を使う練習 (8課終了)
- 6回目 条件法のはなし
- 7回目 条件法現在の形と用法
- 8回目 条件法過去について
- 9回目 dialogueの練習とactivites (9課終了)
- 10回目 関係代名詞 que とqui
- 11回目 関係代名詞 ce que とce qui
- 12回目 関係代名詞 ou とdont
- 13回目 強調構文と接続法について (10課終了)
- 14回目 接続法の練習 (11課終了)
- 15回目 lecture (12課終了)

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト40%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備としては、テキストに目を通してあらかじめ何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語、例文を日本語・フランス語でリストアップして、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2017年 税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1 : 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1 : 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1 : 自己紹介 (総括)
- 4) unité 2 : 質問する (前半)
- 5) unité 2 : 質問する (後半)
- 6) unité 2 : 質問する (総括)、小テスト
- 7) unité 3 : 買い物をする (前半)
- 8) unité 3 : 買い物をする (後半)
- 9) unité 3 : 買い物をする (総括)
- 10) unité 4 : いつ (前半)
- 11) unité 4 : いつ (後半)
- 12) unité 4 : いつ (総括)、小テスト
- 13) unité 5 : どこ (前半)
- 14) unité 5 : どこ (後半)
- 15) unité 5 : どこ (総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (2回)・・・ 40 %
期末テスト・・・ 40 %
授業中の取り組み・・・ 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2017年 税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6：誰(前半)
 - 2) unité 6：誰(後半)
 - 3) unité 6：誰(総括)、リスニング
 - 4) unité 7：何(前半)
 - 5) unité 7：何(後半)
 - 6) unité 7：何(総括)、小テスト
 - 7) unité 8：どのように(前半)
 - 8) unité 8：どのように(後半)
 - 9) unité 8：どのように(総括)、読解
 - 10) unité 9：過去について(前半)
 - 11) unité 9：過去について(後半)
 - 12) unité 9：過去について(総括)、小テスト
 - 13) unité 10：仮定、条件(前半)
 - 14) unité 10：仮定、条件(後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・20%
小テスト(2回)・・・40%
プレゼンテーション・・・20%
レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはずですが、どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)
- 『クラウン西和辞典』(三省堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 アルファベット、発音
- 第3回 音節の分け方、アクセント
- 第4回 名詞の性と数
- 第5回 冠詞
- 第6回 形容詞
- 第7回 動詞
- 第8回 現在形(規則活用)
- 第9回 疑問詞、接続詞
- 第10回 指示詞
- 第11回 所有詞
- 第12回 動詞estar
- 第13回 動詞ser
- 第14回 現在形(不規則活用)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

スペイン語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 中国済営比人律政
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはずですが、どこが違うか、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 直接目的格人称代名詞
- 第3回 間接疑問文
- 第4回 時間の表現
- 第5回 現在形不規則動詞
- 第6回 間接目的格人称代名詞
- 第7回 現在形不規則動詞(完全に不規則)
- 第8回 前置詞格人称代名詞
- 第9回 gustar型動詞
- 第10回 不定語・否定語
- 第11回 天候表現
- 第12回 比較表現
- 第13回 再帰動詞
- 第14回 再帰動詞のその他の用法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2017 第2版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、
スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といいますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser, estar, hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

スペイン語Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。

また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国营放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデル会話を覚えて行きましょう。口に出してジェスチャーをつけることで、フレーズを暗記しやすくなるはず。そのあとは会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。

教科書 /Textbooks

IIIと同じテキストを使用。
坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2017第2版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

スペイン語Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国营放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをしますが、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、テキストの例文を学習します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プロGRESSIVEスペイン語辞典（小学館）
 級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
 - 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
 - 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
 - 4 再帰動詞、無人称文など(1)
 - 5 再帰動詞、無人称文など(2)
 - 6 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
 - 7 同上(2)
 - 8 点過去、現在完了の用法(1)
 - 9 同上(2)
 - 10 同上(3)
 - 11 線過去の用法(1)
 - 12 同上(2)
 - 13 同上(3)
 - 14 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)
 - 15 同上(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストに対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、テキストの例文を学習します。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 未来形とその関連時制の用法 (1)
- 2 同上 (2)
- 3 前期を含め、様々な構文のまとめ (受け身、使役、放任、比較など) (1)
- 4 同上 (2)
- 5 過去完了と時制の一致
- 6 受け身文、無人称文 (1)
- 7 同上 (2)
- 8 接続法の活用全般について
- 9 接続法の用法 (1)
- 10 接続法の用法 (2)
- 11 スペイン語版トトロを理解する (1)
- 12 スペイン語版トトロを理解する (2)
- 13 スペイン語版トトロを理解する (3)
- 14 スペイン語版トトロを理解する (4)
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価 (小テスト、口頭での答え、作文など) も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり (読む、書くなど) や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合 (例えば小テストを受けていないなど) は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう (30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール : faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を読み暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を使いクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 自己紹介 seの無主語文
- 2回 1課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 2課 カフェテリアで 趣味の話など 再帰動詞
- 4回 2課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 3課 花見 直説法現在完了
- 6回 3課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 4課 買い物 目的格人称代名詞
- 8回 4課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 5課 回転寿司 現在分詞
- 10回 5課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 6課 サッカー 直説法点過去・線過去・過去完了
- 12回 6課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 7課 電車にて 3人称複数無主語文
- 14回 7課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリピートしていく、またスペイン語の速度に合わせてシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き教科書を使用しながら会話表現を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を読み暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を使いクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020 (1学期と同じ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 8課 旅館で 直説法未来・過去未来
- 2回 8課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 9課 明治神宮 受身表現
- 4回 9課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 10課 パルで gustar型構文
- 6回 10課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 11課 オリンピック秘話 接続法現在
- 8回 11課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 12課 新幹線 quizáを使った接続法、比較級
- 10回 12課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 13課 銀座への行き方 命令文
- 12回 13課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 14課 通訳依頼の電話 条件文
- 14回 14課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 15課 浅草寺で 接続法過去・過去完了 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリポートしていく、またスペイン語の速度に合わせてシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の一月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70 % (学習者評価30%/ピア評価20%/実習生評価20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 伝言する【メモ】
- 5回 誘う【携帯メール】
- 6回 誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する【PCメール】
- 8回 依頼される【PCメール】
- 9回 謝る【PCメール】
- 10回 お礼を言う【PCメール】
- 11回 報告する【PCメール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 アドバイスを求める【PCメール】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、提示された課題をメールで送ること。
事後学習として、授業内容を踏まえた応用課題をメールで送ること。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

SNSが発展しているけれども、大学や社会においては、Eメールがいまだに重要なコミュニケーション・ツールとなっています。キャンパス・ジャパニーズの基本となるEメールの書き方を中心に、書き言葉でのコミュニケーション能力を身につけましょう。

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コソのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。
TAEを身につけることによって、感受性が豊かになると同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)チームで力を発揮する	論理的思考力(1)リストアップする・マッピングする
3回	スタディスキル(2)テーマを決めよう①	論理的思考力(2)イラスト・文章・表の内容を読み取る
4回	スタディスキル(3)テーマを決めよう②	論理的思考力(3)マッピングをして読む
5回	スタディスキル(4)資料を探そう	論理的思考力(4)登場人物になったつもりで読む
6回	スタディスキル(5)インターネットで情報を探そう	論理的思考力(5)どちらがいいか考えながら読む
7回	スタディスキル(6)図解で考える	論理的思考力(6)理由を考えながら読む
8回	スタディスキル(7)表・グラフを描いてみる	論理的思考力(7)意味を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの特徴	論理的思考力(8)順序を考えて書いてみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成する	論理的思考力(9)理由を考えて書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本	論理的思考力(10)論理的に考えて書いてみる
12回	スタディスキル(11)パソコンを使ったプレゼン(テーマ決め・準備)	
13回	スタディスキル(12)パソコンを使ったプレゼン(発表)	
14回	スタディスキル(13)パソコンを使ったプレゼン(発表と自己評価)	
15回	総括	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておいてください。事後学習としては、授業や課題を通してどこまで何を身につけることができたか、まだ何が足りていないかをふりかえり、どうしたら目標を達成できるかなどについて考えるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
ポートフォリオ評価 ...60%(自己評価 30% ピア評価 30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ピジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語（ライフ・ジャパニーズ）」「大学生活日本語（キャンパス・ジャパニーズ）」「大学日本語（アカデミック・ジャパニーズ）」の育成を行う。

日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に大学で必要なクリティカル・リーディング（批判的な読み）ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらおう。

教科書 /Textbooks

『読む力（中上級）』（奥田純子他、くろしお出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』（館岡洋子、東海大学出版会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング、複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の多様性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改定 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 授業への取り組み（課題を含む）...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、事前に課題の予習をすることを前提として進めます。事後学習として、授業で身につけたスキルを使えるようになったか、自己評価をおこなってください。

履修上の注意 /Remarks

日本語VIIおよびVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃からニュースや時事問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を持っておいってください。

キーワード /Keywords

「クリティカル・リーディング」「批判的読み」「メタ・コンテンツ」「全体把握」「言語タスク」「認知タスク」

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 則松 智子
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1)「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2)修正する
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進めます。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておいてください。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めていくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

「日本事情 (社会) A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、「多様性」「多文化共生とは何か」「多文化共生社会に向けて何をすればいいのか」について考えていく。テキストのトピックやテーマについて主体的に考え、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

教科書 /Textbooks

『多文化社会で多様性を考えるワークブック』(有田佳代子他編著、研究社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『異文化理解入門』(原沢伊都夫、研究社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「異なりを考える」【異文化間ソーシャルスキル】
- 3回 「異なりを考える」【寛容性】
- 4回 「異なりを考える」【アサーション・トレーニング】
- 5回 「異なりを考える」【「日本人」・「外国人」】
- 6回 「差別とその感情を考える」【マイノリティとマジョリティ】
- 7回 「差別とその感情を考える」【自分の家の近くはだめ?】
- 8回 「差別とその感情を考える」【ステレオタイプ】
- 10回 「言語間の平等を考える」【国境を超える子どもの言語獲得】
- 11回 「言語間の平等を考える」【やさしい日本語】
- 12回 「多文化共生社会」について考える【私の考える「多文化共生」とは】
- 13回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実現のために】
- 14回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実践】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 授業への取り組み(課題や授業中の発表を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にトピックについての情報を調べ、自分の考えをまとめてきてください。事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ですが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められます。必ず初回のオリエンテーションには参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいってください。

キーワード /Keywords

多文化共生 社会 多様性

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。

日本事情 (社会) B 【昼】

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

認知心理学【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間の認知過程における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間の諸問題について人間の認知過程の視点から分析・検討ができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	人間の諸問題について人間の認知過程の観点から主体的に学習する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

認知心理学

PSY242M

授業の概要 /Course Description

われわれは、目や耳などの感覚器官を通して多くの情報を同時に受け取って処理している。認知心理学では、人間をコンピューターと同様な一つの情報処理システムとして捉える。われわれが外界から受け取った情報は、符号化、貯蔵される。貯蔵された情報は必要に応じて検索され、新しく受け取った情報との比較が行われる。このような一連の情報処理過程を認知過程という。
本講義では、人間の認知過程に関わる基礎領域として「視覚認知」、「注意」、「記憶」を講義する。その上で、より高次の認知過程である「感情」、「知識」、「問題解決」、「意思決定」について解説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 認知心理学 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋(編)(2010)有斐閣
- 認知と思考の心理学 松尾太加志(編)(2018)サイエンス社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 認知心理学とは何か
2. 認知心理学の歴史
3. 視覚認知(視覚系の基本構造)
4. 視覚認知(高次な視覚認知)
5. 注意(注意の捉え方)
6. 注意(注意の理論)
7. 注意(注意の神経基盤)
8. 記憶(ワーキングメモリ)
9. 記憶(長期記憶)
10. 記憶(日常認知)
11. 認知と感情
12. 知識の表象と構造
13. 問題解決と推論
14. 判断と意思決定
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%
授業内レポート 20%
授業外レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

最初の授業時間に説明する。

認知心理学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会心理学【昼】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 社会心理学の観点から諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 社会の諸問題を社会心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会心理学

PSY210M

授業の概要 /Course Description

本講義では、社会心理学における幅広い分野の研究を紹介していく予定である。基礎的な知識を学んでもらうと同時に、より深い社会心理学的な問題に興味をもってもらいたい。

到達目標は、社会におけるさまざまな問題が社会心理学的な問題と関わっていることを理解できること、また、社会心理学の基礎的な理論と用語を説明できること、さらに、講義内容をさらに深める発展的学習が自主的に出来るようになることである。

教科書 /Textbooks

「社会心理学のストーリー」ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会的推論
- 第3回 対人距離と他者の存在意義
- 第4回 対人葛藤と共感
- 第5回 自己意識, 自己概念
- 第6回 自己評価, 自尊心
- 第7回 集団の定義, 集団力学
- 第8回 自己と集団の関わり
- 第9回 集団間関係
- 第10回 個人的アイデンティティと社会的アイデンティティ
- 第11回 偏見, 同調, 服従
- 第12回 自己に関する矛盾と統合
- 第13回 現代社会における自己, 大衆社会化, 都市化
- 第14回 社会心理学の方法論
- 第15回 社会心理学のまとめ, 小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト4回程度) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会心理学 【昼】

キーワード /Keywords

対人心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 対人心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 対人心理学の観点から人間関係の諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 人間関係の諸問題を対人心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対人心理学

PSY211M

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

教科書 /Textbooks

『社会心理学のストーリー』ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 対人認知
- 第3回 ステレオタイプ
- 第4回 帰属過程
- 第5回 社会的態度
- 第6回 対人魅力
- 第7回 対人関係の発展と崩壊
- 第8回 達成動機、親和動機
- 第9回 家族、性役割
- 第10回 組織行動、リーダーシップ
- 第11回 友人関係と孤独感
- 第12回 対人葛藤の効果
- 第13回 攻撃と援助
- 第14回 現代社会における対人心理の諸問題
- 第15回 まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト4回程度) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	臨床心理学についての専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から考察して結論を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	人間関係の諸問題について臨床心理学的視点から主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

臨床心理学

PSY230M

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編【発達障害】
- 第4回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第6回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
- 第8回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
- 第10回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
- 第11回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第12回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
- 第14回 まとめ(その1)：発達課題と不適応の関係について
- 第15回 まとめ(その2)：不適応の理解と援助について

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(5回) ... 50% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、配布された事例資料を前もって読み、不適応の背景因や治療の流れについて自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、事例を再度読み直し、提出用の用紙に事例の概要をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

カウンセリング論【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	カウンセリングについての専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	カウンセリングに関する基礎的な技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間関係の諸問題を臨床心理学的視点から捉え、健康的な生活を目指すことができる。
	生涯学習力	●	人間関係の諸問題について臨床心理学的視点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

カウンセリング論

PSY232M

授業の概要 /Course Description

本講義は、心理カウンセリングに関する基礎的知識の習得を目指す。カウンセラーとクライアントとの二者関係で成立する心理カウンセリングにおいて、カウンセラーとクライアントはそれぞれどのような役割を担いながら、カウンセリングを進めていくのかについて、カウンセリングの事例や逐語録等を手掛かりとして分析的に解明し、その実態を明らかにする。
なお、教員が提示するテーマや質問について小集団で討論で行い、討論された内容を全体に返して論点の整理を行いながら、最適解を導き出すアクティブ・ラーニングの手法によって授業を進めていく予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：心理カウンセリングとは何か
- 第2回 カウンセラーの役割について(1)【ラポール】【受容的態度】
- 第3回 カウンセラーの役割について(2)【感情の反射】【傾聴】
- 第4回 カウンセラーの役割について(3)【感情の明確化】【共感的理解】
- 第5回 クライアントの役割について【自己内省】【自己受容】
- 第6回 カウンセリングの実際【援助的技法】【ノンバーバル・コミュニケーション】
- 第7回 カウンセリングのプロセス【主訴】【中断・終結】
- 第8回 心理カウンセリングの流派(1)【精神分析】【洞察】
- 第9回 心理カウンセリングの流派(2)【行動療法】【系統的脱感作法】
- 第10回 心理カウンセリングの流派(3)【認知療法】【認知の歪み】
- 第11回 心理カウンセリングの流派(4)【マインドフルネス】【うつ】
- 第12回 心理カウンセリングの流派(5)【回想法】【進路選択】
- 第13回 心理アセスメント【受理面接】【治療契約】
- 第14回 カウンセリングの実際：心理臨床家による講演
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 40% 試験 ... 40% 平素の成績 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布した資料等をもとに授業内容を振り返り、整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講する前に、1学期開講科目「臨床心理学」を受講しておくことが望ましい。

カウンセリング論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

学習心理学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	学習心理学における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	心理学における学習の視点から社会の諸問題を捉え分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	心理学における学習の観点から社会の諸問題について主体的に学習する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

学習心理学

PSY221M

授業の概要 /Course Description

学習(learning)に関する心理学的アプローチについて概説する。特に、学習意欲、学習行動の基礎理論、知識と問題解決、教育との関連、学習の評価といった問題について、具体例を交えながら講義する。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、ワークシート、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 授業のすすめ方について、意欲の問題 【意欲】
- 2回 内発的動機づけと外発的動機づけ 【動機づけ】
- 3回 行動主義における学習の定義 【行動】
- 4回 認知主義における学習の定義 【認知】
- 5回 状況主義における学習の定義 【状況】
- 6回 学習における知識と表象 【知識】
- 7回 問題解決と学習 【問題解決】
- 8回 教育における教授と学習の問題 【教育】
- 9回 学習における個人差 【個人差】
- 10回 記憶と学習 【記憶】
- 11回 知能と学習 【知能】
- 12回 発見学習と仮説実験授業 【仮説】
- 13回 学習と評価 【評価】
- 14回 自己学習 【セルフ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出... 50% テスト... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては配付資料の確認が必要である。
事後学習としては、課題の作成が必要である。

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習心理学の実験を体験し実験データの処理を通して心理学における学習について学びを深めます。

学習心理学 【昼】

キーワード /Keywords

行動 学習 行動科学 心理学 認知 思考

教育心理学【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	教育心理学の観点から教育に関する諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	教育に関する諸問題を教育心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育心理学

PSY220M

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

発達心理学【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発達心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から分析・解決することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

発達心理学

PSY222M

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本3）』 ミネルヴァ書房
¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省(2011)「生徒指導提要」 ¥298
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

発達心理学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理療法論 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 心理療法に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 心理療法を行っていく上で必要とされる技能を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 心理療法について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 心理療法で望まれる知識や技能を地域で活用しようとする事ができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理療法論

PSY231M

授業の概要 /Course Description

心理療法は学ぶことも教えることも難しい領域であるとされる。それは学ぶ者と教える者それ自身の人間性が大きく問われるからである。それ故、「心理療法に従事する人間は、いつも深い羞恥心と、へり下った態度をとること...これこそ心理療法の真の成功の秘密なのである」(霜山徳爾)といわれるのである。本講義は、心理療法に関する主要な各学派を概観しながら、特にわが国、日本の文化的背景から出てきた、森田療法を中心に学習を進める。東洋の人間観に立脚する独創的な学説にふれることにより他文化の心理療法全般への展望と理解が広がり同時に自己のメンタルヘルスにも興味を持つことを期待したい。キーワードは【森田療法】である。

教科書 /Textbooks

テキスト 「森田療法」岩井寛 著 講談社現代新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法のすべてがわかる本」北西憲二 著 講談社
「神経質の本態と療法」森田正馬著 白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 心理療法の基礎問題
心理療法を囲む問題 ・ 心理療法を学ぶ目的【傷つけざること第一なり】
- 2回 心理療法家としての心構え ・ 心理療法と発達理論【エリクソンの発達理論】
- 3回 心理療法の歴史【フロイト・ユング・アドラー・森田正馬】
- 4回 心理療法の技法論 精神分析, 森田の心理学【東洋の人間観】
- 5回 アドラー心理学について1【ライフスタイル】【共同体感覚】
- 6回 アドラー心理学について2【劣等感】【感情道具論】
- 7回 森田療法とその主要理論【あるがまま】【生の欲望】
- 8回から10回 森田療法とその基礎理論【感情の法則】【目的本位】【精神交互作用】
- 11回から13回 森田療法の実際 (不安とうつを治す)【とらわれ】【セルフヘルプグループ】
- 14回 認知行動療法について【森田との違い】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験及び課題提出の内容...50% 授業と勉学への熱意...30% 毎回の授業態度...20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理的な負荷を感じて追い詰められている人が増えている。精神疾患を発症した労働災害の請求が1515人と初めて1500人を超え過去最高になった(厚生労働省発表2015年度のまとめ)。認定の原因は「心理的な負荷が極度に高い出来事」が最多である。日頃から自分の周りに観られる心理的な負荷に関する事案を意識して生活してほしい。さらに学習した内容や心構えを生活の中で実践して方法や考え方を体得するよう望みたい。

履修上の注意 /Remarks

森田療法以外の心理療法として、現在ひろくおこなわれている「認知行動療法」「アドラー心理学」についても学ぶ予定である、自分でも事前に調べて概略をつかんでいること。また人間理解を深めるための基本的理論書を自主的に読んでほしい。

心理療法論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

心理療法における「感情」に関する認識を深めるようにしてもらいたい。

キーワード /Keywords

森田療法 認知行動療法 アドラー心理学

心理統計【昼】

担当者名 /Instructor 山本 健太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学の実験や調査等から得られたデータの統計的分析に関する知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	統計学的な視点から諸問題を的確に分析・解決していくことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	統計的手法によって所与の問題についての検討を主体的に学習する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理統計

PSY240M

授業の概要 /Course Description

心理学は、実証的な根拠に基づいてこころの仕組みを理解しようとする学問である。そのため、実験や調査を通してデータを収集し、適切な統計的手法を用いて結果を解析できる能力が必要とされる。
この授業では、心理学における統計概念の理解と実践への応用を目指し、統計手法の基礎的理論とその活用方法について、分析ソフトによる演習を交えながら解説を行う。

教科書 /Textbooks

小宮 あすか・布井 雅人 『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』 講談社 2018年 ¥3,080

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南風原朝和 『心理統計学の基礎』 有斐閣アルマ 2002年
吉田寿夫 『本当にわかりやすいすぐく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房 1998年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 統計の基礎
- 2回 エクセルを用いたデータの整理
- 3回 量的変数の関係の分析
- 4回 質的変数の関係の分析
- 5回 統計的仮説検定の考え方
- 6回 平均値の差の検定【t検定】
- 7回 平均値の差の検定【1要因の分散分析】
- 8回 平均値の差の検定【2要因の分散分析その1】
- 9回 平均値の差の検定【2要因の分散分析その2】
- 10回 中間テスト
- 11回 相関分析と回帰分析
- 12回 重回帰分析
- 13回 因子分析
- 14回 その他の分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト・・・50%
レポート課題・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

エクセルについては事前に扱ってみて使い方に馴れておくことをお勧めします。

心理統計【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 老化に伴う心理的側面の変化について基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 老化による心理的側面の変化に伴う課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

老年心理学

PSY213M

授業の概要 /Course Description

主として老年期の捉え方や認知機能(知能、記憶・学習・情報処理)、パーソナリティと社会的適応について、老化に伴う変化の有無とその要因を社会的影響も視野に入れて説明する。また、老年期の心理的問題や社会問題等を通して、老年期の理解と認識を促すことをねらいとする。これにより学生は、老年期の捉え方の多様性や知能・記憶・パーソナリティの変化、老年期特有の心理的問題について理解することができる。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 老年期とは - 多様性と共通性【個人差、文化・社会的老年期の捉え方】
- 第2回 老年期の心理学的捉え方、社会学的捉え方
- 第3回 老年期に関する学説
- 第4回 老年期の認知機能の変化を見る枠組み
- 第5回 老年期の認知機能の変化 - 知能の測定方法【横断的方法、縦断的方法、系列法】
- 第6回 老年期の認知機能の変化 - 知能の二つの側面【結晶性能力、流動性能力】
- 第7回 老年期の認知機能の変化 - 老化に伴う知能の変化に影響する要因
- 第8回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 1【記憶のモデル】
- 第9回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 2【再認と再生、固有名詞と一般名詞、初頭効果と新近効果】
- 第10回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理 3【日常生活における記憶、記憶機能の変化の要因】
- 第11回 老年期のパーソナリティと適応 1【社会適応・時代背景・社会環境】
- 第12回 老年期のパーソナリティと適応 2【成熟したパーソナリティとパーソナリティ変容の要因】
- 第13回 老年期のパーソナリティと適応 3【OldestOldと社会関係】
- 第14回 老年期の心理的問題【うつ、認知症など】
- 第15回 まとめとして - 適応と要求水準【個人と社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 70% 授業態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知能、記憶、パーソナリティなどの心理学の基本領域を学習しておく。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生理心理学【昼】

担当者名 麦島 剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	生理心理学における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	生理心理学の視点から諸問題を捉え、分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	生理心理学的観点から人間の諸問題に問題意識をもち、主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生理心理学

PSY241M

授業の概要 /Course Description

心理学が研究対象とする知覚・認知・学習・情動・こころの不調などを理解するには、脳を中心とする身体のはたらきとの関係を検討することも意義が大きい。とくに近年、こころに関する神経科学が進展し、心理学が育んできた諸理論がサイエンスの前線として注目されるようになった。この授業ではまず神経科学の基本的知識を講義し、次にこころと脳（身体）との関係を解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。印刷資料を適宜配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

例えば良書としては

- カールソン, N.R. (泰羅雅登 他 監訳) (2013) 神経科学テキスト 脳と行動 丸善出版
 - 岡田隆 他 (2015) 生理心理学・第2版 サイエンス社
- など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 生理心理学とは。
- 第2回～第4回 神経細胞の構造と機能。【活動電位・シナプス・神経伝達物質】
- 第5回～第8回 脳の構造と機能。【脳幹・間脳・大脳基底核・大脳辺縁系・大脳新皮質】
- 第9回 感覚・知覚。
- 第10回 意識・覚醒・睡眠。【脳波・事象関連電位】
- 第11回 学習・記憶。
- 第12回 情動・動機。
- 第13～14回 こころの不調。【統合失調症・抑うつ・ADHD・臨床神経心理学】
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後にノートと配付資料を再読して概要を再確認した上で、次回の授業に臨むことが好ましい。

履修上の注意 /Remarks

高校や教養教育科目などでの生物学・化学の履修状況にかかわらず、分かりやすく解説します。
脳とこころの関係について知りたい人は臆せず受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生理心理学を含む神経科学は進展が目覚ましい。授業期間中に重要な発見があれば適宜紹介する。
また、この分野は「総合知」の側面も持っているので、幅広い知識と興味を養っていただきたい。

キーワード /Keywords

脳とこころ

社会意識論 【昼】

担当者名 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における個人の意識の変容を、社会変動から理解する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身と社会の関係性について、客観的に捉え直し、その成立の背景を資料を用いて考察する。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	社会変動に伴い、自身の思考のあり方がどのように変容した（する）のかを適切に把握することができる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(人間) 社会意識論	SOC210M
(比文) 比較社会意識	SOC210M

授業の概要 /Course Description

わたしたちの生活に密接なものひとつに「男」「女」という性別があります。ジェンダーとは、そうした男・女といった身体の違いに、例えば「男らしさ」「女らしさ」などの様々な意味をつけたもの、または意味をつけることを指します。この授業では、ジェンダー概念と女性学との関係と歴史、ジェンダーに関する諸問題について考察します。授業はグループ毎のディスカッションやプレゼンテーションなど、積極的な授業参加によって成り立ちます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。随時、必要な文献や資料を紹介、あるいはプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤文香監修(2019)『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』明石書店
- 荻野美穂(2014)『女のからだ：フェミニズム以後』岩波新書

社会意識論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ジェンダーとは
ジェンダー概念の説明と整理。コース全体を貫くテーマについて。
2. 女性学とジェンダー研究—その1
その起源と発展を社会背景から考察する。
3. 女性学とジェンダー研究—その2
日本におけるフェミニズムと基本文献の読解。
4. 男性学とは
男性学の歴史、理論と現在の状況。
5. 生殖とジェンダー—その1
日本における産児調節運動について。
6. 生殖とジェンダー—その2
生殖技術の発展をめぐる諸問題について。
7. 多様なセクシュアリティ
異性愛も含めたさまざまなセクシュアリティとカテゴリーについて。
8. セクシュアリティと社会運動
「LGBT」、「クエア」をめぐる社会運動の興隆と傾向について。
9. メディア文化におけるジェンダー表象
ジェンダーメディア分析の方法と実践。
10. 教育とジェンダー
文系・理系におけるジェンダー差、隠れたカリキュラム、女子大学の存在意義について。
11. 就労とジェンダー
ワークライフバランス、M字型就労、ガラスの天井について。
12. 貧困とジェンダー
女性をめぐる貧困の構造と支援について。
- 13、14. グループ発表
15. 授業の総括
これまでの授業内容をふまえた上で、今後のジェンダー研究の課題について議論する。

暦に沿って講義の順番が前後したり、内容が変更になることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内発表 / コメントシート (40%)、定期試験 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布するプリント類に事前に目を通してから授業に臨むこと。また、授業後は書籍や新聞をはじめとしたメディアに当たり、授業で扱ったテーマの理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会意識論 (英語) 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における個人の意識の変容を、社会変動から理解する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身と社会の関係性について、客観的に捉え直し、その成立の背景を資料を用いて考察する。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	社会変動に伴い、自身の思考のあり方がどのように変容した（する）のかを適切に把握することができる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(人間) 社会意識論	SOC210M
(比文) 比較社会意識	SOC210M

授業の概要 /Course Description

This course involves a wide range of topics to understand our social consciousness (ways of understanding social life) in everyday life. Emphasis on the impact of globalization in the last three decades, we will how our society has been transformed, and what problems remain to be unsolved. Most classes will consist of lectures (60 min) and group discussions (30 min) about topics. Students taking this course will improve a skill of critical analysis about contemporary social trends.

教科書 /Textbooks

Selected readings will be provided, one week prior to the class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TBA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week01: orientation
week02: globalization- key ideas and concepts
week03: history of globalization
week04: Japan and globalization
week05: re-organization of contemporary nation-state
week06: cultural integration
week07: cultural differentiation or 'glocalization' (mid-term essay due)
week08: global city
week09: environment
week10: consumer culture
week11: international migration
week12: new inequalities
week13: new social movements
week14: individual presentation (assignment 3.)
week15: recapitulation (final essay due)

成績評価の方法 /Assessment Method

To secure a credit, students must complete all assignments (2, 3 and 4).
1. class participation (20%)
2. mid-term short essay (due date: week 7) (20%)
3. short individual presentation (week 14, 10min) (20%)
4. final essay (due date: week 15) (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Student must read provided reading materials before and after the lecture.

社会意識論 (英語) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Read through the provided readings carefully prior to the class and prepare for the discussion. All students will be requested to demonstrate your own opinion about the topic in the class. All assignments must be handed-in by due date. Penalty will be applied to late submission.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students are expected to be willing to take the class, and to engage with other classmates. Any questions, opinions and suggestions are always welcome in the lecture. Alternatively, email to the instructor (hamano@kitakyu-u.ac.jp) or visit to the office in person (2-315, by appointment).

キーワード /Keywords

文化社会学【昼】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における文化について、多角的な視点から理解する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	興味関心のある文化現象を、経済や政治といった社会的な側面から分析し、その問題点を批判的に捉える。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	自分自身が文化生産者としてどのような活動ができるのかを把握し、さらにそのことが社会に与える影響について学ぶことができる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(人間) 文化社会学	SOC211M
(比文) 比較社会文化	SOC211M

授業の概要 /Course Description

社会学が「文化」として捉える事象は幅広い。本科目では、音楽や観光、コンビニ、ゲーム、ファッション、恋愛など、学生にとって身近なトピックと思われるものを題材として取り上げ、社会学の諸理論を用いて考察する。身近な事柄を客観的、批判的に読み解くことで、社会的な視点を感覚的に理解できるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

井上俊・長谷正人（編）「文化社会学入門」ミネルヴァ書房 2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：文化社会学と近接領域
- 第3回：文化と階級・階層
- 第4回：文化と権力
- 第5回：文化とメディア
- 第6回：文化とジェンダー
- 第7回：文化と消費
- 第8回：都市の文化（コンビニ、カフェ、オタクなど）
- 第9回：アートの文化（音楽、マンガなど）
- 第10回：身体の文化（スポーツ、ファッション、フィットネスなど）
- 第11回：娯楽の文化（観光、ゲーム、テーマパークなど）
- 第12回：暮らしの文化（食生活、住まい、出産・育児など）
- 第13回：人間関係の文化（恋愛、友だち、職場など）
- 第14回：儀礼の文化（結婚式、クリスマス、祭りなど）
- 第15回：まとめとレポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

講義の中で実施する小レポート（20%）と期末レポート（80%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の指定箇所を読んで予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化社会学 (英語) 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における文化について、多角的な視点から理解する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	興味関心のある文化現象を、経済や政治といった社会的な側面から分析し、その問題点を批判的に捉える。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	自分自身が文化生産者としてどのような活動ができるのかを把握し、さらにそのことが社会に与える影響について学ぶことができる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(人間) 文化社会学	SOC211M
(比文) 比較社会文化	SOC211M

授業の概要 /Course Description

The course involves a series of topics on culture and society. Introducing a wide range of contemporary essential debates in culture in everyday life, we will discuss how one's cultural practice construct our social world, in relation to politics and economy. Most classes will consist of lectures (60 min) and a group discussion (30 min) about the topic. Students taking this course will improve a skill of critical analysis about culture in society.

教科書 /Textbooks

Selected readings will be provided, one week prior to the class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TBA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week01: orientation
week02: culture- key ideas
week03: culture and class- cultural capital
week04: culture as politics- introduction to cultural studies
week05: gender and sexuality
week06: race and ethnicity
week07: consumption (mid-term essay due)
week08: popular culture and digital media
week09: family
week10: tourism
week11: cultural nationalism
week12: migration and diaspora
week13: multiculturalism
week14: individual presentation (assignment 3.)
week15: recapitulation (final essay due)

成績評価の方法 /Assessment Method

To secure a credit, students must complete all assignments (2, 3 and 4).
1. class participation (20%)
2. mid-term short essay (due date: week 7) (20%)
3. short individual presentation (week 14, 10min) (20%)
4. final essay (due date: week 15) (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read through the provided readings carefully before and after the lecture.

履修上の注意 /Remarks

文化社会学 (英語) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students are expected to be willing to take the class, and to engage with other classmates. Any questions, opinions and suggestions are always welcome in the lecture. Alternatively, email to the instructor (hamano@kitakyu-u.ac.jp) or visit to the office in person (2-315, by appointment).

キーワード /Keywords

家族社会学【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会における家族の重要性とその変容について理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	家族という身近なテーマを通して、社会の成り立ちとその変化を分析する能力を養う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	社会における家族制度と、その問題点について批判的に把握する能力を持つ。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

家族社会学

SOC215M

授業の概要 /Course Description

家族の「脱領域化」をキー概念とし、今日の家族をめぐる様々な事象を横断的にとりあげ、そこから現代社会の成り立ちとその変動を社会的に考察することを目的とする。家族を社会の中に位置づけ、さらにそれを時には国境を越える範囲での諸々の社会的組織や制度との関わりの中で捉え直し、私たちの親密な関係性やその規範意識、さらには家族をめぐる「問題」意識が、社会の変化とともにどのように流動的に変容しているかを考察する。講義で取り上げる事例は主に国内事例であるが、比較の対象として他国の事例を取り上げたり、あるいは日本の家族をめぐる国際的な事例にもふれる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適時資料を配付。
※本講義内容に即したリーディングリストを講義の中で配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション：拡張する家族【脱領域化】
 - 2回 縮小する家族：産業化と家族の変容【家族史】
 - 3回 社会学における家族の理論【機能主義】と【構造主義】
 - 4回 近代家族と家族の中の不均衡【権力】と【家長制】
 - 5回 個を単位とする現代家族【個人化】【婚姻】
 - 6回 家族の中の性とその広がり①：その現在【セクシュアリティ】
 - 7回 家族の中の性とその広がり②：その事例【セクシュアリティ】
 - 8回 家族と子ども【子の権利】
 - 9回 家族の再編成①：その背景【離婚】【ステップファミリー】
 - 10回 家族の再編成②：その現在【離婚】【ステップファミリー】
 - 11回 共同養育をめぐる【共同親権】
 - 12回 現代家族のグローバル化①：その背景【国際結婚】【ハーグ条約】
 - 13回 現代家族のグローバル化②：その実態【国際結婚】【ハーグ条約】
 - 14回 脱領域化する家族と国家の中の家族【圧縮された近代】
 - 15回 まとめ：家族の脱領域化から見る「社会の家族」

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle等での配付資料には事前に目を通すこと。
レポートに備え、配付資料や講義ノートをもとに講義内容をよく復讐しておくこと。
講義で紹介した関連書籍について図書館等で確認しておくこと。
講義で紹介した事例について関連するオンライン動画などを視聴すること。

家族社会学【昼】

履修上の注意 /Remarks

社会現象に対する社会学的な理解を要求するので、同時に開講されている社会学専門科目と併せて履修することが望ましい。
事前資料が配付された場合、必ず目を通してから講義に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

シラバスに掲載した授業計画は一部変更されることがある。

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育社会学の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育と社会に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 教育に関する社会事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育社会学

EDU225M

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校外教育をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。
日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。
国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。
学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的な事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の姿容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

教育社会学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

情報社会論 【昼】

担当者名 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会におけるメディアの重要性について理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代に固有のメディアが、社会や個人意識の変化にもたらす影響を、具体的な事例を使いながら分析することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	メディアと社会の関わりについて、批判的な視点を持つことができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報社会論

SOC213M

授業の概要 /Course Description

私たちの日常生活にありふれた様々な「メディア」を通じ、社会学的な視点からの理論と方法論を身につける。人と社会との関係において、このような「メディア」が人と人、そして人々を結びつける上でいかなる役割を果たしているのかを理解する。

教科書 /Textbooks

なし。ただし、必要に応じリーディングを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

池田理知子・松本健太郎, 2010, 「メディア・コミュニケーション論」ナカニシヤ出版。
辻泉(他), 2018, 「メディア社会論」有斐閣ストウディア。
藤田真文(編), 2016, 「メディアの卒論-テーマ・方法・実際 [第二版]」ミネルヴァ書房。
吉見俊哉, 2013, 「メディア文化論-メディアを學人のための15話 改訂版」有斐閣。
吉見俊哉(編), 2001, 「メディア・スタディーズ」せりか書房。
また、必要に応じてリーディングリストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【注】ゲスト講師による特別講義を含む。講義計画は変更することがある。
第1回：オリエンテーション：「メディア」とは何か。本講義について。
第2回：メディア史-そのスナップショット：モダンとポストモダン
第3回：メディア研究の方法①：記号論の基礎
第4回：メディア研究の方法②：広告の研究
第5回：メディア研究の方法③：オーディエンス研究
第6回：メディアと権力①：国民国家の神話・メディアの政治的役割
第7回：メディアと権力②：テクノロジーと監視のネットワーク
第8回：メディアとジェンダー：岡崎京子作品に見る「消費する女性たち」
第9回：メディアとセクシュアリティ：BL作品とその批評の再読解
第10回：メディアと人種・エスニシティ：再生産と異種混雑性
第11回：メディアと新しい連帯：情動・公共圏・民主主義
第12回：メディアと変容する身体：機械と人、そして「アトラクション」
第13回：メディアと社会理論：コミュニケーションが構成するネットワーク
第14回：メディアから世界を捉え直す：メディア論の視座
第15回：まとめ：社会を理解するためのメディア研究

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート(2000文字程度)・・・50%、期末レポート(4000文字程度)・・・60%
※いずれも参考文献の引用を含む。

情報社会論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle等で事前にリーディングや資料が配布された場合、必ず一読して授業に臨むこと（60分程度）。また、講義後は配布資料と自作の講義ノートを用い課題に向けた復習を実施しておくこと（30分程度）。

履修上の注意 /Remarks

社会学的な視点からの講義となるため内容を深く理解する上で、関連する基礎教育科目や専門科目を履修しておくことが望ましい。図書館に設置された「社会学がわかる」コーナーに配架された文献に主体的に目を通しておくことで、講義の理解も深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習や卒業論文でメディアに関連する研究を取り上げたいと考えている場合、専攻の如何を問わず積極的に履修してください。

キーワード /Keywords

消費社会論 【昼】

担当者名 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における個人の消費行動と社会の関わりについて理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	消費行動を、経済行動に加え社会的な行動として捉え、具体的な事例をもとに分析することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	消費行動について、批判的な視点を獲得し、行動できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

消費社会論

SOC214M

授業の概要 /Course Description

社会における「モビリティ」の拡大をキー概念とし、今日の観光と人の移動をめぐる様々な事象を横断的にとりあげ、そこから現代社会の成り立ちとその変動を社会的に考察することを目的とする。観光の成り立ちとその展開を社会の中に位置づけ、観光という事象とそれを取り巻く諸々の社会的組織や制度との関わりを分析することから、移動に基礎を置く社会がいかにして構成されつつあるかを検証する。講義では国内外様々な事例を取り上げるとともに、こうした事例を分析するための社会理論や文化理論を多岐にわたり紹介する。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適時資料を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適時紹介。
※本講義内容に即したリーディングリストを講義の中で配布予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 オリエンテーション：移動する社会【モビリティ】
 - 2回 観光の誕生【近代化】【産業化】
 - 3回 消費社会と観光①：理論編【記号論】【再魔術化】
 - 4回 消費社会と観光②：事例編【テーマパーク】
 - 5回 媒介としての観光【メディア】
 - 6回 観光者の誕生【ポスト・ツーリスト】【パフォーマンス】
 - 7回 社会の観光①：ポピュラー・カルチャーと観光【コンテンツ・ツーリズム】
 - 8回 社会の観光②：負の遺産の観光化【ダークツーリズム】
 - 9回 観光の政治学①：観光と文化の再編成【ポスト・コロナリズム】
 - 10回 観光の政治学②：観光と地域コミュニティの再編【文化研究】
 - 11回 観光と地域文化①：世界遺産と観光【文化遺産】
 - 12回 観光と地域文化②：世界遺産化と国民遺産【ナショナルリズム】
 - 13回 移動と観光の間で【ライフスタイル移住】
 - 14回 観光と地域の再編成【コミュニティ】【観光公害(オーバーツーリズム)】
 - 15回 まとめ：モビリティからみる「社会の観光」

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート 100%
※期末レポート課題については、履修者の観光体験に基づく現地調査に基づくものとする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle等での配付資料には事前に目を通すこと。
レポートに備え、配付資料や講義ノートをもとに講義内容をよく復讐しておくこと。
講義で紹介した関連書籍について図書館等で確認しておくこと。
講義で紹介した事例について関連するオンライン動画などを視聴すること。

消費社会論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

社会現象に対する社会学的な理解を要求するので、同時に開講されている社会学専門科目と併せて履修することが望ましい。
事前資料が配付された場合、必ず目を通してから講義に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

シラバスに掲載した授業計画は一部変更されることがある。
定期的に観光地に足を運び、自身の観光者としての経験を積み重ねておくことが望ましい。

キーワード /Keywords

フィールドワーク論 【昼】

担当者名 /Instructor 大津留 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	フィールドワークに関する、さまざまな技能を学習する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	対人的な質的調査にもとづく事例の分析から問題点を抽出し、考察を行う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	フィールドワークの技法を社会的なさまざまな実践に応用する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

フィールドワーク論

ANT212M

授業の概要 /Course Description

本講義では、学生自らが野に出て研究活動することを前提に、多様なフィールドワークの事例をとりあげ、フィールドワークのエッセンスを学ぶことを目的としています。本講義におけるフィールドワークとは、対象や地域を直接見て、聞いて、それを伝えることを指し、学生自身がどのように行動するかを考えながら、紹介する専門家たちの仕事に触れていきます。

インターネットをはじめとした各種のメディアを通じて手に入る情報と、自分自身の身体的・状況的情報を得るフィールドワークはどのように異なるのでしょうか。バーチャルな情報が氾濫するなかで、自らのリアリティをどのように確立し、他者を理解し、他者に適切に伝えていくのかは、フィールドワークの大きな課題です。

自らの専門性のなかで、フィールドワークという手法を活用するイメージを持ち、直接対象と出会い、自らの体験を通して考えが変容していくプロセスをたどること、そのなかで「わかる」ことの重要性を説明できるようになることを、本講義の達成目標とします。

教科書 /Textbooks

なし

参考書を講義中に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門』 2006 菅原和孝
- 『調査されるといふ迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』 2008 宮本常一・安溪遊地
- 『ヤシガラ碗の外へ』 2009 ベネディクト・アンダーソン
- 『フィールドワークの絶望と愉悦 山野や村を歩く』 2015 篠原徹
- 『飯場へ: 暮らしと仕事を記録する』 2017 渡辺拓也

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション ー講師紹介とフィールドワークの歴史
- 第2回 他者理解としてのフィールドワーク1
- 第3回 他者理解としてのフィールドワーク2
- 第4回 フィールドワークの成果 ー研究
- 第5回 フィールドワークの成果 ーアート
- 第6回 普遍主義と相対主義
- 第7回 フィールドワークとプロパガンダ1
- 第8回 フィールドワークとプロパガンダ2
- 第9回 フィールドワークの計画
- 第10回 身体のフィールドワーク
- 第11回 思考のフィールドワーク
- 第12回 経験主義と客観主義
- 第13回 フィールドワークと認識論
- 第14回 フィールドで生きる1
- 第15回 フィールドで生きる2

内容と進行は、適宜変わることがあります。

フィールドワーク論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート20%
期末レポート80%
このほか、適宜フィールドワークに関連する課題を示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義では、大学や慣れ親しんだ日常から離れ、地域の活動やイベントに参加することを奨励します。
日常的な体験を通して、フィールドワークの意義を考えてください。

履修上の注意 /Remarks

この講義は、学生自身がフィールドワークを用いた研究や活動をすることを前提としています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィールドワーク、参与観察、他者理解、相対主義、共感

環境社会学【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会と環境の相互作用について、人文社会学および自然科学的に専門知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	社会と環境の相互作用に関する法則や問題を発見し、理論や解決策を考察する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	健全な環境を支える社会のあり方について主体的に考え、学習していく基盤をつくる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境社会学

ENV250M

授業の概要 /Course Description

人と自然、人と植物の関係について、主に人文学的な考察をする講義です。ここで事例にする自然は、日本人にとって密接な植物である竹です。竹は「万能性」とも表現できるような、多くの場面で活用される特性を持っています。人もまた、竹に対して、その時代の文化や社会の状況に合わせて独特の反応をしてきました。「竹をみて、人を知る」、「竹を知って、色々なことが分かる」、こうした学びを期待しています。

この講義では、竹をめぐる、時間的にも空間的にも多様な視点からの知識や分析を提供することによって、人と植物の豊かになつたがりの仕組みを考え、幅広い問題意識を持ってもらうことが目標です。そして、各自がそれぞれに自然に対する関心事項を見つけ、卒業論文のテーマを自由に構想する準備になることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

教室で講義資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中西進校注「万葉集：全訳注原文付 1～4」講談社
- 宮内泰介編著「半栽培の環境社会学」昭和堂
- 室井紳「竹」法政大学出版局
- 白幡洋三郎「プラントハンター」講談社
- その他、講義中に随時、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【竹学の可能性】
- 2回 「竹」「笹」が来た道のり【語源・漢字】
- 3回 「たけ」「しの」「ささ」の形態認知と情緒表現【和歌・日本語】
- 4回 竹文化の盛衰【竹林資源利用史】
- 5回 マダケと竹林業【農山村の生業・産業】
- 6回 モウソウチクと半栽培【農山村の社会・環境】
- 7回 竹林拡大を歴史的に考える【栽培史・政策史】
- 8回 中国と日本の筍料理【文化交流・比較文化】
- 9回 台湾の竹と筍【種と食の多様性】
- 10回 日本の竹製品を国際的にとらえる【近現代貿易史】
- 11回 竹籠から竹芸へ【博物・美術・蒐集家】
- 12回 異国風の植物である竹【観光・東西交流史】
- 13回 海を渡った日本の竹【植物伝播】
- 14回 竹の種はどのように名付けられたか【植物分類】
- 15回 まとめ【竹をみて、人を知る】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験またはレポート・・・50% 日常の授業への取り組み・・・50%

環境社会学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から竹や植物に関するものごとを意識して観察し、講義に備えること。
授業中に興味を持ったことや疑問に思ったことを自主的に調べ、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2020年度スタートの新しい科目です。

キーワード /Keywords

人間環境地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と自然との関係の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と自然との関係に内在する諸問題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間と自然との関係に問題意識を持ち主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間環境地理学

ENV240M

授業の概要 /Course Description

人間は自然との関わりの中で生きていますが、産業革命以降の人間の自然への誤った関わり方から発生したのが環境問題です。そのため、環境問題の正しい理解には、人間と自然の関わりについて理解することが必要だと考えられます。人間と自然とは様々な関わりがありますが、この授業では、「自然の猛威」を通じて人間と自然との関わりについて考えます。同時に、自然の猛威がもたらす災害と防災・減災についても考えます。

人間は、豊かで穏やかな自然を安息と感じ、荒れ狂う自然を猛威と感じます。穏やかな自然も荒れ狂う自然も共に自然の営みであり、私たちはそのような自然の営みの中で生活していることに思い至ることができればと考えています。一方で、特にここ数年、地球温暖化によって様々な自然の猛威の脅威が高まっています。私たち人間の活動が、自然そのものを改変していつていることも考えなければなりません。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は、以下の通りです。
人間と自然の関係の基礎的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。
人間と自然の関係に問題意識を持ち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

ありません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原啓三ほか著「シリーズ 繰り返す自然災害を知る・防ぐ 第1巻～第9巻」古今書院
- 高橋和雄編著「災害伝承：命を守る地域の知恵」古今書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自然の中の私たち 【自然の猛威が私たちの住む場所を作っている】
- 2回 自然の猛威とはなにか 【人間の環境としての自然の猛威】
- 3回 自然の猛威の分類 【自然の猛威にはどのようなものがあるか】
- 4回 地球上の自然の猛威の概要1 【プレートテクトニクス】
- 5回 地球上の自然の猛威の概要2 【地震と火山噴火】
- 6回 地球上の自然の猛威の概要3 【気象災害】
- 7回 生物災害と疫病 【疫病は歴史的に激しい恐怖と社会の混乱をもたらした。そして現代も】
- 8回 干ばつと砂漠化 【地球上で最も被害が大きい災害は干ばつである】
- 9回 日本は災害の国 【日本列島では様々な自然の猛威が繰り返しやってくる】
- 10回 島原大変 【噴火・地震・崩壊・津波が複合した日本列島の宿命のような歴史災害】
- 11回 火山の巨大噴火 【巨大噴火は非常に大きな被害がでる破局的な噴火である】
- 12回 火山の噴火と気候変動 【火山噴火は気候変動に関わっている】
- 13回 火山噴火の文明への影響 【火山噴火は人間に大きな影響を与えた】
- 14回 巨大地震と津波 【東日本大震災のような巨大地震は繰り返し発生する】
- 15回 まとめ【自然を正しく理解し、うまく付き合っていく必要がある】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 90% 小レポートまたは小テスト... 10%

人間環境地理学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自然の猛威に関するテレビ番組、ウェブ情報、新聞記事、書籍などが、ここ数年特に多く発信されています。事前にそれらの情報を見たり読んだりしておきましょう。授業後はノートを整理し、配付されたプリントを再度よく読んで、将来的に使える形で整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然の猛威 災害 防災 減災 自然との共生

生態人類学【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	さまざまな事例をもとに人間の本質についての理解を深める。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人間の普遍的な特性から諸社会問題を考察する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	身体と自然という内と外の環境の相互行為を理解し、人間の社会や文化を考える。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生態人類学

ANT210M

授業の概要 /Course Description

人間の多様性について幅広く考えることで、他者の価値観を理解しよう。キーワードは差異と共感。

人間の文化の多様性はどこから生まれてくるのだろうか。この授業では人類学と生態学の知識を援用しながら、多様な環境における人間の適応と社会システムについて考察を進める。

たとえばテーマの一つとして取り上げるのは人間の「食」である。人は食べ物を手に入れるためにどんな行動をおこなってきたのか、視覚や味覚に関する認知能力の進化、そして多様な食文化の基本にあるもの。味覚を攪乱させる現代社会の添加物や化学物質。食に興味がある人おいしいものが好きな人はどうぞ。

フィールドワークの感覚を身につけるために、ドキュメンタリー映像をみて、そこから問題提起をします。次にその問題について資料を集めてきてもらいます。これらの資料をもとにディスカッションを行います。

この授業の主な到達目標は、人間関係に関する専門的知識の習得のみならず、自分から課題を発見し実践の中でそれを考えることができるようになることです。ほかの人と考えを交換する討論も楽しみましょう。

教科書 /Textbooks

講義中にみるドキュメンタリー映像
「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」 NHKスペシャルほか。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 以下はほんの一部である
- 「生態人類学を学ぶ人のために」 秋道 智彌、市川 光雄、大塚 柳太郎 (編) 世界思想社
 - 「イブの7人の娘たち」 ブライアン・サイクス (ヴィレッジブックス)
 - 「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」 NHKスペシャル取材班
 - 「人間らしさとはなにか? 人間のユニークさを明かす科学の最前線」 マイケル・S. ガザニガ: インターシフト
 - 「共感の時代へ 動物行動学が教えてくれること」 フランス・ドゥ・ヴァール : 紀伊國屋書店

生態人類学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

人類学に関係のふかい人間の営みに関する研究について、受講者の興味に応じて「食」「性」「死」「遊び」「宗教」のような感じで、おおよそ3回くらいひとつの単元にして討論をおこなう。討論の深度によって、日程は柔軟に変更する。

- 第1講 課題のテーマと講義の概要。受講者の分担決め
- 第2講 課題1の問題提起
- 第3講 課題1のプレゼンテーション
- 第4講 課題1のディスカッション
- 第5講 課題2の問題提起
- 第6講 課題2のプレゼンテーション
- 第7講 課題2のディスカッション
- 第8講 課題3の問題提起
- 第9講 課題3のプレゼンテーション
- 第10講 課題3のディスカッション
- 第11講 課題4の問題提起
- 第12講 課題4のプレゼンテーション
- 第13講 課題4のディスカッション
- 第14講 総論
- 第15講 最終討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表とディスカッションをもとにしたピア評価 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

提示されたテーマに関して資料をあたりまとめてきてください。毎回講義の前後にイメージトレーニングし、自分なりに議論の進め方を改善してみましょう。

履修上の注意 /Remarks

ほかの人の意見をきき、理解し、自分の意見を発言できること。それは思考をすすめるとてもよい経験になります。難しい事はありません新しい考えが生まれてくる現場を楽しみながら参加して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いろいろな意見を交わすことは楽しい。その過程を通して人間とは何かを考え、多様な他者の価値観を理解することも人間関係学科でこの講義をおこなう重要な理由です。

キーワード /Keywords

フィールドワーク
人類学
環境
他者理解

人間性の進化 【昼】

担当者名 /Instructor 大津留 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	進化論的な視点から人間性の獲得に至るプロセスを理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	進化論的な視点から現代社会との相関を考える。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	生物学的な特性に視野をひろげ、人間とはなにかを探究する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間性の進化

ANT211M

授業の概要 /Course Description

本授業では、ヒトの「人間性」について進化人類学の視点から学習し、進化論的な視点から現代社会の出来事について考える能力を身に付けることを目指します。

人間性やモラルは、時代や地域、文化や環境によって、さまざまに変化します。しかし、ヒトという種を多様な生物のバリエーションのひとつとして見たとき、長い進化の過程で身に着けた、共通する「人間性」があることがわかります。文化や教育を超えた共通する「人間性」を客観的に明らかにすることは簡単なことではありませんが、他の動物との比較、特に類人猿と呼ばれる遺伝的にヒトと近いサルたちの観察によって、これまで大きな発見もたらされてきました。

授業の前半では、進化論の概論と、類人猿たちを中心とする動物行動学のデータを取り上げ、進化論からみた「人間性」について概論を講義します。後半では進化論を背景として、社会学や人類学における協力や葛藤、正義についてのデータを取り上げ、人間が持つ普遍的な正義や道徳について講義します。

教科書 /Textbooks

指定の教科書はありません。
適宜レジュメの配布や参考文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル.S.ガザニカ (著) 2010 『人間らしさとはなにか?』 インターシフト
- 西田正規 (他編) 2003 『人間性の起源と進化』 昭和田

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: イン트로ダクション
- 2: 人間の脳
- 3: 人間とチンパンジー
- 4: 人間と社会
- 5: 人間の道徳1
- 6: 人間の道徳2
- 7: 人間の情動
- 8: 人間の芸術
- 9: 人間の意識
- 10: 人間の肉体
- 11: 人間と動物
- 12: 人間の男女
- 13: 人間と葛藤
- 14: 人間と葛藤解決
- 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 中間レポート (50%)
- 学期末試験 (50%)

人間性の進化【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回キーワードや疑問を紹介するので、自分なりの答えや新たな疑問を考えておいてください。
興味のある、または関連する項目について、授業の前後で自分なりに調べ、理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間性、道徳、協力、心の理論、普遍性

比較表象文化 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	表象を論じるための専門的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	表象を比較して論じるための専門的な方法を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象文化として論じるべき課題を発見し、分析・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	表象の比較を通して文化を見つめなおそうとする態度を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較表象文化

MCC210M

授業の概要 /Course Description

本講義では「表象」という概念の基礎を理解・習得し、そのうえで人間の様々な表象行為を比較検討して考察することを目的としている。人間のコミュニケーションの根本を理解し、そこから文化社会を見つめなおす訓練をつんでいきたい。表象は視覚のみならず聴覚にもかかわる。声・身体といった人間の最も身近なメディアにも注目していく。表象を比較するうえでの方法にも随時注意しながら、人間の感動、喜怒哀楽といった感情を引き起こすさまざまな技術、及びその技術を可能にしている条件について考えてみたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 表象とは何か① 導入
- 第3回 表象とは何か② 出来事から表象へ
- 第4回 表象とは何か③ 比較の必要性
- 第5回 声と身体① 発語の重層性・落語
- 第6回 声と身体② 身体の一部としての声
- 第7回 声と身体③ 語りと想像力
- 第8回 演じる身体① 男らしさ / 女らしさ
- 第9回 演じる身体② 語り物・歌謡曲
- 第10回 戦争の表象② 先行研究の紹介
- 第11回 戦争の表象③ 事例の紹介
- 第12回 小説から映画へ① 導入
- 第13回 小説から映画へ② 鑑賞
- 第14回 小説から映画へ③ 比較
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（コメントカード、課題、授業態度など）...約20% 学期末レポート約80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：告知した事例について調べておく
事後：授業内容でわからないところがないか復習しておく。とりあげられた比較の視点がどのように応用できるか考えてみる。

履修上の注意 /Remarks

授業時間外においては、毎回授業内容についてのノートを確認し、コメントカード執筆にそなえること。

比較表象文化 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の大衆文化【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の大衆文化についての専門的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	日本の大衆文化についての専門的な研究方法を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の大衆文化として論じるべき課題を発見し、分析・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	日本の大衆文化について知識を得て考察しようとする態度を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。

日本の大衆文化

JPS212M

授業の概要 /Course Description

本講義で扱う「大衆文化」とは、メディア史・都市史を補助線としつつ形成されて流通してきた文化を指している。現在の大衆文化のトピックをとりあげながら、問題意識を共有し、歴史的事象の紹介や事例分析をおこなっていく。とりあげる素材は、人間が生み出す物語あるいは芸が中心となる。現在を照らし返すきっかけを提供するという目的のもとに、近世・近代・現代に目配せをして事象の紹介をしていく。本講義の目標のひとつは、物語・場・受け手という焦点のあて方を知るなかで大衆文化研究のテーマを学ぶことにある。受講者は、そのテーマに基づき自らの問題意識を醸成していくことを求められる。ふたつには、日本の大衆文化史についての歴史的な知識をできるだけ増やしていくことにある。つまり、どの事象を扱ううえでも、必ず歴史的・社会的なコンテクストへの関心を深めていくことが求められる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 講義のデザイン
- 第2回 問題発見の焦点①物語論への招待
- 第3回 物語へのアプローチ【ヒットドラマ】
- 第4回 物語へのアプローチ【異人】【構造】
- 第5回 物語へのアプローチ【共同体】
- 第6回 受容へのアプローチ【意味の生産】
- 第7回 受容へのアプローチ【メディア】
- 第8回 問題発見の焦点②上演空間への招待
- 第9回 上演空間へのアプローチ【祝祭性】
- 第10回 上演空間へのアプローチ【演者/客の関係性】
- 第11回 上演空間へのアプローチ【歌舞伎】
- 第12回 受容へのアプローチ【客という役割】【仮設小屋】【寄席】【劇場】
- 第13回 受容へのアプローチ【メディア】
- 第14回 まとめ
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（コメントカード、課題など）...約20%
学期末レポート...約80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：告知された内容については各自調べておく
事後：コメント記述のために講義内容を復習しておく

日本の大衆文化【昼】

履修上の注意 /Remarks

準備は特に必要ないが、各回の講義の内容は、以降の講義につねに関連していくことになる。したがって、講義内容を各自自主的に見直し、なおかつ情報収集をまめに心がけていく必要がある。見直す中でコメントカードへの記述内容の工夫を繰り返し、意識してほしい。本講義の主眼は、歴史的な事象をとりあげるなかで現在を捉え返すことにある。したがって現代的な事象が中心的にとりあげられるわけではないので、受講者はそれを理解したうえで受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大衆文化というテーマは、誰にでも親しみやすいものである一方で意識をとぎすまさない、問題が見えてこないということもまた確かです。コメントカードにも自分が授業を聞いて考えたことを積極的に記述することを求める。

キーワード /Keywords

メディア、物語、芸、歴史

社会調査の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会調査を実施するにあたり、基礎的な方法論を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題設定から、実施可能な研究計画、結果の分析や報告書の執筆にいたる実務的な能力を養う。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	職場等での調査活動において、専門的な立場を持って取り組むことができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会調査の基礎

SOW290M

授業の概要 /Course Description

社会科学の諸分野では、社会に生きる人々の意識や行動を「社会調査」によって明らかにすることが中心的な活動となっている。しかし、その「社会調査」は、方法論を習得したうえで適切に行われなければ意味をなさない。本講義では、社会調査の基礎・方法論について解説する。主に調査票調査（いわゆるアンケート）について、実践例を多く取り入れながら、調査の一連の流れをイメージできるように講義を進める。

教科書 /Textbooks

大谷信介ほか（編）『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』ミネルヴァ書房 2013年 2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 社会調査とは何か？
- 2回 調査の「目的」を決める
- 3回 「先行研究」の重要性
- 4回 調査票（アンケート用紙）の作成
- 5回 ワーディングを精査する
- 6回 サンプリングの方法
- 7回 調査の実施
- 8回 回収した調査票のデータ化
- 9回 データの集計（1） 「代表値」とは何か？
- 10回 データの集計（2） 分散 クロス集計
- 11回 統計分析の必要性
- 12回 報告書・論文の執筆
- 13回 質的調査 フィールドワーク 言説分析
- 14回 社会調査の倫理問題
- 15回 まとめ レポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・100%
3分の2以上の出席を条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習として教科書に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

講義は、概ね教科書に則して進めるので、テキストの該当箇所を精読して復習を行うこと。

社会学・教育学・心理学などのゼミで卒論研究を行う上での基礎的な方法論を習得するための科目である。初歩的な内容の科目であり、統計分析については紹介程度なので数学的な予備知識は必要としない。

社会調査の基礎【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会調査を自ら実践する場合だけでなく、他の研究者が行った社会調査論文を読み解く上でも必要な知識であるので、社会科学に属する分野を専攻する予定の人は履修しておくことが望ましいと思います。

キーワード /Keywords

福祉行財政と福祉計画【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉行財政と福祉計画についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	福祉行財政と福祉計画についての課題を的確に捉え、解決策としての行財政論と計画論について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	福祉行財政と福祉計画に対する関心を高め、福祉計画づくりに取り組むことができる意欲と態度を形成する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉行財政と福祉計画

SOW242M

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向にて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2,200円
坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円
広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉と社会保障機能1【社会福祉の動向】
- 2回 社会福祉と社会保障機能2【社会保障機能】
- 3回 社会福祉と社会保障機能3【参加型社会保障】
- 4回 社会保障と税制1【財政理論】【公共財】
- 5回 社会保障と税制2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 6回 社会保障と税制3【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
- 8回 福祉行財政まとめ
- 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
- 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆっくりの社会】
- 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
- 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
- 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
- 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト・中間まとめ含む）... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として福祉行財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

福祉行財政と福祉計画 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【昼】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 福祉サービスの組織と経営に関する専門知識に加え、福祉サービスを必要とする人々について総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 福祉サービスに関する組織と経営に関わる理論と現場理解を基盤に、問題解決案を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉サービスの組織と経営

SOW251M

授業の概要 /Course Description

現在の日本社会は、超高齢の環境を見極めながら進まなければならないことがどの専門領域にとっても課題となっている。共働き家庭の保育や介護、心身の障がい、8050問題等、特に直接高齢者、障がい者等にサービスを提供する福祉施設等は、20世紀に築かれた老人福祉法から21世紀モデルの自立支援運営に改革が求められている。これまで日本の福祉サービス（介護概念）のあり方は、手厚い施設整備費補助や措置費による裁量の余地のない小さな規模の施設の運営がモデルとなっていた。しかし現在、社会保障費の増加や福祉従事者の減少は、日本が築いてきた社会福祉制度とその経営のあり方を根幹から改造しなければならない状況下にある。特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付費用の増大、多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者のBPSD等、地域包括ケアの構築を確実なものにするという新たな福祉経営がもたえられる時代となった。加えて、福祉施設は人生の高齢期における生活・生命に対するセーフティーネットでもある。利用者の自立や自律というものを運営の基礎に置き、わかりやすく丁寧に安心が求められる施設経営が必要となっている。よって地域住民の福祉ニーズにこたえるべき経営とは何か、また経営による利益と地域住民のニーズの関係はどう保たれるべきなのかを学習していく。また本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアシステム・保健、医療、福祉による多職種連携による自立支援の効果と経営戦略を学習していくことで、21世紀型の地域福祉及び福祉経営を理解していきます。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第5版」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。利用者の人権と権利 福祉施設の経営とは
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人（NPO）の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論（組織構造）
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情受付と対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題（レポート） 10%

福祉サービスの組織と経営【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから社会保障に関するニュースに関心をもってください。また、講義の中で使用される各種統計スライドも興味をもって学んでください。

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何かを学習します。福祉ニーズをポジティブに捉えるアセスメント技術も学習しておくことより理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における経営と利益とは何かを根底に21世紀型の福祉経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営等)を学習します。
 担当講師は、特別養護老人ホームや養護老人ホーム、軽費老人ホーム・デーサービスセンター等の事業を運営する社会福祉法人の施設長職を経た現理事(社会福祉士・主任介護支援専門員・介護支援専門員指導者)です。経験した立場から福祉サービスの経営とサービスのあり方を、市民、地域、行政、関係事業者の連携を見据えて講義をしていきます。

キーワード /Keywords

地域包括ケア 法人	多職種連携 組織	ガバナンス ソーシャルワーク	人権擁護 リーダー論	福祉施設経営 人材育成	サービスの質と自立支援 リスクマネジメント	PDCAサイクル 公的介護保険
超高齢者社会	社会保障					

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度	SOW222M
---------------------	---------

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど地域社会において生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められている。障害者総合支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、戦後の障がい者福祉施策を俯瞰しながら地域生活、施設利用などでの問題を取り上げ、以下の点について吟味する。

①障害者総合支援法の成立過程と法の具体的内容の解説する。
②障がい者の権利保障とは何かについての検討する。
③また障がいのある人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。
④さらにはこれまでタブー視されてきた障がい者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立とは何か】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【障害者総合支援法の概要と課題】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【障害のある子どもの生活と願い】
- 5回 障害者福祉の思想① 【優生思想とは何か】
- 6回 障害者福祉の思想② 【ノーマライゼーションからインクルージョンへ】
- 7回 障害者支援の先進例1 【北欧】
- 8回 障害者支援の先進例2 【北欧】
- 9回 権利擁護システム 【成年後見制度】 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【就労支援】 【生活・介護支援】
- 11回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【家族支援】
- 12回 障害者福祉のこれから① 【地域生活支援】
- 13回 障害者福祉のこれから② 【施設解体とは何か】
- 14回 障害者福祉のこれから③ 【恋愛・性の支援1】
- 15回 障害者福祉のこれから④ 【恋愛・性の支援2】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(30%)、筆記試験(70%)
レポートと筆記試験の中で、特に自らの考えが明示されているかを中心にして、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価する

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、興味関心のある事柄からでよいので問題関心を広げておくこと。
事後学習は授業中に配布する講義資料を精読し、具体的な社会福祉政策のあり方と、障がいのある人の生活実態について理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

その都度配布する講義レジュメ・資料および参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自立、地域生活、施設生活、恋愛と性、生命倫理、社会的包摂、社会的排除、優生思想

権利擁護と成年後見制度 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	成年後見制度と日常生活自立支援事業に関する基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	権利擁護の取り組みに関する関心を高め、成年後見制度と日常生活自立支援事業に取り組むための問題解決能力を形成する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	成年後見制度と日常生活自立支援事業を活用することで、権利擁護が具体化できることに関心を持つ。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

権利擁護と成年後見制度

SOW250M

授業の概要 /Course Description

- ・ 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。
- ・ 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。
- ・ 成年後見制度の実際について理解する。
- ・ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しないので、講義資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

権利擁護と成年後見制度 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【講義の主な柱】

- ① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり
- ② 成年後見制度
- ③ 日常生活自立支援事業
- ④ 成年後見制度利用支援事業
- ⑤ 権利擁護に係る専門職者、組織、団体の役割と実際
- ⑥ 権利擁護活動の実際

【講義テーマ・内容】

- 第1回目
オリエンテーション 全体を通しての講義内容の説明、講義の進め方など（小賀）
- 第2回目
権利擁護とは何か（小賀）
- 第3回目
権利擁護と社会保障（弁護士）
- 第4回目
成年後見制度とは何か - 根拠法・仕組み・関係機関・団体など（弁護士）
- 第5回目
成年後見制度と弁護士の役割、活動（弁護士）
- 第6回目
権利擁護活動と自治体支援（自治体職員）
- 第7回目
権利擁護活動と社会福祉士の役割、活動（社会福祉士）
- 第8回目
権利擁護と社会福祉協議会の役割（社協職員）
- 第9回目
成年後見制度と医師の役割、活動（医師）
- 第10回目
地域包括支援センターにおける社会福祉士の役割と権利擁護（社会福祉士）
- 第11回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人①）（弁護士）
- 第12回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人②）（社会福祉士）
- 第13回目
事例（法人後見と日常生活自立支援事業③）（社協職員）
- 第14回目
事例（精神障害のある人への権利擁護活動）（PSW）
- 第15回目
講義のまとめ（小賀）

成績評価の方法 /Assessment Method

コーディネーターの責任においてレポート（30%）および筆記試験（70%）を実施する。レポートおよび筆記試験の双方ともに自らの考えが明確に示されているかを重視する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、人間の権利とは何かについて問題関心を広げておくこと。
事後学習は授業中に配布する講義資料を精読し、具体的な成年後見制度のあり方と、権利擁護のために働く専門職について理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

多様な専門職者によって講義を構成するので、授業計画の内容に沿って事前学習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権、社会的包摂、社会的排除

相談援助演習 2 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 対象者理解を深めるための知識と技術を身に付ける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 問題解決に資する分析能力を身に付ける。
	プレゼンテーション力	● 相談内容に関する自らの考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 対象者の考えを理解しようとする態度を身に付ける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者の考えを理解するためのコミュニケーション力を身に付ける。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 2

SOW266M

授業の概要 /Course Description

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

- ① 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。
- ② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行うこと。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないので、必要な資料を配布し、DVD教材も活用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 相談援助演習の意義
- 2 人間理解と自己覚知
- 3 相談支援とは何か 基本的なコミュニケーション技術を学ぶ
- 4 相談支援とは何か 対人関係における影響力①
- 5 相談支援とは何か 対人関係における影響力②
- 6 具体的課題別相談援助事例による包括的援助の習得【親密圏と虐待①】
- 7 具体的課題別相談援助事例による包括的援助の習得【親密圏と虐待②】
- 8 具体的課題別相談援助事例による包括的援助の習得【公共圏での支援①】
- 9 具体的課題別相談援助事例による包括的援助の習得【公共圏での支援②】
- 10 具体的相談援助場面と過程【インテーク】
- 11 具体的相談援助場面と過程【アセスメント】
- 12 具体的相談援助場面と過程【プランニング】
- 13 具体的相談援助場面と過程【支援の実施】
- 14 具体的相談援助場面と過程【モニタリング】
- 15 具体的相談援助場面と過程【効果測定】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加の仕方と提示した課題への取組み50%、およびレポート50%
演習は出席を重視するので、欠席回数に応じて減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事後には毎回の授業の課題を整理し、事前に次回の演習内容の準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

なお相談援助演習 1 から同 5 は授業内容が連続しているため、必ず、順番通りに履修し単位取得しなければならない。また、3年次配当科目である相談援助実習、相談援助実習指導 1、同 2 を履修するためには本科目を履修する必要がある。

相談援助演習 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 3 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 相談援助に関する知識と技術を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 相談内容から援助課題を明らかにするために、課題の分析・解決に資する知識と技術を修得する。
	プレゼンテーション力	● 相談内容に関する自らの考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 対象者の考えを理解しようとする態度を身に付ける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者の考えを理解するためのコミュニケーション力を身に付ける。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 3

SOW360M

授業の概要 /Course Description

[授業の目的・ねらい]

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入つつ社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

[授業全体の内容の概要]

個別指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（面接の技法やロールプレーイング等）を中心として取り組む。特に、多様な面接の技法や相談援助の方法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

対象者の生活困難場面に遭遇する相談援助実習では、社会福祉士である相談支援者が行なう様々な援助を目の当たりにする。援助の技法や意味、有効性などを事前に知ること、専門的知識と技術を統一的に把握することを課題とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 面接相談の技法とインテーク面接
- 2 アセスメント、プランニングと支援の実施
- 3 モニタリングと効果測定
- 4 終結とアフターケア
- 5 ワーカー・クライアント関係
- 6 専門職の倫理と倫理綱領
- 7 困難事例①<生活問題の重層性>
- 8 困難事例②<意思決定>
- 9 社会資源とは何か
- 10 社会資源の活用方法
- 11 ロールプレイ① アルコール依存症患者とMSW
- 12 ロールプレイ② 生活保護申請者と生活保護担当ケースワーカー
- 13 ロールプレイ③ 虐待加害者（母親）と児童相談所ケースワーカー
- 14 ロールプレイ④ 障害のある人とピアカウンセラー
- 15 援助技法に関する講評と授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の報告内容（30%）、参加意欲・態度（30%）、レポート（40%）で評価する。
出席を重視するため、欠席回数に応じて減点する。

相談援助演習 3 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は面接相談やワーカー・クライアント関係について理解を深めるために事例集などの文献・資料に目を通し、相談援助技術に関する具体的知識を身につけておくこと。

事後学習は演習内容を中心として対象者の生活実態について理解を深め、援助される側の思いや具体的な状況について考察を深めること。

履修上の注意 /Remarks

ロールプレイについては学生間の事前の打ち合わせや学習に重点を置いて取り組むこと。

なお相談援助演習 1 から同 5 は授業内容が連続しているため、必ず、順番どおりに履修し単位取得しなければならない。また、3 年次配当科目である相談援助実習、相談援助実習指導 1、同 2 を履修するためには本科目を履修する必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

面接相談の技法、ワーカー・クライアント関係、ロールプレイ

相談援助演習 4 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会福祉援助技術に関する実践技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉が対象とする課題を的確に捉え分析し、解決方法を導くことができる。
	プレゼンテーション力	● 自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 課題達成に向けた積極的取り組みができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 4

SOW361M

授業の概要 /Course Description

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士の相談援助に係る知識や技術を実践的に習得する。児童虐待や家庭内暴力や危機的状況にある相談事例などを活用する。個人や家族への介入、集団や地域への介入方法など具体的な援助場面を想定した実技指導によって、総合的・包括的な援助方法を習得する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成講座編集委員会『相談援助の理論と方法 1』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション グループ・プロジェクトの進め方と編成
- 2回 事例の作成 【主訴】【ジェノグラム】【エコマップ】
- 3回 インテークの留意点、逐語録(作成) 【ケースワークの原則】
- 4回 インテーク、ロールプレイ
- 5回 生活モデル 【医学モデル】
- 6回 生活モデルによるケース分析(発表)
- 7回 家族イメージ法 【家族療法】【家族システム】
- 8回 家族造形法
- 9回 援助計画(作成) 【方法論の統合化】【システムアプローチ】
- 10回 援助計画(発表)
- 11回 グループワーク、プログラム【グループワークの構成要素】【グループワークの原則】
- 12回 グループワーク、プログラム(作成)
- 13回 グループワーク、ロールプレイ
- 14回 グループワーク、ロールプレイ
- 15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、授業への参加度 50%、提出課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業内容のキーワード等について調べておくこと。

事後学習：配布したレジュメ・資料をファイル等に整理しておくこと。限定された時間内でのグループ学習になるので、授業中に指示した課題について、授業中にまとめられない場合は自主学習において補っておく必要がある。

相談援助演習 4 【昼】

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士養成の指定科目として開講されている。相談援助演習 1 から相談援助演習 5 までは授業内容が連続しているため、必ず順番どおりに履修し単位取得しなければならない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の皆さんと一緒に作り上げていく授業です。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

相談援助演習 5 【昼】

担当者名 /Instructor 石嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会福祉援助技術に関する実践技法を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉が対象とする課題を的確に捉え分析し、解決方法を導くことができる。
	プレゼンテーション力	● 自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 課題達成に向けた積極的取り組みができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助演習 5

SOW460M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士に求められる相談援助にかかわる知識と技術について、専門的援助技術として概念化し、理論化して体系だてていくことができる能力を涵養する。相談援助実習を通じた個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように指導する。

教科書 /Textbooks

特になし
レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 実習の振り返りとグループディスカッション(役割分担など)
- 3回～6回 実習の振り返りと報告
- 7回～8回 実習と関連付けたキーワード、理論についての検討
- 9回～11回 実習と関連づけたキーワード、理論についての発表
- 12回～14回 国家試験対策 - 社会福祉関連法制の改正等について発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、授業への参加度 60%、提出課題 20% 発表 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、実習と関連付けられる社会福祉の理論やキーワードについて調べておくこと。
事後学習としては、授業で取り上げたキーワードや社会福祉の理論について振り返っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「社会福祉士」国家試験受験資格取得のために開講されている科目である。相談援助演習 1 から同 5 は授業内容が連続しているため、必ず、順番どおりに履修し単位取得しなければならない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉施設実習においては、知識だけでなく福祉援助職となるのにふさわしい資質や態度が求められることから、授業においても、理由なく欠席、遅刻はしないよう、真面目な態度で取り組むことを期待する。

相談援助演習 5 【昼】

キーワード /Keywords

社会福祉士

相談援助実習指導 1 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 相談援助に関する知識を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉が対象とする課題を的確に捉え、問題解決のためのプロセスを検討することができる。
	プレゼンテーション力	● 自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	● 実習課題について、積極的に課題設定ができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者とコミュニケーションを図り、協力して目的意識的に行動することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助実習指導 1

SOW380M

授業の概要 /Course Description

教科で学んだことが実践の場における実践技法や援助業務として統合されていくかを課題とし、①事前学習や見学実習を通して、社会福祉士として仕事をするうえで必要な専門知識、専門技術及び関連知識の内容の理解を深める。②専門知識や専門技術を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する「相談援助業務」に必要な資質・能力・技術を習得できるようにする。③職業倫理を身につけ、専門職としての自覚にもとづいた行動ができるようにする。④具体的な体験や援助活動を専門的技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。⑤関連分野の専門職との連携の在り方及び具体的内容を理解する。

教科書 /Textbooks

「社会福祉実習の手引き」(人間関係学科用として独自に作成)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、2回 オリエンテーション
- 3、4回 実習前の準備・計画
- 5、6回 実習対象となる社会福祉施設に関する学習
- 7、8回 実習(学習)課題の設定
- 9、10回 見学実習(1日・8時間)
- 11、12回 見学実習(1日・8時間)
- 13、14回 日誌の綴り方 - 実習(学習)課題に沿った記述方法、視点①
- 15、16回 日誌の綴り方 - 実習(学習)課題に沿った記述方法、視点②
- 17、18回 実習生調書の作成
- 19、20回 実習計画の作成
- 21、22回 実習先に関する学習・報告
- 23、24回 実習先に関する学習・報告
- 25、26回 見学実習報告
- 27、28回 実習課題の明確化
- 29、30回 実習書類整備、確認および社会福祉施設・機関での打ち合わせの確認

成績評価の方法 /Assessment Method

現場実習に向けた各回の取組内容 ... 60%、レポート... 40%
出席を重視するため、欠席回数に応じて減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は各種社会福祉施設・機関の体系や現状について法制度、政府資料等を中心に調べておくこと。事後学習は「社会福祉実習の手引き」を精読し、実習内容について理解を深めること。

相談援助実習指導 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

実習に取り組むための諸手続きを含めて、毎回、具体的な事項を伝えていくので、出席は重視する。また見学実習は福岡県介護福祉士会の企画を利用するなどして、実際に施設へ訪問するので、受入施設の指示に沿って取り組むこととなる。
また相談援助実習を履修・修得するためには本科目を履修・修得する必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習指導 2 【昼】

担当者名 /Instructor 石嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 相談援助に関する実践技法を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉が対象とする課題を的確に捉え分析し、解決方法を検討することができる。
	プレゼンテーション力	● 自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 実習課題について、積極的に課題達成に向けた取り組みができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助実習指導 2

SOW381M

授業の概要 /Course Description

相談援助実習指導 2 は、社会福祉行政機関や社会福祉施設等で行う実習である。実習の目的は社会福祉行政機関や社会福祉施設における全般的な業務を理解することである。配属実習の振り返りを通して、相談援助に関する知識と技術について習得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理など、総合的に対応できる能力を習得する。

教科書 /Textbooks

特になし。
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社団法人日本社会福祉士養成校協会 『社会福祉士国家試験問題過去問、専門科目編』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 回	オリエンテーション、実習施設の種類に応じたグループ分け
2 回	グループディスカッション(役割分担)
3 回	社会福祉士の倫理綱領
4 回～10 回	実習の振り返りと発表
1 1 回	実習の振り返りをキーワードと関連付けて検討
1 2 回～1 3 回	実習の振り返りをキーワードと関連付けて発表
1 4 回	社会福祉士の仕事と専門性
1 5 回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 60% レポート... 20% 発表... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、事前に指示した内容について調べておくこと。
事後学習としては、授業の内容について振り返りを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

「社会福祉士」国家試験受験資格取得のために開講されている科目である。相談援助実習指導1を履修済みであること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉専門職としての資質や実習の心構えを確認するという意味で、出席状況や授業中の態度を重視します。

キーワード /Keywords

社会福祉士

相談援助実習 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 6単位 学期 集中 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 相談援助に関する知識および実践技法を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉が対象とする課題を的確に捉え分析し、解決方法を導き出すことができる。
	プレゼンテーション力	● 自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 実習課題について、積極的に課題達成に向けた取り組みができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者とコミュニケーションを図り、協力して課題解決のための行動を起こすことができる。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助実習

SOW382M

授業の概要 /Course Description

[相談援助実習の目的・ねらい]

相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

[相談援助実習全体の内容の概要]

①利用者、援助者、関係者間の基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係およびに援助関係を学ぶ。また、②権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価方法を会得する。

[相談援助修了時の達成課題（到達目標）]

社会福祉現場での実習は、理論と思考を現実的に吟味できる唯一の機会である。社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解。組織の一員としての役割と責任への理解。そして何よりも対象者への責務を実感として肌身に感じ、これまでの学習の到達度と、今後の学習課題を確認することを課題とする。

教科書 /Textbooks

「実習の手引き」（人間関係学科用に独自に作成）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

[実習における学習視点と目標]

- 1 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- 2 利用者理解と福祉的ニーズの把握及び支援計画の作成
- 3 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- 4 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価
- 5 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践
- 6 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- 7 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践
- 8 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
- 9 問題解決や疾病・障害の受容などによって利用者が変わりうるという発達の理解
- 10 記録や書類の作成・整理などの土台の上に素晴らしい相談援助が築かれるという認識の確立

成績評価の方法 /Assessment Method

実習意欲・態度、遅刻・欠席の有無、日誌の記述内容、実習評価、その他提出物の状況などを総合して評価する

相談援助実習【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、各自が実習に取り組む施設・機関の状況について詳細に把握すること。事後学習としては実習体験をもとに相談援助とは何か、専門職の役割、施設・機関の役割と意義について考察する。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉施設・機関や社会福祉サービスの利用者に関する情報を集め把握すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンパワーメント、職業倫理、社会資源、社会福祉士、相互連携、アウトリーチ、ネットワークキング

心理学研究法 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 様々な心理学領域における方法論の基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 心理学の研究法についての実践的技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 心理学における様々な研究法を実践の場で活用できる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者と協力してどのような研究手法が適切か検討することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学研究法

PSY243M

授業の概要 /Course Description

心理学は科学である。科学であるためには、事実を明らかにすること「実証」が必要である。
本講義では、人間の心を科学的に実証するための方法論を学ぶことにより、心理学のこれまでの研究知見を理解・解釈できるようになること、自ら研究を立案・実施できるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし― 高野陽太郎・岡隆（編）有斐閣アルマ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 心理学研究法とは何か
2. 実験と観察、実証の手続き
3. 独立変数の操作（独立変数の種類）（純化・多重操作）
4. 独立変数の操作（インパクト）（妥当性）
5. 従属変数の測定
6. 剰余変数の測定
7. 実験法
8. 心理学に特有の問題
9. 調査法（質問紙の作成）
10. 調査法（尺度構成）
11. 検査法（妥当性と信頼性）
12. 観察法（データサンプリングの方法）
13. 観察法（時間見本法）
14. 面接法
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の小課題 60%
学期末のレポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

心理学実験および心理統計を受講しておくとう理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

心理学研究法 【昼】

キーワード /Keywords

心理学実験実習Ⅱ【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実験・実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	人間関係の諸問題を分析・検討するための心理学研究法を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	●	人間関係の諸問題を心理学的視点から捉え、健康的な生活を目指すことができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力して課題に取り組むことができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学実験実習Ⅱ

PSY281M

授業の概要 /Course Description

心理学の研究法である実験・調査・観察の具体的方法を学ぶ。
心理学の研究法である心理査定、面接法等の具体的方法を学ぶ。
到達目標は以下の通りである。
・心理学研究法に関する専門的知識を修得し、実際に使用することができる。
・心理学研究法によって、心理現象を分析・検討することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(実験実習の進め方、認定心理士について)
- 2回 対人認知-性格特性リストから判断される他者の特性【t検定】
- 3回 自己意識-20答法の分類【 χ^2 検定】
- 4回 同調行動-他者の判断が錯視図形の知覚に与える影響【相関係数】
- 5回 集団間行動-内集団バイアスの実験【t検定】【分散分析】
- 6回 質問紙法の実践(1)-質問項目の選定【妥当性】
- 7回 質問紙法の実践(2)-データの集計と分析【信頼性】【 α 係数】
- 8回 質問紙法による心理査定。【YG性格検査】【STAI】
- 9回 投影法による心理査定。【P-Fスタディ】
- 10回 知能検査による心理査定。【知能指数】【知能偏差値】
- 11回 箱庭療法による心理面接。【ラポール】【クライエント】【カウンセラー】
- 12回 催眠法による心理面接。【後倒法】【変性意識状態】
- 13回 心理面接における行動観察。【ノンバーバル行動】【行動評定】
- 14回~15回 まとめ(実験実習を体験しての集団討論)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事後学習として、実験実習の結果をレポートとしてまとめる。

履修上の注意 /Remarks

前もって「心理学実験実習Ⅰ」並びに「心理統計」を受講しておくことが望ましい。
授業終了後は、指定された課題(レポート作成)に取り組むことを通して、実施した実験実習の内容についての理解を深めること。

心理学実験実習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境経済学

ECN340M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話をお聴きだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

教科書 /Textbooks

栗山浩一・馬奈木俊介（2016）、『環境経済学をつかむ 第3版』、有斐閣、2,592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木（2008）、『環境経済学をつかむ』有斐閣
時政・荻田・今泉・有吉編（2007）、『環境と資源の経済学』勁草書房○
日引 聡、有村俊秀（2002）、『入門 環境経済学』、中公新書○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社○
R. K.ターナー他（2001）、『環境経済学入門』、東洋経済新報社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネツツ曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

環境経済学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト(12回)...40%、課題...10%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学I・IIを事前に履修、またはこれらの講義内容を事前に学習していることが望ましい。
経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育課程についての基本的な概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育課程に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 教育課程に関わる事項に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育課程論

EDU360M

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原理解
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 教育課程の編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) アクティブラーニング
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 国際移動と教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

教育課程論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	教育に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	教育に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育原理

EDU110M

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

教育原理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教職についての基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	教職についての課題を発見し、思考する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教職論

EDU111M

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。

本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。

また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力と教員研修の意義(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その1 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その2 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その3 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

教職論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。それが無い場合には公欠であっても減点になるので留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育ててもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

主体形成論 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間の主体形成についての専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	社会や人間の課題に対して教育的課題として解決できる方策を分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	主体形成の視点から問題意識を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

主体形成論

EDU221M

授業の概要 /Course Description

急速な社会変化、そして生涯学習社会への移行は私たち自身にも、これまで経験してきた知識中心の学習とは、まったく異なった学ぶ能力が必要になっていることを示しています。

本講義では、人間が主体的力量を形成していく（主体形成）とはどういうことか、その課題やプロセス、そして支援について、様々な領域の学習実践を取り上げながら考えていきます。

こうした検討を踏まえて、学習要求・ニーズと、学習必要・学習課題との区別と関連や、人間が主体的力量を形成していく意義、そして、それを支える専門性の重要な役割について理解を深めます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 『講座 主体形成の社会教育学』1~4巻、山田定市監修、北樹出版
末本誠他編著『新版 生涯学習と地域社会教育』春風社
- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

生涯学習・社会教育の多様な活動、分野を取り上げながら、主体形成について考えます。

- 1回 生涯学習・生涯発達をとらえる枠組み
- 2回 生涯学習・生涯発達のプロセス-自己形成史を通して考える
- 3回 自然環境と主体形成
- 4回 環境問題と社会教育-北九州市の公害学習
- 5回 消費・生活と主体形成
- 6回 ジェンダー・家族と主体形成
- 7回 身近な人間関係と主体形成
- 8回 男女共同参画と男女平等
- 9回 人権と主体形成
- 10回 平和・共生と主体形成
- 11回 子ども・子育てと主体形成
- 12回 情報社会と主体形成
- 13回 地域と主体形成 一自治体
- 14回 地域づくりと主体形成 一地方創生
- 15回 エンパワーメントの支援

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート... 80% 課題レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

主体形成論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育相談の基本的な理念や方法を理解できている。近年の生徒が示す様々な問題事象とその要因についての基本的な理解をもっている。
技能	専門分野のスキル	● 教育相談に必要な基本的な相談スキルを実際の対人関係場面で活用できる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 生徒個々人の発達課題を把握し、学校内外の関係者とも連携しながら、その自立を援助するための基礎的な力を獲得している。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 子どもの感情やニーズに積極的に応答し、信頼関係を築きあげることができる。
	生涯学習力	● 多様な生徒や保護者との出会いの中から学びと気づきを得ることを通じて実践力の向上に努めている。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育相談

EDU264M

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業でのミニレポート 20%
定期試験 80%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

教育相談【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

次世代育成論 【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	次世代育成について専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	次世代育成の課題について解決することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	次世代育成について主体的に学習することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

次世代育成論

EDU226M

授業の概要 /Course Description

多様な学習スタイルが求められる現代において、生涯学習の一環としての「参加型学習」に着目し、「参加型学習」の定義や特徴、現状を学ぶとともに（理論編）、参加型学習やそれに類する多様な学習法（協同学習や協調学習など）の手法・技法を実際に体験しながら理解を深める（実践編）。「参加型学習」を円滑に行うには、学習内容を理解し、学習者の状況を見極め、場の雰囲気やその変化も敏感に感じ取りながら、有効にファシリテーションを行う必要がある。本授業ではそのファシリテーション能力の養成も目指す。

授業のねらい、到達目標については以下の通りである。

- ・「参加型学習」とは何かを理解し、「参加型学習」の手法や技法を説明することができる。
- ・「参加型学習」を進めるためのファシリテーターの役割を説明することができる。
- ・「参加型学習」において学習者の主体的参画を促すファシリテーション能力の基礎を身につける。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

協同学習の技法-大学教育の手引き エリザベス=パークレイ、バトリシア=クロス、クレア=メジャー(著) 安永悟(監訳) ナカニシヤ出版
協同学習入門-基本の理解と51の工夫 杉江修治(著) ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回【理論編】生涯学習とは何か、参加型学習とは何かを理解する
- 第2回【理論編】参加型学習の特徴と実践の実際を知る
- 第3回【理論編】[実践編]アイスブレイクの意義と役割を学ぶ、多様なアイスブレイクを体験する
- 第4回【理論編】[実践編]具体的な技法・手法を学ぶ①(話し合いの技法)
- 第5回【理論編】[実践編]具体的な技法・手法を学ぶ②(教え合いの技法)
- 第6回【理論編】[実践編]具体的な技法・手法を学ぶ③(問題解決の技法)
- 第7回【理論編】[実践編]具体的な技法・手法を学ぶ④(図解の技法)
- 第8回【理論編】[実践編]具体的な技法・手法を学ぶ⑤(文章作成の技法)
- 第9回【理論編】[実践編]ファシリテーションテクニック①(参加型学習のプランニング)
- 第10回【理論編】[実践編]ファシリテーションテクニック②(ファシリテーショングラフィック)
- 第11回【実践編】参加型学習を企画し、ファシリテーション役を実践する①
- 第12回【実践編】参加型学習を企画し、ファシリテーション役を実践する②
- 第13回【実践編】参加型学習を企画し、ファシリテーション役を実践する③
- 第14回【理論編】[実践編]自らの実践を振り返り、参加型学習の評価について理解する
- 第15回【理論編】本授業のまとめ、参加型学習の今後を展望する

定期試験

次世代育成論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート...30%
最終試験...70%
(出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。また、自身がファシリテーション役等を実践する場合は、その準備を綿密に行う（必要な学習時間の目安は120分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一方的な講義形式ではなく、ペアワークやグループワーク、ファシリテーション実践等を頻繁に行うため、主体的な授業参加を期待します。

キーワード /Keywords

参加型学習、協同学習、ファシリテーション、ワークショップ

社会教育計画論【昼】

担当者名 太田 華奈 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会教育計画についての専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 社会の課題に対して、社会教育の課題として分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 社会教育計画の視点から主体的に学習することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会教育計画論

EDU222M

授業の概要 /Course Description

社会教育計画の作成においては、社会教育職員が地域をどのように考え、地域の課題をいかにつかみ、地域へどのようにアプローチするかが重要テーマの1つとなります。

そのためこの授業では、地域における学習・文化芸術活動や、その担い手である住民、地域の様々な組織やそれらの協同や連携について学習することを通して地域学習への理解を深め、地域を立体的にとらえるまなざしを獲得し、地域へのアプローチを探究していくことをねらいとしています。

具体的には次の3点に取り組みます。①テキストを読み込み、批判的に考察し、地域学習についての理解と知識を獲得します。②テキストを元にディスカッションを行い、地域学習についての理解を深め、広げます。③先の2点の学習を通して、社会教育の観点から地域の再生や、地域課題へのアプローチについての、自分なりの考えを獲得します。

なお、授業はテキストを精読したうえで、レジメを作成・発表し、ディスカッションを行う方法ですすめていきます。

教科書 /Textbooks

佐藤一子編『地域学習への創造—地域再生への学びを拓く』（東京大学出版会，2015年，ISBN-13: 978-4130513272）3132円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 辻浩・片岡了編『自治の力を育む社会教育計画論』（国土社，2014年）
- 小林文人・藤岡貞彦編著『生涯学習計画と社会教育の条件整備』（エイデル研究所，1990年）
- 酒匂一雄・千野陽一ほか『生涯学習の方法と計画』（国土社，1994年）
- ・ 社会教育推進全国協議会『第9版 社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所，2017年）

社会教育計画論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション(授業の進め方、自己紹介など)
- 第2回 社会教育計画論とは何か-社会教育計画の概要
- 第3回 佐藤一子編『地域学習の創造(以下、テキスト)』まえがき、序章-発表、ディスカッション
- 第4回 テキスト 第1章-発表、ディスカッション
- 第5回 テキスト 第2章-発表、ディスカッション
- 第6回 テキスト 第3章-発表、ディスカッション
- 第7回 テキスト 第4章-発表、ディスカッション
- 第8回 テキスト 第5章-発表、ディスカッション
- 第9回 テキスト 第6章-発表、ディスカッション
- 第10回 テキスト 第7章-発表、ディスカッション
- 第11回 テキスト 第8章-発表、ディスカッション
- 第12回 テキスト 第9章-発表、ディスカッション
- 第13回 テキスト 第10章-発表、ディスカッション
- 第14回 テキスト 第11章-発表、ディスカッション
- 第15回 テキスト 第12章-発表、ディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加20% (授業ごとにリアクションペーパーを提出する)、レジメの作成・発表30%、試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の進度に合わせてテキストを事前に読み込んで、授業に臨んでください。
- ・ レジメの作成・発表者以外の方も、必ずテキストを事前に読み、授業に臨んでください。
- ・ インターネット等を使って、さまざま自治体の社会計画論、生涯計画論を読んでみましょう。
- ・ 授業で取り上げた内容やテーマ、関心を持ったことについて、身近な人たちと議論をしてみましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「なぜ？」と問いかけることを大事にしていきます。「どうしたら」の前に、「なぜ」という問いをはさみ、考えていくことを意識してみましょう。そうして、物事を批判的に考えていきましょう。
この授業では、ディスカッションを積極的に取り入れます。「なぜ」を持ったあなたが、ディスカッションに参加されることを楽しみにしています！

キーワード /Keywords

生涯学習編成論【昼】

担当者名 /Instructor 長尾 秀吉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	生涯学習の編成について専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	生涯学習の課題に対して学習を編成することで解決策を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯学習の編成について主体的に学習することができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生涯学習編成論

EDU223M

授業の概要 /Course Description

人が何かを学ぶ姿を想起するとき、多くは学校や塾で学習者が指導者に受動的に学ぶ姿を思い浮かべる。だが、これは学習の一形態に過ぎない。人は生活の中で抱えている課題を解決するために、主体的に他者とつながり、相互に学び合っている。子育てに悩む親同士の学び、学校をよくするための学び、持続的な発展と自然環境保全にむけた学び、障害のある人もない人も安心して過ごせる社会をつくる学び、平和に向けた学びなどである。そこでは、学びに参加する誰もが学習の主体であり、学習内容や方法を自分あるいは自分たちでコントロールしている。

生涯学習は、主体性（自己決定）と相互学習を基本原理としており、社会変革をもたらすような非常にダイナミックな学習が繰り返されている。この授業では、こうした生涯学習の過程で人はどう育ち、また学習の成果として人はどのような社会をつくりだすことができるのか、またその学習の編成のポイントとは何かについて学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・末本誠・松田武雄編著『新版 生涯学習と地域社会教育』春風社 2014年 ¥2476 + 税 (○)
- ・鈴木敏正『生涯学習の教育学』北樹出版 2014年 ¥2900 + 税
- 長澤成次編『教師教育テキストシリーズ-社会教育-』（学文社、2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 【生涯学習とは何か】
- 第2回 生涯学習のとらえ方① 【自己管理学習】
- 第3回 生涯学習のとらえ方② 【意味パースペクティブの変容】
- 第4回 生涯学習のとらえ方③ 【自己決定学習】
- 第5回 生涯学習のとらえ方④ 【自己教育】
- 第6回 振り返り確認テスト 【1～5回目までの内容確認】
- 第7回 社会教育とは何か 【日本の社会教育とその特徴】
- 第8回 社会教育の制度 【社会教育法にもとづく社会教育職員・施設の役割】
- 第9回 生涯学習と社会教育 【生涯学習の視点を取り入れた社会教育事業】
- 第10回 生涯学習プログラムの編成過程 【生涯学習プログラムの種類と作成過程】
- 第11回 子どもの生涯学習プログラム編成 【学校外における子どもの学習】
- 第12回 高齢者の生涯学習プログラム編成 【文化活動からはじまる地域づくり】
- 第13回 環境保全と生涯学習プログラム編成 【環境を守り、暮らしを守る】
- 第14回 受講者による生涯学習プログラム発表 【学習を編成する視点とは】
- 第15回 振り返り確認テスト 【1～14回の振り返り】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（80％）、日常の授業への取組（20％）

生涯学習編成論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 第1回 シラバスをもとに予習し、授業内容の復習を行うこと（予習60分、復習60分）
- 第2～9回 配布プリントをもとに予習し、授業内容の復習を行うこと（予習60分、復習60分）
- 第10～14回 課題解決学習の具体例を調べ、課題解決学習プログラムを立案する（予習60分、復習90分）
- 第15回 授業内容の全体を振り返り、整理する（復習90分）
- その他 授業の理解に有益な読書、映像視聴を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会活動や地域づくりに関する新聞記事や文献を読むことが望ましい

キーワード /Keywords

自己教育、学習権

道徳教育指導論【昼】

担当者名 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	道徳教育の指導について基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル	●	道徳教育の指導についての基本的なスキルを獲得することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	道徳教育の指導についての課題を発見し、思考する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

道徳教育指導論

EDU262M

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第3回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第4回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第5回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第6回：道徳教育の現代的課題①（グループ討論）
- 第7回：道徳教育の現代的課題②（グループ討論）
- 第8回：道徳教育の現代的課題③（グループ討論）
- 第9回：道徳教育の現代的課題④（グループ討論）
- 第10回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第11回：道徳科における評価
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：シテイズンシップ教育と道徳教育
- 第15回：対話への道徳教育

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案35%
コメントシート15%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

道德教育指導論【昼】

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 石嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人権教育についての基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	人権教育についての課題を発見し、思考する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		
※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			人権教育論 EDU228M

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他人の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。
①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。③人権教育の指導計画などプログラムの作成や発表、ロールプレイなど参加型の学習を取り入れる。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重 【世界人権宣言】
- 2回 学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、SNS・インターネットによる人権侵害
- 3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 4回 人権教育の枠組み - 教科を通じた人権教育、学級運営、生徒指導、(実践例など)
- 5回 部落差別と人権 【部落差別解消推進法】
- 6回 子どもの人権 【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
- 7回 障がい児・者の人権 【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
- 8回 「性の多様性」と人権 【SOGI】【性自認】【性的指向】
- 9回 外国人の人権 【ヘイトスピーチ解消法】
- 10回 男性と女性の人権 【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
- 11回 高齢者の人権 【高齢者虐待防止法】
- 12回 ホームレスの人々の人権 【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
- 13回 「私の人権教育のプログラム」(発表)
- 14回 「私の人権教育のプログラム」(発表)
- 15回 「私の人権教育のプログラム」(発表)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度、課題、テストなど、総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(60%)、授業への参加度(10%)、課題(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示をされた文献や資料について読んでおくこと。
「私の人権教育のプログラム」発表のためにパワーポイントを作成する。

人権教育論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

体験学習を取り入れています。受講生の皆さんの積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	倫理学について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	倫理に関する情報を収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倫理学

PHR210M

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジュメで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクションおよび古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスの倫理思想
- 第2回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想 【美しき国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスとフランチェスコの倫理思想 【愛と高貴な貧しさ】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第7回 近代の倫理思想(1) デカルトの倫理思想 【旅と Cogito】
- 第8回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想 【コナトゥスと倫理】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想 【承認とコルポラティオン】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想(1) フランクフルト学とハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 現代の倫理思想(2) フーコーの倫理思想 【統治性と権力】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む) 40パーセント
期末テスト 60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で紹介した原典・参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

適宜リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

キーワード /Keywords

博物館概論 【昼】

担当者名 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	博物館に関する課題を発見し、適切な方法を用いて分析し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	博物館への関心を高める。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

博物館概論

MUS200M

授業の概要 /Course Description

博物館に関する基礎的な知識全般を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。
具体的には、最新の博物館の動向をふまえながら、博物館の定義、種別、目的、機能、歴史、関係法規、また学芸員の役割や社会で求められている博物館像について学ぶ。実際の博物館での事象を具体例として検証することで、博物館の現状や課題について理解することを目指す。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『博物館関係法令規則集』(日本博物館協会、1969年)
- ・ 『月刊 博物館研究』(日本博物館協会、1951年～)
- ・ 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年)○
- ・ 大堀哲・水嶋英治編『博物館学I 博物館概論 * 博物館資料論』(学文社、2012年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業の手順と内容について)
- 2回 博物館の定義(意義と理念)
- 3回 博物館の歴史
- 4回 博物館の種別について
- 5回 博物館における収集
- 6回 博物館資料の取り扱いについて
- 7回 学芸員の役割
- 8回 博物館における展示について①(展示の種別)
- 9回 博物館における展示について②(展示の企画・運営)
- 10回 博物館における展示について③(展示の技法)
- 11回 博物館資料の活用と保存環境
- 12回 博物館と文化遺産
- 13回 博物館における教育プログラム
- 14回 博物館を取り巻く諸問題について
- 15回 まとめと確認

※授業内容は変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30%
試験...70%

※4回以上の欠席は不可、15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
※評価方法については変更が生じる場合があります。

博物館概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館などで博物館に関する書籍を見て授業に臨むこと。
授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。
授業後に、授業内で扱った展覧会や博物館について、インターネット等で詳細を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

少なくとも一か所以上の博物館を観覧しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

博物館などの文化施設を訪問する際の基本的事項を学ぶ授業です。授業内容は聞き流すことなく、ポイントをしっかりメモしてください。
この科目は、「学芸員」資格取得のために必要な科目です。「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講してください。
新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、なるべく多くの博物館へ足を運び、博物館に親しんでください。

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

健康科学【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	自分自身の健康管理について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分自身の健康について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自分自身の生活習慣を見直し、問題点について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

健康科学

HSS230M

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことのひとつである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康の概念
- 3回 日本と世界の健康指標
- 4回 日本の健康施策と健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスポモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

スポーツ心理学【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スポーツ心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学の観点からスポーツの諸課題をとらえて解決策を考えることができる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	スポーツの諸問題を心理学の観点から主体的に学習ができる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ心理学

HSS221M

授業の概要 /Course Description

スポーツ心理学とは、スポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域のことであり、応用心理学の一領域として捉えられています。この授業では、スポーツ心理学の理論とその実践的な利用法について学ぶことを目的とします。本講義の到達目標は、受講生がスポーツによる心理学的な影響について知識を深めることです。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に設けません。必要に応じて資料配布や参考図書を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書については、特に設けません。必要に応じて資料配布や参考図書を紹介します。

スポーツ心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 講義計画 >

1. オリエンテーション

本科目の目的、背景、授業の進め方、約束事について説明します。
1回目は特に重要ですので、必ず出席してください。

2. スポーツ心理学とは

スポーツ心理学の歴史について学習を行います。

3. スポーツと動機づけ

やる気や意欲と呼ばれる動機づけのメカニズムについて学習を行います。

4. スポーツにおける目標設定

スポーツにおける目標設定を行うための原理・原則について学習を行います。

5. スポーツとパーソナリティ

パーソナリティを理解しスポーツとパフォーマンスとの関係について学習を行います。

6. 注意と集中

注意様式からみた集中力の理論ならびに注意集中を高める技法について学習を行います。

7. 運動のメカニズム

運動の学習について心理学的な理論について学習を行います。

8. コーチの心理

社会的勢力の視点からスポーツ指導のあり方について学習を行います。

9. 競技の心理

それぞれの競技特性と心理的特性について学習を行います。

10. スポーツメンタルトレーニング

心理的なアプローチの方法であるメンタルトレーニングについて学習を行います。

11. スポーツと発達

生涯発達の視点から学びを深めスポーツのあり方や関わり方について学習を行います。

12. 健康スポーツの心理

ライフスキル、運動・スポーツの心理的効果、ストレスコーピングについて学習を行います。

13. スポーツと臨床

スポーツの場で発生する臨床心理学的問題について学習を行います。

14. まとめ

授業の振り返りを行います。

15. 授業内期末テスト

授業内期末テストを行います。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施します。
- 2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施します。
- 3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%，受講態度20%，小レポート30%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

準備学習として、教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備えて下さい。(各回15分)

事後学習として、授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めるようにして下さい。(各回15分)

履修上の注意 /Remarks

心理学関係の授業やスポーツ科学関係の授業を受講した場合は、本講義の理解がより深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ心理学 【昼】

キーワード /Keywords

身体適応論 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体活動の必要性や効果について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分の運動習慣について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	身体活動の必要性和自分の健康について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体適応論

HSS231M

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。

本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 発育・発達
- 3回 運動と加齢
- 4回 運動と神経系
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 運動と肥満
- 7回 運動とエネルギー代謝
- 8回 バイオメカニクス
- 9回 運動と血圧
- 10回 運動と骨粗鬆症
- 11回 運動と疲労
- 12回 疲労と休養
- 13回 運動と暑熱環境(熱中症の予防)
- 14回 運動への行動変容【メリット、デメリットについて考える】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体適応論 【昼】

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

身体スポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 発育発達に応じた身体・スポーツ活動において、必要な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身体・スポーツ活動においての諸課題を適確に捉え、より良い状態へつなげていく手段を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 自らの身体・スポーツ活動に問題意識を持ち、主体的に学習できる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体スポーツ論

HSS210M

授業の概要 /Course Description

皆さんは、家族や友人、先輩・後輩など様々な人と関わりを持って生活を送っていると思います。人間関係を良好にするためには、当然、相手とのコミュニケーションが必要不可欠です。コミュニケーションを上手に取るためには、送り手から受け手に情報をきちんと伝達することが重要になります。受け手が他者になることもあれば、自分自身になることもあります。この授業では、身体活動やスポーツ活動を通じて、他者や自己に対するコミュニケーションにおける基礎的な知識について学習し、コミュニケーションに対する理解を深め、最終的には自らのコミュニケーションスキルの向上を目指している。

教科書 /Textbooks

基本的に資料配布を行いますので、教科書は特に設けません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーションについて【コミュニケーションとは？】
- 第3回 身体活動やスポーツ活動【コミュニケーションの重要性】
- 第4回 身体活動やスポーツ活動【コミュニケーションの実践】
- 第5回 バーバルコミュニケーション【バーバルコミュニケーションの特徴】
- 第6回 バーバルコミュニケーション【PREP法の実践】
- 第7回 ノンバーバルコミュニケーション【ノンバーバルコミュニケーションの特徴】
- 第8回 ノンバーバルコミュニケーション【ジェスチャー】【目】【身体接触】
- 第9回 ノンバーバルコミュニケーション【対人空間】【バラランゲージ】
- 第10回 ノンバーバルコミュニケーション【ノンバーバルコミュニケーションの実践】
- 第11回 タイプ別にみたコミュニケーションスタイル【自己分析】
- 第12回 タイプ別にみたコミュニケーションスタイル【他者分析】
- 第13回 身体活動を用いたコミュニケーショントレーニング
- 第14回 まとめ
- 第15回 授業内期末テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施
- 2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施
- 3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%、受講態度20%、小レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習においては、教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備えること。
事後学習においては、授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めること。

履修上の注意 /Remarks

身体スポーツ論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

トレーニング論【昼】

担当者名 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	身体の能力向上をめざすトレーニングについて、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	身体の能力向上について、自分に必要なトレーニングについて考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自らの身体の能力向上について問題意識を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

トレーニング論

HSS223M

授業の概要 /Course Description

トレーニングの原則・種類・進め方や基本的なトレーニング方法を学び、安全かつ効果的なトレーニング計画の作成ができる知識を身に付ける。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な資料等は配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション トレーニングとは
- 2回 運動器の構造と機能
- 3回 体力とトレーニング
- 4回 トレーニングの条件 トレーニングの原理原則・トレーニングの3条件・健康のためのトレーニングの条件
- 5回 全身持久力のトレーニング
- 6回 筋持久力のトレーニング
- 7回 筋力のトレーニング
- 8回 パワーのトレーニング
- 9回 神経機能のトレーニング 巧緻性・敏捷性・スピード・バランス
- 10回 柔軟性のトレーニング
- 11回 トレーニング効果の測定・評価① 身体組成(レポート①)
- 12回 トレーニング効果の測定・評価② 体力の測定①
- 13回 トレーニング効果の測定・評価③ 体力の測定②(レポート②)
- 14回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 15回 オーバーエクササイズ 身体的側面・精神的側面

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験.. 40% レポート.. 20% 日常の授業への取り組み.. 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行なうこと。

履修上の注意 /Remarks

測定や実習を行う場合がある。
携帯電話の使用・飲食を含め、授業を妨げるような行為には、厳しく対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

トレーニング論【昼】

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

認知心理学に関する文献を講読し、われわれが日々行っている認知についての理解を深める。また、文献講読を通じて、心理学の研究手法、統計方法について学ぶ。さらに、資料のまとめかた、プレゼンテーション、ディスカッションについての技術を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション (授業の進め方、発表の順番決め)
2. 研究倫理 (ねつ造・改ざん・盗用の禁止、人を対象とする研究に関する倫理)
3. 文献検索の方法
4. 文献講読1
5. 文献講読2
6. 文献講読3
7. 文献講読4
8. 文献講読5
9. 文献講読6
10. 文献講読7
11. 文献講読8
12. 文献講読9
13. 文献講読10
14. 文献講読11
15. まとめ (研究計画の作成について)

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 50% ディスカッションへの関与度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は発表資料・発表準備を行うこと。授業後には、その回の内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A - 1 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

まず最初に、社会心理学の古典的文献を含めて基礎的なくつかの論文を講読する。それらの演習を進める中で、理論研究と現実社会における様々な問題との関連を理解することをねらいとする。

到達目標は、社会心理学に関連する諸問題を考察して、実践的な問題との関連をふまえた結論を導き、それを適切に表現できるようになることである。また、他者と協力してゼミ全体がもつ課題を協力的に遂行することも目標である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの決定
 - 2回 先行研究を読む(日本語)
 - 3回 先行研究を読む(日本語)
 - 4回 先行研究を読む(日本語)
 - 5回 先行研究を読む(日本語)
 - 6回 先行研究を読む(英語)
 - 7回 先行研究を読む(英語)
 - 8回 先行研究を読む(英語)
 - 9回 先行研究を読む(英語)
 - 10回 現実社会の問題との関連を議論
 - 11回 現実社会の問題との関連を議論
 - 12回 資料収集と経過発表
 - 13回 資料収集と経過発表
 - 14回 データ分析の練習
 - 15回 データ分析の練習
- 合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である。

日常生活の中で心理学的な問題になりそうな事を挙げておくとい良い。統計の基礎的知識があると理解の助けになると思われる。

履修上の注意 /Remarks

演習 A - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-1 【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

* 人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

主として青年期の心理的特徴や人間関係に関する心理学的研究の文献を講読しながら臨床心理学の理論や知識に関する理解を深めるとともに、心理学的研究の進め方を学ぶ。その後、小グループに分かれてグループ研究（研究テーマの設定、先行研究の講読、研究計画の立案）を進める。また、本演習に所属する学生は、臨床実践感覚を養うために学内外での臨床活動に参加することが求められる。

到達目標は以下の通りである。

- ・ 文献を分析的に読み、課題を明確化したり、結論を導き出すことができる。
- ・ 文献の内容や自分の考えを適切に表現することができる。
- ・ 他者と協力して、研究を計画し実施することができる。

教科書 /Textbooks

心理学研究、心理臨床学研究、青年心理学研究、教育心理学研究、発達心理学研究等の学会誌から各自が興味を持った論文を選ぶ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（演習の進め方、発表の順番決め）
- 2回 研究倫理教育
- 3回～8回 文献購読1（毎回一人が論文をまとめてレジュメを作成・発表）
- 9回～14回 文研講読2（各グループで論文をまとめてレジュメを作成・発表）
- 15回 グループ研究検討会

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 20% 発表 ... 60% 討論への参加度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業で取り上げられる論文を前もって読んで自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、論文とレジュメに目を通して内容に関する理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に、発表担当者は自分が選んだ論文に関してB4サイズ2枚程度でレジュメを作成すること。また、発表担当でない者は、事前に論文を読んで疑問点や批判点を明確にしておくこと。
授業終了後に、論文とレジュメに目を通して内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーでは社会学にする論文を読み、討論を行う。グループワークや学外にて社会調査を行い、学外での研究報告等を実施することがある。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回：研究倫理教育
2回～15回 課題について各自がディスカッションペーパーをまとめ、それをもとに議論を実施する。司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 20% ディスカッションペーパーの提出 50% 議論への積極的参加 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の専門知識・理論の習得状況により、個別の課題を課すこともある。
テキストは必ず精読し、指定された形式でのディスカッションペーパーを準備して出席すること。
トピックとして取り上げ議論した内容について、関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

時間外に学外での調査や実習活動を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。

ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。

人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

人間関係に関する総合的な実践スキルを身につけることが到達目標となる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「研究倫理教育」人間を対象に研究する場合の倫理的な基準やその考え方を学ぶ。

2回 フィールドワークによる調査法と文献の集め方を学ぶ

3回～15回

3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。

卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人に失礼でしょ？

ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%

各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

演習 A-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんを刺激していきます。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習 A-1 【昼】

担当者名 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、卒業論文執筆を最終的な目標として、個人/グループで専門的研究を行う。各自が執筆のテーマを決定し、計画的に執筆を進めることができるように、まずは文献の読解と個人発表を行う。ゼミではこの個人発表とその後のディスカッションを通じて研究の質を高める。1学期では主にジェンダー/女性学を中心に基礎研究を進める。このゼミでは「ジェンダー」をメインテーマに、「医療」をサブテーマにして、現代社会におけるさまざまな問題を考察する予定だが、その他、広い社会的関心に基づくテーマ設定も可能である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。随時、必要な文献や資料を授業中に紹介、あるいはプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下記以外にも随時受講生の興味に沿って提示する。

○江原由美子編(1996)『生殖技術とジェンダー-フェミニズムの主張(3)』勁草書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに
各自自己紹介を兼ねて興味のあるテーマについて共有する。輪読担当者を決定する。発表の方法について説明する。
2. 課題論文 / 課題書輪読
3. 課題論文 / 課題書輪読
4. 課題論文 / 課題書輪読
5. 課題論文 / 課題書輪読
6. 課題論文 / 課題書輪読
7. 課題論文 / 課題書輪読
8. 各自テーマ発表
9. 個人発表
10. 個人発表
11. 個人発表
12. 個人発表
13. 個人発表
14. 個人発表
15. レポート課題のアウトライン提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(60%), 授業での発表(40%)

演習 A - 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当箇所だけでなく、毎回の課題図書 / 論文を精読し、授業内でのディスカッションに備える。
また、授業後は、各回のテーマを自分なりにまとめ、個人研究に反映させる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学、医療社会学、ジェンダー、セクシュアリティ、女性学

演習 A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

社会福祉的援助を必要としている人々が抱える生活問題を、現実の諸問題から謙虚に学び取っていくことによって、科学的社会観と科学的人間観を身につけていくことを授業のねらいとする。
この授業は3年生1学期に開講となるが、内容としては社会福祉とその周辺領域の基本的な文献を学習し、個人と集団、社会のあり方について理解を深める。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 レポート、論文の記述方法
- 3回 研究倫理教育
- 4回 文献学習
- 5回 文献学習
- 6回 文献学習
- 7回 文献学習
- 8回 文献学習
- 9回 文献学習
- 10回 文献学習
- 11回 文献学習
- 12回 文献学習
- 13回 文献学習
- 14回 文献学習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加（議論の内容、司会進行など）態度（30%）、報告内容（40%）、レポート（30%）
学生それぞれが自らの考えを積極的に提示しているかを積極的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献学習が中心となるので事前学習としては、全員が指定する文献を精読し、担当者は発表用のレジュメを作成すること。事後学習は指定する文献から興味関心を広げ、多様な領域の文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず無遅刻で出席し、担当部分のレポートによる報告をおこなうこと
夏季休暇中（9月下旬）に宿舎を行い、卒業論文に接近するための文献・資料について討議する。

演習 A - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達、集団、少年期、青年期、自己肯定感、自立

演習 A - 1 【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本授業は、教育心理学や環境心理学等を土台としながら、子どもを取り巻く環境に関する諸問題について、理解を深めるものである。前半は、現代の子どもたちがおかれている環境について、中でも子どもが過ごす「場」（遊び場、居場所、子育て支援、学童保育等）について、幅広く知識を得る。後半には、質的研究の基礎に関する文献購読を行う。それらと並行して、子どもの「場」へのフィールドワークも行う。

到達目標は以下のとおりである。

- 1) 現代の子どもを取り巻く環境の現状と課題について説明できる。
- 2) 放課後の子どもが過ごす場の多様性について述べることができる。
- 3) 質的研究と量的研究の違いについて説明できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
テーマが決まり次第、必要に応じて紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生が選択するテーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション（顔合わせ・それぞれの関心事共有）
- 第2回：研究倫理教育
- 第3回：各自の関心事についての発表1
- 第4回：各自の関心事についての発表2
- 第5回：「子どもと環境」に関する資料整理及び発表1
- 第6回：「子どもと環境」に関する資料整理及び発表2
- 第7回：子どもの「場」へのフィールドワーク1
- 第8回：「子どもと環境」に関する資料整理及び発表3
- 第9回：「子どもと環境」に関する資料整理及び発表4
- 第10回：子どもの「場」へのフィールドワーク2
- 第11回：質的研究に関する文献購読1
- 第12回：質的研究に関する文献購読2
- 第13回：質的研究に関する文献購読3
- 第14回：各自の研究テーマについて発表1
- 第15回：各自の研究テーマについて発表2

* 必要に応じて、別途授業及びフィールドワークを実施することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表50%
授業への参加度・貢献度50%

演習 A-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業で扱うテーマや発表資料について予習し、自身の発表時には資料をまとめてくること。(必要な学習時間の目安は、授業内容の予習時は60分、自身の発表時には120分)

事後学習として、その授業の内容を自分なりにまとめ、今後の自身の発表にいかせるよう整理しておくこと。(必要な学習時間の目安は90分)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「子ども」を議論の中心に据え、受講生同士で協同しながら、チームとしてより良い研究を育てていきましょう。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは大きくは次の二点である。

- 臨床教育学をめぐる問題をテキストの講読を通して検討していく。
本年度は、愛着スタイルや愛着障害の問題とそこから生じる「内的ワーキングモデル」やスキーマの問題を自分自身の課題とも関連づけながら検討する。
- 認知行動療法、対人関係療法、スキーマ療法などの心理療法の理論や技法について、文献やDVD、具体的なロールプレイ実習などを踏まえて実践的に学習する。そのことを通じて、対人援助の基本的な理論と援助スキルの修得をめざす。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献については参加者と相談のうえ決定する。

一昨年度は、岡田尊司著「愛着アプローチ」、伊藤絵美著「事例で学ぶ認知行動療法」(誠信書房)、水島広子「対人関係療法入門」などとテキストとして使用した。昨年度は伊藤絵美著「自分でできるスキーマ療法」(誠信書房)をテキストとして使用した。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加学生の興味・関心に合わせて指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 問題意識の交流とゼミ計画の話し合い
- 2回 研究倫理について
- 3回 カウンセリングの基礎的な実習 その1
- 4回 カウンセリングの基礎的な実習 その2
- 5回 文献購読 その1
- 6回 文献購読 その2
- 7回 文献購読 その3
- 8回 文献購読 その4
- 9回 文献購読 その5
- 10回 文献購読 その6
- 11回 見学実習(乳児院他)
- 12回 文献購読 その7
- 13回 文献購読 その8
- 14回 文献購読 その9
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

演習 A-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献購読のテキストは発表以外のときにも必ず読み込んで、LINEのノートに事前に感想を記載すると同時、当日、自分の意見を言えるようにしておくこと。

強制ではないが、可能であれば、実践現場でのフィールドワークの場をどこかに持ってほしい。

履修上の注意 /Remarks

欠席する場合には必ず連絡すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

愛着スタイル、カウンセリングスキル、認知行動療法、スキーマ療法

演習 A - 1 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題とします。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題をpushした上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討します。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていきます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。

それぞれのテーマに基づいて、

1：ガイダンス、2：政策や制度の変容と課題、3：実践や実態の動向と課題、4：論点整理、5：まとめと進めていきます。

第1回 研究倫理教育

第2回～第5回 「自分づくりの危機」の時代といわれる今日の課題について教育学的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深めていきます。

第6回～第10回 子どもから成人にわたる教育の論理（学習過程の独自性）について検討を行う。

第11回～第15回 生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。

授業時間以外に、フィールドワークや調査を行います。（ゼミ合宿やボランティア参加）

成績評価の方法 /Assessment Method

演習テーマの取り組みと発表...70% 討論・調査・実践活動への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、テーマについて、ネットだけでなく、専門雑誌や専門書も含めて調べ、自分なりの論点を持つてのぞむこと。

事後は、説明や討議した内容について、まとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくこととゼミの内容が深まります。

演習 A - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

概要

教育や子ども・若者に関する文献の検討や様々な教育問題の討論等を通して、教育学の基礎的な知識の習得や研究の仕方などを学ぶ。

目標

これまで獲得した専門的知識や研究法の基礎スキルをもとに

- ①教育の諸課題を多角的に考えることができる。
- ②教育の諸課題について自らの考えを表現できる。
- ③教育の諸課題を研究する方法をさらに習得し、それを実践できる。
- ④グループによって課題に望む際には、協力し合って進められる。

教科書 /Textbooks

文献、テーマ等は初回に提示する。
必要に応じて、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
 - 2回 テーマ学習(1)【子ども・若者】
 - 3回 面接調査(1)【質問事項の精査】
 - 4回 面接調査(2)【聴き取りの手法】
 - 5回 デイバート【子ども・若者問題】
 - 6回 文献検討(1)【子ども・若者】
 - 7回 文献検討(2)【子ども・若者と教育】
 - 8回 文献検討(3)【教育問題】
 - 9回 文献検討(4)【学校問題】
 - 10回 文献検討(5)【過去のゼミ生卒論から①】
 - 11回 文献検討(6)【過去のゼミ生卒論から②】
 - 12回 テーマ学習(2)【教育に関する現代的テーマ】
 - 13回 フィールドワーク(1)【事前学習】
 - 14回 フィールドワーク(2)【視点をもった観察】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%

演習 A-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本及び世界の教育に関する動きに関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジюме・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は学生の皆さん自身が積極的に関わることで更に豊かな学びとなります。
共に学びあいましょう。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

近年、健康で豊かな生活を送るために、子どもから高齢者に至るまで生涯を通して運動やスポーツを行うことが広く推奨されています。皆さんの中にも、運動やスポーツを実施することでモヤモヤした気持ちや気分がすっきりしたり高揚感が得られたりするといった経験をしたことがある人もいるかと思います。あるいは運動やスポーツの経験を通じて人間的に成長したことを感じている人もいるのではないかと思います。では、なぜ運動やスポーツをすると人は気持ちや気分がすっきりしたり、人間的な成長を感じたりするのでしょうか？このゼミでは、「スポーツ」や「健康」をテーマにし、特に人間の心理がどのように運動やスポーツと関わっているのかについて理論や実践を通じて科学的に探求していきたいと考えています。

教科書 /Textbooks

学生の関心領域に合わせて選択する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループへテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス，連絡網の作成
- 2回 科学的研究の方法論（ 1 ）
- 3回 科学的研究の方法論（ 2 ）
- 4回 文献の探し方
- 5回 文献購読①
- 6回 文献購読②
- 7回 文献購読③
- 8回 文献購読④
- 9回 グループ研究のテーマと研究内容
- 10回 グループ研究の資料収集
- 11回 グループ研究発表の資料作り
- 12回 グループ研究発表①
- 13回 グループ研究発表②
- 14回 グループ研究発表③
- 15回 ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、次週行うテーマについての課題を与えるので、文献収集などの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

演習 A - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、健康科学、身体適応論などで学習した内容をもとに、健康の保持増進や体力の向上、さらにはスポーツ競技選手の直面する諸問題などを受講生の興味や関心にあわせて取り上げ、理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究倫理教育
- 3回 健康に関する諸問題について (1)
- 4回 健康に関する諸問題について (2)
- 5回 スポーツ実施者の直面する諸問題について (1)
- 6回 スポーツ実施者の直面する諸問題について (2)
- 7回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (1)
- 8回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (2)
- 9回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (3)
- 10回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (4)
- 11回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (5)
- 12回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (6)
- 13回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (7)
- 14回 生涯スポーツについての関連領域をまとめ、プレゼンテーション (8)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

健康に関するプレゼンテーション資料を作成し、その諸問題について考えをまとめてくること

履修上の注意 /Remarks

各自、興味のあるテーマについてまとめ、発表する。発表者以外も疑問点などをしっかり質問をする。

演習 A - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

自然人間関係学は、様々な自然環境と、その自然環境を創る（または自然環境によって創られる）文化的社会的構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって自然環境と文化的社会的環境の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 調査研究の方法と研究倫理
- 3回 論文・文献収集と講読
- 4回 論文・文献収集と講読
- 5回 論文・文献収集と講読
- 6回 現地調査計画
- 7回 現地調査計画
- 8回 現地調査
- 9回 現地調査
- 10回 現地調査
- 11回 現地調査のまとめ
- 12回 現地調査のまとめ
- 13回 現地調査のまとめ
- 14回 現地調査計画
- 15回 現地調査計画

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

演習 A - 1 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

発達心理学に関する文献購読を通して、コミュニケーション能力や社会性、母子関係や仲間づくりなど、ひとの発達現象について心理学の視点から理解を深める。同時に、研究論文の書き方、データの収集の方法、統計的分析についても学習を深める。また、教育支援活動や臨床活動に継続的に参加し、実践的、主体的に学ぶことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献講読では発達心理学に関連するものを受講者自身が準備し発表を行う。
また、文献講読の内容を踏まえグループ研究のテーマ検討を行う。
その他、学外での実践活動についての検討会やゼミ合宿を行う。

第1回 オリエンテーション
○文献を探す際のキーワード例
母子関係、愛着、共同注意、心の理論、言語発達、育児ストレス、発達障害（自閉性障害、学習障害、精神遅滞、ADHD・・・）、発達援助、など

第2回 文献講読1
第3回 文献講読2
第4回 文献講読3
第5回 文献講読4
第6回 実践活動検討1
第7回 文献講読5
第8回 文献講読6
第9回 文献講読7
第10回 文献講読8
第11回 実践活動検討2
第12回 グループ研究1（研究テーマの検討）
第13回 グループ研究2（研究テーマの検討）
第14回 グループ研究3（研究テーマの検討）
第15回 研究倫理教育

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は文献・資料等事前準備を行うこと。また、授業終了後には内容・議論について各自復習すること。

演習 A - 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 松本 亜紀 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

認知心理学に関するテーマについてグループ研究を行う。
各自で作成した研究計画書を持ち寄り、グループ研究のテーマを決定する。その後、グループで改めて研究計画を検討し、実験実施準備、実験の実施、データ分析、レポート作成を行う。最後に研究発表会を行う。
これらの活動を通して、卒業研究に必要な方法論や技術を修得するとともに、他者と協力するコミュニケーション能力を身に付けることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション、研究計画発表 1
2. 研究計画発表 2、グループ分けと研究テーマ決め
3. グループ研究 (研究計画作成と実施準備 1)
4. グループ研究 (研究計画作成と実施準備 2)
5. グループ研究 (研究計画作成と実施準備 3)
6. 経過報告会 1
7. グループ研究 (データ収集と分析 1)
8. グループ研究 (データ収集と分析 2)
9. グループ研究 (データ収集と分析 3)
10. グループ研究 (データ収集と分析 4)
11. 経過報告会 2
12. グループ研究 (レポート作成 1)
13. グループ研究 (レポート作成 2)
14. 研究発表会 1
15. 研究発表会 2

成績評価の方法 /Assessment Method

グループ研究への関与度、授業における発表内容、授業態度を総合的に評価 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には授業時間内で研究内容を検討できるよう、資料を準備し、議論したいことをまとめておくこと。
授業後には授業時間内に受けたコメントを検討し、研究を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業の時間だけでなく、その他の時間を利用して自主的に研究を進めること。

演習 A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

各グループで社会心理学的問題の一つずつとりあげ、仮説構成、実験や調査の計画、データ分析、結果と考察の発表、討議を行う予定である。到達目標は、社会心理学に関連する諸問題を考察して、実践的な問題との関連をふまえた結論を導き、それを適切に表現できるようになることである。また、他者と協力してゼミ全体がもつ課題を協力的に遂行することも目標である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループ分けと研究テーマの決定
 - 2回 先行研究を読む（日本語）
 - 3回 先行研究を読む（日本語）
 - 4回 先行研究を読む（日本語）
 - 5回 先行研究を読む（英語）
 - 6回 先行研究を読む（英語）
 - 7回 先行研究を読む（英語）
 - 8回 先行研究を読む（英語）
 - 9回 実験・調査の計画・実施
 - 10回 実験・調査の計画・実施
 - 11回 実験・調査の計画・実施
 - 12回 データ分析
 - 13回 データ分析
 - 14回 データ分析
 - 15回 発表
- 合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である。
日常生活の中で心理学的な問題になりそうな事を挙げておくと良い。統計の基礎的知識があると理解の助けになると思われる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

前半は、臨床心理学の実践について理解を深めるために、文献講読を行う。後半は、1学期からのグループ研究を進めていく。具体的には、収集されたデータの分析、研究発表資料の作成・発表を行い、心理学研究の進め方を体験的に学び、卒業論文作成のための基礎力をつける。また、本演習に所属する学生は、臨床実践感覚を養うために学内外での臨床活動に参加することが求められる。

到達目標は以下の通りである。

- ・ 文献を分析的に読み、課題を明確化したり、自分の見解を導き出すことができる。
- ・ 文献の内容や自分の考えを適切に表現することができる。
- ・ 他者と協力して、研究を計画し実施することができる。

教科書 /Textbooks

授業開始時に指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (演習の進め方、発表の順番決め)
- 2回～10回 文献購読
- 11回～14回 グループ研究の検討
- 15回 グループ研究発表 (卒業論文発表との合同による)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 20% 発表・討論への参加度 ... 30% グループ研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業で取り上げられる箇所を前もって読んで自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、レジュメに目を通して内容に関する理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

専門書講読の授業開始前に、発表担当者はレジュメを作成すること。また、それ以外の者も事前に読んでおいて疑問点や批判点を明確にし、「輪読メモ」を作成すること。
授業終了後に、レジュメに目を通しながら内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。セミナーでは社会学にする論文を読み、討論を行う。グループワークや学外にて社会調査を行い、学外での研究報告等を実施することがある。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回：研究倫理教育
2回～15回 課題について各自がディスカッションペーパーをまとめ、それをもとに議論を実施する。司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 20% ディスカッションペーパーの提出 50% 議論への積極的参加 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の専門知識・理論の習得状況により、個別の課題を課すこともある。
テキストは必ず精読し、指定された形式でのディスカッションペーパーを準備して出席すること。
トピックとして取り上げ議論した内容について、関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

時間外に学外での調査や実習活動を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

人間関係に関する総合的な実践スキルを身につけることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回

3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人に失礼でしょ。

ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんを刺激していきます。

演習 A-2 【昼】

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習 A-2 【昼】

担当者名 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、卒業論文執筆を最終的な目標として、個人 / グループで専門的研究を行う。各自が執筆のテーマを決定し、計画的に執筆を進めることができるように、まずは文献の読解と個人発表を行う。ゼミではこの個人発表とその後のディスカッションを通じて研究の質を高める。2学期は各受講生の興味に沿ったテーマをもとに基礎研究を進める。
このゼミでは「ジェンダー」をメインテーマに、「医療」をサブテーマにして、現代社会におけるさまざまな問題を考察する予定だが、その他、広い社会的関心に基づくテーマ設定も可能である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。随時、必要な文献や資料を授業中に紹介、あるいはプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下記以外にも随時受講生の興味に沿って提示する。

○江原由美子編 (1996) 『生殖技術とジェンダー-フェミニズムの主張 (3)』 勁草書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 課題レポートの発表、ディスカッション
2. 課題レポートの発表、ディスカッション
3. 課題レポートの発表、ディスカッション
4. 課題論文 / 課題書輪読
5. 課題論文 / 課題書輪読
6. 課題論文 / 課題書輪読
7. 課題論文 / 課題書輪読
8. 課題論文 / 課題書輪読
9. 個人発表
10. 個人発表
11. 個人発表
12. 個人発表
13. 個人発表
14. 個人発表
15. レポート課題のアウトライン提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (60%) , 授業での発表 (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当箇所だけでなく、毎回の課題図書 / 論文を精読し、授業内でのディスカッションに備える。
また、授業後は、各回のテーマを自分なりにまとめ、個人研究に反映させる。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学、医療社会学、ジェンダー、セクシュアリティ、女性学

演習 A-2 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

社会福祉的援助を必要としている人々が抱える生活問題を、現実の諸問題から謙虚に学び取っていくことによって、科学的社会観および科学的人間観と、援助の際に必要な発達観を身につけていくことを授業のねらいとする。
この授業は3年生2学期に開講となるが、内容としては社会福祉的援助のあり方を中心として、現在の社会福祉問題を研究する。個々人の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。

教科書 /Textbooks

1学期の最後の授業で指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献学習
- 3回 文献学習
- 4回 文献学習
- 5回 文献学習
- 6回 文献学習
- 7回 文献学習
- 8回 文献学習
- 9回 文献学習
- 10回 文献学習
- 11回 文献学習
- 12回 文献学習
- 13回 個別研究テーマの設定
- 14回 個別研究テーマの設定
- 15回 個別研究テーマの設定

成績評価の方法 /Assessment Method

参加（議論の内容、司会進行など）態度（30%）、報告内容（40%）、レポート（30%）
学生それぞれが自らの考えを積極的に提示しているかを積極的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

2学期も文献学習が中心となるが、現代の社会福祉問題に接近することができるような資料も合わせて使用する。そのため事前学習としてはテレビ、新聞等で取り上げられる社会福祉問題やその周辺領域の問題に関して資料収集をすること。事後学習としては社会福祉問題やその周辺領域の問題に関する文献を多く読むこと。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

社会福祉の諸問題に関して総論的に学習を進め、4年生からの卒業研究に関するテーマ設定の準備を行う。2学期が終了する春休みには合宿を行い、卒業論文のためのテーマ設定を行う。社会福祉の現場などにもでかけ、フィールドワークをおこないたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会問題、生活問題、社会的孤(個)立、自立、社会的包摂、社会的排除

演習 A-2 【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本授業では、教育心理学や環境心理学等を土台としながら、子どもを取り巻く環境に関する諸問題について理解を深め、自身の研究テーマを見出すことを通して、卒業論文の土台をつくることを目指す。前半は、自身の研究テーマに関する先行研究を整理し、「問い」を明らかにしていく。後半には、質的研究の手法に関する文献購読を行う。それらと並行して、メインとなる「場」へのフィールドワークを開始する。

到達目標は以下のとおりである。

- 1) 自身の研究テーマを、先行研究との関連性の中で説明できる。
- 2) 先行研究の整理の仕方を身につけている。
- 3) フィールドエントリーの重要性について説明できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
テーマが決まり次第、必要に応じて紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生が選択するテーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：各自の研究テーマ紹介 1
- 第2回：各自の研究テーマ紹介 2
- 第3回：先行研究の整理・発表 1
- 第4回：先行研究の整理・発表 2
- 第5回：先行研究の整理・発表 3
- 第6回：先行研究の整理・発表 4
- 第7回：質的研究に関する文献購読 1
- 第8回：質的研究に関する文献購読 2
- 第9回：質的研究に関する文献購読 3
- 第10回：グループ発表準備（先行研究整理・フィールドワーク等） 1
- 第11回：グループ発表準備（先行研究整理・フィールドワーク等） 2
- 第12回：グループ発表
- 第13回：卒業論文に向けての検討 1
- 第14回：卒業論文に向けての検討 2
- 第15回：卒業論文に向けての検討 3

* 必要に応じて、別途授業及びフィールドワークを実施することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表50%
授業への参加度・貢献度50%

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業で扱うテーマや発表資料について予習し、自身の発表時には発表資料をまとめておくこと。(必要な学習時間の目安は、授業時は60分、自身の発表時には120分)

事後学習として、その授業の内容を整理し、今後の自身の発表にいかせるようにまとめておくこと。(必要な学習時間の目安は60分)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「子ども」を議論の中心に据え、受講生同士で協同しながら、チームとしてより良い研究を育てていきましょう。

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは大きくは次の二点である。

1. 一学期に引き続き、臨床教育学に関する諸問題について、テキストを購読しつつ考察していく。
2. 対人関係療法、スキーマ療法などの心理療法の理論や技法について、文献やDVD、具体的なロールプレイ実習などを踏まえて実践的に学習する。そのことを通じて、対人援助の基本的な理論と援助スキルの修得をめざす。
3. 来年度の卒業論文執筆に向けての論文構想の発表と指導を行う。また、四年生の卒論発表会に参加し、質問やコメントを行い、来年度の卒論執筆に向けての展望を持てるようにする。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献については参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の興味・関心に合わせて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献購読 その1
- 3回 文献購読 その2
- 4回 文献購読 その3
- 5回 文献購読 その4
- 6回 文献購読 その5
- 7回 文献購読 その6
- 8回 文献購読 その7
- 9回 見学実習（少年支援室など）
- 10回 見学実習（乳児院など）
- 11回 卒業論文構想発表 1
- 12回 卒業論文構想発表 2
- 13回 卒業論文構想発表 3
- 14回 卒業論文構想発表 4
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70% 期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献購読のテキストは発表以外のときにも必ず読み込んで参加し、自分の意見を言えるようにしておくこと。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題とします。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題をpushした上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討します。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていきます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。
1: ガイダンス、2: 政策や制度の変容と課題、3: 実践や実態の動向と課題、4: 論点整理、5: まとめと進めていきます。

第1回 研究倫理教育

第2回～第5回 地域における教育の構造や、その連関について理解を深めます。

第6回～第10回 NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行います。

第11回～第15回 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討します。

授業時間以外に、フィールドワークや調査を行います。(ゼミ合宿やボランティア参加)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論、調査、実践活動への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、テーマについて、ネットだけでなく、専門雑誌や専門書も含めて調べ、自分なりの論点を持つてのぞむこと。
事後は、説明や討議した内容について、まとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくこととゼミの内容が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

概要

演習A-1での成果や課題をふまえ、教育や子ども・青年に関する文献の検討や様々な教育問題の討論等を通して、教育学の基礎的な知識の習得や研究の仕方などを学ぶ。

目標

演習A-1での成果や課題をふまえ

- ①教育の諸課題を多角的に考え、深めることができる。
- ②教育の諸課題について自らの考えを表現できる。
- ③教育の諸課題を検討する方法を吟味し、それを実践できる。
- ④グループによって課題に望む際には、協力し合って進められる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文献、テーマ等は初回に提示する。
必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODククション
 - 2回 討論形態について学ぶ(1)【バズセッション】
 - 3回 討論形態について学ぶ(2)【ワールドカフェ】
 - 4回 デイバート 【教育に関する現代的テーマ】
 - 5回 文献検討(1)【子ども・若者】
 - 6回 文献検討(2)【子ども・若者と教育】
 - 7回 卒論中間発表 【研究目的・方法の学習】
 - 8回 文献検討(3)【海外の子ども・若者(欧米)】
 - 9回 文献検討(4)【海外の子ども・若者(アジア)】
 - 10回 文献検討(5)【海外の教育(アジア)】
 - 11回 文献検討(6)【海外の教育(アジア)】
 - 12回 テーマ学習 【教育に関する現代的テーマ】
 - 13回 課題意識検討会【研究テーマへの接近】
 - 14回 卒論発表会 【研究成果のわかちあい】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本及び世界の教育に関する動きに関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
「自分のテーマ」を見つけ、そのテーマに関する資料等をもとにプレゼンテーションを行うので、
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分自身が深めたい研究テーマは何か、じっくりと考えていきましょう。

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

近年、健康で豊かな生活を送るために、子どもから高齢者に至るまで生涯を通して運動やスポーツを行うことが広く推奨されています。皆さんの中にも、運動やスポーツを実施することでモヤモヤした気持ちや気分がすっきりしたり高揚感が得られたりするといった経験をしたことがある人もいるかと思います。あるいは運動やスポーツの経験を通じて人間的に成長したことを感じている人もいるのではないかと思います。では、なぜ運動やスポーツをすると人は気持ちや気分がすっきりしたり、人間的な成長を感じたりするのでしょうか？このゼミでは、「スポーツ」や「健康」をテーマにし、特に人間の心理がどのように運動やスポーツと関わっているのかについて理論や実践を通じて科学的に探求していきたいと考えています。

教科書 /Textbooks

学生の関心領域に合わせて選択する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループへテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 各自で関心のある領域・テーマを見つける①
- 2回 各自で関心のある領域・テーマを見つける②
- 3回 文献購読①
- 4回 文献購読②
- 5回 文献購読③
- 6回 文献購読④
- 7回 グループ研究のテーマ選定と研究内容
- 8回 グループ研究の資料収集
- 9回 グループ研究の調査用紙作成①
- 10回 グループ研究の調査用紙作成②
- 11回 グループ研究の調査
- 12回 グループ研究のデータの打ち込み
- 13回 グループ研究のデータの編集および分析
- 14回 グループ研究の結果および考察
- 15回 ふりかえりと4年生に向けての準備

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、次週行うテーマについての課題を与えるので、文献収集などの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

演習 A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、健康科学、身体適応論などで学習した内容をもとに、健康の保持増進や体力の向上、さらにはスポーツ競技選手の直面する諸問題などを受講生の興味や関心にあわせて取り上げ、理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 科学研究の方法論(1)
- 3回 科学研究の方法論(2)
- 4回 文献の探し方(1)
- 5回 文献の探し方(2)
- 6回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(1)
- 7回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(2)
- 8回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(3)
- 9回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(4)
- 10回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(5)
- 11回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(6)
- 12回 健康スポーツについての文献をまとめ、プレゼンテーション(7)
- 13回 卒業論文のテーマ選定
- 14回 卒業論文の方法論の決定
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

健康に関する文献をまとめ、考えをまとめてくること

履修上の注意 /Remarks

各自、興味のあるテーマについてまとめ、発表する。ディスカッションを通して、卒業論文のテーマ選定を考えていく。

演習 A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

自然人間関係学は、様々な自然環境と、その自然環境を創る（または自然環境によって創られる）文化的社会的構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって自然環境と文化的社会的環境の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 調査研究の方法と研究倫理
- 3回 調査研究の分担発表と討論
- 4回 調査研究の分担発表と討論
- 5回 論文講読の分担発表と討論
- 6回 論文講読の分担発表と討論
- 7回 論文講読の分担発表と討論
- 8回 現地調査
- 9回 現地調査
- 10回 現地調査
- 11回 調査研究の分担発表と討論
- 12回 調査研究の分担発表と討論
- 13回 調査研究の分担発表と討論
- 14回 調査研究の分担発表と討論
- 15回 調査研究の分担発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献、論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

演習 A-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

発達心理学に関する研究テーマに従い、グループ演習を行う。コミュニケーション発達、母子関係など各グループでテーマを設定し、研究計画作成、データ収集・分析、研究レポート作成と研究実施における一連の手続きの学習を目的とする。また、学期最後には研究成果について発表会を行う。

また、教育支援活動や臨床活動に継続的に参加し、実践的、主体的に学ぶことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー1
- 第3回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー2
- 第4回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー3
- 第5回 グループ研究：研究計画作成・関連研究のレビュー4
- 第6回 実践活動検討1
- 第7回 グループ研究：データ収集・分析1
- 第8回 グループ研究：データ収集・分析2
- 第9回 グループ研究：データ収集・分析3
- 第10回 グループ研究：データ収集・分析4
- 第11回 実践検討活動2
- 第12回 グループ研究：研究レポート作成1
- 第13回 グループ研究：研究レポート作成2
- 第14回 研究発表会1
- 第15回 研究発表会2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は文献・資料等事前準備を行うこと。また、授業終了後には内容・議論について各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 松本 亜紀 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文のテーマ設定、文献研究、研究計画作成、データ収集、データ整理、卒業論文執筆を行うため、認知心理学的研究の知識と実践的方法を学ぶ。授業の中で各自の研究経過を発表し、議論しながら研究を進めていく。

到達目標は以下の通りである。

- ・ 文献を引用しながら、論理的に仮説設定や考察を行うことができる。
- ・ 研究倫理を踏まえた上で、研究目的に合致した妥当な研究計画を立てることができる。
- ・ 適切な方法でデータの整理を行うことができる。
- ・ 論理的なプレゼンテーションおよび文章作成ができる。
- ・ 他者のプレゼンテーションや論文を適切に分析し、意見を述べるることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション (授業の進め方と全体的な研究スケジュールの確認)
2. 研究テーマの発表と議論
3. 研究テーマの発表と議論
4. 研究テーマの発表と議論
5. 研究進捗状況の発表と議論
6. 研究進捗状況の発表と議論
7. 研究進捗状況の発表と議論
8. 研究進捗状況の発表と議論
9. 研究進捗状況の発表と議論
10. 研究進捗状況の発表と議論
11. 研究進捗状況の発表と議論
12. 研究進捗状況の発表と議論
13. 研究進捗状況の発表と議論
14. 研究進捗状況の発表と議論
15. 研究進捗状況の発表と議論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表20%、文献・実験研究50%、平素の総合評価30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には授業時間内で研究内容を検討できるよう、資料を準備し、議論したいことをまとめておくこと。
授業後には授業時間内に受けたコメントを検討し、研究を進めること。

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業時間中は議論の時間であるので、卒業論文の作成に関わる実質的な活動は授業時間外に行うことになる。授業時間にとられず、積極的に活動することが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成の準備と、途中経過を発表し、議論に加わることで互いの研究を深めることがねらいである。到達目標は、社会心理学に関連する諸問題を考察して、実践的な問題との関連をふまえた結論を導き、それを適切に表現できるようになることである。また、他者と協力してゼミ全体がもつ課題を協力的に遂行することも目標である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究倫理教育
 - 2回 研究の基礎
 - 3回 各自の研究テーマ発表、議論
 - 4回 各自の研究テーマ発表、議論
 - 5回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 6回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 7回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 8回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 9回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 10回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 11回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 12回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 13回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 14回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 15回 各自の研究進捗状況発表、議論
- 合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である。卒業論文の作成と平行してはじめて発表が可能になるので、各自がテーマをもって研究を進めていかなければならない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業研究に向けて、各自が興味・関心あるテーマを選び、そのテーマに関する国内外の文献研究を進め、討議を通じて問題・仮説の設定を行う。さらに、心理学研究方法を用いてデータの収集、分析を行い、論文にまとめる。

到達目標は以下の通りである。

- ・ 文献を分析的に読み、課題を明確化したり、研究仮説を導き出すことができる。
- ・ 文献の内容や自分の考えを適切に表現することができる。
- ・ 研究を計画し実施することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに沿って適宜個別に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～15回 進め方は以下の通り
- 研究倫理教育
 - 研究テーマの選定
 - 関連する文献の講読、討議
 - 研究計画の立案
 - 研究の実施
 - 研究結果の分析、検討
 - 卒業論文の作成、提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 10% 発表 ... 20% 卒論の内容 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、発表者は卒業論文に関するレジюмеを作成する。
事後学習として、レジюмеに目を通して、内容に関する理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に、発表担当者はレジюмеを作成しておくこと。
授業終了後に、レジюмеに目を通して、内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

演習A-2で発見したテーマについて演習B-1、B-2を通して専門的に研究し、最終的に成果を卒業論文としてまとめます。自らが研究テーマを発見し、その研究方法を開発したのちデータを収集し成果をまとめるという一連の作業のなかで、受講者には問題の発見と解決を自ら行う能力が身に付くことが期待できます。このような能力は、大学での学習だけでなく、社会においても広く応用が可能な能力であり、是非とも身につけておくべきものであると考えています。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は、以下の通りです。

環境と人間の関係性についての問題を発見する能力を習得する。

環境と人間の関係性について分析・検討するための科学的方法を習得する。

環境と人間の関係性について他者に理解できるように自らの考え方を適切に表現できる。

習得した知識や方法を以後の社会実践の中でさらに高め、他者と協力して社会に生かせる能力を取得する。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

菊田千春ほか著「大学生のための論理的に書きプレゼンする技術」東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文をまとめるまでには、おおむね以下のような過程を経ます。

(1)問題発見期(テーマを設定する)(2)解決方法開発期(研究方法を開発する)(3)データ収集期(研究方法に従ってデータを収集する)(4)データ解析期(データに基づいて問題を考察する)(5)総括期(設定した問題について論文としてまとめる)。この演習は、上記の過程の(2)から(3)の段階にあたります。

1回 解決方法の開発1 演習A-2で設定した研究テーマの研究方法を開発する。

2回 解決方法の開発2

3回 解決方法の開発3

4回 解決方法の開発4

5回 テータを収集する1 フィールドワーク、実験、観察等を行う。

6回 テータを収集する2

7回 テータを収集する3

8回 テータを収集する4

9回 テータを収集する5

10回 テータを収集する6

11回 テータを収集する7

12回 中間のまとめ1 得られたデータを整理し討論する

13回 中間のまとめ2

14回 中間のまとめ3

15回 今後の方針の検討

演習B-1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% ゼミ発表の内容 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業での発表にあたっては、ていねいな資料の収集と考察を行い、効果的なプレゼンテーションを準備してください。授業後は、配布された資料に再度目を通して理解を確かなものとし、ノートともに研究資料として使えるよう保存してください。

履修上の注意 /Remarks

研究への積極的な意欲を持ち、自発的に行動できるようになると研究が楽しくなります。また、討論には積極的に参加しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。
セミナーでは社会学にする論文を読み、討論を行う。
学外にて社会調査を行い、学外での研究報告等を実施することがある。
卒業論文に向けた研究計画の報告や全体討論も含む。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：研究倫理教育
 - 2回～12回 指定された文献について全員がディスカッションペーパーを作成し、議論を実施する。
 - 13回～15回 卒業論文の中間報告（個別報告と全体討論）
- 司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 20% ディスカッションペーパーの提出 50% 議論への参加 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の専門知識・理論の習得状況により、個別の課題を課すこともある。
テキストは必ず精読し、指定された形式でのディスカッションペーパーを準備して出席すること。
トピックとして取り上げ議論した内容について、関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

時間外に学外での調査や実習を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。

ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。

人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

人間関係に関する総合的な実践スキルを身につけることが到達目標となる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「研究倫理教育」人間を対象に研究する場合の倫理的な基準やその考え方を学ぶ。

2回 フィールドワークによる調査法と文献の集め方を学ぶ

3回～15回

3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしいまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめる、その成果を卒業論文にまとめる。

卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人に失礼でしょ？

ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%

各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんを刺激していきます。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

この授業は4年生1学期に開講となるが、内容としては社会福祉援助のあり方を中心とした現在の社会福祉問題を、具体的テーマの下、研究する。個人々の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。そのためには障がい者、高齢者、生活困窮者など、当事者が抱える生活現実から真摯に社会福祉要求を学び取っていくことが求められる。そのことが、“書かなければならない”卒論から、“自己実現のための”研究の転換へと私たちを導いてくれることと思う。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 論文執筆作法と研究倫理
- 3回 研究対象の検討
- 4回 研究方法の検討
- 5回 研究方法の検討
- 6回 研究内容の検討
- 7回 研究内容の検討
- 8回 フィールドの検討
- 9回 フィールドの検討
- 10回 フィールドワークの方法の学習
- 11回 フィールドワークの方法の学習
- 12回 フィールドワークの報告と検討
- 13回 フィールドワークの報告と検討
- 14回 フィールドワークの報告と検討
- 15回 個別報告

成績評価の方法 /Assessment Method

参加（具体的な発言にみられる問題意識のあり方）態度（20%）、報告内容（50%）、レポート（30%）
学生それぞれが自らの考えを積極的に提示しているかを積極的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては卒論テーマを確定するための諸資料の収集を行う。事後学習としては卒論テーマに即して諸資料の整理・分類を行う。

履修上の注意 /Remarks

4年生1学期は卒業論文のテーマを個人若しくはグループで設定し、研究計画を考える。卒業論文に必要な諸資料の収集、文献探索、調査の方法についても指導する。夏期休暇中に合宿をおこない、卒業論文の骨子を検討する。
夏期休暇中（9月下旬）に合宿を行い、卒業論文のテーマに即した章立・内容について検討する。

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究方法、調査方法

演習B-1 【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

本授業は、教育心理学や環境心理学等を土台としながら、子どもを取り巻く環境に関する諸問題について、理解を深めるものである。前半は、自身の研究に関連する先行研究を整理するとともに、自身の問いに合わせたフィールドワークを行い続け、リサーチクエスチョンを立ち上げる。後半は、そのリサーチクエスチョンに基づき、フィールドワークをさらに深め、中間発表会に向けての準備とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
テーマが決まり次第、必要に応じて紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。
テーマが決まり次第、必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション（昨年度の振り返り）
- 第2回：研究倫理教育
- 第3回：各自の研究の進捗状況についての発表1
- 第4回：各自の研究の進捗状況についての発表2
- 第5回：各自の研究の進捗状況についての発表3
- 第6回：各自の研究の進捗状況についての発表4
- 第7回：リサーチクエスチョンに関する発表1
- 第8回：リサーチクエスチョンに関する発表2
- 第9回：リサーチクエスチョンに関する発表3
- 第10回：リサーチクエスチョンに関する発表4
- 第11回：卒論中間発表会に向けての発表準備1
- 第12回：卒論中間発表会に向けての発表準備2
- 第13回：卒論中間発表会に向けての発表準備3
- 第14回：卒論中間発表会に向けての発表準備4
- 第15回：卒論中間発表会リハーサル

* 必要に応じて、別途授業及びフィールドワークを実施することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表50%
授業への参加度・貢献度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業で扱うテーマや発表資料について予習し、自身の発表時には資料をまとめてくること。（必要な学習時間の目安は、授業内容の予習時は60分、自身の発表時には120分）
事後学習として、その授業の内容を自分なりにまとめ、今後の自身の発表にいかせるよう整理しておくこと。（必要な学習時間の目安は90分）

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「子ども」を議論の中心に据え、受講生同士で協同しながら、チームとしてより良い研究を育てていきましょう。

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

3年生での一年間の学習成果を踏まえて、卒業論文の執筆に向けての報告と検討を中心にして進める。
そのことを通じて、①一つのテーマについて、先行研究を踏まえて、主観的、恣意的ではなく、論理的、客観的に考える力、② 研究に必要な研究方法(インタビュー、事例検討など)の獲得をはかる。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション — 卒業論文の書き方
- 2回 研究倫理教育
- 3回 卒論構想発表1
- 4回 卒論構想発表2
- 5回 卒論構想発表3
- 6回 卒論構想発表4
- 7回 卒論構想発表5
- 8回 卒論構想発表6
- 9回 卒論構想発表7
- 10回 卒論構想発表8
- 11回 卒論中間報告会
- 12回 卒論構想発表9
- 13回 卒論構想発表10
- 14回 卒論構想発表11
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点100%

なお、11月頃に学科全体で行われる卒論の中間報告会では極力報告できるようにしてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒論執筆に向けて、関連する文献を収集し、その分野の知見を整理すること。
卒論に必要なデータについては早めの収集に心がけること

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

卒業論文の完成に向けての文献の探索、研究方法の明確化を積極的に進めてもらいたい。
卒論の進め方については、演習の時間以外にもどんどん質問をしてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文は大学で学んだことの集大成であり、大学生活を意味づける上で最も大きな意味を持つものです。
「この学科で学んでよかった」、そんな意味づけができるようにがんばってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成の基礎となる研究を行います。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について学び、文献研究などを行いながら、結果を発表し、討議します。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、自分なりの視点を客観的に説明できる力を養います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

理論研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行います。
複数回実施のものは、1回目：ガイダンス・自由討議、2回目：モデル検討・自分の課題への応用検討と進めます。

- 1回～2回 研究倫理教育、理論的な考え方について
- 3回～4回 研究とは何か
- 5回～7回 テーマの設定と課題レポート作成計画の提出
- 8回 先行研究についての文献リストの作成
- 9回～10回 先行研究についての考察
- 11回～12回 分析視点と仮説の設定
- 13回～14回 それらの文章化
- 15回 まとめたものを発表しながら相互に検討・批評

授業時間以外に、フィールドワークや調査を行います。(ゼミ合宿やボランティア参加)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論、調査、実践活動への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、専門雑誌や専門書も含めて調べ、自分なりの見解を持つてのぞむこと。
事後は、説明や討議した内容を活かして、自分なりに再整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくこととゼミの内容が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

課題

演習A-1,A-2での成果や課題をふまえ、子ども・若者と教育に関するテーマ、様々な教育問題の文献の検討や討論等を通して、教育学の専門的知識や研究の仕方などを学ぶ。

目標

演習A-1,A-2での成果や課題をふまえ

- ①教育の諸課題を総合的に考えることができる。
- ②教育の諸課題について自らの考えを効果的に表現できる。
- ③教育の諸課題を検討する効果的な方法を選択し、それを実践できる。
- ④グループによって課題に望む際には、協力し合って進められる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン【研究倫理教育】
- 2回 テーマ学習【子ども・若者】
- 3回 研究計画の検討(1)【研究目的・課題】
- 4回 研究計画の検討(2)【研究方法】
- 5回 研究論文に関わる文献の検討(1)【文献リスト】
- 6回 研究論文に関わる文献の検討(2)【先行研究の整理】
- 7回 研究論文に関わる文献の検討(3)【先行研究の吟味】
- 8回 研究論文に関わる文献の検討(4)【先行研究の批評】
- 9回 研究論文に関わる文献の検討(5)【課題の確定】
- 10回 フィールドワークの報告【観察分析の分かち合い】
- 11回 質問紙調査(1)【ワーディング】
- 12回 質問紙調査(2)【予備調査】
- 13回 研究計画の検討(3)【論文の構成】
- 14回 デイバート【教育に関する時事的テーマ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40%

課題... 60%

演習B-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本及び世界の教育に関する動きに幅広く関心を持ち、様々な情報にアクセスすること。
授業にあたり、配布したレジюме・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究テーマを決め、必要な情報や資料を収集していく段階に来ました。
参加者が互いに刺激しあう演習にしていきましょう。

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

近年、健康で豊かな生活を送るために、子どもから高齢者に至るまで生涯を通して運動やスポーツを行うことが広く推奨されています。皆さんの中にも、運動やスポーツを実施することでモヤモヤした気持ちや気分がすっきりしたり高揚感が得られたりするといった経験をしたことがある人もいるかと思います。あるいは運動やスポーツの経験を通じて人間的に成長したことを感じている人もいるのではないかと思います。では、なぜ運動やスポーツをすると人は気持ちや気分がすっきりしたり、人間的な成長を感じたりするのでしょうか？このゼミでは、「スポーツ」や「健康」をテーマにし、特に人間の心理がどのように運動やスポーツと関わっているのかについて理論や実践を通じて科学的に探求していきたいと考えています。

教科書 /Textbooks

学生の関心領域に合わせて選択する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループへテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業論文のテーマの検討 (1)
- 2回 卒業論文のテーマの検討 (2)
- 3回 卒業論文のテーマの決定
- 4回 卒業論文の方法論の検討 (1)
- 5回 卒業論文の方法論の検討 (2)
- 6回 卒業論文の方法論の検討 (3)
- 7回 卒業論文の方法論の検討 (4)
- 8回 卒業論文の方法論の決定
- 9回 卒業論文に向けてのプレゼンテーション (テーマ, 目的, 方法を中心に)
- 10回 卒業論文の予備実験および予備調査の準備 (1)
- 11回 卒業論文の予備実験および予備調査の準備 (2)
- 12回 卒業論文の予備実験および予備調査実施 (1)
- 13回 卒業論文の予備実験および予備調査実施 (2)
- 14回 卒業論文の予備実験および予備調査のデータ打ち込み
- 15回 卒業論文の予備実験および予備調査のデータ編集および分析

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、次週行うテーマについての課題を与えるので、文献収集などの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、卒業論文作成について、テーマの選定、方法論について考え、実際に調査・測定を実施する

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究倫理教育
- 3回 卒業論文作成について
- 4回 卒業論文のテーマ決定
- 5回 卒業論文の予備調査
- 6回 卒業論文の方法論決定
- 7回 卒業論文の調査
- 8回 卒業論文の調査
- 9回 卒業論文プロポーザル発表
- 10回 データ処理方法について(1)
- 11回 データ処理方法について(2)
- 12回 データ処理方法について(3)
- 13回 図表の書き方(1)
- 14回 図表の書き方(1)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業論文のテーマに関する内容について文献を読んだり考えをまとめてくること

履修上の注意 /Remarks

卒業論文のテーマ決定を行い、なるべく早く調査・測定を実施します。それと同時に、文献研究も同時に行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

自然人間関係学は、様々な自然環境と、その自然環境を創る（または自然環境によって創られる）文化的社会的構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって自然環境と文化的社会的環境の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 卒業論文の計画
- 2回 調査研究の方法と研究倫理
- 3回 調査研究の分担発表と討論
- 4回 調査研究の分担発表と討論
- 5回 現地調査
- 6回 現地調査
- 7回 論文講読の分担発表と討論
- 8回 論文講読の分担発表と討論
- 9回 論文講読の分担発表と討論
- 10回 現地調査
- 11回 現地調査
- 12回 調査研究の分担発表と討論
- 13回 調査研究の分担発表と討論
- 14回 調査研究の分担発表と討論
- 15回 夏休みの調査計画

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献・論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者に理解できるように、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成と並行して、テーマ設定、関連文献の講読、研究計画について議論を行う。
また、教育支援活動や臨床活動に継続的に参加し、実践的、主体的に学ぶことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学生の卒業論文のテーマに沿って、各自の研究テーマや研究計画の検討、先行研究レビューの発表を行う。
その他、学外での実践活動についての検討会やゼミ合宿を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 論文テーマ検討1
- 第3回 論文テーマ検討2
- 第4回 先行研究・文献レビュー1
- 第5回 先行研究・文献レビュー2
- 第6回 実践活動検討1
- 第7回 研究計画検討1
- 第8回 研究計画検討2
- 第9回 研究計画検討3
- 第10回 研究計画検討4
- 第11回 実践活動検討2
- 第12回 卒業論文経過発表1
- 第13回 卒業論文経過発表2
- 第14回 卒業論文経過発表3
- 第15回 卒業論文経過発表4

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は文献・資料等事前準備を行うこと。また、授業終了後には内容・議論について各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

1学期の演習B-1に引き続き、卒業論文に関して文献研究、研究計画作成、データ収集、データ整理、論文執筆を行うため、認知心理学的研究の知識と実践的方法を学ぶ。授業の中で各自の研究経過を発表し、議論しながら研究を進めていく。

到達目標は以下の通りである。

- ・文献を引用しながら、論理的に仮説設定や考察を行うことができる。
- ・研究倫理を踏まえた上で、研究目的に合致した妥当な研究計画を立てることができる。
- ・適切な方法でデータの整理を行うことができる。
- ・論理的なプレゼンテーションおよび文章作成ができる。
- ・他者のプレゼンテーションや論文を適切に分析し、意見を述べることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 各自の進捗状況と今後の研究スケジュール確認
2. 研究進捗状況の発表と議論
3. 研究進捗状況の発表と議論
4. 研究進捗状況の発表と議論
5. 研究進捗状況の発表と議論
6. 研究進捗状況の発表と議論
7. 研究進捗状況の発表と議論
8. 研究進捗状況の発表と議論
9. 研究進捗状況の発表と議論
10. 研究発表の練習
11. 卒業論文中間発表会
12. 研究進捗状況の発表と議論
13. 研究進捗状況の発表と議論
14. 研究発表の練習
15. 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

発表30%、文献・実験研究50%、平素の総合評価20%

演習B-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には授業時間内で研究内容を検討できるよう、資料を準備し、議論したいことをまとめておくこと。
授業後には授業時間内に受けたコメントを検討し、研究を進めること。

履修上の注意 /Remarks

授業時間中は議論の時間であるので、卒業論文の作成に関わる実質的な活動は授業時間外に行うことになる。授業時間にとらわれず、積極的に活動することが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業論文作成の準備と、途中経過を発表し、議論に加わることで互いの研究を深めることがねらいである。到達目標は、社会心理学に関連する諸問題を考察して、実践的な問題との関連をふまえた結論を導き、それを適切に表現できるようになることである。また、他者と協力してゼミ全体がもつ課題を協力的に遂行することも目標である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究発表の練習
 - 2回 研究発表の練習
 - 3回 中間発表
 - 4回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 5回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 6回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 7回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 8回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 9回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 10回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 11回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 12回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 13回 各自の研究進捗状況発表、議論
 - 14回 研究発表の練習
 - 15回 最終発表
- 合宿形式によって行う場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である。卒業論文の作成と平行してはじめて発表が可能になるので、各自がテーマをもって研究を進めていかなければならない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続いて、卒業研究の作成を行う。
到達目標は以下の通りである。
・文献を分析的に読み、課題を明確化したり、研究仮説を導き出すことができる。
・文献の内容や自分の考えを適切に表現することができる。
・研究を計画し実施することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに沿って適宜個別に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 進め方は以下の通り
研究テーマの選定
関連する文献の講読、討議
研究計画の立案
研究の実施
研究結果の分析、検討
卒業論文の作成、提出
15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 ... 10% 発表 ... 20% 卒論の内容 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、発表者は卒業論文に関するレジюмеを作成する。
事後学習として、レジюмеに目を通して、内容に関する理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に、発表担当者はレジюмеを作成しておくこと。
授業終了後に、レジюмеに目を通して、内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

演習B-1で収集したデータや再検討した研究方針に基づいて、さらに深く研究を進め論文としてまとめます。

自らが研究テーマを発見、研究方法を開発したのち、データを収集して成果をまとめるという一連の作業のなかで、受講者には問題の発見と解決を自ら行う能力が身に付くことが期待できます。このような能力は、大学での学習だけでなく、社会において広く応用可能な能力であり、大学在学中に是非とも身につけておくべきものです。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は、以下の通りです。

環境と人間の関係性についての問題を発見する能力を習得する。

環境と人間の関係性について分析・検討するための科学的方法を習得する。

環境と人間の関係性について他者に理解できるように自らの考え方を適切に表現できる。

習得した知識や方法を以後の社会実践の中でさらに高め、他者と協力して社会に生かせる能力を取得する。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。授業の中で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

菊田千春ほか著「大学生のための論理的に書きプレゼンする技術」東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文をまとめるまでの過程はおおむね以下のようになります。

(1)問題発見期(テーマを設定する)(2)解決方法開発期(研究方法を開発する)(3)データ収集期(研究方法に従ってデータを収集する)(4)データ解析期(データに基づいて問題を考察する)(5)総括期(設定した問題について論文としてまとめる) この演習は、この過程のうち(3)から(5)の過程になります。

1回 データを収集する1

2回 データを収集する2

3回 データを収集する3

4回 データを収集する4

5回 データを収集する5

6回 データを収集する6

7回 中間のまとめ データをもとに討論する

8回 中間のまとめ

9回 今後の方針の検討

10回 データを収集する7

11回 データを収集する8

12回 総括1 全体の考察とまとめと論文作成

13回 総括2

14回 総括3

15回 卒論発表会へ向けたプレゼンテーションの作成

演習B-2 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 50% ゼミ発表の内容 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業での発表にあたっては、ていねいな資料の収集と考察を行い、効果的なプレゼンテーションの準備をしてください。授業後は、授業中に作成したノートを整理し、配布された資料に再度目を通して理解を確かなものとしてから、それらを今後の研究資料として使えるよう保存してください。

履修上の注意 /Remarks

研究への積極的な姿勢を持つことが最大の準備です。また、討論には積極的に参加しましょう。それによって、研究へのモチベーションを保つことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

社会学の基本的な考え方を学び、それを応用できる能力を身につけることを授業のねらいとする。
セミナーでは社会学にする論文を読み、討論を行う。
学外にて社会調査を行い、学外での研究報告等を実施することがある。
卒業論文に向けた研究計画の報告や全体討論も含む。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：研究倫理教育
 - 2回～12回 指定された文献について全員がディスカッションペーパーを作成し、議論を実施する。
 - 13回～15回 卒業論文の中間報告（個別報告と全体討論）
- 司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 20% ディスカッションペーパーの提出 50% 議論への積極的参加 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自の専門知識・理論の習得状況により、個別の課題を課すこともある。
テキストは必ず精読し、指定された形式でのディスカッションペーパーを準備して出席すること。
トピックとして取り上げ議論した内容について、関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

時間外に学外での調査や実習を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもっとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

人間関係に関する総合的な実践スキルを身につけることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回
3年時は、予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。3年時後半から4年時前半に、長期調査によって、異文化体験をとおしたあたらしまなざしを身につける。4年時後半は、調査結果をもとに分析と理論化をすすめ、その成果を卒業論文にまとめる。卒業論文の中間発表は、4年次の9月末におこなう。ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときのぞき、ゼミには必ず参加すること、だって発表する人に失礼でしょ。
ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミではわたしはプロデューサーとしてみなさんを刺激していきます。

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

演習B-2 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

この授業は4年生2学期に開講となるが、内容としては社会福祉援助のあり方や、その他社会福祉領域を中心としてゼミ生各人が立てた研究計画の下、卒業論文を作成する。個々人の研究テーマは自由に設定できるが、テーマを設定する際の問題意識を明確に持たなければならない。そのためには障がいのある人、高齢者、生活困窮者など、当事者が抱える生活現実から真摯に社会福祉要求の内容を学び取っていくことが求められる。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション・個別研究テーマの確認
- 2回 論文に関する個別指導
- 3回 論文に関する個別指導
- 4回 論文に関する個別指導
- 5回 論文に関する個別指導
- 6回 論文に関する個別指導
- 7回 論文に関する個別指導
- 8回 論文に関する個別指導
- 9回 論文に関する個別指導
- 10回 論文に関する個別指導
- 11回 論文に関する個別指導
- 12回 論文に関する個別指導
- 13回 論文に関する個別指導
- 14回 論文に関する個別指導
- 15回 論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度（論文に関する学習・調査・研究への取り組み）（30%）、報告内容（40%）、レポート（30%）
学生それぞれが自らの考えを積極的に提示しているかを積極的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては卒業論文の検討を具体的に行うので、進捗状況や論文内容に関するレジユメを作成する。事後学習としては授業中の検討を元に、資料収集や追加的な調査、論文内容の見直し等を行う。

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

個人若しくはグループで設定した卒業論文のテーマを、具体的にまとめていく。卒業論文に必要な諸資料、文献探索の方法についても指導する。夏期休暇中に実施した合宿での卒業論文の骨子を具体化し、論文を作成する。1月下旬に学内で卒業論文報告会を実施し、2月には最後のゼミ合宿に参加して卒業論文の詳細な報告を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

本授業は、教育心理学や環境心理学等を土台としながら、子どもを取り巻く環境に関する諸問題について、理解を深めるものである。前半は、フィールドワーク最終段階とし、自身の研究についての結果と考察をまとめる。後半は、卒業論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
テーマが決まり次第、必要に応じて紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生が選択するテーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション(これまでの振り返り)
- 第2回：研究倫理教育
- 第3回：各自の研究の結果と考察に関する発表1
- 第4回：各自の研究の結果と考察に関する発表2
- 第5回：各自の研究の結果と考察に関する発表3
- 第6回：各自の研究の結果と考察に関する発表4
- 第7回：卒業論文の構成についての発表1
- 第8回：卒業論文の構成についての発表2
- 第9回：卒業論文の構成についての発表3
- 第10回：卒業論文の構成についての発表4
- 第11回：卒業論文の執筆
- 第12回：卒業論文の執筆
- 第13回：卒業論文の執筆
- 第14回：卒業論文の執筆
- 第15回：卒業論文の完成

* 必要に応じて、別途授業及びフィールドワークを実施することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表50%
授業への参加度・貢献度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業で扱うテーマや発表資料について予習し、自身の発表時には資料をまとめてくること。(必要な学習時間の目安は、授業内容の予習時は60分、自身の発表時には120分)

事後学習として、その授業の内容を自分なりにまとめ、今後の自身の発表にいかせるよう整理しておくこと。(必要な学習時間の目安は90分)

履修上の注意 /Remarks

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「子ども」を議論の中心に据え、受講生同士で協同しながら、チームとしてより良い研究を育てていきましょう。

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

1月の卒業論文指導に向けて、前半は構想発表、後半は個人指導を中心に進める。
そのことを通じて、①一つのテーマについて、先行研究を踏まえて、主観的、恣意的ではなく、論理的、客観的に考える力、② 研究に必要な研究方法(インタビュー、事例検討など)の獲得をはかる。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。参考文献は個々の学生に合わせて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の卒論テーマに合わせて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション 研究倫理の確認
- 2回 卒論構想発表 1
- 3回 卒論構想発表 2
- 4回 卒論構想発表 3
- 5回 卒論構想発表 4
- 6回 卒論構想発表 5
- 7回 卒論構想発表 6
- 8回 個別指導
- 9回 個別指導
- 10回 個別指導
- 11回 卒論区中間発表会
- 12回 個別指導
- 13回 個別指導
- 14回 卒業論文発表会
- 15回 卒業論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70点 卒論発表会 30点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

4年間の学びの集大成である卒業論文の完成に向けて、早い段階から執筆作業を始めてほしい。

履修上の注意 /Remarks

2学期は演習の時間以外の個別指導の時間が多くなるので、積極的にアポイントを取り、指導を受けてください。
原則として11月に行われる卒論中間報告会で発表できるように準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成の基礎となる研究を行います。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について、資料や情報の整理、調査研究などを行いながら、結果を発表し、討議します。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、卒論作成につなげます。現代社会における人間の自己教育の到達点、諸活動の課題・可能性について教育的に解明することを課題とします。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実証研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行います。
複数回実施のものは、1回目：ガイダンス・自由討議、2回目：モデル検討・自分の課題への応用検討、(3回目：総括討論)と進めます。
1回～2回 研究倫理教育、実証研究とは何か
3回～4回 テーマの設定と関連活動の情報の収集・整理
5回～7回 課題レポート調査計画の提出
8回 調査活動の実施
9回～10回 調査結果の分析
11回 補足資料、補足調査の実施
12回～13回 それらの文章化
14回 まとめたものを発表しながら相互に検討・批評
15回 調査協力者への報告、提案
授業時間以外に、フィールドワークや調査を行います。(ゼミ合宿やボランティア参加)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業態度と発表...70% 討論、調査、実践活動への参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、専門雑誌や専門書も含めて調べ、自分なりの見解を持つてのぞむこと。
事後は、説明や討議した内容を活かして、自分なりに再整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会問題について関心を持ち、その背景や論点の整理を通じて、自分なりの意見とその根拠を明確にするよう心がけておくとゼミの内容が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

概要

これまでの演習での成果や課題をふまえ、子ども・青年と教育に関するテーマ、様々な教育問題の文献の検討や討論を通して、さらなる教育学の専門的知識を習得し、研究の進め方・まとめ方を学ぶ。

目標

これまで獲得した専門的知識や研究方法をもとに

- ①教育の諸課題を総合的に考え、深めることができる。
- ②教育の諸課題について、自らの考えをより効果的に表現できる。
- ③教育の諸課題を検討するより効果的な方法を選択・吟味し、それを実践できる。
- ④グループによって課題に望む際には、協力し合って進められる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 研究論文完成に向けて【成果に学ぶ】
- 3回 研究論文に関わる発表・討論1【本論・事例研究】
- 4回 研究論文に関わる発表・討論2【本論・質問紙調査】
- 5回 研究論文に関わる発表・討論3【本論・面接調査】
- 6回 研究論文に関わる発表・討論4【本論・テキスト分析】
- 7回 中間まとめ
- 8回 研究論文・中間発表【研究目的・方法、論文構成】
- 9回 研究論文に関わる発表1【論文の仕上げ：キーワード】
- 10回 研究論文に関わる発表2【論文の仕上げ：リライト】
- 11回 研究論文に関わる発表3【論文の仕上げ：最終チェック】
- 12回 研究論文の検討【論文の検討・相互批評】
- 13回 課題意識の検討【研究テーマ接近への支援】
- 14回 研究論文成果の発表【研究成果のわかちあい】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 課題 60%

演習B-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習B-1に続いて、定期的な報告の機会を活用して研究を進め、研究論文をまとめる。
授業に当たり、配布したレジюме・資料をよく読むこと。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学での研究の集大成として卒業論文をまとめあげ、また、それぞれの知的成果をわかちあう時です。
存分に学びましょう。

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

近年、健康で豊かな生活を送るために、子どもから高齢者に至るまで生涯を通して運動やスポーツを行うことが広く推奨されています。皆さんの中にも、運動やスポーツを実施することでモヤモヤした気持ちや気分がすっきりしたり高揚感が得られたりするといった経験をしたことがある人もいるかと思います。あるいは運動やスポーツの経験を通じて人間的に成長したことを感じている人もいるのではないかと思います。では、なぜ運動やスポーツをすると人は気持ちや気分がすっきりしたり、人間的な成長を感じたりするのでしょうか？このゼミでは、「スポーツ」や「健康」をテーマにし、特に人間の心理がどのように運動やスポーツと関わっているのかについて理論や実践を通じて科学的に探求していきたいと考えています。

教科書 /Textbooks

学生の関心領域に合わせて選択する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループへテーマに応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業論文の予備実験および予備調査のプレゼンテーション
- 2回 卒業論文のテーマの再検討および決定
- 3回 卒業論文の方法論の再検討および決定
- 4回 卒業論文の実験および調査の準備 (1)
- 5回 卒業論文の実験および調査の準備 (2)
- 6回 卒業論文の実験および調査実施 (1)
- 7回 卒業論文の実験および調査実施 (2)
- 8回 卒業論文の実験および調査のデータ打ち込み、編集、分析
- 9回 卒業論文の執筆 (1)
- 10回 卒業論文の執筆 (2)
- 11回 卒業論文の執筆 (3)
- 12回 卒業論文の執筆 (4)
- 13回 卒業論文の執筆 (5)
- 14回 卒業論文の提出
- 15回 卒業論文のプレゼンテーション、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、次週行うテーマについての課題を与えるので、文献収集などの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

人生80年代といわれる今日、いかに長く生きながらえるかといった量的な問題よりも、いかに有意義に過ごすかといった質的な問題が重視されている。そのためには、運動・栄養・休養といった3つの柱を基本とした規則正しい生活習慣の確立が必要である。また、運動選手の競技力向上や健康管理を考える上でも、この3つの柱は重要なものである。

本演習では、卒業論文完成に向けて、データ整理、結果の解釈について考え、卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.R.トーマス&J.K.ネルソン 『最新 体育・スポーツ科学研究法』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文のデータ整理 (1)
- 3回 卒業論文のデータ整理 (2)
- 4回 卒業論文のデータ整理 (3)
- 5回 卒業論文のデータ整理 (4)
- 6回 結果の解釈 (1)
- 7回 結果の解釈 (2)
- 8回 統計的解釈 (1)
- 9回 統計的解釈 (2)
- 10回 卒業論文中間発表
- 11回 卒業論文作成 (1)
- 12回 卒業論文作成 (2)
- 13回 卒業論文作成 (3)
- 14回 卒業論文作成 (4)
- 15回 卒業論文最終発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 20% 卒業論文 ... 50% プレゼンテーション ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業論文の結果に関して、文献を読んだりして考えをまとめてくること

履修上の注意 /Remarks

卒業論文で行った、調査結果を元に、パソコンを使って、見やすい表、わかりやすいグラフの作り方などについて考えていく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

自然人間関係学は、様々な自然環境と、その自然環境を創る（または自然環境によって創られる）文化的社会的構造とが結びつく仕組みを明らかにする学問分野である。よって自然環境と文化的社会的環境の両方に関心を持ち、それぞれの基礎的な知識を学ぶことが求められる。文献、論文講読を重ねながら研究テーマや研究方法を見つけ出すこと、そして各自が調査フィールドを設定して、調査の計画からフィールドとの関係づくり、調査実施、集計分析までを一貫して行っていくことを目的としている。

教科書 /Textbooks

特に決まったものは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 卒業論文の計画
- 2回 調査研究の方法と研究倫理
- 3回 調査研究の分担発表と討論
- 4回 調査研究の分担発表と討論
- 5回 調査研究の分担発表と討論
- 6回 現地調査
- 7回 現地調査
- 8回 文献資料講読
- 9回 調査研究の分担発表と討論
- 10回 文献資料講読
- 11回 調査研究の分担発表と討論
- 12回 現地調査
- 13回 現地調査
- 14回 調査研究のまとめ
- 15回 調査研究のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 調査・発表内容...40% 討論への参加状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

調査研究を分担発表する場合は計画的に準備し、文献・論文講読の場合は、発表担当でなくても事前に予習しておくことが必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会に関する諸問題や文化的な生活を実現するための諸課題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者と協調しながら、自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と社会の関係を多角的に考えながら、文化的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者とコミュニケーションを図り、協力して目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成と並行して、自身の研究のデータ分析、結果の解釈、論理的考察などについて心理学の立場から議論を深める。また、教育支援活動や臨床活動に継続的に参加し、実践的、主体的に学ぶことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究データ分析 1
- 第3回 研究データ分析 2
- 第4回 研究データ分析 3
- 第5回 研究データ分析 4
- 第6回 実践活動検討 1
- 第7回 卒業論文中間発表 1
- 第8回 卒業論文中間発表 2
- 第9回 卒業論文作成 1
- 第10回 卒業論文作成 2
- 第11回 実践活動検討 2
- 第12回 卒業論文作成 3
- 第13回 卒業論文作成 4
- 第14回 卒業論文研究発表 1
- 第15回 卒業論文研究発表 2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、発表、授業への関与度等を総合的に評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は文献・資料等事前準備を行うこと。また、授業終了後には内容・議論について各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

人間関係学基礎演習I【昼】

担当者名 児玉 弥生 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と社会と自然の関係についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	自らの考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間と社会と自然の関係について問題意識を持ち、主体的に学習することができる。
	コミュニケーション力	●	他者と協力して課題に取り組むことができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間関係学基礎演習 I	SEM111M
-------------	---------

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

- ①人間関係学科の学生らしい「多角的な視点」を身につけてもらうこと。
そのため、この授業では、人間関係に関わるある1つのテーマを設定し、いろいろな学問分野からそれを眺めてみたときに、それぞれ違ったものが見えてくることを体験してもらいます。
- ②「大学4年間の見通し」を立ててもらうこと。
そこで、学科の先輩たちを授業に招き、大学での勉強や生活の全般にわたり体験談を聞き、相談にのってもらえる機会を設けます。

教科書 /Textbooks

使用しません。資料を配布する場合があります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、各教員から紹介する場合があります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 図書館ツアー
- 3回 アカデミックスキルズ1(読む)
- 4回 アカデミックスキルズ2(調べる)
- 5回 アカデミックスキルズ3(聞く)
- 6回 アカデミックスキルズ4(探す)
- 7回 中間まとめ1
- 8回 アカデミックスキルズ5(決める)
- 9回 アカデミックスキルズ6(集める)
- 10回 アカデミックスキルズ7(まとめる)
- 11回 アカデミックスキルズ8(考える)
- 12回 中間まとめ2
- 13回 アカデミックスキルズ9(書く)
- 14回 アカデミックスキルズ10(伝える)
- 15回 まとめと発表

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 100% (※欠席はマイナス評価)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

提示した課題を事前に学習して授業に臨む
授業後に学んだことを整理する

人間関係学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業内容にあわせて、頻繁に教室等が変更されるので注意すること。
オリエンテーションには必ず出席し、授業の進め方をよく把握しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第1回のときに各教員から一言、メッセージを伝えます。

キーワード /Keywords

人間関係学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 他

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と社会と自然の関係についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	人間と社会と自然の関係を分析・検討するための基礎的な研究法を修得している。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	自らの考えやグループでの意見を適切にまとめ表現できる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	●	人間と社会と自然の関係を多角的に捉え、健康的な生活を目指すことができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力して課題に取り組むことができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間関係学基礎演習II	SEM112M
-------------	---------

授業の概要 /Course Description

この授業では、人間関係学科の実験実習に向けた入門演習を中心に行う。2年次の実験実習科目の選択をする際に、実習・演習を体験して判断することが望ましい。また、2年次以降の科目の履修選択に関しても、実習や演習を実際に体験して学ぶことが効果的である。そこで、この授業では、入門的な実験・実習をいくつかの領域にわたって学ぶことにする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～3回 私たちが生活する地域社会についてフィールドワークを体験する。
- 4回～5回 私たちが生活する環境についてフィールドワークを体験する。
- 6回～7回 私たちが生活する人間関係についてフィールドワークを体験する。
- 8回 人間関係学科実験実習(2年次履修)のガイダンス
- 9回～10回 からだの使い方を意識した動作習得を体験する。
- 11回～12回 教育の基礎についてペアワーク・グループワークを通して学ぶ。
- 13回～14回 心理学の基礎的な実験をペアになって体験する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各実習への取組、指定された課題レポート等によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回で事前に指示された注意事項に基づいて準備する。授業後は、レポート作成等、指定された内容に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学概論【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間関係の諸問題について心理学的視点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学概論

PSY100M

授業の概要 /Course Description

社会心理学及び臨床心理学の基礎的内容が主要テーマである。まず、人間の社会的行動を、集団における人間関係、自己意識と社会システムの関係などから考察する。次に、心理臨床の観点からパーソナリティ、ストレスと不応、心理的援助を考察する。

教科書 /Textbooks

適宜、レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：本講義の概要について
- 第2回 心理学の研究手法について【実証主義】【仮説】【有意性】
- 第3回社会心理学の基礎理論【原因帰属】【認知的不協和】
- 第4回集団における人間関係【リーダーシップ】【集団凝集性】
- 第5回自己と社会の関係【大衆社会化】【自分探し】
- 第6回調査研究の方法【無作為抽出】【測定の妥当性】
- 第7回心理学研究の社会的意義【研究史】【引用文献】
- 第8回パーソナリティに関する心理学研究の歴史【類型論】【特性論】
- 第9回不応の成り立ちについて【防衛機制】【不応】
- 第10回 不応の理解と援助【心理アセスメント】【心理的支援】
- 第11回母子関係の障害について【虐待】【関係性障害】
- 第12回カウンセリングについて【心理療法】【カウンセラー】
- 第13回カウンセリングの理論【精神分析】【行動療法】
- 第14回カウンセリングの実際【心理アセスメント】【病院臨床】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

1学期開講の「基礎心理学」と併せて受講されることが望ましい。
授業終了後は、配布プリント等に目を通して、内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

心理学概論 【昼】

キーワード /Keywords

基礎心理学【昼】

担当者名 /Instructor 石田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	科学の一分野としての心理学についての基礎を正しく理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	心理学的方法に基づいて人間の行動や心の働きについて学んでいける。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎心理学

PSY101M

授業の概要 /Course Description

この講義では心理学の基礎分野を概観することによって、人間のこころを明らかにする基礎心理学の領域を学ぶことを目的としている。主に認知心理学と発達心理学の立場から、心理学の歴史および研究法、感覚、知覚、学習、記憶、さらには発達理論、発達における障害をテーマとして取り上げる。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業のオリエンテーション、基礎心理学とは何か？
- 第2回 心理学の歴史【心理学の誕生】、【心理学の領域】
- 第3回 心理学の研究手法【観察法】、【調査法】、【検査法】
- 第4回 人間の感覚と知覚 その1【感覚様相】【閾値】
- 第5回 人間の感覚と知覚 その2【空間知覚】【運動知覚】【錯覚】
- 第6回 人間の記憶と知識【感覚記憶】【短期記憶】【長期記憶】
- 第7回 人間の学習【条件付け】
- 第8回 2～7回のまとめ
- 第9回 発達現象の心理学的な捉え方【遺伝と環境】
- 第10回 乳児期から児童期の発達理論①【幼児図式】【言語発達】【愛着】
- 第11回 乳児期から児童期の発達理論②【共同注意】【心の理論】
- 第12回 生涯発達と発達課題【発達段階】【アイデンティティ】
- 第13回 発達における障害①【肢体不自由】【知的障害】【発達障害】
- 第14回 発達における障害②【アセスメントと発達支援】
- 第15回 9～14回のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（小テストまたはレポート）・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

2学期開講の「心理学概論」と併せて受講されることを薦めます。
授業終了後は、配布プリント等に目を通して、内容に関する理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎心理学 【昼】

キーワード /Keywords

社会学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科, 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会学を学ぶ上での基礎的な思考の枠組みを理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの社会事象について、客観的な視点からの理解や把握を可能にする。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会学概論

SOC100M

授業の概要 /Course Description

社会科学の方法論を理解する。社会学の古典を精読することで、社会学の基礎的な思考方法や方法論について学ぶ。社会事象を社会的に考察するための基礎的な知識を習得する。次年度以降の専門科目のための基礎的な理論を習得する。

教科書 /Textbooks

- E. デュルケーム『自殺論』（中公文庫）
M. ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館の「社会学がわかる（基礎編・応用編）」コーナーに配架された基礎文献等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 社会学とは何か【社会学】
- 3回 近代社会とは何か【モダニティ】
- 4回 社会学の方法①【方法論的集団主義】
- 5回 自殺論1【意味的行為の理解の仕方】
- 6回 自殺論2【自己本位的自殺】
- 7回 自殺論3【アノミー的自殺】
- 8回 社会学の方法②【方法論的個人主義】
- 9回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神1【近代批判としてのマックス・ウェーバー】
- 10回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神2【キリスト教と禁欲：ルターとカルバン】
- 11回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神3【予定説の意味と現代社会】
- 12回 社会の維持と社会の変動【構造-機能主義】
- 13回 社会分析の方法【機能分析】
- 14回 意味と社会【意味論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの指定された範囲には事前に目を通しておくこと。
トピックとして取り上げ議論した内容について、関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

履修内容については、学科全体での学修内容を鑑み柔軟な対応を実施することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉法制度と生活問題理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 社会福祉法制度と生活問題に関心を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代社会と福祉2

SOW101M

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉とは何か①【オリエンテーションと社会福祉への理解】
- 2回 社会福祉とは何か②【社会福祉の政策・支援・対象】
- 3回 児童福祉政策の主要な論点と課題①【児童虐待の現状と考え方】
- 4回 児童福祉政策の主要な論点と課題②【児童福祉法と児童虐待防止法】
- 5回 児童福祉政策の主要な論点と課題③【児童相談所の役割と機能】
- 6回 児童福祉政策の主要な論点と課題④【子ども・家族・社会のあり方と虐待防止のための課題】
- 7回 障がい福祉政策の主要な論点と課題①【障がいのある人と近・現代社会】
- 8回 障がい福祉政策の主要な論点と課題②【障がいのある人と社会思想】
- 9回 障がい福祉政策の主要な論点と課題③【障害者総合支援法のしくみと課題】
- 10回 障がい福祉政策の主要な論点と課題④【障害者総合支援法のしくみと課題】
- 11回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題①【高齢者の福祉とは何か】
- 12回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題②【介護保険法の成立と課題】
- 13回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題③【介護保険制度のしくみと課題】
- 14回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題④【介護保険制度に位置づく専門職者の役割と課題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（30%）および試験（70%）で評価するが、特に自らの考えが常に明示されているかを中心にしてシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、興味関心のある事柄からでよいので問題関心を広げておくこと。
事後学習は授業中に配布する講義資料を精読し、具体的な社会福祉政策のあり方と、国民の生活実態について理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

講義レジュメ・資料は Moodle を利用して配布するので、各自がプリントアウトし講義に持参すること。また配布する講義資料に、必要に応じて参考文献を提示するので積極的に講義すること。

現代社会と福祉 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

権利と義務、自立、生活問題

人間環境概論 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 人間と自然環境の関係について、学際的で基礎的な専門知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 人間と自然の関係や問題に関心を持ち、主体的に学習できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間環境概論

ENV100M

授業の概要 /Course Description

地球環境問題が、早急な対応が必要な世界共通の課題であることは、ここ数年の間に世界中で発生した様々な気象災害や森林火災などから、ますますはっきりしてきました。その解決のためには、人間の経済活動についての再検討が必要なのはいうまでもありません。しかし、それに加えて環境の正しい理解、とくに環境問題を引き起こした私たち人間と自然の関係について考えをめぐらさなければ、本質的な解決には結びつかないと思われます。地球環境問題は、人間の環境への関わり方が誤っていたことから発生した問題であるからです。この授業では、人間と環境との関わりについて、自然、特に大地（地球）と森と人間との関わりについて理解を深めます。

この授業の学位授与方針に基づく到達目標は、以下の通りです。
人間と環境の関係について、学際的で基礎的な専門知識を習得する。
人間と環境の関係について関心を持ち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜プリントを配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 只木良也「森と人間の文化史」(NHKブックス)
- 樋口忠彦「日本の景観」(ちくま学芸文庫)
- 有岡利幸「里山III」(法政大学出版局)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球環境の概観 【地球史の中で考える環境問題】
- 2回 環境問題のしくみ1 【代表的な環境問題：地球温暖化とオゾン層の破壊】
- 3回 環境問題のしくみ2 【環境問題は自然界のバランスの人間による破壊である】
- 4回 私たちの住んでいる場所・今という時 【自然の猛威と災害】【現在は歴史の流れの一部である】
- 5回 環境と文明1 【文明は環境変動の中で生まれ消滅してきた】
- 6回 環境と文明2 【パラダイムの変遷】
- 7回 1～6回のまとめ
- 8回 森林の多面的機能
- 9回 農山村と自然環境1【地形と村落景観】
- 10回 農山村と自然環境2【山村問題と住民生活】
- 11回 森林資源と利用1【森林伐採と林業史】
- 12回 森林資源と利用2【木造住宅と木の文化】
- 13回 森林資源と利用3【世界の林産物と日本】
- 14回 地域社会と森林【北九州市の森林環境】
- 15回 8～14回のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

野井(1回～7回) 小テストまたはレポート...50%
岩松(8～15回) レポート...25% 日常の授業への取り組み...25%

人間環境概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境問題に関する情報がテレビやウェブで、最近特に頻繁に発信されています。これらを見て環境問題を取り巻く最新の状況を知ると、この授業を受ける意欲が飛躍的に高まります。授業後は、ノートを整理し、配付された資料等をもう一度よく読んで理解してから、それらを将来的に利用できる形で保存しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球 環境 森林 文明 農村

人類学概論【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人類学に関する専門的な知識の獲得。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	文化相対主義と人類の生物学的普遍性について理解する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人類学概論

ANT100M

授業の概要 /Course Description

今までに「自己」と「他者」について深く考えてみたことはあるだろうか。他人とともに生きていくため人間関係を理解するには、なにが必要だろうか。たとえ「心」や「社会」の仕組みがわかって、人間関係は理解できない。人間関係はつねに変わっていく「なまもの」だからだ。時代や地域や育った環境によって異なる価値観をもとに、それぞれの人は他人と交渉し合意をはかり意思決定をする。そうした倫理や判断基準の背景になっているのが「文化」である。

自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感したり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。口では「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生きられるのは、考えてみればとても不思議なことだ。

人類学では、理解できるはずのない他人にフィールドワークという手法をつかって近づいていく。内容はちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうしたたくさんの経験を通して、「他人を知ることは自分を知ることである」という、もっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。

人間と自然と社会の相互作用に関する専門的な知識を身につけると同時に、主体的に学ぶ方法論を実践することがこの講義の達成目標となる。

教科書 /Textbooks

講義中にたくさんの本と映画を紹介する。
そのうちで最低でも5つくらいは最終講義までに読み終えておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「人間らしさとはなにが？ 人間のユニークさを明かす科学の最前線」マイケル・S・ガザニガ
- 「共感の時代へ 動物行動学が教えてくれること」フランス・ドゥ・ヴァール
- 以下はほんの一部である
- 「完全な人間を目指さなくてもよい理由 遺伝子操作とエンハンスメントの倫理」マイケル・J・サンデル
- 「日常人類学宣言！ 生活世界の深層へ / から」松田 素二
- 「熊から王へ」中沢新一
- 「人類大図鑑」ロバート・ウィンストン 小笠原景子
- 「フィールドワークへの挑戦〈実践〉人類学入門」菅原和孝
- 「身体の零度」三浦雅士
- 「自由を耐え忍ぶ」テッサ・モリス・スズキ 辛島理人

人類学概論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 文化とはなにか
- 第2講 近代とはなにか
- 第3講 共感とはなにか
- 第4講 他者とはなにか
- 第5講 交換とはなにか 入門編
- 第6講 交換とはなにか 応用編
- 第7講 社会とはなにか
- 第8講 国家とはなにか
- 第9講 信じるとはなにか 入門編
- 第10講 信じるとはなにか 応用編
- 第11講 自然とはなにか 入門編
- 第12講 自然とはなにか 応用編
- 第13講 わかるとはなにか 入門編
- 第14講 わかるとはなにか 応用編
- 第15講 すべてのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義で紹介するさまざまな活動に参加する	...	20%
講義で紹介するさまざまな本を読み考える	...	20%
講義に関連して提示されるさまざまな議論に参加する	...	20%
講義の内容と上記の活動を踏まえた上で小論を提出	...	40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専用のウェブ掲示板または北方Moodleを用いて、双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこなう。主体的でインタラクティブな学びを意識してほしい。

履修上の注意 /Remarks

「人間ってなんだろう」「生きるってなんだろう」みたいなことについて、ふだんからよく考えており、すでに大人の心の準備ができている人。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の講義は教えられることよりも、自分で考える事が大切です。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

教育学概論【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 山下 智也 / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育学についての基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間関係の諸問題について教育的視点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育学概論

EDU100M

授業の概要 /Course Description

教育学概論では、学校や市民生活における課題のとらえ方、その克服の視点・方法・実践について基礎的な理解について考えていく。講義においては、以下の柱を中心として学習を進めていく。

- ①教育に関する基礎的な概念を通して「教育とは何か」ということの検討
 - ②今日の青少年の人格発達の危機をめぐる諸問題とその克服に向けての教育指導の課題の検討
 - ③現代社会における生涯学習・生涯教育の意義と課題の検討
 - ④人間形成と教育、子どもの教育環境についての検討
- こうした検討を踏まえて、人間形成と教育の違い、教育の意義や課題について理解を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は4名の教員によって行われます。

- 1回 教育とは何か-教育学の視座-
- 2回 今日の子どもの抱える生きづらさへの理解と援助 その1 児童虐待問題
- 3回 今日の子どもの抱える生きづらさへの理解と援助 その2 いじめ問題
- 4回 発達障害の問題への理解と援助 一自閉スペクトラム症に視点をあてて
- 5回 臨床教育学の課題と方法
- 6回 現代の子どものとりまく環境
- 7回 子ども主体の遊びとは
- 8回 求められる「子どもの居場所」
- 9回 子どもにとって豊かな環境を保障するために
- 10回 主体形成のプロセスと援助1 -海外から見る日本の生活・教育
- 11回 主体形成のプロセスと援助2 -子どもと大人の育ちと支援
- 12回 主体形成のプロセスと援助3 -地域における教育
- 13回 教育行政学の視点から1 -学ぶことと子どもの権利
- 14回 教育行政学の視点から2 -学校と子どもの権利
- 15回 教育行政学の視点から3 -父母・住民の権利

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...100% (毎回授業時の小レポートと4人の担当者毎の課題レポート)
 (評価は4人それぞれの担当者が各25点で採点しその合計点で行います。それぞれの担当者は、授業時の小レポートと課題レポートで総合的に採点します。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、指示に従い、テーマについて予習する。
 事後は、講義内容を踏まえて、自分の見解を整理する。

教育学概論【昼】

履修上の注意 /Remarks

各回の内容を復習し、担当教員ごとに講義の内容について、自分なりの意見を整理していくと効果的な履修になると同時に、課題レポートへの準備になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツ学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科, 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	これからの健康やスポーツ活動において、必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	自分自身の健康やライフスタイルに問題意識を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生涯スポーツ学概論

HSS100M

授業の概要 /Course Description

運動やスポーツは、体育実技という枠組みを超えて、われわれの生活の様々な局面に関わりを持つようになってきた。それは、学校の授業として「まじめ」にからだを動かすことを強いられてきた体育実技とは異なり、からだを動かすことの楽しさや健康思考への認識の高まりといえるのではないだろうか。生涯スポーツ学概論では、このような観点に立って、多方面から「生涯スポーツ」について考える。

教科書 /Textbooks

授業中に資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

フィットネスシリーズ(全9巻) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生涯スポーツとは
- 2回 スポーツの発祥
- 3回 生涯スポーツについて(1) 【自己実現】 【体育とスポーツ】
- 4回 生涯スポーツについて(2) 【Q.O.L】 【楽しむスポーツ】
- 5回 運動が及ぼす心理的な効果について
- 6回 スポーツマンシップについて
- 7回 ドーピングと薬物について
- 8回 生涯スポーツと健康
- 9回 ライフスタイルと健康
- 10回 加齢と運動
- 11回 余暇と生活
- 12回 女性の運動・スポーツ
- 13回 スポーツの楽しみ方
- 14回 障がい者のスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 日常の授業への取り組み ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

これからの自分の健康やスポーツとの関わり方を考えながら受講するとよいでしょう

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生涯スポーツ学概論 【昼】

キーワード /Keywords

生涯スポーツ、QOL

心理学実験実習I【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 松本 亜紀 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 実験・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	心理学の基礎的な実験手法に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	心理学的な諸現象の実験的手法および分析の技法を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	心理学実験で行った客観的事実及び主張を読み手にわかるように表現する。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	●	心理学実験における実証的なアプローチを実社会において応用する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力して心理学実験を円滑に進めることができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

心理学実験実習 I

PSY280M

授業の概要 /Course Description

心理学の基礎実験を計画、実施し、そのデータ整理、レポート作成の一連の流れを実験者、実験参加者として実際に体験し、心理学における「こころ」を測定するための方法を実践的な実験を通して学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 心理学の基礎的な実験手法に関する専門的知識を学ぶ。
2. 心理学実験において誤差を少なくするためにどのようなことをすべきか、誤差を考慮したデータ処理としてどのようなことをすべきかの技法を身につける。
3. 実験で行った客観的事実及び自分の主張をレポートして読み手にわかるように表現することができるようになる。
4. 心理学実験における実証的な検証が実社会とどのように結びつくかを学ぶ。
5. 心理学実験において実験が円滑に実施できるように、実験参加者に対してどのような配慮をすべきかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 市川伸一 『心理測定法への招待』サイエンス社
- フィンドレイ 『心理学実験・研究レポートの書き方』北大路書房
- 利島保 『心理学のための実験マニュアル』北大路書房
- 木下是雄 『レポートの組み立て方』筑摩書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 【実験】
 - 第2回 触2点閾の測定 【触覚】【弁別閾】
 - 第3回 盲点の大きさの測定(1) 実験の実施 【盲点】
 - 第4回 盲点の大きさの測定(2) 盲点の大きさの推定
 - 第5回 長さの弁別閾の実験(1) 集団による実験 【弁別閾】【ウェーバーの法則】【心理測定関数】
 - 第6回 長さの弁別閾の実験(2) 個人実験と2つの実験の比較
 - 第7回 幾何学的錯視の測定(1) 内向・外向図形による実験 【ミュラーリヤー錯視】
 - 第8回 幾何学的錯視の測定(2) 内向単独効果の実験 【遠近法説】
 - 第9回 フィッツの法則の実験(1) 実験実施 【Fittsの法則】
 - 第10回 フィッツの法則の実験(2) フィッツの法則の検証 【回帰分析】【インタフェース】【速さと正確さのトレードオフ】
 - 第11回 心理尺度の構成(1) 一対比較法による実験 【心理尺度】【一対比較】
 - 第12回 心理尺度の構成(2) サーストンの比較判断の法則による尺度化 【間隔尺度】
 - 第13回 無意味綴りの記憶 【学習曲線】【系列位置曲線】【リハーサル】
 - 第14回 心理学実験における倫理 【人権】
 - 第15回 授業全体のまとめ
- (実験の順序は変更する場合がある。4年生の卒業研究実験等に参加する場合がある。)

心理学実験実習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

提出レポート100%
実験テーマごとに課されるレポートを必ず提出すること。提出されたレポートは添削をして学生に返却する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実験後、科学的論文としてのレポート作成。

履修上の注意 /Remarks

「心理統計」の授業を受講しておくことが望ましい。
図書館で少なくとも1冊は心理学実験関係の専門書を読むこと。実験を行うので動きやすい服装などに気をつける。データ処理には電卓を使用。
図表を描く定規など必要なものを準備すること。
授業後、授業中にできなかった図表の作成およびレポートの完成をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査実習 (フィールドワーク) 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 大津留 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師
 チョウ ビンビン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 (ペア) 授業形態 実習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会調査に関する基本的な作法を学ぶ。
技能	専門分野のスキル	● フィールドワークに関する実践的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 研究成果を人に伝えるための技能を習得する。
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)	● 現場での調査実践を通して、課題解決のための力を身につける。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 現場での調査実践を通して、対人的なコミュニケーション技能を身につける。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会調査実習 (フィールドワーク)	ANT280M
---------------------	---------

授業の概要 /Course Description

フィールドワークをの入門として、知らない人に会ってはなしをしたり、自分が知りたいことを教えてもらうためのノウハウを学ぶ。
 まず、自分がいままですと持っている疑問や、興味のあることを明らかにして、何を調べるかを考える。
 つぎに、調べたいことを知るためにはどんな方法があるのかをみなで議論しながら検討する。
 それから、実際に外に出て町をみたり人に会ったりする。
 さらに、自分が聞いてきた話にどんな意味があるのか、そこにどんな発見があるのかを分析する。
 そして、長年の謎を解きおもしろさを見つけ出す。
 さいごに、そのおもしろさを人に伝える。プレゼンテーション力を磨く。
 実践的に学んでいく

教科書 /Textbooks

興味や調査対象に応じて個別に提示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

フィールドワークは楽しい(岩波ジュニア新書) 岩波書店 / 岩波書店
 フィールドワークへの挑戦〈実践〉人類学入門 菅原和孝 / 世界思想社
 躍動するフィールドワーク研究と実践をつなぐ 井上真 / 世界思想社
 京大式フィールドワーク入門 京都大学/京都大学東南アジア研究所 / NTT出版
 高齢化社会における介護者と被介護者の研究地域看護学によるフィールドワークと考察 芝山江美子 / 新風舎
 学生のためのフィールドワーク入門 アジア農村研究会 / めこん
 老いと障害の質的社会学-フィールドワークから
 山田富秋 / 世界思想社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習期間を三段階のフェーズにわけ少しずつスキルを高めていく。
 ■調査計画(planning):1-2
 自分の知りたいことをみつける。
 ■予備調査(field-work) 手法検討(discussion):3-4
 人の話をどうやって聞くのか。他者との接点をどう築いていくのか
 ■本調査(field-work) 資料検討(discussion):5-7
 得られた資料の傾向や関連性を考える。ほかにどんな資料が必要か
 ■資料分析(desk work)考察検討(discussion):8-9
 資料から導き出されるもの、発見されたものの意味を考える
 ■補足調査(field-work):10
 考察に基づき不足する資料を補う
 ■提示検討(discussion):11-14
 発見したもの、考察したものを提示し、内容を検討する。どうやって人に伝えるかを考える
 ■発表会(presentation):15
 調査によって明らかにされたことを人にわかるように伝える 資料と結果をレポートにまとめる

社会調査実習 (フィールドワーク) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

調査計画での議論... 40 %
調査研究... 20 %
考察検討... 20 %
発表... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、5つくらいの研究テーマ、自分が調べてみたいものを考えておく。

履修上の注意 /Remarks

指示を待つのではなく自分で状況を判断するトレーニングをおこなう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークの楽しさを知るための実習でもある。いろいろなこととおもしろがってほしい。
複数の教員によって対面的に講義を進める

キーワード /Keywords

フィールドワーク
人類学

社会調査実習 (サーベイ) 【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科, 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会調査の目的や、そのために妥当な各種の方法論を理解する。
技能	専門分野のスキル	● 計量的な手段を用いて、社会調査を計画・実施することができるようになる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自身の研究調査の目的と、その成果を公的な場で適切に報告するためのスキルや、そのための具体的な技法を身につける。
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)	● 研究課題に対して、課外での対人調査活動を実施する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● グループワークと対人調査を通して、他人との関わりの中で自身の研究目的や、その意義を高め合う。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会調査実習 (サーベイ)

SOC280M

授業の概要 /Course Description

調査とは何かについて学習した後、主に量的調査 (アンケート調査) の基本を学ぶ。班別に学内外で実際に調査を行い、調査報告書を作り、調査結果の発表をする。とりわけこの実習では、社会学、社会福祉学、教育学など分野での量的調査を実践的に学ぶことを目的とする。

教科書 /Textbooks

石村貞夫他, 2015, 「SPSSでやさしく学ぶアンケート処理」, 東京書籍。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 調査とは何か・オリエンテーション (サーベイとフィールドワーク)
- 2回 調査の手順概説・例示
- 3回 調査テーマのためのブレーン・ストーミング
- 4回 調査テーマ決定、班分け
- 5回 質問紙の設計
- 6回 質問紙の制作、印刷
- 7回 プリテストと調査票修正
- 8回 本調査実施準備と実施
- 9回 集計方法の概説
- 10回 集計の実施
- 11回 集計結果の確認
- 12回 報告書作成についての講義
- 13回 報告書作成
- 14回 報告書の点検、製本
- 15回 発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業態度 20%
 - ② 報告書 50%
 - ③ 発表 30%
- ※単位取得には全ての評価を満たすことを条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習の進捗状況にはグループで差があるので、各自で把握しておくこと。

社会調査実習（サーベイ）【昼】

履修上の注意 /Remarks

前期開講科目「社会調査の基礎」の履修をしておこうことが望ましい。
遅刻や欠席はグループ実習の大きな妨げとなるため、頻発する場合厳格に対処する。
学外で実習は開講時間外になることもある（週末等もあり得る）も理解した上で履修すること。
先週までの実習の進捗状況を確認した上で出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

三年次のゼミ選択を意識した上で選択してください。

キーワード /Keywords

人間環境実験・実習【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 (ペア) / 授業形態 /Class Format 実験・実習 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と自然との関係の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	人間と自然との関係を分析・検討するための具体的な科学的方法論や技法を習得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	人間と自然の関係を多角的に考えながら、人間の健康的な生活の実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間環境実験・実習

ENV280M

授業の概要 /Course Description

この科目では、フィールドや室内での実習と観察を通して自然と人間の関わりを考えるとともに、その研究手法について学びます。この科目には、「自然の中にいる楽しさを知る」、「自然と人間の関わりを考える」、「自然と人間の歴史を考える」という3つの目標があり、それらに基づいて、フィールドワークや実習が設計されています。

人間関係学科の各領域では、フィールドワークや実験が研究の基礎的手法となっているものが多くあります。この科目はそのような手法を学ぶ科目の一つです。「百聞は一見に如かず」という諺がありますが、学習の中でも自分の手と目と耳で経験することはとても大切です。

この授業の学位授与方針における主な到達目標は、以下の通りです。

人間と自然の関係の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。

人間と自然の関係を分析・検討するための具体的な科学的方法論や技法を習得する。

人間と自然の関係を多角的に考えながら、人間の健康的な生活の実現に向けた行動ができる。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。

別途配布の「手引き書」に従って進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○鈴木正崇著「山岳信仰：日本文化の根底を探る」中央公論新社

○泉岳樹ほか著「卒論・修論のための自然地理学フィールド調査」古今書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【スケジュールと安全学習】
- 2～4回 ※貫・曾根地区の自然と文化【地形と歴史の関わりをフィールドで考える】
- 5～7回 ※竹の生態と利用【竹林実習】
- 8～9回 ※合馬地区の景観と人と生活【農村実習】
- 10回 聞き取り調査を分析する【KJ法】(受講者数により実施日の変更あり)
- 11回 聞き取り調査のまとめを発表する【KJ法】(受講者数により実施日の変更あり)
- 12回 環境の変動を調べる【花粉分析】(受講者数により実施日の変更あり)
- 13回～15回 ※求菩提山の景観と信仰【山と森の神聖感と内在的価値】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...80 % 授業態度...20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布する「手引き書」をよく読んで、内容を理解しておきましょう。実習後は、見学や観察、聞き取り調査のメモ等を整理して、将来的に資料として使えるよう保存しましょう。各テーマごとにレポートの提出が必要です。実習内容と考察について他者に的確に伝わるよう、文章、図表、写真などを工夫し、レポートを作成してください。

人間環境実験・実習【昼】

履修上の注意 /Remarks

実習が中心の科目ですから自発的な参加が望まれます。
授業計画・内容の欄で、※のついたテーマは、時間割上の時限ではなく、まとまった時間がとれる日曜日または祝日に集中的に実施します。予定している授業計画・内容は、天候やフィールドの状況等の事情により変更されることがあります。野外での活動が多くなりますので安全に十分注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯教育・生涯スポーツ実習【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科, 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 施設見学や地域スポーツ活動を通して、基礎的専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	● グループ活動・スポーツ活動において、社会実践の技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 自らの考え方を適切に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	● 課題を多角的に考えながら、実現に向けた行動ができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 他者と協力して、目標指向的に行動できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生涯教育・生涯スポーツ実習

EDU280M

授業の概要 /Course Description

子どもから高齢者を対象とする生涯教育や生涯スポーツに関する活動のニーズの把握、事業・指導計画、生涯学習施設の経営など、生涯学習社会の構築に関する専門的能力の育成(専門的な知見を踏まえた実践的な能力の向上、技術の習得)及び学習者とのコミュニケーション能力の向上を図ることを目的としています。

そのため、生涯教育・生涯スポーツに関する施設や職員、市民活動などについて見学や体験、実習を行いながら、学習を支援する視点や技能を高めていきます。また活動についての聞き取りやアンケートなどを行いながら、支援者や学習者・参加者の視点や課題について理解を深めます。

教科書 /Textbooks

適時、プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションゲーム・スポーツ
- 3回 障がい者スポーツプログラム(1) 講義1
- 4回 障がい者スポーツプログラム(2) 実習2「車椅子バスケット」
- 5回 北方小学校運動プログラム(1) プログラム考案
- 6回 北方小学校運動プログラム(2) プログラム実行
- 7回 北方小学校へ運動プログラム実施(3) プログラム指導
- 8回 高齢者との交流プログラム(周望学舎)
- 9回 生涯教育の現状
- 10回 施設見学(子育て交流ふれあいプラザ)
- 11回 生涯教育支援の技法(1) ワークショップ1(コミュニケーションワークショップ)
- 12回 生涯教育支援の技法(2) ワークショップ2
- 13回 生涯教育支援の技法(3) ファシリテーション
- 14回 生涯教育・生涯スポーツの意義や課題についての考察
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...70% 課題レポート...30%

生涯教育・生涯スポーツ実習【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習や活動に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

スポーツ・レクリエーションなどの活動時には、運動ができる服装と体育館シューズが必要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部の方々と積極的に関わりを持つように心がけましょう

キーワード /Keywords

国際関係の理論【昼】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係の理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の理論

IRL200M

授業の概要 /Course Description

グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、国際関係の土台をなす「国家」の位置づけ・意義の変容であり、例えば、国際機関や多国籍企業、国際NGOといった国家以外のアクターの影響力が増大したことや、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったこと、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したことなどに表れています。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
- 吉川直人、野口和彦 [編] 『国際関係理論』 [第2版] (勁草書房、2015年)。
- 原彬久 [編] 『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。
- 滝田賢治、大芝亮、都留康子 [編] 『国際関係学』 [第2版] (有信堂、2017年)。

その他の文献については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1. 国際関係学とは何か【理想主義、現実主義】
2. 近代国家の誕生と特質【主権、国民国家】
3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
4. リアリズム【アナーキー、パワー・ポリティクス、勢力均衡】
5. ネオリアリズム【覇権安定、二極システム】
6. 安全保障体制(1)：冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
7. リベラリズム【相互依存、機能主義】
8. 前半の総括
9. ネオリベラリズム【国際レジーム、制度】
10. コンストラクティヴィズム【アイディア、間主観性】
11. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
12. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
13. 安全保障体制(2)：冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
14. 人権の国際問題化と多様なアクター【人権、企業の社会的責任】
15. 講義のまとめ【グローバル化と国際社会】

国際関係の理論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：20% ミニレポート：20% 期末試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に参考文献を読んでおくこと。
授業後は必ず復習すること。

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係の争点【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	複雑な現代の国際社会の諸相を捉え、その相互連関性について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	国際社会が抱える課題について情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の争点

IRL101M

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を考察します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的な脈絡からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。毎回、レジユメを配布します。また、テーマに関係する文献をその都度、提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

滝田賢治・大芝亮・都留康子『国際関係学-地球社会を理解するために』（第2版）有信堂高文社、2017年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「平和学の基礎」【積極的平和】【消極的平和】
- 第2回 「変化する国際政治経済秩序」【新興国】【BRICS】【G20】
- 第3回 「アジアにおける安全保障」【中国の台頭】【日本の防衛力強化】
- 第4回 「安全保障のジレンマ」【囚人のジレンマ】【チキン・ゲーム】
- 第5回 「安全保障観の変容」【人間の安全保障】【国家安全保障】
- 第6回 「保護する責任」【人道的介入】【ICISS】
- 第7回 「核兵器を巡る議論と展開」【NPT体制】【核兵器禁止条約】
- 第8回 「エネルギー」【原子力】【再生可能エネルギー】
- 第9回 「環境」【地球温暖化】
- 第10回 「食料」【遺伝子組み換え作物】
- 第11回 「移民、難民問題」【社会包摂】【多文化主義】【同化政策】
- 第12回 「中東、イスラーム」【イスラモフォビア】【スンニ派とシーア派】
- 第13回 「アフリカ」【ガバナンス】【汚職・腐敗】【北京コンセンサス】
- 第14回 「ジェンダー」【ジェンダー・ギャップ・インデックス】
- 第15回 「エシカル消費」【フェアトレード】【ESG投資】

※順番が入れ替わったり、国際情勢によって緊急的にホットなイシューを取り上げる可能性があります。また、外部講師を招いての特別講演会が行われる可能性もあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物・・・30% 学期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するレジユメを前週の金曜日を目処にMoodleにアップします。受講生は事前に目を通しておくように。事後学習として課題レポートを課します(1回)。

国際関係の争点【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で扱うテーマは限定されています。国際関係について関心を深めるためには、新聞を必ず読みましょう。また、授業で紹介する新書などを数多く読むようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Moodleにレジユメをアップするので、プリントの配布は行いません。黒板を使用せず、アップしたワードのファイルに書き込むスタイルを取ります。そのため、大教室の後方では見えづらい可能性があります。なるべく前方に着席してください。できればダウンロードしたワードファイルを印刷してノートの左側に貼り付け、右側には授業中に補足した説明をメモするなど、独自にノートを作成してください。授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード /Keywords

経済地理学I【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I

ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動～オフィスの立地論 【オフィス】【知識の輸送】【対面接触】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学II、経済地理学特講や地域経済I・II、地域経済特講などを受講すると相互理解が深まります。
3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

経済地理学I 【昼】

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学特講は、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学で学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。

都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を発揮することができる能力を身に付けることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィス立地と都市 【オフィス】【本社・支社】【中枢都市】【都市の階層化】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】【公共施設立地】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・ランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【近代化】【産業構造】【国土構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【発展なき成長】【東京一極集中】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

経済地理学II【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済地理学や地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
2、3、4、5、8、9、10、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

日本の歴史と社会【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教科書の限界を踏まえて新しい視点から江戸時代という時代を見ることができる。
技能	専門分野のスキル	●	研究史の論点を理解する技能を育て、史料の主観性を批判する「規範」と「実態」という複眼的視野から歴史的事実を認識できる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	与えられた文章の表面的な理解にとどまらず「行間」を読むことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の歴史と社会

HIS210M

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。江戸時代は260年間続きましたが、その間変化がなかったわけではありません。18世紀の中頃の社会の変化によって、その前半と後半は一つの時代とはいえないほど大きく社会と経済が変化をしています。また同じ時代でも武士と町人や農民の庶民では身分が違えば社会や言葉も違っています。それはまだ「日本」や「日本人」という近代の概念が成立する以前の社会なのです。ここでは女性の地位や農村の社会を中心に「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 脇田晴子編『日本女性史3 近世』（吉川弘文館1982年）
- 近世女性史研究会編『論集近世女性史』（吉川弘文館1986年）
- 脇田晴子編『ジェンダーの日本史 下』（東京大学出版会1995年）
- 高木侃『三下り半-江戸時代の離婚と女性たち-』（平凡社1987年）
- 高木侃『三下り半と縁切寺』（講談社現代新書1992年）
- 網野善彦『無縁・公界・楽』（平凡社1978年）
- 山本英二『慶安の触書は出されたか』（山川出版社日本史リブレット）他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 【近世】という時代
- 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
- 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
- 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
- 6回 『【女大学】』と『和俗童子訓』①作者と成立時期
- 7回 『【女大学】』と『和俗童子訓』②貝原益軒と女子教育
- 8回 【好色物】と女性の社会進出
- 9回 【縁切寺】の歴史
- 10回 【慶安御触書】を読み直す①荘園制と太閤検地
- 11回 【慶安御触書】を読み直す②幕藩領主財政と幕政・藩政の改革
- 12回 【慶安御触書】を読み直す③榎本宗次説
- 13回 【慶安御触書】を読み直す④「百姓身持書」と丸山雍成説
- 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤神崎直美・木崎弘美論争
- 15回 【慶安御触書】を読み直す⑥山本英二説

日本の歴史と社会【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートの整理をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。
第1回の授業で受講上の重要事項の説明と注意を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館経営論 【昼】

担当者名 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養う。具体的には、博物館施設の管理と事業目的に即した運営の在り方を理解し、博物館の総合的経営に関する基礎的知識と能力、コスト意識を学ぶ。あわせて市民参画の在り方や、関連施設・組織との連携方法を考える。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを用意し、受講者各自に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『博物館学講座』全10巻（雄山閣）
網干善教編『博物館学概論』（関西大学出版）
『月刊 博物館学研究』（日本博物館協会）
伊藤寿朗・森田恒之編『博物館概論』（学苑社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会教育施設としての「博物館」
- 2回 「博物館法」の理念と事業
- 3回 博物館の世代と推移（機能と変遷）
- 4回 博物館の設置及び経営方針の策定
- 5回 博物館運営状況の点検と評価
- 6回 博物館資料の収集と保管
- 7回 博物館資料の展示と調査研究
- 8回 利用者への学習機会と情報の提供
- 9回 学校・家庭及び社会との連携
- 10回 博物館の組織（職員配置と研修）
- 11回 施設及び設備と危機管理
- 12回 事業計画と予算編成
- 13回 博物館経費の運用
- 14回 費用対効果の点検（コストの効率化）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

博物館法を熟読し、社会教育施設としての役割を考える。ついで、新聞などで報じられる博物館に関する情報から、博物館経営の課題を検討する。

履修上の注意 /Remarks

聞き流すことなく、講義のポイントをしっかりとメモすること。
授業前に前講義の概要を見直しておくこと。
授業後は筆記したノートの要点を確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」資格を取得するという強い意志をもって出席してほしい。

キーワード /Keywords

地域社会への貢献とコスト意識。

博物館資料論 【昼】

担当者名 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

博物館資料についての基礎知識を養う。
具体的には、博物館資料の種類や意味からはじめ、その収集・整理・保管等に関する理論や方法について学ぶ。また、博物館における調査・研究活動と、博物館資料の取り扱い、資料の活用に関する手順などを知り、博物館資料についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・『月刊 文化財』(文化庁、1963年～)
- ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年)○
- ・大堀哲・水嶋英治編『博物館学I 博物館概論*博物館資料論』(学文社、2012年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび博物館資料について
- 第2回 博物館法と博物館資料
- 第3回 博物館資料の分類
- 第4回 博物館資料収集の方法と理念
- 第5回 博物館資料の調査・研究
- 第6回 博物館資料の取り扱い
- 第7回 博物館の展示について
- 第8回 博物館資料の保全について
- 第9回 博物館の保存・修復
- 第10回 博物館資料の損壊因子
- 第11回 博物館資料の生物被害からの防除
- 第12回 博物館資料と天災・人災からの保全
- 第13回 美術館資料の展示について
- 第14回 博物館資料の保険制度について
- 第15回 まとめと確認

※授業内容は変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30%
試験...70%

※4回以上の欠席は不可。15分以上の遅刻は欠席とみなします。
※変更が生じる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館などで博物館に関する書籍を見て授業に臨むこと。
授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は「博物館概論」を受講しておくこと、理解がより深いものとなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講してください。
新聞などに取り上げられる博物館や文化財の情報に気を配るとともに、日常生活においても「物」を大切に、丁寧に扱う習慣を身につけてもらえればと思います。

博物館資料論 【昼】

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館資料保存論【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 浩司 / SATO KOJI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

遺跡の発掘調査で出土する遺構や遺物は埋蔵文化財と呼ばれ、埋没した環境や使用された状況、また人為的な改変などにより、様々な態様を示して土中から掘り出される。その現状を克明に観察・記録することで、詳細な分類や分析が可能となり、それらを通して当時の生活、生産、消費活動の復元や精神的行為のあり方、さらには当時の人々、家族や組織などの社会形態をも知ることができる。

考古学的調査研究の対象となる遺構や遺物資料の歴史性を重視しつつ、個々の持つ多面的な情報を把握するとともに、それらが土中に埋もれながら今日まで守られてきたことの意味を考えること、またこうした埋蔵文化財を保存し後世に伝えていくための技術や方法などを学ぶことで、過去から現在、未来へと受け継がれていく歴史と文化への理解を深めることを目的としたい。

通常の博物館資料保存論は、博物館資料＝「もの」の保存に関する基本的な知識や技術の習得、さらには日常的な管理と非日常的な危機管理を見据えた総合的な維持・管理のなかから、学芸員の役割や責務を理解することを主たる目的にしているため、この講座はやや異例ともいえる内容になる。

博物館に収納される以前の、いわば発見の原点に立ち、資料が残存する現状と限界を見極めることで、保存のあり方を考える講義をめざす。

教科書 /Textbooks

なし
適宜、配布資料を用意する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 本田光子・森田稔『博物館資料保存論(放送大学教材)』放送大学教育振興会 2012
- デビッド・ワトキンソン『出土遺物の応急処置マニュアル』柏書房 2002
- 藤本強『考古学の方法 調査と分析』東京大学出版会 2000
- 文化庁文化財部記念物課(編)『発掘調査のてびき-整理・報告書編-』2010
- 国立歴史民俗博物館『考古資料と歴史学』吉川弘文館 1999

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 埋蔵文化財.....もうひとつの資料保存論
2. 総論1 先史・原史時代(旧石器～古墳時代)の遺構と遺物
3. 総論2 歴史時代(古代、中世、近世、近現代)の遺構と遺物
4. 資料保存各論1 (土器・土製品の種類と保存)
5. 資料保存各論2 (石器・石製品の種類と保存)
6. 資料保存各論3 (金属器・ガラス製品の種類と保存)
7. 資料保存各論4 (木製品・繊維製品の種類と保存)
8. 資料保存各論5 (骨・骨製品・動物製品の種類と保存)
9. 遺跡と遺構調査1 (地形、土壌、遺構確認、掘削)
10. 遺跡と遺構調査2 (記録と情報)
11. 遺物調査1 (接合、復元、実測、トレースの内容)
12. 遺物調査2 (科学分析と保存)
13. 発掘調査報告書の作成とアフターケア(資料の活用と公開)
14. 文化財関連施設における資料保存と展示
15. まとめ (発見・取り上げ・保管・収納・保存処理・歴史叙述・公開・活用...博物館に受け渡すために)

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験を課す。ただし受験資格は3分の2以上の出席とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書、新聞、ウェブなどを通して各回の授業テーマについて事前に情報収集したり、前回の授業内容の復習を行うこと。

(目安の時間 予習60分、復習30分)

考古資料の取り扱いという視点では、近隣で行われている遺跡の発掘調査情報を取得して、現地説明会などの機会で見学したり、保存整備され公開されている遺跡を訪れて、どのような点を工夫して施設を作っているのかを考えてほしい。

また資料保存という視点で、実際に近くの博物館、資料館の展示を展覧すること。(目安の展覧時間 40分×3回)

履修上の注意 /Remarks

講義の14回は、関連施設あるいは遺跡公園などの見学を行うので、昼休みを利用して各自移動すること。(現地集合)

また、途中、急遽発掘現場の見学を行う場合もある。その際は直前の講義の中で知らせることとする。

博物館資料保存論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

博物館資料を構成する考古資料がどんな手順で発見・保存され、守られて来たのか、また今後どう守り伝えていけばいいのかを念頭に講義に臨んでほしい。

キーワード /Keywords

考古学 埋蔵文化財 遺構 遺物 発掘調査報告書 保存 公開と活用

博物館展示論 【昼】

担当者名 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

博物館の展示の基本理念と具体的方法についての基礎的な知識を養う。
様々な分野の博物館における様々な展示形態・展示方法・機材の使用法について学ぶとともに、実際の展示の現状・課題について習得する。

第6回～第15回は外部講師として、北九州市漫画ミュージアム、北九州市立文学館、北九州市立美術館の学芸員をお招きして学内で行う。ただし第8回の授業は、漫画ミュージアムにて行う予定。(詳細な予定については、第1回目の授業のときに説明する。)

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年)○
- ・ 表智之・金澤韻・村田麻里子『マンガとミュージアムが会おうとき』(臨川書店、2009年)○
- ・ 難波祐子『現代美術キュレーター・ハンドブック』(青弓社、2015年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「展示」の意味について
- 第3回 人文系博物館の展示と自然系博物館の展示
- 第4回 展覧会企画と展示の方法
- 第5回 良い「展示」をつくる-展示作業の事例
- 第6回 マンガ資料の特性と展示手法
- 第7回 展示設計と企画展マネジメント
- 第8回 地域の文化としてのマンガ / 北九州ゆかりのマンガ家たち
- 第9回 マンガ展示は誰のために
- 第10回 文学館の展示概論
- 第11回 文学館の展示パネル・キャプション
- 第12回 文学館の図録
- 第13回 美術館の展示作業 1
- 第14回 美術館の展示作業 2
- 第15回 現代アートの展示の特徴

※授業内容は変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10%
課題レポート...90%

※4回以上の欠席は不可、15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
※変更が生じる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。
学芸員の方による授業前には、その方が勤務されている博物館についてインターネットなどで情報を得ておくこと。
講師の学芸員の方が勤務されている博物館を訪れる際は、授業内容を確認の上、観覧すること。

履修上の注意 /Remarks

少なくとも一か所以上の博物館を訪ね、展示の仕方について観覧しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在、博物館で勤務されている学芸員の方の話を聞ける貴重な科目です。内容を聞き流すことなく、ポイントをしっかりとメモするようにしてください。
「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講してください。

博物館展示論 【昼】

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 史緒 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

美術館・博物館には「調査・研究」「保存・保管」「展示」「教育・普及」といった役割があります。近年ではそこに「社会包摂」「地域との関わり」「観光」といった役割・機能が加わり、求められる美術館の機能・役割は大きく変化しつつあります。

この授業では美術館・博物館の役割のうち、外に向かって開かれている部分＝人や地域と関わる部分を広く美術館の教育的機能ととらえます。そして美術館・博物館の教育的機能の考え方がどのように移り変わってきたかを踏まえつつ、近年の特徴的な試みについて国内外の事例から学びます。

美術館・博物館の教育的役割について考えることは、地域と文化、社会と文化、そしてひとりひとりの暮らしと文化の関わりについて考えることにつながります。例えば高齢化や産業構造の変化に対峙する地方自治体において、あるいは自然災害や公害で破壊されたコミュニティにおいて、美術館・博物館はどのような役割を担っていくことができるのでしょうか？また多文化社会を生きていく子どもたち、障害や言語的・設備的ハードルによって施設に足を運びにくい人々に対し、どのように美術館・博物館の資料やノウハウを活用し、豊かな文化的体験を提供することができるのでしょうか？

本講義を通し、既存の美術館・博物館のイメージや現在の美術館・博物館のあり方を受講者それぞれの視点で問い直し、これからの美術館・博物館の役割について具体的に考えることができると思います。

教科書 /Textbooks

ありません。レジュメ、資料を必要に応じて配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 博物館教育の歴史的・理論的背景
3. 博物館と教育：様々な鑑賞プログラム
4. ワークショップ体験演習
5. 博物館と高齢者
6. 博物館と障害者
7. 博物館と社会の多様化
8. 博物館と災害
9. 博物館と観光
10. 博物館と地域（地域の記憶と向き合う）
11. 博物館と地域（地域の課題と向き合う）
- 12-15. 教育プログラム演習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：20% WS課題：10% 最終課題：30% 授業への取り組み：40%

- ・ 対話・演習による授業のため、出席と参加態度、議論への貢献を求めます。
- ・ 実地研修はこちらで候補を提示し、受講者が各自日程を調整の上参加するものとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の内容は随時小テストで振り返りを行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学芸員資格を持つ学生の進路も多様化しつつあります。この講義でカバーする内容は、美術館・博物館に勤めることを目指す方だけでなく、地方自治体や政府機関、劇場・音楽堂といった文化施設、まちづくりに関わる企業やNPOなどを目指す方にも有効な視点を多く含みます。自分の中の「問い」を大切にしながら参加してもらえればと思います。

キーワード /Keywords

美術館、博物館、教育、ワークショップ、まちづくり、記憶、地域、文化

博物館情報・メディア論【昼】

担当者名 /Instructor 須 孝幸 / Takayuki Nasu / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

博物館の仕組みや芸術と日常との接点について洞察しながら、現代社会における博物館メディアの現状と今後を考える。
 事例として世界最初の万博である1851年のロンドン万博の頃から現代までの約150年間をめぐる国内外の芸術表現、メディア思想を幅広く概観することで、社会や日常生活へ反映されていくメディアの実態を探る。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』ぎょうせい
 森山朋絵監修『映像体験ミュージアム』工作舎

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 メディアとは何か ~メディア社会の博物館
- 2回 メディアとしての博物館(1) 展覧会と教育普及活動
- 3回 メディアとしての博物館(2) 博物館の役割とコレクション
- 4回 「院展」「コレクション展」視察(北九州市立美術館本館で現地研修)
- 5回 メディアとしての博物館(3) 本の仕事
- 6回 「フジフィルムコレクション展」視察(北九州市立美術館分館で現地研修)
- 7回 メディアとしての博物館(4) 展覧会企画(レポート作成)
- 8回 視覚メディアの歴史(1) 視覚メディアの歴史(映像装置)
- 9回 視覚メディアの歴史(2) 19世紀における絵画と写真の関係1
- 10回 視覚メディアの歴史(3) 19世紀における絵画と写真の関係2
- 11回 視覚メディアの歴史(4) 20世紀前半の絵画と写真(レポート作成)
- 12回 芸術・メディア・社会(1) 1960年代の芸術動向を事例に
- 13回 芸術・メディア・社会(2) 芸術メディアの社会性(レポート作成)
- 14回 「ランス美術館展」視察(北九州市立美術館本館で現地研修)
- 15回 著作権とメディア ~アーティストとアート作品の関係

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50パーセント
 定期試験 30パーセント
 日常の授業への取り組み 20パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業当日までに各自前回の復習を行っておくこと

履修上の注意 /Remarks

出席は大前提、理由のある欠席の場合は事前に申し出ること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義を通じて、博物館にまつわるメディアの知識だけでなく、メディア社会の実態と構図を多角的に洞察する姿勢や力を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

博物館 展覧会 視覚メディア オリジナリティ 写真と絵画 社会と法律

博物館実習I【昼】

担当者名 門田 彩 他
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、実際の博物館相当施設での館園実習の事前教育として、北九州市内の博物館相当施設の見学実習と学内での実務実習を行う。見学実習では、学芸員の方から専門的な話を伺う予定。
見学実習の日程などの詳細は第1回目の授業時に指示する。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は原則として金曜日1,2限に行う予定であるが、博物館・美術館の展示スケジュールや学芸員の勤務予定との関係で、学外見学を土曜日や日曜日・休暇期間中などに変更することもある。

- 第1回 事前学習
- 第2回 見学実習もしくは実務実習①
- 第3回 見学実習もしくは実務実習②
- 第4回 見学実習もしくは実務実習③
- 第5回 見学実習もしくは実務実習④
- 第6回 見学実習もしくは実務実習⑤
- 第7回 見学実習もしくは実務実習⑥
- 第8回 見学実習もしくは実務実習⑦
- 第9回 見学実習もしくは実務実習⑧
- 第10回 見学実習もしくは実務実習⑨
- 第11回 実習II報告会(予定)
- 第12回 見学実習もしくは実務実習⑩
- 第13回 見学実習もしくは実務実習⑪
- 第14回 見学実習もしくは実務実習⑫
- 第15回 事後学習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度と実習日誌で100%評価する。
施設見学を欠席した場合は各自で見学して実習日誌に記入すること。
理由如何を問わず3回以上欠席は不可。15分以上の遅刻は欠席扱いとする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には、次に行く施設についてインターネット等で基本情報を調べておくこと。
授業後は、説明内容、見学内容について、授業中に作成したメモに基づいて、博物館実習日誌に消えない筆記具(ボールペン、万年筆等)を用いて記録すること。鉛筆、シャープペンでの記録は認めない。ただし、施設見学時のメモは鉛筆で取ること。

履修上の注意 /Remarks

「博物館実習I」は、「博物館実習II」と2学期連続して取らなければならない。
最初の授業の折におよその授業計画を説明するので、必ず出席のこと。
実習科目なので欠席は原則として認めない。万が一欠席した場合は、見学を各自でおこない日誌を書くこと。
事後学習外の諸施設や展示品の見学に際しては、学芸員の直接の指導を依頼することもあり、遅刻・欠席は許されないので要注意。
見学に際しての交通費・入館費は各自の負担である。
事前に、生協などの損害賠償保険に加入しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講すること。授業は聞き流すことなく、ポイントをしっかりとメモすること。
新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、なるべく多くの博物館へ足を運び、博物館に親しんでほしい。

博物館実習I【昼】

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館実習II 【昼】

担当者名 門田 彩 他
/Instructor

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業は、博物館学芸員資格履修の仕上げの意味を持った館園実習である。博物館相当施設において45時間以上(5日間以上)の実習を行うが、その内容は施設によって異なる。

実習は本学が博物館・美術館に依頼して実施されるが、担当学芸員はじめ館員の方すべてが、業務の傍らで時間を割いて機会を作ってください初めて実現しているものであるため、決して迷惑を掛けるようなことがあってはならない。

取り扱うものは、金銭に換えがたい貴重な資料や作品である。当然、慎重な取り扱いや真摯な研究態度が望まれる。そうしたことに十分に気をつけ学芸員の方のお話を真摯に聞く態度が求められる。

また、2学期開講の「地域文化資源演習」の授業に1回以上参加し、実習で得た知識や経験をもとに「地域文化資源演習」履修生にアドバイスをすること。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「博物館実習II」の受講申告者には5月頃に直前説明会を行う。
第2回以降は、各施設の指定する実習期間と12月に予定している実習報告会とする。

「博物館実習II」は4年次履修で、期間は2単位分、5~10日間(合計45時間以上)を、原則として大学が指定した博物館・美術館で夏休み期間中に行う。

「博物館実習II」を履修するためには、その前年度に「博物館実習I」を履修合格しておくとともに、次の諸学科の単位をすべて修得していなければならない。

- 博物館概論、博物館展示論、博物館経営論、博物館情報・メディア論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館教育論
- 選択科目2科目以上(2系列以上からそれぞれ1科目以上)

直前説明会に欠席した場合は履修できない。また申込者であっても、実習生としてふさわしくないと判断した時は、履修を中止させる事がある。

実習報告会に欠席した場合は履修できない。

「地域文化資源演習」の時間割や内容等については、直前説明会で指示する。

館務実習費・交通費などの諸費用は履修生が負担するものとする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習日誌に記載された担当学芸員の評価、実習報告会での報告内容、「地域文化資源演習」への参加態度により、100%評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、実習を行う博物館についてインターネットなどで調べておくこと。また、当該館が扱う分野(たとえば、歴史、自然史)についての基礎的知識を学んでおくこと。

毎日の実習内容を、当日のメモをもとに十分に練られた文書を作成した上で、博物館実習日誌に丁寧に記録すること。記録の際には、消えない筆記具(ボールペン、万年筆等)で行うこと。シャーペン、鉛筆等は認めない。

履修上の注意 /Remarks

真摯な姿勢をもって実習を行うこと。
各自で損害賠償保険に加入しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講すること。

新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、実習を行う館以外にもなるべく多くの博物館へ足を運び、博物館に親しんでほしい。

博物館実習II【昼】

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

法学総論 【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

この授業は1年次・第一学期に配当されていることからわかるように、法学部の専門科目を学ぶにあたって必要な基礎知識や基本的な法学の考え方を習得するための科目です。各分野の法律は個々バラバラにあるわけではなく、それらを貫く背景や考え方をもっています。そうしたいわば「太い幹」を概説することが授業の中心におかれます。この授業を通して受講者が①法学の全体像を大まかにでもイメージできるようになること、②この先に学ぶ個別の法律がその全体といかなる関係にあるのかを意識できるようになること。大きくこの二点を本講義の到達目標とします。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業はテーマごとに配布するレジユメをもとに進めます。各回の内容やテーマに関連した文献が紹介できる場合には、授業の中でお伝えします。なお、最新の六法を各自で持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤正巳・加藤一郎編、『現代法学入門〔第4版〕』、有斐閣双書、2005年。
- 稲正樹ほか、『法学入門』、北樹出版、2019年。
- 中山竜一、『ヒューマニティーズ 法学』、岩波書店、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス&イントロ：実年齢の変更は裁判で認められる（べき）か…【法化社会】
- 2回 法の目的①：もしも法がなかったら？…【法の支配】と【法治主義】
- 3回 法の目的②：法が法である条件は？…【法と道徳】、【法と強制】
- 4回 法の目的③：法は正義の味方ではない…【法における正義】
- 5回 立憲主義①：個人を起点に社会秩序を考える理由…【社会契約論】
- 6回 立憲主義②：もしボデイガードが殴ってきたら？…【国家=権力】の両義性、【違憲審査】
- 7回 立憲主義③：多数決で決めてはいけないもの…【民主主義】、【公/私の区別】
- 8回 法の体系①：さまざまな分類…【法の位階】、【公法/私法】、【実体法/手続法】
- 9回 法の体系②：民事と刑事、原理から見る「守備範囲」…【私的自治】、【国家刑罰権】
- 10回 法の体系③：賛成ですか / 反対ですか、それはなぜですか？…【死刑制度】
- 11回 法の体系④：近代法から現代法へ…【法の機能】から法体系を俯瞰する
- 12回 裁判と法①：裁判の種類と関連性…【裁判制度】、【裁判手続】
- 13回 裁判と法②：法解釈と思考法…【要件-効果】
- 14回 裁判と法③：選ばれたらどうします？…【国民の司法参加】
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業全体の内容についての理解度をはかる定期試験…100%
- ・ 授業の進捗状況により、コメントカードの提出を求められることがあります。その場合、優れたコメントは成績評価に加味します。

法学総論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】：配布プリントを確認し、意味の分からない言葉を調べ、疑問箇所をピックアップしておいてください。

【事後学習】：授業後、講義内容を自身で振り返るようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

法(学)には、たいてい原則のようなものが備わっています。しかし同時に例外的な考えをとることも少なくありません。この授業で扱うのは体系的な考え方ですので、受講者はまず原理や原則を着実に理解するようにしてください。そしてそのうえで、例外的な考えや細かな考えに繋がって行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの学生が横並びに同じスタートラインを切れるところが法学の「強み」だと思います。臆することなく、着実なスタートをしましょう。

キーワード /Keywords

法の目的、法の機能

国際法Ⅰ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅰ

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。

国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

到達目標は、

- 国際法とは何を指すのか、慣習国際法の問題も含め、説明できる、
- 国際法がどのように作られるのか、その定立のプロセスを法制度として、説明できる、
- 締結された国際約束が国内社会でどのように取り扱われているのか、また国際約束の目的の実現のために国際社会が国内社会に対してどのように働きかけているのか、説明できる、
- 国際法における任意規範と強行規範の議論を、条約の無効の問題も含め、説明できる、
- 国際法への違反があった場合、どのような責任が発生するのか、紛争を処理するためにどのような国際制度があるのか、力による解決は認められるのか、それらの課題も含め、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税

学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

第2回 条約の締結

第3回 条約への留保

第4回 条約の国内的効力と国内適用

第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

第6回 条約と第三国

第7回 慣習国際法の成立

第8回 慣習国際法の法典化

第9回 条約の無効

第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

第11回 国際責任

第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止

第13回 自衛権

第14回 国際司法裁判所(ICJ)

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習復習課題、中間確認考査、および学期末試験で評価します。

予習復習課題...17.8% 中間確認考査...14.4% 学期末試験...67.8%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。

国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

到達目標は、

- 国家システム(state system)の現状と課題を把握し、説明できる、
- 国際社会における主権国家の機能や役割を正しく理解し、説明できる、
- 国益、共通利益、国際社会の公益について、自らの問題として、積極的に考えることができる、
- 国家の基本的権利や義務の議論を正しく理解し、説明できる、
- 個人が国際法においてどのように取り扱われてきているか、その主体性について説明できる、
- 領域に対する国家の権限を正しく理解し、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税

学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認

第3回 国家の基本的権利

第4回 国家の基本的義務

第5回 まとめ

第II部「国際法主体としての個人」

第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定

第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援

第8回 国際犯罪

第9回 国際刑事裁判所(ICC)

第10回 まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」

第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権

第12回 海と国際法：海上交通

第13回 海と国際法：海洋資源

第14回 空と国際法

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習復習課題、中間確認考査および学期末試験で評価します。

予習復習課題...17.8% 中間確認考査...14.4% 学期末試験...67.8%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学

PLS100M

授業の概要 /Course Description

本講義は、政治の基本的な仕組み・ルールである「政治制度」の紹介を通じて、政治学の基礎的な概念を学び、日本やその他の民主主義諸国の政治に対する見方を養うことをその目的とします。

より具体的には、導入として政治そして民主主義とは何かということについて考えたうえで、①政治制度にはどのようなものがあり、その違いが民主政治の在り方にどのような影響を与えるかについて学ぶ中で、政治学の基礎的な知識を身に着けること、②政治“学”の知識を蓄えることとどまらず、そうして学んだ政治制度の知識に基づいて日本や各国の実際の政治について考察する力を身に着けること、③政治制度の観点から政治過程論・行政学・国際関係論といった隣接する科目のトピックの一端に触れることでより専門的な内容への関心を高めることを目指していきます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しませんが、各回にレジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史(2008)『比較政治制度論』有斐閣アルマ
レイプハルト,アーレント(粕谷裕子、菊池啓一訳)2014.『民主主義対民主主義(原著第2版)』勁草書房
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝(2011)『政治学(補訂版)』有斐閣
永井史男・水島治郎・品田裕 編(2019)『政治学入門』ミネルヴァ書房
川出良枝・谷口将紀 編(2012)『政治学』東京大学出版会
砂原庸介・榊田健志・多湖淳(2015)『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア

政治学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：政治とはなんだろうか
【権力】【政治と経済】【集合行為】
- 第2回 政治制度：民主主義というルール、民主主義のルール
【体制論】【本人-代理人関係】【合理的選択制度論】
- 第3回 選挙制度：政治家はどう選ばれるか
【小選挙区制】【大選挙区制】【比例代表制】【混合制】
- 第4回 執政制度：トップリーダーに何ができるか
【執政長官】【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
- 第5回 政党システム：政治の勢力図
【二大政党制】【多党制】【デュヴェルジエの法則】
- 第6回 政党組織：政治のチーム・マネジメント
【議会政党】【議会外政党】【集権-分権】【党内民主主義】
- 第7回 議会制度：政策を審議する
【立法過程の効率性】【立法過程の開放性】【二院制】
- 第8回 投票行動とアカウンタビリティ：有権者と政治制度
【政策投票（争点投票）】【回顧的投票（業績投票）】【責任の明確性】
- 第9回 行政官僚制：民意と専門性
【能力・専門性】【官僚の政治的統制】【官僚の自律性】
- 第10回 中央地方関係：自治と画一性
【単一国家】【連邦国家】【地方分権】
- 第11回 政治制度から日本を眺める①：55年体制
【55年体制】【中選挙区制】【派閥】
- 第12回 政治制度から日本を眺める②：政治改革以後
【選挙制度改革】【小選挙区比例代表並立制】【行政改革】【政権交代】
- 第13回 政治制度から世界を眺める
【多数決型（ウエストミンスター型）民主主義】【コンセンサス型民主主義】
- 第14回 国際制度：政府のない世界の政治制度
【主権国家】【集団安全保障】【グローヴァル・ガヴァナンス】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみてください。事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業で配布するレジユメは専門用語を多く含んだ「政治学の言葉」で書かれています。それに対して授業内ではできる限りかみくだいて説明するよう努めますので、各回授業への取り組みが講義の理解にとって極めて重要です。授業終了後の復習時に、レジユメの内容が理解できるか、「自分の言葉」で説明できるか確認してみてください。
- ・ 授業スライドは復習用にデータを配布します。スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義から政治学の学習を始めるという方が多くいらっしゃると思いますが、スポーツから様々なゲームに至るまで、何かを深く理解する出発点はまずその基本的な仕組みやルールをよく知ることです。政治におけるそうした基本的ルールである「政治制度」の学習を通じて、政治という複雑な営みについて体系的・学問的に考えるための一つの見方を提供できればと思います。

キーワード /Keywords

民主政治 政治制度 本人-代理人関係 合理的選択制度論

社会科学教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ①本授業は、社会科学を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領(現行および新指導要領)に基づいて解説する。
また社会科学の各分野に必要とされる具体的な技能や方法(指導計画、社会科学における資料活用、学習指導案の作成)など、社会科学の授業を行っていく上での基礎的な知見を修得する。
- ②中等教育における社会科学、地理歴史科の特色とそれら各分野の関連を理論的かつ実践的に考えていく。
- ③教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説社会編」(平成29年告示・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和井田清司編2007『中等社会科学の理論と実践』学文社
- ・ 他に、授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と社会科学の役割
 - 第2回：社会科学の目標と内容 社会科学教師としての資質・能力について
 - 第3回：学習指導要領の変遷 新しい学習指導要領について
 - 第4回：地理的分野の目標と内容
 - 第5回：歴史的分野の目標と内容
 - 第6回：公民的分野の目標と内容
 - 第7回：社会科学の授業づくり 教材研究
 - 第8回：社会科学の授業づくり 地図帳・地理の学習について
 - 第9回：社会科学の授業づくり 教科書の変遷や内容の取り扱いについて
 - 第10回：社会科学の授業づくり 実生活との関連や法と政治について
 - 第11回：社会科学の授業づくり 授業研究・授業記録・実践紹介
 - 第12回：社会科学の授業づくり 評価論とPDCAサイクル 指導案の作成
 - 第13回：学習指導案の作成と実践 指導観・教材観・生徒観 模擬授業(1)
 - 第14回：学習指導案の作成と実践 授業計画 模擬授業(2)
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度(グループ発表や質疑などへの参加)・・・30%
- 最終試験・課題レポート・・・30%
- 学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
グループワーク・発表の準備(受講人数によって課題の変更あり)
- 事後学習：学習指導要領に関する理解の確認、講義後に指示を行う

社会科学教育法 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も該当箇所・資料を読んでおくこと。

授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。
なお出席は、3分の2以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

社会科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、社会科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
 (1) 学習指導要領に基づき、現在の社会科教育の位置づけを理解する。
 (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
 (3) 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。(4) コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。
 上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

授業の際に配布するレジュメ・資料等
 「中学校学習指導要領解説 社会編」(文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 インTRODクシヨン
- 第 2回 学習指導要領における社会科の位置付け
- 第 3回 教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 4回 指導案作成上の留意点
- 第 5回 指導案作成と教材研究・教材開発
- 第 6回 資料活用法、オリジナル教材の作成
- 第 7回 社会科におけるアクティブラーニング
- 第 8回 模擬授業(地理的分野①)
- 第 9回 模擬授業(地理的分野②)
- 第 10回 模擬授業(歴史的分野①)
- 第 11回 模擬授業(歴史的分野②)
- 第 12回 模擬授業(公民的分野①)
- 第 13回 模擬授業(公民的分野②)
- 第 14回 授業研究と評価
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ◎教材研究、指導案の準備については適宜打ち合わせを行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業後にコメント用紙(授業の感想や質問など)を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、2020年、税別1300円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

歴史と政治【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。ノートをしっかりとって下さい。最新の研究成果を用いて講義を進めます。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題の不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要になった時に努力すればすぐ入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs 不平等をなくす

ことばの科学 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			ことばの科学 LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- ステーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生まだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門
			IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面 (エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障)
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面 (国防、日米同盟、国際貢献)
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて世界 (地球) 特講 (テロリズム論) を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- ・ 生命と環境に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、表現できる。
- ・ 身近な課題に関して積極的に調べ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（課題提出を含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。

事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分)。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナースhip

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか?」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか?」についての知識を生かし、SDGs (持続可能な開発目標) に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑩山の管理 (治水・利水)、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは?
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか?-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容 : 50%
レポート試験 : 50%

環境問題概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

可能性としての歴史【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【「最終的解決」】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所に目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。
ノートはしっかりとって下さい。

履修上の注意 /Remarks

可能性としての歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論
		SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

戦争論 【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代を生きるわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」がわかるわけでもありません。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるのではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、嘔むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

「こころ」は目に見えるものではないので、心理学では人の行動を観察することから始めます。観察するためには、行動を観察するだけでなく、質問にハイ・イエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難を抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から見た「こころ」がこんなにも違って見えるのかについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 福田恭介 (2018) ベアレントトレーニング実践ガイドブック - きつとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版 ○○行場次朗・箱田裕司 (2014) 新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 三浦麻子・佐藤博 (2018) なるほど！心理学観察法 北大路書房
- 丸野俊一・子安増生 (1998) 子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- やまだようこ (1987) ことばの前のことば 新曜社
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編 (2006) ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち。 ミネルヴァ書房
- 神奈川LD協会編 (2006) ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>

現代人のこころ【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6: 目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：30点
レポート：30点
期末試験：40点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

こちらからのコメントへの回答を参考にしながら、もっとも関心のある本やウェブサイトを読んで、所定の書式のレポートに要約し、200字程度のコメントを書いてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます。
2. 次の時間、コメントにはできるだけ回答したいと思います。
3. 回答内容には、関連する本やウェブサイトを紹介しますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようにいろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚，目の動き，注意，短期記憶，長期記憶，ワーキングメモリ，心の発達，発達障害

人間と生命【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- ・ 生命科学に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連テーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子発現	【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【胚】
8回	細胞の社会(1)細胞の増殖	【細胞周期】【細胞死】
9回	細胞の社会(2)シグナル伝達	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【染色体】【テロメア】
12回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
13回	体を守るしくみ(3)私たちと細菌	【細菌】【腸内細菌】
14回	関連ビデオ鑑賞	
15回	質疑応答・まとめ	

人間と生命【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（毎回のMoodle課題提出を含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle（e-learningシステム）で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

市民活動論【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」「社会参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 20%
期末試験... 80%

市民活動論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身についている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション – グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【人口減少社会】【インバウンド】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【外部効果】【公共ガバナンス】
- 10回 地域政策と国際化(1)【交流人口】【インバウンド振興】
- 11回 地域政策と国際化(2)【越境する地域問題】【政策手法の変化】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本 IRL004F

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構築・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

ガイダンスの時にあらためて紹介する。
第1回～第8回については、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)[本体価格2,000円]を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。
後半部分の朝鮮半島に关する記述では、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会 2013)が役立つ。その他、後半で使う参考書として、図書館所蔵のものをあらかじめ示すと、
日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』(高文研、2005)
日中韓3国共通歴史教材委員会編『新しい東アジア近現代史』上・下(日本評論社、2012)がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス、
- 2回 占領下日本の外交 【占領政策】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 3回 日米同盟の形成 【中ソ同盟】【朝鮮戦争】【サンフランシスコ講和条約】【日米安全保障条約】
- 4回 岸信介政権の外交 【1955年の政治体制】【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 5回 池田勇人政権の外交 【高度経済成長】
- 6回 佐藤栄作政権の外交 【沖縄復帰】【非核三原則】【核密約】
- 7回 田中角栄の時代と中曽根康弘の外交 【石油危機】
- 8回 冷戦の終結と21世紀の世界 【軍縮】【湾岸戦争】【テロとの戦い】
- 9回 中国、日本、朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【自由貿易】【朝鮮問題】
- 10回 日清・日露戦争と朝鮮(韓国) 【大韓帝国】【日英同盟】【日露交渉】
- 11回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【統監政治】【韓国併合】
- 12回 日本の朝鮮統治と国際関係 【武断政治】【三・一運動】【文化政治】
- 13回 国際情勢の緊迫と朝鮮統治 【満州事変】【大陸兵站基地】【日中戦争】
- 14回 日本の敗戦と朝鮮の南北分断 【皇民化政策】【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

前半レポート 50% 後半レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

近代では倫理は「倫理学」として独立した分野になっていますが、洋の東西を問わず、倫理・道徳は宗教（聖）、政治的共同体と密接な関係をもっています。また西欧においては、道徳的なものは美をもつとされ、「美しき魂」「美しき国家」の理想がとくにドイツ思想において重視されてきました。

この講義では、倫理・道徳と宗教（聖）、倫理・道徳と自然法、倫理・道徳と美（芸術作品）との分裂や融合のせめぎ合いの歴史を、近代の思想をたどることによって、明らかにします。そのことによって、現代において、法や社会を見る目が涵養され、自分がどのように行動し、判断すればよいかの「判断力」を養成する一助となることをめざします。

教科書 /Textbooks

各講義でレジメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 インTRODクシヨN：カール・シュミットと「中立性の時代」
- 第2講 第1部 聖と善の分離
(1) ルター：宗教の内面化
- 第3講 (2) ホッブズ：宗教と国家の分離、「暗黒の王国」と宗教的権威に変わる「主権」=「可死の神」
- 第4講 (3) スピノザ：民衆の道徳としての宗教、『神学・政治論』
- 第5講 (4) カント：理論論を超える理性宗教、『理性の限界内における宗教』
- 第6講 (5) フィヒテ：理性宗教の確立「生きた道徳法則が宗教」
- 第7講 第2部 法と善と聖の分離とせめぎあい
(1) ルソー：自律道徳のための法としての『社会契約論』
- 第8講 (2) カント：自由と法、「理論と実践」
- 第9講 (3) フィヒテ：フランス革命の哲学と『自然法の基礎』
- 第10講 (4) カール・シュミット：主権の不可侵性、「政治神学」
- 第11講 第3部 美と人倫、「美しき共同体」を求めて
(1) カント：美と目的論、『判断力批判』
- 第12講 (2) シラー：美と人倫、『カリアス書簡』と『美的教育書簡』
- 第13講 (3) ヘルダーリン：精神の詩学、『ヒュペーリオン』と『エンペドクレス』
- 第14講 (4) マルクス：物象化とコミュニケーション主義としてのコミュニズム
- 第15講 (5) ウィリアム・モリス：美と工芸のコミュニズム

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート60パーセント。講義の中でのリフレクション・カード40パーセント。

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、参考文献を挙げるので、取捨選択して読んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

交通機関の遅れなどやむをえない場合（要証明書）を除いて、30分を超えての遅刻入室は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい授業を心がけます。質問、議論を歓迎します。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とそれの対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs(持続可能な開発目標)の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%)②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、自己分析を通して、自らのを客観的に理解し、自己肯定感を高めるための方法について考えていきます。また、実際の事例を通し、メンタルヘルスが不調とはどういう事なのかを考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし。適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 自己分析①【心理テスト】
- 第3回 自己分析②【リフレーミング、ストレングス・パースペクティブ】
- 第4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 第5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 第6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 第7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 第8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 第9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 第10回 事例検討①【非行】
- 第11回 事例検討②【虐待】
- 第12回 事例検討③【ホームレス】
- 第13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 第14回 事例検討⑤【障害】
- 第15回 受援力、援助力

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。
メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報システムの利用について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【Moodle】【タイピング】
- 2回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】
- 3回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 4回 関数を活用した計算【セルの参照】【合計】【平均】
- 5回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 6回 グラフ作成の応用【複合グラフ】
- 7回 情報倫理とセキュリティの知識【著作権】【個人情報保護】
- 8回 電子メールの送受信方法【電子メール】【ネットワークマナー】
- 9回 簡易データベース機能の利用【並べ替え】【抽出】
- 10回 データ処理演習1（実データの解析，他のソフト等との連携）
- 11回 データ処理演習2（実データの解析，データの可視化）
- 12回 データ処理演習3（実データの解析，相関，散布図）
- 13回 少し高度なExcelの活用法【Vlookup】【ピボットテーブル】
- 14回 データ処理総合演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提出する課題 ... 50%、
授業中に提示する課題 ... 50%

データ処理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleに掲載されている資料等を事前に参照しておくこと。
タイピングなどのコンピュータ操作については、各自で日頃からの確にできるように努力すること。
授業中に出された課題に事後学習として取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度や情報システムの状況によって「授業計画・内容」を変更することがある。その際は授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

対人心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 対人心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 対人心理学の観点から人間関係の諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 人間関係の諸問題を対人心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対人心理学

PSY211M

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

教科書 /Textbooks

『社会心理学のストーリー』ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 対人認知
- 第3回 ステレオタイプ
- 第4回 帰属過程
- 第5回 社会的態度
- 第6回 対人魅力
- 第7回 対人関係の発展と崩壊
- 第8回 達成動機、親和動機
- 第9回 家族、性役割
- 第10回 組織行動、リーダーシップ
- 第11回 友人関係と孤独感
- 第12回 対人葛藤の効果
- 第13回 攻撃と援助
- 第14回 現代社会における対人心理の諸問題
- 第15回 まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト4回程度) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	教育心理学の観点から教育に関する諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	教育に関する諸問題を教育心理学の観点から解決するために主体的な学習ができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育心理学

PSY220M

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発達心理学についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	ヒトの成長や関係性の諸課題を発達心理学の観点から主体的に学習できる。

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

発達心理学

PSY222M

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本3）』 ミネルヴァ書房
¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省(2011)「生徒指導提要」 ¥298
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

発達心理学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 障害特性と障害者支援についての基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 障害者支援に関する基礎的な技法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 心理学の観点から障害に関する諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 障害について適切に理解し、他者を尊重した関わりができる。
	生涯学習力	● 障害に関わる諸問題について心理学的観点から主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害児の心理と指導

PSY223M

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 姿勢・運動の障害について
- 第8回 知的障害について
- 第9回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第10回 自閉スペクトラム症について
- 第11回 注意欠如多動症について
- 第12回 限局性学習症について
- 第13回 家族支援について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

障害児の心理と指導【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育社会学の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育と社会に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 教育に関する社会事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育社会学

EDU225M

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校教育をめぐる教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐる社会変化についても理解を深めていきます。
日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。
国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。
学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的な事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐる近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐる近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐる社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の姿容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

教育社会学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

人体の構造と機能及び疾病【夜】

担当者名 島 京子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人体の構造と機能及び疾病についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	疾病が発生する要因を社会生活のあり方との関連で理解することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	疾病の発生とライフサイクル上の健康の課題を理解することを通して、人間の生活課題に対する関心を高める。

* 人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人体の構造と機能及び疾病

SOW231M

授業の概要 /Course Description

講義形式が主体であるが、適時、事例などの資料を活用しGWや演習を行う。
食・活動・排せつ・休養・睡眠などの生活行動を司る人体構造と機能についての概要、生活機能を低下させる主な疾病・障害についての概要、機能低下の回復過程としてのリハビリテーションについての概要を学ぶ内容が主な柱となる。

教科書 /Textbooks

新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 中央法規出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時、授業内で紹介する。事前準備は不要。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 人の成長・発達と老化①・・・身体の成長・発達 精神の成長・発達について学ぶ
2. 人の成長・発達と老化②・・・老化について学ぶ
3. 身体構造と心身の機能①・・・人体の部位の名称について 水分と脱水 血液の成分 心臓の構造について学ぶ
4. 身体構造と心身の機能②・・・循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・運動支持器の構造と機能について学ぶ
5. 身体構造と心身の機能③・・・内分泌器・神経系・感覚器・皮膚・生殖器・その他の構造と機能について学ぶ
6. 国際生活機能 (ICF) の基本的な考え方と概要・・・国際障害分類 (ICDH) から国際生活機能分類 (ICF) への変遷について学ぶ
7. 健康の捉え方・・・健康の概念について、WHO憲章による健康の定義、その他の定義について学ぶ
8. 疾病の概要①・・・生活習慣病の病態・診断治療法について学ぶ
9. 疾病の概要②・・・神経精神疾患・先天性精神疾患の病態・診断・治療法について学ぶ
10. 疾病の概要③・・・悪性腫瘍・難病の病態、その他高齢者に多い疾患 終末期医療と緩和ケアについて学ぶ
11. 障害の概要①・・・視覚障害・聴覚障害、平行機能障害、肢体不自由について学ぶ
12. 障害の概要②・・・内部障害・発達障害・認知症について学ぶ
13. 障害の概要③・・・高次脳機能障害、精神障害について学ぶ
14. 障害の概要④・・・精神疾患の診断・統計マニュアルの概要 その他について学ぶ
15. リハビリテーションの概要・・・リハビリテーションの定義、対象、リハビリテーションの障害評価、諸段階、4つの側面について学ぶ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・定期試験・課題レポートで評価する。

課題レポートのテーマは授業内で提示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で配布した資料などを活用し、授業内容の確認、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、予め教科書に目を通しておくこと。

人体の構造と機能及び疾病 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 現代社会における社会福祉士実践の基礎について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	● 相談・支援技術、問題解決へのコーディネート力といった技能の基礎を理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉に関する理論と現場理解を基盤に、地域と対象者の抱える問題の本質を分析できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 地域における社会福祉活動に積極的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の基盤と専門職 1

SOW260M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版、2,600円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
- 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
- 3回 相談援助の定義と構成要素1 【ソーシャルワークの概念】
- 4回 相談援助の定義と構成要素2 【ソーシャルワークの構成要素】
- 5回 相談援助の形成過程I1 【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
- 6回 相談援助の形成過程I2 【ソーシャルワークの発展期】
- 7回 相談援助の形成過程I3 【ソーシャルワークの展開期】
- 8回 相談援助の形成過程I4 【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 9回 相談援助の理念I1 【ソーシャルワーカーと価値】
- 10回 相談援助の理念I2 【ソーシャルワーク実践と価値】
- 11回 相談援助の理念I3 【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
- 12回 相談援助の理念I4 【ソーシャルワーカー倫理綱領】
- 13回 相談援助の理念II1 【クライアントの尊厳と自己決定】
- 14回 相談援助の理念II2 【ノーマライゼーションと社会的包摂】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、新聞記事やテレビニュース等を通して福祉に関する時事に関心を持ちましょう。また、講義時に紹介する文献などを読むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。
社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

相談援助の基盤と専門職 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

担当者名 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における社会福祉士実践の基礎について、地域現場との関わりの中で総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	相談・支援技術、問題解決へのコーディネート力といった技能の基礎を理解する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域と対象者の抱える問題に対する解決策を提案できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における社会福祉活動に主体的に取り組むことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の基盤と専門職 2

SOW261M

授業の概要 /Course Description

相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するという点について、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
- 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
- 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
- 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
- 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
- 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
- 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
- 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
- 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
- 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
- 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
- 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
- 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、新聞記事やテレビニュース等を通して福祉に関する時事に関心を持ちましょう。また、講義時に紹介する文献などを読むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。
本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

相談援助の理論と方法 1 【夜】

担当者名 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 人と環境の相互作用に関する専門知識に加え、相談援助の対象と実践モデルについて理解する。
技能	専門分野のスキル	● 地域で相談援助活動を行っていく上で必要とされる、具体的な支援技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 多面的な視野から状況を判断し、個々人が抱える問題の本質を見抜く力を獲得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を培う。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法 1

SOW262M

授業の概要 /Course Description

「相談援助の理論と方法I」では、相談援助における人と環境との相互作用に関する理論、及び相談援助における対象の理解、援助関係構築に関する理論と方法について学習し、相談援助とは何かを深める。

その学習をもとに実践する場合の展開過程を丁寧に辿り、各段階の目的や内容を理解する。さらに相談援助を実践するために重要な視点及び必要な技術について理解を深める。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編 「新 社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法I 第3版」
中央法規

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて 授業の中で紹介する。
その他 適宜 資料プリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス	「相談援助の理論と方法I」で何を学ぶのか。全体の講義の概要。
第2回	相談援助とは	「ソーシャルワークの定義と枠組み・対象の理解」
第3回	相談援助の構造と機能	「ソーシャルワーカーの役割」
第4回	人と環境の相互作用	「システム理論とソーシャルワーク」
第5回	ジェネラリスト・ソーシャルワークについて	
第6回	相談援助における援助関係	「援助関係の構造や援助者の自己覚知について」
第7回	相談援助の展開過程I	「ケース発見から問題把握・ニーズ確定まで」
第8回	相談援助の展開過程II	「アセスメントからプランニングまで」
第9回	相談援助の展開過程III	「プランニングから支援の実施へ」
第10回	相談援助の展開過程IV	「モニタリングから地域の課題表出へ」
第11回	相談援助のための面接技術について	「面接技法の意義と目的」
第12回	相談援助面接の実際	
第13回	相談援助の様々な実践モデルとアプローチ	
第14回	相談援助における記録の意義と倫理について	
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% 日常の授業への取り組み 20%

相談援助の理論と方法 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テレビや新聞などのメディアや書籍で扱われている、貧困や労働問題、高齢者や障害者に関すること等々、様々な社会問題について積極的に関心を持ち、どんな機関や専門家が関わっているのかについて知識を深めること。
授業で配布した資料を見直しができるようファイル化すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【夜】

担当者名 /Instructor 工藤 歩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 相談援助の対象と集団を活用した実践モデルについて総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	● 多職種連携や多機関連携等の具体的な支援技術を身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 個人や集団が置かれた状況を判断し、人々が抱える問題の本質を見抜く力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 生涯にわたり、地域における社会福祉活動に積極的に取り組む姿勢を培う。
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法 2

SOW263M

授業の概要 /Course Description

ソーシャルワークにおける対象者の理解、支援過程の理解、および支援計画やネットワークの重要性について学ぶ。また社会資源の活用やソーシャルアクションの意義についての理解を深める。さらにはそれらを活用し、スーパービジョンやコンサルテーションがおこなえる知識を養う。

教科書 /Textbooks

弘文社『社会福祉士シリーズ 8 相談援助の理論と方法II 第2版』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ミネルヴァ書房『社会福祉小六法』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 『オリエンテーション』 ソーシャルワークにおける価値と尊厳
- 第2回 『ソーシャルワークにおける対象の理解(1)』 個人
- 第3回 『ソーシャルワークにおける対象の理解(2)』 集団
- 第4回 『ソーシャルワークにおける対象の理解(3)』 地域
- 第5回 『ソーシャルワークにおける対象の理解(4)』 施策・計画
- 第6回 『ケースマネジメントにおける支援過程の理解(1)』 インテーク
- 第7回 『ケースマネジメントにおける支援展開過程の理解(2)』 アセスメント
- 第8回 『ケースマネジメントにおける支援展開過程の理解(3)』 プランニング
- 第9回 『ケースマネジメントにおける支援展開過程の理解(4)』 支援の実際
- 第10回 『ケースマネジメントにおける支援展開過程の理解(5)』 モニタリングとフィードバック
- 第11回 『さまざまな実践モデル・アプローチ さまざまな実践モデル』
- 第12回 『アウトリーチの活用』
- 第13回 『ネットワーキングと学際的支援』
- 第14回 『ソーシャルアクションについて』
- 第15回 『スーパービジョンとコンサルテーション』

成績評価の方法 /Assessment Method

試験60%、レポート20%、受講態度20%
なお講義開始30分を越えての入室は欠席扱いとする
全講義の3分の2を下回る出席は評価対象としない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定教科書、関連図書、参考文献等に事前に目を通しておくこと
事後には配布資料、ノートの整理を行ない理解を深めること

履修上の注意 /Remarks

相談援助の理論と方法 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ケースマネジメント、ケアプラン、ネットワーク、スーパービジョン

相談援助の理論と方法3 【夜】

担当者名 藤田 博久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	相談援助に関する基礎的・専門的知識と技術を理解する。
技能	専門分野のスキル	●	初任者段階での相談援助の知識と技術を身に付ける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	問題解決に資する分析能力を身に付ける。
	プレゼンテーション力	●	生活問題に関する自らの考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間の暮らしと社会問題の関係について問題意識を持ち、主体的に学習することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相談援助の理論と方法3

SOW264M

授業の概要 /Course Description

- 講義の主なねらいは、次のとおりです。
 - 地域福祉実践を検証する原理・原則、枠組み・指標について学ぶ。
 - 地域福祉の問題や課題を構造的・総合的に把握する方法について学ぶ。
 - 地域福祉実践を幅広い視野と多面的な角度から捉えることを学ぶ。
 - 地域福祉の実践的援助技術について学ぶ。
 - ソーシャルワーク・アプローチ（実践モデル）の多様性について学ぶ。
 - 理論と技術の社会的背景について学ぶ。
 - “超高齢・少子・人口減少・単身社会”の加速といった社会構造の変化と影響についての認識を深める。
 - 今後の福祉改革を貫く基本コンセプト「『地域共生社会』の実現」に基づく関連法の改正と実践の変容について知る。
- 次の7つのテーマに重点を置いて授業内容を構成します。授業内容のメインは、コミュニティソーシャルワークです。
 - 社会的背景を踏まえながら、コミュニティについての基礎理論、地域福祉を進める援助技術の系譜への理解を促す。
 - 構造改革、貧困と格差の拡大、分権改革、施策・事業の統合と再編等を軸とする関連政策動向（大状況）の分析を行い、地域福祉実践の今日的立場・役割や課題についての認識を深める。
 - 代表的な思考法（有用な「ビジネスフレームワーク」の活用を含む）、住民の流儀による地域福祉推進の考え方や手法について学ぶ。
 - 社会問題、政策主体、社会運動の視座から、技術論の前提となる地域社会・地域福祉の現状と課題についての認識を深める。
 - 地域福祉を進める援助技術の全体像について理解を深める。
 - 実践事例を通して、コミュニティ・ソーシャルワーカーの役割と機能を学ぶ。
 - 住まい・住まい方、死後委任事務、権利擁護、生活支援、居場所、個人情報、生活困窮者支援、相模原事件、自然災害への備え等の今日の課題のポイントについて学ぶ。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。講義資料として、数回に分けて事前にプリントを配布します。必要に応じて、小冊子やリーフレット類を当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は使用しません。
参考文献として、調査報告書、計画書、実践報告書等を必要に応じて紹介します。
参考書、補助教材ではありませんが、講義の理解度を高めるためには、次の図書が有効です。①三塚武男「生活問題と地域福祉」・「住民自治と地域福祉」、②井岡勉・成清義治「地域福祉論」、③高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘「ソーシャル・ワークを考える」、④久保紘章・副田あけみ「ソーシャルワークの実践モデル」、⑤大橋謙策「ケアとコミュニティ」、⑥小野達也「対話行為を基礎とした地域福祉の実践」、⑦真田是著作集第4巻、⑧コミュニティソーシャルワーク実践研究会「コミュニティソーシャルワークと社会資源開発」、⑨浅井春夫「『子どもの貧困』解決への道」⑩河合雅司「未来の年表」、⑪山崎史郎「人口減少と社会保障」、⑫大牟羅良「ものいわぬ農民」、⑬木下大生・藤田孝典「知りたい、ソーシャルワーカーの仕事」 ※⑩・⑪・⑫・⑬は単行本で、読みやすい図書です。

相談援助の理論と方法 3 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 個別支援と地域支援(1)点から線へ、そして面への展開を考える【地域自立生活支援】
- 2回 個別支援と地域支援(2)地域福祉ソーシャルワーカーが行う個別支援の基本を考える【多重・複合問題】
- 3回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(1)基本的視座と機能を考える【分権化と地域志向】
- 4回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(2)論者の基本を考える【社会福祉の3元構造論】
- 5回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(3)地域アセスメントとアウトリ-チを考える【共生支援】
- 6回 地域を基盤としたソーシャルワークのポイント(4)社会資源の開発を考える【実践知】
- 7回 住民参加・社会参加とその手法【地域協働プラットフォーム構想、地域力、合理的配慮】
- 8回 地域包括支援体制確立の課題と地域力の強化【地域福祉の計画】
- 9回 地域包括支援体制の確立に向けて【「地域共生社会」実現に向けての実践事例：平成福祉改革の30年】
- 10回 地域包括ケアシステムのポイント【居場所、社会参加、生活支援、0次予防】
- 11回 地域包括ケアシステムと地域福祉【インテグレートド・ケア、コミュニティ・ベースド・ケア】
- 12回 地域福祉実践上の今日的テーマ【権利擁護、自己決定支援、居住支援、生活困窮者支援】
- 13回 地域福祉を進める社会福祉援助技術の系譜と発展(1)英・米・日の系譜を考える【対象認識】
- 14回 地域福祉を進める社会福祉援助技術の系譜と発展(2)COを考える【組織化に関する諸原則、地域開発】
- 15回 地域福祉活動における個人情報共有化に関する取扱い【保護と活用、平常時と災害時】

※授業の様子を見ながら、講義の順番を入れ替えることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、あらかじめ配布したプリントを読み、授業内容についてのイメージづくりを行ってください。

事後学習は、毎回授業の始めに行う前回講義のポイント解説に基づき、重点的に行ってください。ホワイトボードには、プリントに記載の特に重要な内容に関する詳細な説明や、プリントにはない補足的内容を板書しますので、書き写したノートを読み返してください。

履修上の注意 /Remarks

講義のメモを丹念にとること(特に、ホワイトボードに板書した内容)。

授業中の私語は禁止します。

講義の途中で構わないので、不明な点などについてはその都度質問してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の一方的押し付けに終わらないよう、講義内容に関する履修者の希望や意見をできるだけ取り入れた授業にしていきたいと、いつも考えています。どうぞ、いつでも注文をつけてください。授業中でも、授業後でも構いません。努力します。また、講義内容が概念的過ぎて具体的な過ぎても伝わりにくとも感じています。興味がある具体的なテーマや実践事例などがあれば、ぜひ教えてください。解説します。

キーワード /Keywords

- 地域福祉理念の真髄は・・・社会運動(主権者運動・当事者運動)、住民自治、地域分権、主体形成、人間の尊厳と社会正義、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション
- 援助技術の核心は・・・ソーシャルアクション(“優しい暴力”の排除)、エンパワーメント、創発、合理的配慮、構造主義的援助論
- 地域福祉実践の重点は・・・無縁社会の克服、自然災害への備え、ネットワーキング、権利擁護、地域包括推進体制の確立、総合化・統合化、社会変革と政策提言、つながり、排除しないまちづくり、孤立と縮小を乗り越える、寄り添い型・伴走型支援、社会的処方、生活実態の解明
- 学習のポイントは・・・原理・原則、パラダイム、指標、社会的背景(「貧困」、変化・推移)、援助対象の理解

地域福祉の理論と方法 2 【夜】

担当者名 岡本 政孝 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域福祉に関する基礎的・専門的な理解ができる。
技能	専門分野のスキル	●	地域福祉の援助方法について理解ができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域福祉の諸課題を分析し、解決のための方法を検討することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの考えを適切な方法で表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地域福祉の諸課題を自らの生活に引き付けて理解し、継続して学び続けることができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域福祉の理論と方法2

SOW211M

授業の概要 /Course Description

少子高齢化や地域の連帯感の希薄化、都市部での地域社会の脆弱化、中山間部の限界集落の問題等、公的なサービスだけでは要支援者を支援することは困難になってきています。
授業では、パワーポイント、DVD、配布資料を使用して、地域福祉にかかわる社会資源（機関、団体、人材、資金、制度、情報など）を理解し、地域コミュニティの創造に向けて、住民や専門職がどのような役割を果たしているか理解します。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。
必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献として、授業の理解を深めるために「社協コミュニティワーカー黒子読本」を推薦します。
栃木県社会福祉協議会ホームページからダウンロードすることができます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 オリエンテーション【傾聴】【自己覚知】
- 第 2回 地域福祉の推進機関【社会福祉協議会】【地域包括支援センター】【共同募金会】
- 第 3回 地域福祉の人材①【自治会】【民生委員児童委員】【福祉委員】
- 第 4回 地域福祉の人材②【ソーシャルワーカー】【NPO】【ボランティア】
- 第 5回 孤立死防止対策【孤立死】【ネットワーク】
- 第 6回 認知症支援【認知症サポーター】
- 第 7回 震災からの復興・ゼロからの地域づくり【災害ボランティア】【生活支援相談員】
- 第 8回 権利擁護【日常生活自立支援事業】【成年後見制度】
- 第 9回 日常生活自立支援事業・成年後見制度事例検討【相談援助】【多職種連携】
- 第10回 集合住宅及び集落における支え合い【住民参加型サービス】【住民主体】【介護予防】
- 第11回 ソーシャルワークの方法【タスクゴール】【プロセスゴール】【リレーションシップゴール】
- 第12回 事例検討①
- 第13回 事例検討②
- 第14回 地域福祉活動計画の実際【地域福祉計画】【地域福祉活動計画】
- 第15回 福祉教育の考え方と推進方法

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・30% 期末試験（レポート）・・・70%

地域福祉の理論と方法 2 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：【キーワード】について理解を深めておいてください。

事後学習：興味関心を持った授業内容について、参考書・福祉関係雑誌・新聞などでさらに調べてみてください。

また、実際に地域のボランティア活動にも参加して、地域住民の熱意を体感してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分が住んでいる地域の、地域福祉にかかわる機関・団体・人材などを調べて積極的に地域行事に参加すると、より理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

福祉行財政と福祉計画【夜】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉行財政と福祉計画についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	福祉行財政と福祉計画についての課題を的確に捉え、解決策としての行財政論と計画論について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	福祉行財政と福祉計画に対する関心を高め、福祉計画づくりに取り組むことができる意欲と態度を形成する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉行財政と福祉計画

SOW242M

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向にて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2,200円
坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円
広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉と社会保障機能1【社会福祉の動向】
- 2回 社会福祉と社会保障機能2【社会保障機能】
- 3回 社会福祉と社会保障機能3【参加型社会保障】
- 4回 社会保障と税制1【財政理論】【公共財】
- 5回 社会保障と税制2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 6回 社会保障と税制3【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
- 8回 福祉行財政まとめ
- 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
- 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆっくりの社会】
- 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
- 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
- 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
- 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として福祉行財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

福祉行財政と福祉計画【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【夜】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 福祉サービスの組織と経営に関する専門知識に加え、福祉サービスを必要とする人々について総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 福祉サービスに関する組織と経営に関わる理論と現場理解を基盤に、問題解決案を提案できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉サービスの組織と経営

SOW251M

授業の概要 /Course Description

現在の日本社会は、超高齢の環境を見極めながら進まなければならないことがどの専門領域にとっても課題となっている。共働き家庭の保育や介護、心身の障がい、8050問題等、特に直接高齢者、障がい者等にサービスを提供する福祉施設等は、20世紀に築かれた老人福祉法から21世紀モデルの自立支援運営に改革が求められている。これまで日本の福祉サービス（介護概念）のあり方は、手厚い施設整備費補助や措置費による裁量の余地のない小さな規模の施設の運営がモデルとなっていた。しかし現在、社会保障費の増加や福祉従事者の減少は、日本が築いてきた社会福祉制度とその経営のあり方を根幹から改造しなければならない状況下にある。特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付費用の増大、多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者のBPSD等、地域包括ケアの構築を確実なものにするという新たな福祉経営がもたえられる時代となった。加えて、福祉施設は人生の高齢期における生活・生命に対するセーフティーネットでもある。利用者の自立や自律というものを運営の基礎に置き、わかりやすく丁寧に安心が求められる施設経営が必要となっている。よって地域住民の福祉ニーズにこたえるべき経営とは何か、また経営による利益と地域住民のニーズの関係はどう保たれるべきなのかを学習していく。また本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアシステム・保健、医療、福祉による多職種連携による自立支援の効果と経営戦略を学習していくことで、21世紀型の地域福祉及び福祉経営を理解していきます。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第5版」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。利用者の人権と権利 福祉施設の経営とは
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人（NPO）の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論（組織構造）
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情受付と対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題（レポート） 10%

福祉サービスの組織と経営【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから社会保障に関するニュースに関心をもってください。また、講義の中で使用される各種統計スライドも興味をもって学んでください。

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何かを学習します。福祉ニーズをポジティブに捉えるアセスメント技術も学習しておくことより理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における経営と利益とは何かを根底に21世紀型の福祉経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営等)を学習します。
担当講師は、特別養護老人ホームや養護老人ホーム、軽費老人ホーム・デーサービスセンター等の事業を運営する社会福祉法人の施設長職を経た現理事(社会福祉士・主任介護支援専門員・介護支援専門員指導者)です。経験した立場から福祉サービスの経営とサービスのあり方を、市民、地域、行政、関係事業者の連携を見据えて講義をしていきます。

キーワード /Keywords

地域包括ケア 法人	多職種連携 組織	ガバナンス ソーシャルワーク	人権擁護 リーダー論	福祉施設経営 人材育成	サービスの質と自立支援 リスクマネジメント	PDCAサイクル 公的介護保険
超高齢者社会	社会保障					

社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 安川 渉寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 日本を中心とした社会保障制度の基礎について理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 現代日本における社会保障制度の抱える課題に気づくことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障

SOW240M

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得におけるシラバスに基づき、以下の内容で構成される。

- ① 現代における社会保障制度の課題
- ② 社会保障の概念、理念、対象等
- ③ 社会保障の歴史的展開
- ④ 社会保障の構造
- ⑤ 諸外国における社会保障制度の概要 等

国家試験合格に向けた基本的知識、制度のスキーム等の形式的な知識の習得と、現状の課題等における意識醸成等を実践的な視点をもって展開する。

教科書 /Textbooks

川村匡由編著 「社会保障(福祉ライブラリ)」 建白社 2,800+ 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米社会における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障制度の歴史的展開
- 第5回 社会保障の費用と財源
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1 - 年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2 - 雇用、社会福祉
- 第10回 社会保障制度の体系3 - 生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席、課題提出、意欲等)及び期末試験の合算で評価する。
原則割合は、平常点等(30点)、期末試験(70点)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書及び提供資料等の読み込み
事後学習：講義で学んだ内容の復習

社会保障【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障とは、特別な法制度や特定の対象者のみ関わるものではなく、全てが対象であるとともに、それは身近な何かであると思っています。そのことを踏まえ、まずは現状の社会保障についてインプットし、その後はアウトプットできるような講義を展開したいと考えています。

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身につけた基礎的知識が高齢者の支援や理解に適切可能であることを発見する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論 1」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度 1」の内容は授業内容に示した通りである。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第2回 高齢者の特性と疾病
- 第3回 高齢者の福祉需要と介護需要
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程 1【高齢者保健福祉十ヶ年戦略まで】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程 2【介護保険制度】
- 第6回 人口減少・少子高齢社会の現状と課題
- 第7回 介護の概念や対象【介護の理念と対象】
- 第8回 介護の概念や対象【介護予防の必要性】
- 第9回 介護予防【介護予防プランの実際と介護過程】
- 第10回 認知症ケア【認知症ケアの基本的考え方】
- 第11回 認知症ケア【認知症ケアの実際】
- 第12回 高齢者虐待と予防
- 第13回 終末期ケア
- 第14回 老人福祉法と関連法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 授業への参加態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 高齢者の支援にかかわる諸課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論2」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度2」の内容は下記の授業内容に示した通りである。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職等について理解することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第2回 介護保険制度創設の背景と目的及び基本方針
- 第3回 介護保険制度の仕組み【保険者と被保険者など】
- 第4回 介護保険制度の仕組み【介護度の認定と利用及び給付】
- 第5回 介護保険制度の仕組み【サービスとサービス事業者】
- 第6回 介護保険制度の仕組み【地域支援事業と権利擁護】
- 第7回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【国、都道府県、市町村の役割】
- 第8回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割】
- 第9回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における公私の役割関係】
- 第10回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護支援専門員の役割】
- 第11回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護職員、訪問介護員等の役割】
- 第12回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護認定審査会の委員、認定審査員の役割】
- 第13回 介護保険法におけるケアマネジメントと実際
- 第14回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第15回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 授業への参加態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく。

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【夜】

担当者名 /Instructor 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度	SOW222M
---------------------	---------

授業の概要 /Course Description

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」では、障害の概念や福祉理念の変化の歴史を学ぶとともに、変遷をたどってきた障害者施策を概観し現在の到達点を知ること、併せて「障害の有無によって分け隔てられることなく、国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら安心して暮らせる地域社会の実現」を目的とした障害者総合支援法の内容を学ぶことによって、障害のある人の置かれている現状と課題を理解する。さらに「障害者虐待防止法」及び「障害者差別解消法」を学ぶことを通して、障害のある人への権利擁護、「合理的配慮」の意義と目的について理解を深める。
その理解をもとに障害のある人が自らの力を発揮し可能性を広げて主体的に生きること、「こうありたい」という思いを実現するために支援する、援助者に求められる視点とアプローチについて理解を深める。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第6版
中央法規出版
その他適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度講義で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」で何を学ぶのか。
- 第2回 障害のある人を取り巻く社会情勢と生活実態
- 第3回 「障害」とはなにか。 「障害の概念と構造的理解」
- 第4回 障害福祉施策の変遷 「障害者権利条約に至るまでの歴史」
- 第5回 障害福祉に関する諸制度について 「法律における定義と制度利用との関連」
- 第6回 障害者総合支援法の理念と概要 「理念と目的、支給決定プロセス」
- 第7回 障害者総合支援法に定められた障害福祉サービスの内容
- 第8回 障害者総合支援法における相談支援の意義と生活支援
- 第9回 障害児に対する支援 「障害児福祉施策の経過と現状」
- 第10回 障害のある人の「働きたい」を支える 「就労支援」
- 第11回 障害のある人の権利を守るということ① 「障害者虐待防止法に関連して」
- 第12回 障害のある人の権利を守るということ② 「障害者差別解消法に関連して」
- 第13回 障害のある人が安心して地域で暮らせるための多職種との連携・ネットワーク
- 第14回 障害のある人への支援に必要な視点と基本姿勢
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験：80% 日常の授業への取り組み：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

様々なメディアや書籍に取り上げられる障害者に関するニュースや話題に関心を寄せること。授業終了後には配布した資料をファイル化し、回復できる状態にしておくこと。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【夜】

専門教育科目
選択科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	児童や家庭に関わる諸課題を的確に捉え考察し、対応策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 SOW223M

授業の概要 /Course Description

わが国における子ども・家庭を取り巻く社会情勢と生活実態を確認し、子ども・家庭における福祉ニーズへの対応の在り方を考えます。また、現代の状況にふさわしい「子ども・家庭福祉」の考え方を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

伊藤嘉余子・渋谷昌史「子ども家庭福祉」ミネルヴァ書房（2017）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 現代社会と子ども・家庭福祉
- 3回 子どもの権利擁護
- 4回 子ども家庭福祉の歴史的展開
- 5回 子ども家庭福祉の理念と概念
- 6回 子ども家庭福祉の法制度と実施体制①
- 7回 子ども家庭福祉の法制度と実施体制②
- 8回 子ども家庭福祉施策の現状と課題①
- 9回 子ども家庭福祉施策の現状と課題②
- 10回 子ども家庭福祉施策の現状と課題③
- 11回 子ども家庭福祉施策の現状と課題④
- 12回 子ども家庭福祉施策の現状と課題⑤
- 13回 子ども家庭福祉施策の現状と課題⑥
- 14回 子ども家庭福祉施策の現状と課題⑦
- 15回 子ども家庭福祉の今後の課題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日頃の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業に関して教科書を読んで予習すること。事後学習は授業の復習を中心にする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

低所得者に対する支援と生活保護制度 【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	低所得者に対する支援と生活保護制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	低所得者に関する諸課題を的確に捉え、支援策を導くことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	低所得者の課題を理解することを通して、貧困問題に対する関心を高め、解決の方途を自ら探ろうとする態度を形成する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M

授業の概要 /Course Description

経済の長期停滞、少子高齢化の進展、労働環境の変化などを背景として、最後のセーフティネットといわれる生活保護の役割が増大しています。その受給者数は過去最高水準に達し、実体社会において貧困と格差の拡大傾向が続いていることを示しています。近年では、孤立・孤独死、ネットカフェ難民、DV、虐待などの問題に示されるように、経済的給付だけでは解決しがたい生活の質に関係する諸問題の拡大や深刻化も懸念されています。

今日の低所得者施策、生活保護制度においては、経済的給付に加えて自立支援の社会福祉的援助の強化が進み、地域、ボランティア団体、企業などの活動による、社会的連帯を背景とした低所得者支援にも大きな期待が寄せられるようになってきました。

この科目では、次の事項を学習することによって、低所得者に関する諸問題を的確にとらえて効果的な支援策を導く能力を修得するとともに、貧困問題に関する関心を深め、解決の方途を自ら探ろうとする態度を形成することを目的として講義を行います。

学習事項

1. 現代の貧困問題および低所得者層の福祉需要
2. 生活保護制度の仕組みと生活保護制度における保護と自立支援の実態
3. 生活保護と関連する他の低所得者支援制度
4. 低所得者に対する自立支援の意義と実際および課題
5. 公的扶助制度の歴史と近年における世界の公的扶助制度の改革動向

教科書 /Textbooks

パワーポイント資料（開講時に配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会「低所得者に対する支援と生活保護制度 第5版」中央法規 ￥2,376

岩田正美監修・著「公的扶助論-低所得者に対する支援と生活保護制度【第3版】」MINERVA社会福祉士養成テキストブック14 ￥2,600

岩田正美「現代の貧困」筑摩書房（格差社会やワーキングプアなど、現代の貧困に迫るものです。）

小山進次郎「改訂増補 生活保護法の解釈と運用」全国社会福祉協議会（立案者による生活保護法の逐条解説です）

低所得者に対する支援と生活保護制度 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	貧困の概念	絶対的貧困と相対的貧困、相対的貧困の指標と「相対的貧困線」
第2回	現代の貧困	社会的排除と貧困の拡大、貧困に伴う現代の生活問題、潜在能力の欠如、低所得者層の福祉需要
第3回	貧困の原因と対策	貧困の社会的要因と個人的要因、社会的排除と国家の役割、社会的リスク対策と自立支援
第4回	福祉国家と公的扶助	福祉国家と生存権、福祉国家の諸類型、日本型福祉国家の形成と変容、公的扶助の意義
第5回	公的扶助の歴史	ヨロッパと日本の救貧の歴史、生活保護制度の誕生と展開、現行生活保護制度の特徴
第6回	生活保護制度(Ⅰ)	生活保護制度の目的、保護の原理・原則、無差別平等の保護受給資格、扶助の種類と方法
第7回	生活保護制度(Ⅱ)	生活保護の行政主体と実施機関及び受任機関、福祉事務所の構成・役割・管轄
第8回	生活保護制度(Ⅲ)	保護の申請、世帯認定と世帯分離、生活保護基準による最低生活費の算定
第9回	生活保護制度(Ⅳ)	資産・能力活用要件と資産調査、資産の保有、収入認定、保護要否判定と変更・廃止
第10回	生活保護制度(Ⅴ)	被保護者の権利義務、審査請求と訴訟、費用負担と費用徴収、扶養義務優先
第11回	生活保護制度(Ⅵ)	被保護者の現況、生活保護における援助活動、自立支援プログラムと自立支援の実情、関係機関との連携
第12回	海外の公的扶助制度と改革動向	欧米の公的扶助の特徴、アクティブーション、イギリス、フランス、スウェーデン、アメリカの公的扶助制度
第13回	低所得者施策の基調転換	「小さな政府」路線と生活保護法改革、自立と連帯の推進、国民負担の現況
第14回	第2のセーフティネット	求職者支援制度、生活困窮者自立支援制度、ホームレス自立支援制度
第15回	その他の低所得者支援施策	公営住宅法と住宅保障、生活福祉資金貸付制度、無料低額診療制度

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(30%)、定期試験(70%)により、評価を行います。
定期試験では、上記の学習到達目標に属する事項について、筆記試験を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 以下の点に留意して履修してください。
- ・ 疑問点は積極的に質問するよう心がけること
 - ・ 講義では要点をまとめたパワーポイント資料を配布するので、予習および事後の学習に心がけること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代の貧困問題は複雑化・多様化しつつ、拡大する傾向にあるといえます。貧困に関するいろいろな問題のうち、興味を持てるテーマを選択して自分なりの問題関心を持って授業に臨んでほしいと思います。自由かつ積極的に質問や意見交換がおこなわれることを期待します。

キーワード /Keywords

絶対的貧困、第二次的貧困、相対的剥奪、潜在能力の欠如、社会的排除、見えない貧困、隠れた貧困、貧困の連鎖、相対的貧困率、エリザベス救貧法、恤救規則、救護法、公的扶助の補足性、抽象的権利説、残余的再配分システム、制度的再配分システム、一般扶助主義、品格要件、生活保護基準、変曲点、マーケットバスケット方式、資産調査、福祉事務所、急迫保護、応急的保護、自立支援プログラム、就労支援員、福祉から就労支援事業に関する協定、ユニヴァーサル・クレジット、保証年金、エルサ、参入契約、第二のセーフティネット構想、職業訓練受講給付金、自立相談支援事業、就労準備支援事業、不動産担保型生活資金貸付、就学援助

保健医療サービス【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 保健医療サービスに関する専門知識に加え、生活に関わる福祉の専門知識について、総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 保健医療サービスに関する理論と現場理解を基盤に、課題解決に取り組む力を獲得する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

保健医療サービス

SOW230M

授業の概要 /Course Description

医療保障には診療報酬などを含む医療保険制度としての政策と医療専門職養成を含む医療保障制度を実施する医療機関や医師、看護師等の専門職の役割などがあります。これらを含む保健医療サービスについて多職種との連携や協働も視野に入れて講義を進める予定。これにより、学生は相談援助に必要な医療保険制度について説明することができる。

教科書 /Textbooks

福祉臨床シリーズ編集委員会編「保健医療サービス」(社会福祉士シリーズ17)弘文堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の内容、進め方、医療保障の位置づけ
- 第2回 医療保障制度の歴史1(昭和20年まで)
- 第3回 医療保障制度の歴史2(昭和20年以降)
- 第4回 医療保険制度の保険者
- 第5回 保健医療対策の概要
- 第6回 診療報酬制度、高額療養費制度等
- 第7回 専門職の役割1(医師の役割(特別講師を予定))
- 第8回 専門職の役割2(保健師、看護師の役割(特別講師を予定))
- 第9回 医師、保健師、看護師等専門職との連携(特別講師を予定)
- 第10回 専門職の役割3(作業療法士、理学療法士等の役割(特別講師を予定))
- 第11回 専門職の役割4(医療ソーシャルワーカーの役割)
- 第12回 インフォームドコンセントの意義と実際
- 第13回 医療施設の概要
- 第14回 地域の社会資源との連携
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% レポートなど 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

保健医療サービス【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育制度についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育制度に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 教育制度に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育制度論

EDU227M

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、義務教育
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 中等教育、学校体系
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 就学・懲戒
- 6回 教科書に関する制度
- 7回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制
- 8回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 9回 教員制度の基本的事項(3) 公務員としての教師、教員の待遇
- 10回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 11回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 12回 学校関係者による協力支援の制度
- 13回 地域社会の変容と学校
- 14回 教育制度改革の動向
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育制度論 【夜】

キーワード /Keywords

教育課程論 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育課程についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 教育課程に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 教育課程に関わる事項に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育課程論

EDU360M

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原理解
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 教育課程の編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) アクティブラーニング
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 国際移動と教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

教育課程論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教育についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	教育に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	教育に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育原理

EDU110M

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

教育原理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教職についての基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	教職についての課題を発見し、思考する。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		
※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		教職論	EDU111M

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。

本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。

また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力と教員研修の意義(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その1 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その2 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その3 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

教職論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。それが無い場合には公欠であっても減点になるので留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育ててもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

生涯学習学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	生涯学習・社会教育に関する専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	社会や人間の課題に対して教育的課題として発見できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯学習・社会教育の視点から問題意識を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生涯学習学

EDU220M

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通して、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 生涯学習・社会教育の意義
- 第 2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第 3回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第 4回 成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第 5回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第 6回 社会教育の歴史と発展-生涯学習関連施策の動向
- 第 7回 社会教育行政と事業 -学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第 8回 社会教育施設 -地域公民館
- 第 9回 公民館の実践 -社会教育と地域づくり
- 第10回 社会教育指導者と事業の連携・発展
- 第11回 社会教育施設-博物館
- 第12回 社会教育施設と生涯学習施設
- 第13回 社会教育施設-図書館
- 第14回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第15回 住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

生涯学習学 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 教育相談の基本的な理念や方法を理解できている。近年の生徒が示す様々な問題事象とその要因についての基本的な理解をもっている。
技能	専門分野のスキル	● 教育相談に必要な基本的な相談スキルを実際の対人関係場面で活用できる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 生徒個々人の発達課題を把握し、学校内外の関係者とも連携しながら、その自立を援助するための基礎的な力を獲得している。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 子どもの感情やニーズに積極的に応答し、信頼関係を築きあげることができる。
	生涯学習力	● 多様な生徒や保護者との出会いの中から学びと気づきを得ることを通じて実践力の向上に努めている。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

教育相談

EDU264M

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業でのミニレポート 20%
定期試験 80%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

教育相談【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

道徳教育指導論【夜】

担当者名 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	道徳教育の指導について基本的な知識を獲得し、理解する。
技能	専門分野のスキル	●	道徳教育の指導についての基本的なスキルを獲得することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	道徳教育の指導についての課題を発見し、思考する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

道徳教育指導論

EDU262M

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第3回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第4回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第5回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第6回：道徳教育の現代的課題①（グループ討論）
- 第7回：道徳教育の現代的課題②（グループ討論）
- 第8回：道徳教育の現代的課題③（グループ討論）
- 第9回：道徳教育の現代的課題④（グループ討論）
- 第10回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第11回：道徳科における評価
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究①
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究②
- 第14回：シテイズンシップ教育と道徳教育
- 第15回：対話への道徳教育

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案35%
コメントシート15%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

道德教育指導論【夜】

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 (有斐閣) 2019 田中 耕治 (著), 鶴田 清司 (著), 橋本 美保 (著), 藤村 宣之 (著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
 第2回：教育と学習・理論と方法・実践
 第3回：授業の歴史（欧米）
 第4回：授業の歴史（日本）
 第5回：学習の理論・協同的な学び
 第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
 第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価
 第9回：情報機器・メディア活用の授業
 第10回：「学力」について考える
 第11回：授業の研究1・学習指導案
 第12回：授業の研究2・授業記録を読む
 第13回：教師の専門性・専門職性
 第14回：教材研究・教材開発
 第15回：まとめ
 定期試験
 （2～4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5～10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11～14回は、実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
 発表・レジュメ作成・・・ 20%
 最終試験・課題レポート・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
 また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていきましょう

キーワード /Keywords

特別活動論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
そのためにグループワークも多く取り込んでいます。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

コミュニティスポーツ論【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域で行うスポーツ活動についての基礎的専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	地域で行うスポーツ活動を通じて専門分野の基礎的スキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域スポーツ活動においての諸問題を的確に捉え、運営や企画がスムーズに行えるよう導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地域のスポーツ活動に問題意識を持ち、主体的に学習することができる。
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コミュニティスポーツ論

HSS220M

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ産業論【夜】

担当者名 /Instructor 内田 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スポーツと社会の関連について基礎的な専門知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	社会学の観点からスポーツの諸課題をとらえて解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	スポーツの諸問題を社会学の観点から主体的に学習ができる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

スポーツ産業論

HSS222M

授業の概要 /Course Description

【授業のねらい】

戦後、我が国のスポーツ振興は「大衆化」という方針が敷かれる。しかし、我が国の国際復帰のためスポーツが「競技」に傾倒していく中、大衆化の流れは「コミュニティスポーツ」として行政が主導するようになる。その後、国際情勢と高度経済成長期、バブル期を経て、「スポーツの民営化」が謳われ、スポーツが産業として発展していくようになった。世界的には1984年のロサンゼルスオリンピック以降、大きな変化を見せている。この流れは単にオリンピックといった国際的な大会やプロフェッショナルスポーツだけではなく、シティマラソンやウォーキングイベントといった市民大会では、スポーツツーリズムといった観光資源としての役割も担っていたり、また市民組織である地域スポーツにおいてもコミュニティビジネスとしてマネジメントの理論を活用することが求められている。

そこで本授業ではスポーツプロダクトという概念のもとに、スポーツ産業を説明するとともに、スポーツプロダクトをマネジメントするシミュレーションなども行い、スポーツサービスの可能性を検討していく。

【主要な学習内容】

スポーツプロダクトという概念をまずは理解し、その上で、身近なスポーツシーンがどういったカテゴリーに分類できるかを整理する。そして、スポーツイベントの事業企画を立案できるよう、知識と実践を学習する。

教科書 /Textbooks

特になし

※必要な資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田宗彦・小笠原悦子著「スポーツマネジメント」(大修館書店, 2008)

川西正己著「事業計画書のつくり方」(明日香出版社 2004)

細内信孝著「コミュニティ・ビジネス」(中央大学出版部 1999)

スポーツ産業論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：学習の目的，内容，方法（授業方法や成績評価方法など）
- 第2回 スポーツとは何か？スポーツ産業とは何か？【スポーツの歴史】
- 第3回 スポーツ組織論【営利と非営利】【オリンピックムーブメント】
- 第4回 スポーツ産業の分類【スポーツプロダクト】
- 第5回 スポーツ組織の仕事【仕事と労働】
- 第6回 スポーツ産業のアプローチ【広報・営業・販売】
- 第7回 スポーツ事業計画書の作り方【事業計画】
- 第8回 チームビルディング【ワークショップとファシリテーション】
- 第9回 コミュニケーションとミーティング手法【企画会議】
- 第10回 プレゼンテーション手法【プロモーション】
- 第11回 事業計画①【理念と目的】
- 第12回 事業計画②【マネジメントの4Pと4C】
- 第13回 事業計画③【予算編成】
- 第14回 事業計画④【プロモーション計画】
- 第15回 スポーツ企画のプレゼンテーション【プレゼンテーション】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：20%、平素の学習状況・授業態度：60%、課題やレポートなど：20%、の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レポートのテーマに応じた論述をすることで、事前学習や事後学習とする

履修上の注意 /Remarks

特全体を通してグループワークによる思考・意見集約・合意形成などを行います。情報を与えられるだけでなく、検索・共有していくことも重視しますので積極的なコミュニケーションを心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツを通じて産業・労働・経済など社会的なことを身につけてもらうとともに、授業については卒業後を見越して、社会人としての言動を心がけて下さい。

キーワード /Keywords

スポーツ産業 スポーツマネジメント スポーツプロダクト 営利と非営利
マーケティング 事業計画

健康科学【夜】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	自分自身の健康管理について、専門的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	自分自身の健康について考え、その問題点の解決について考えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	自分自身の生活習慣を見直し、問題点について主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

健康科学

HSS230M

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことの一つである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康の概念
- 3回 日本と世界の健康指標
- 4回 日本の健康施策と健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスポモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

身体スポーツ論【夜】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	発育発達に応じた身体・スポーツ活動において、必要な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身体・スポーツ活動においての諸課題を適確に捉え、より良い状態へつなげていく手段を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	自らの身体・スポーツ活動に問題意識を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

身体スポーツ論

HSS210M

授業の概要 /Course Description

皆さんは、家族や友人、先輩・後輩など様々な人と関わりを持って生活を送っていると思います。人間関係を良好にするためには、当然、相手とのコミュニケーションが必要不可欠です。コミュニケーションを上手に取るためには、送り手から受け手に情報をきちんと伝達することが重要になります。受け手が他者になることもあれば、自分自身になることもあります。この授業では、身体活動やスポーツ活動を通じて、他者や自己に対するコミュニケーションにおける基礎的な知識について学習し、コミュニケーションに対する理解を深め、最終的には自らのコミュニケーションスキルの向上を目指している。

教科書 /Textbooks

基本的に資料配布を行いますので、教科書は特に設けません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーションについて【コミュニケーションとは？】
- 第3回 身体活動やスポーツ活動【コミュニケーションの重要性】
- 第4回 身体活動やスポーツ活動【コミュニケーションの実践】
- 第5回 バーバルコミュニケーション【バーバルコミュニケーションの特徴】
- 第6回 バーバルコミュニケーション【PREP法の実践】
- 第7回 ノンバーバルコミュニケーション【ノンバーバルコミュニケーションの特徴】
- 第8回 ノンバーバルコミュニケーション【ジェスチャー】【目】【身体接触】
- 第9回 ノンバーバルコミュニケーション【対人空間】【バラランゲージ】
- 第10回 ノンバーバルコミュニケーション【ノンバーバルコミュニケーションの実践】
- 第11回 タイプ別にみたコミュニケーションスタイル【自己分析】
- 第12回 タイプ別にみたコミュニケーションスタイル【他者分析】
- 第13回 身体活動を用いたコミュニケーショントレーニング
- 第14回 まとめ
- 第15回 授業内期末テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施
- 2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施
- 3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%、受講態度20%、小レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習においては、教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備えること。事後学習においては、授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めること。

履修上の注意 /Remarks

身体スポーツ論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力	● 社会福祉に関心を持ち、主体的に学習できる。
	コミュニケーション力	

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代社会と福祉 1

SOW100M

授業の概要 /Course Description

- ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
- ・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・福祉政策の課題について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会編（2014）『現代社会と福祉 第4版』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会の変化と福祉①【市民権、福祉国家】
- 3回 社会の変化と福祉②【新自由主義、グローバル化】
- 4回 福祉と福祉政策①【価値、規範】
- 5回 福祉と福祉政策②【福祉施策、社会福祉士】
- 6回 福祉の思想と哲学①【市場の論理、ロールズ】
- 7回 福祉の思想と哲学②【効率性、公平性】
- 8回 社会政策と福祉政策①【雇用、教育、住宅】
- 9回 社会政策と福祉政策②【高齢者、障害者、児童、施設】
- 10回 福祉政策の発展過程①【近代化、経済成長】
- 11回 福祉政策の発展過程②【リスク社会、ポスト産業社会】
- 12回 少子高齢化時代の福祉政策①【福祉元年、地域福祉】
- 13回 少子高齢化時代の福祉政策②【家族機能、人権擁護、虐待問題】
- 14回 ゲストスピーカー
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題60% 期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各授業で課題を出すので、必ず取り組み、指定した日時までに提出すること。未提出や内容が不十分な場合は減点になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 /カワシマシズヨ /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会福祉法制度と生活問題理解に必要な基礎的専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	社会福祉法制度と生活問題に関心を持ち、主体的に学習できる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。

現代社会と福祉2

SOW101M

授業の概要 /Course Description

- ①現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ②福祉政策のニーズと資源について理解する。
- ③福祉政策の課題について理解する。
- ④福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について理解する。
- ⑤福祉政策と関連関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ⑥相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

レジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『新社会福祉士養成講座 現代社会と福祉』中央法規出版

現代社会と福祉 2 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【社会政策】【社会福祉政策】【福祉政策】
- 2回 福祉の思想と哲学 【ロールズの正義論】【センの潜在能力理論】
- 3回 社会福祉の供給・提供システム 【福祉ミックス論】
- 4回 社会福祉制度の体系【制度の構造】【制度とサービス】
- 5回 福祉政策と社会問題・現代的課題【社会問題】【生活問題】
- 6回 福祉サービスと援助活動 【ソーシャルワーク】
- 7回 福祉サービスと援助活動 【相談援助の原則】
- 8回 福祉政策の関連領域 【社会保障】【社会保険】【公的扶助】【社会手当】
- 9回 福祉政策の関連領域 【人権擁護】【バルネラブルな人々】
- 10回 福祉政策の関連領域 【住宅政策】【ネットカフェ難民】
- 11回 福祉政策の関連領域 【教育】【雇用】【貧困の連鎖】
- 12回 福祉政策の国際比較 【北欧】【福祉国家レジーム】
- 13回 社会福祉問題についての発表
- 14回 社会福祉問題についての発表
- 15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況+課題提出(30点)、テスト(70点)など、総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：シラバスで記した毎回ごとのキーワードを調べておくこと。

事後学習：①授業中に実施したワークシートの復習、②配布した資料を順番にファイル等に整理し閉じておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「現代社会と福祉1」を履修済みであることが望ましい。受講していない場合は、あらかじめ『新・社会福祉士養成講座 現代社会の福祉』（中央法規）を事前に学習しておくようにしてください。

社会福祉士養成課程の指定科目として開講されるため社会福祉士受験資格取得を前提とした内容であるが、その他の学生にも理解できるように配慮しているので、教養としても学んで欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「今日の社会福祉問題」について、課題の提出と発表を考えています。日頃から社会福祉について関心を持ち、新聞やニュースなどで情報を得るようになっておいてください。

キーワード /Keywords

社会福祉士、現代社会、福祉政策

法学総論【夜】

担当者名 小野 憲昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

わが国の主要な法律である憲法、民法、刑法の特徴や基本原則についてお話するとともに、法の一般的な特性や構造、その機能についても講義します。法の存在や仕組みを知り、判例を通じた法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

教科書 /Textbooks

佐藤幸治＝鈴木茂嗣＝田中成明＝前田達明著『法律学入門 第3版補訂版』有斐閣 2008年 2,000円＋税
レジュメや資料も必要に応じてその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中川善之助著泉久雄補訂『[補訂版] 法学』日本評論社 1985年
- 三ヶ月章著『法学入門』弘文堂 1981年
- 星野英一著『法学入門』有斐閣 2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 民法の世界① 【私的自治の原則】【契約】
- 第3回 民法の世界② 【自然人】【法人】【所有権】
- 第4回 民法の世界③ 【過失責任】【損害賠償】
- 第5回 民法の世界④ 【夫婦】【親子】
- 第6回 刑法の世界① 【罪刑法定主義】【犯罪】
- 第7回 刑法の世界② 【刑罰】【刑事手続き】
- 第8回 憲法の世界① 【国民主権】【基本的人権】
- 第9回 憲法の世界② 【権力分立】【国会】【裁判所】
- 第10回 法の仕組みと運用① 【法の特性】【道徳】【法の機能】
- 第11回 法の仕組みと運用② 【裁判規範】【法源】
- 第12回 法の仕組みと運用③ 【裁判所】【判例】
- 第13回 法の仕組みと運用④ 【法の適用】【事実】【法律要件】
- 第14回 法の仕組みと運用⑤ 【法の解釈】【類推解釈】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・10% レポート・・・30% 定期試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義内容や資料、紹介する参考文献を参照しながら、問題点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

講義には六法を持参してください。法学部以外の受講生には、石川明他編『法学六法'20』信山社（1,000円）をおすすめします。

法学総論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会規範 道徳 公法 私法 憲法 民法 刑法 裁判所 判例 裁判所

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。

公民科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説し、公民科の教育課程における位置づけと役割について理解を深める。

学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今後求められる当該教科の実践指導のあり方について学び、また教授活動に必要とされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 『高等学校学習指導要領解説「公民編」』文部科学省（平成30年告示）
- 他にも講義内で適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科の理論と実践』 学文社 2007 1900円 + 税
- 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と公民科の扱い
- 第2回：学習指導要領と改訂のポイント
- 第3回：公民科授業の構成 年間計画と単元計画
- 第4回：公民科科目の取り扱いと内容 公共
- 第5回：公民科科目の取り扱いと内容 倫理
- 第6回：公民科科目の取り扱いと内容 政治経済
- 第7回：公民科科目における持続可能な開発のための教育
- 第8回：公民科の授業づくり 教材研究・教材活用・グループワークについて
- 第9回：公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
- 第10回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む(1) 実践と省察
- 第11回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む(2) 主体的・対話的で深い学びについて
- 第12回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
- 第13回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
- 第14回：授業指導案作成
- 第15回：授業指導案作成・社会科教師に求められる資質・能力 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
- 最終試験・・・30%
- 学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習 学習指導要領解説を読み込んでおく
- 事後学習 講義で扱った内容について振り返り、実践と理論について考察する

履修上の注意 /Remarks

- 課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
- 出席は7割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

公民科教育法B【夜】

担当者名 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
 (1) 学習指導要領に基づき、現在の公民科教育の位置づけを理解する。
 (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
 (3) 現代社会・政治経済・倫理の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
 (4) 能動的・主体的な学びの育成に重点を置き、模擬授業を行う。
 上記の点から、実践的な技能及び授業改善の視点を習得し、最終的には「能動的・主体的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、解説を行う。
 なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

授業の際に配布するレジュメ・資料等
 「高等学校学習指導要領解説 公民編」(文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イン트로ダクション
- 第 2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第 3回 社会科学的手法について
- 第 4回 シティズンシップと公民科教育
- 第 5回 教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 6回 学習指導案作成上の留意点
- 第 7回 学習指導案の作成
- 第 8回 模擬授業(参加型授業の展開)
- 第 9回 模擬授業(資料活用法、オリジナル教材の作成)
- 第 10回 模擬授業(現代社会の諸問題)
- 第 11回 模擬授業(政治・経済・法)
- 第 12回 模擬授業(現代の諸課題と倫理)
- 第 13回 模擬授業(受験指導に焦点を当てる)
- 第 14回 模擬授業(社会参加の授業理論)
- 第 15回 まとめ(主権者教育など)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ◎教材研究や指導案の準備については適宜打ち合わせ等を行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業後にコメント用紙(授業の感想や質問など)を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の出前講演)
- 6回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
- 7回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
- 8回 特別活動の模擬授業 その1
- 9回 特別活動の模擬授業 その2
- 10回 教科の模擬授業 その1
- 11回 教科の模擬授業 その2
- 12回 学級づくりと学級経営案
- 13回 教育相談のロールプレイ
- 14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【夜】

キーワード /Keywords

模擬授業、実践的指導力

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(教科の授業、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会と教職総合演習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、教育実習の反省点と自己教育の課題(学習指導、生徒指導)を教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(学習指導、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会(実習校実習の反省点の整理と教職実践演習の課題)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習2と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習2と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習3のみ受講の場合は教育実習2で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習2の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、Ⅲ類の4 に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションとプレゼンテーション方法の説明
- 2回 教師の使命感、責任、教育的愛情に関するグループワーク
- 3回 生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのグループワーク
- 4回 教員に求められる対人関係能力に関するグループワーク
- 5回 地域・保護者との連携に関するグループワーク
- 6回 教科の模擬授業 その1 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(中学校)
- 7回 教科の模擬授業 その2 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(高等学校)
- 8回 教科の模擬授業 その3 三つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
- 9回 教科の模擬授業 その4 三つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
- 10回 学級経営案の報告と検討
- 11回 生徒指導に関するケーススタディ(グループ討論)
- 12回 保護者理解に関するグループワーク
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に)
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育、生徒指導を中心に)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物(教育実践演習ワークシート、学級経営案) 20% 平常点30% 期末レポート 50% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

教職実践演習(中・高)【夜】

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力